

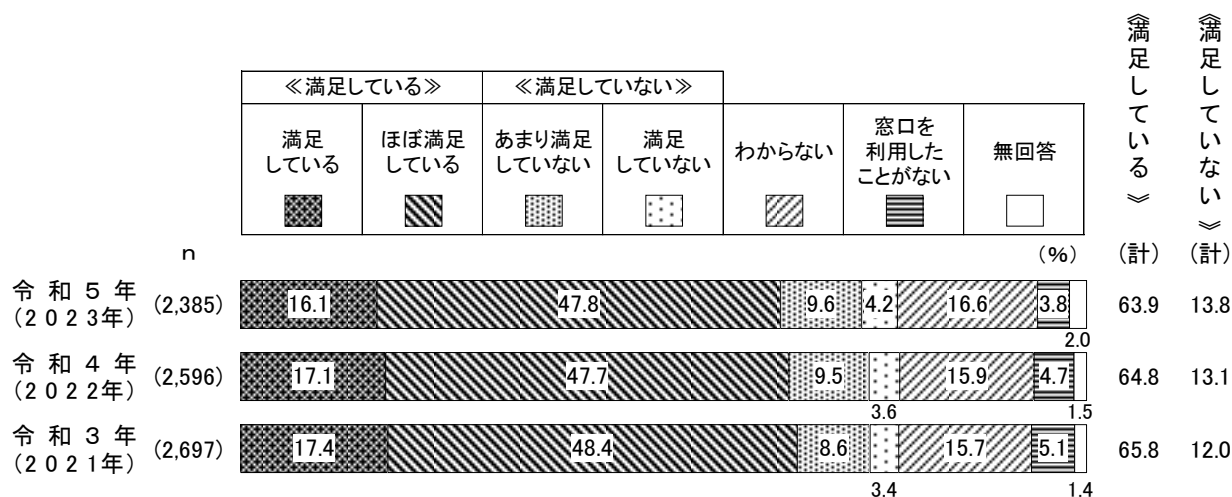
3. 「八王子ビジョン2022」の施策指標に関する調査

(1) 窓口サービスの満足度

◇《満足している》が6割強

問15 あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（○は1つだけ）

図3-1-1 窓口サービスの満足度—全体、経年比較

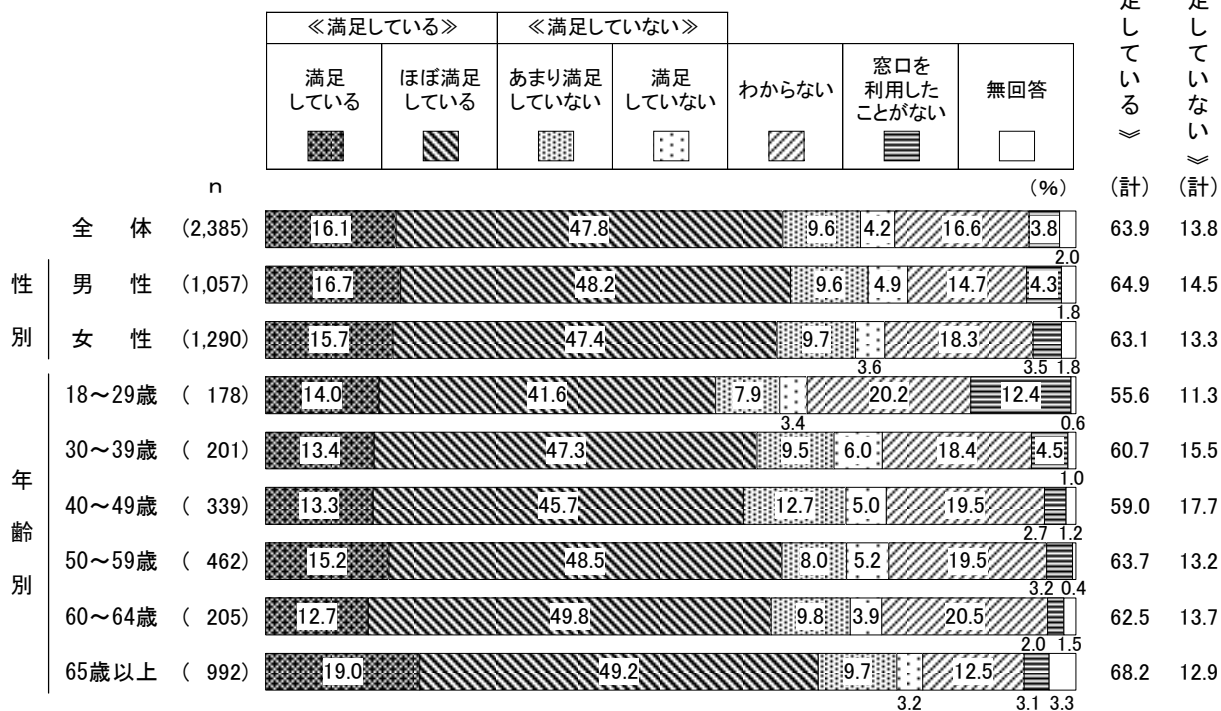


市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足しているか聞いたところ、「満足している」（16.1%）と「ほぼ満足している」（47.8%）を合わせた《満足している》（63.9%）は6割強となっている。一方、「あまり満足していない」（9.6%）と「満足していない」（4.2%）を合わせた《満足していない》（13.8%）は1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年（2022年）と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-1-1)

図3-1-2 窓口サービスの満足度—性別、年齢別

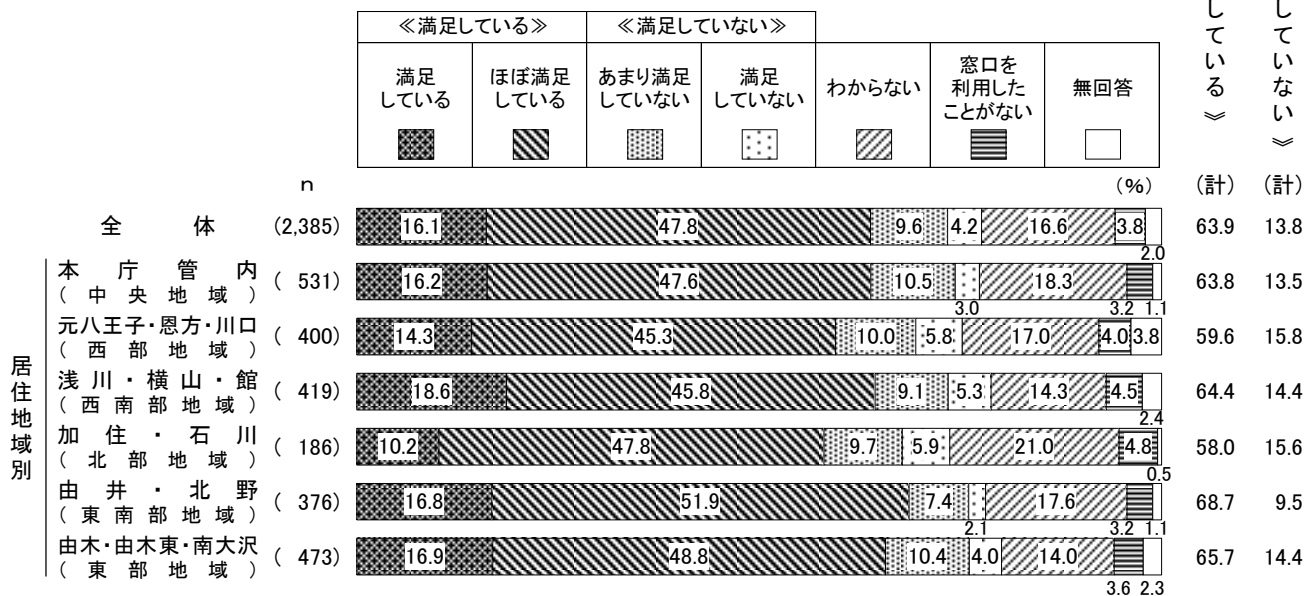


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《満足している》は65歳以上（68.2%）で7割近くと多くなっている。

(図3-1-2)

図3-1-3 窓口サービスの満足度—居住地域別



居住地域別にみると、《満足している》は由井・北野（東南部地域）（68.7%）で7割近くと多くなっている。（図3-1-3）

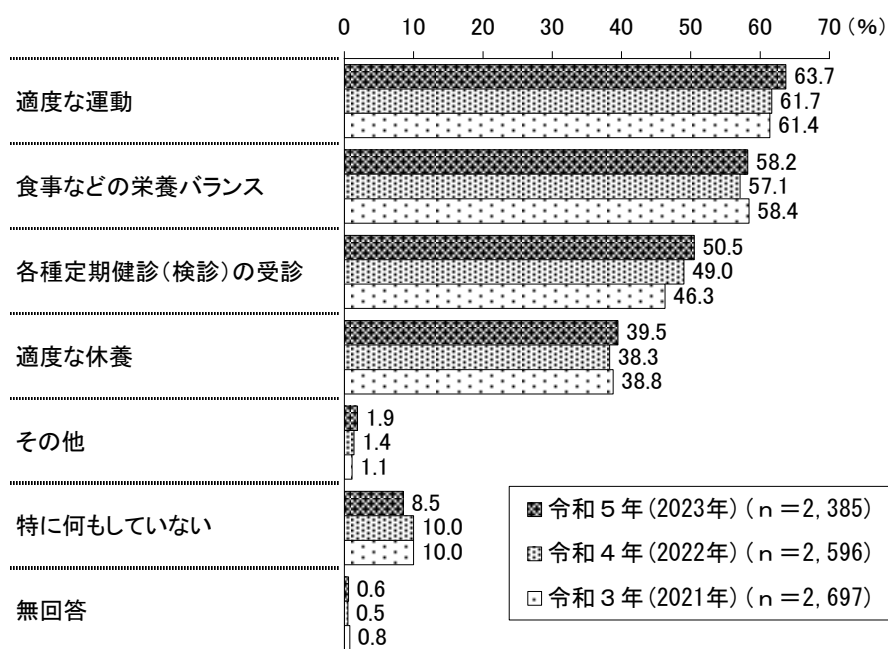
(2) 健康のために心がけていること

◇「適度な運動」が6割強

問16 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

(○はいくつでも)

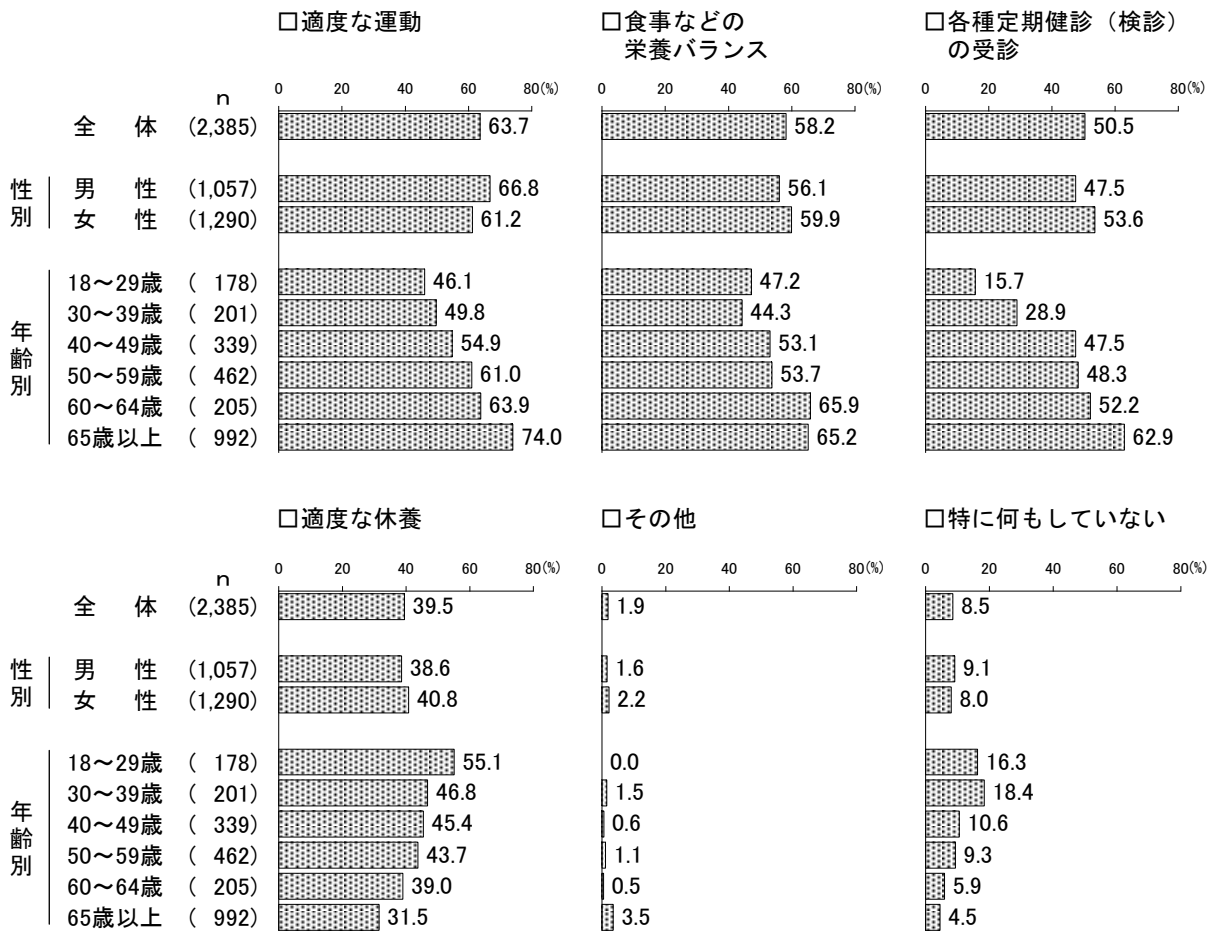
図3-2-1 健康のために心がけていることー全体、経年比較



健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」(63.7%)が6割強で最も多くなっている。次いで「食事などの栄養バランス」(58.2%)、「各種定期健診(検診)の受診」(50.5%)、「適度な休養」(39.5%)の順となっている。一方、「特に何もしていない」(8.5%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、「適度な運動」は令和4年(2022年)(61.7%)より2.0ポイント増加している。(図3-2-1)

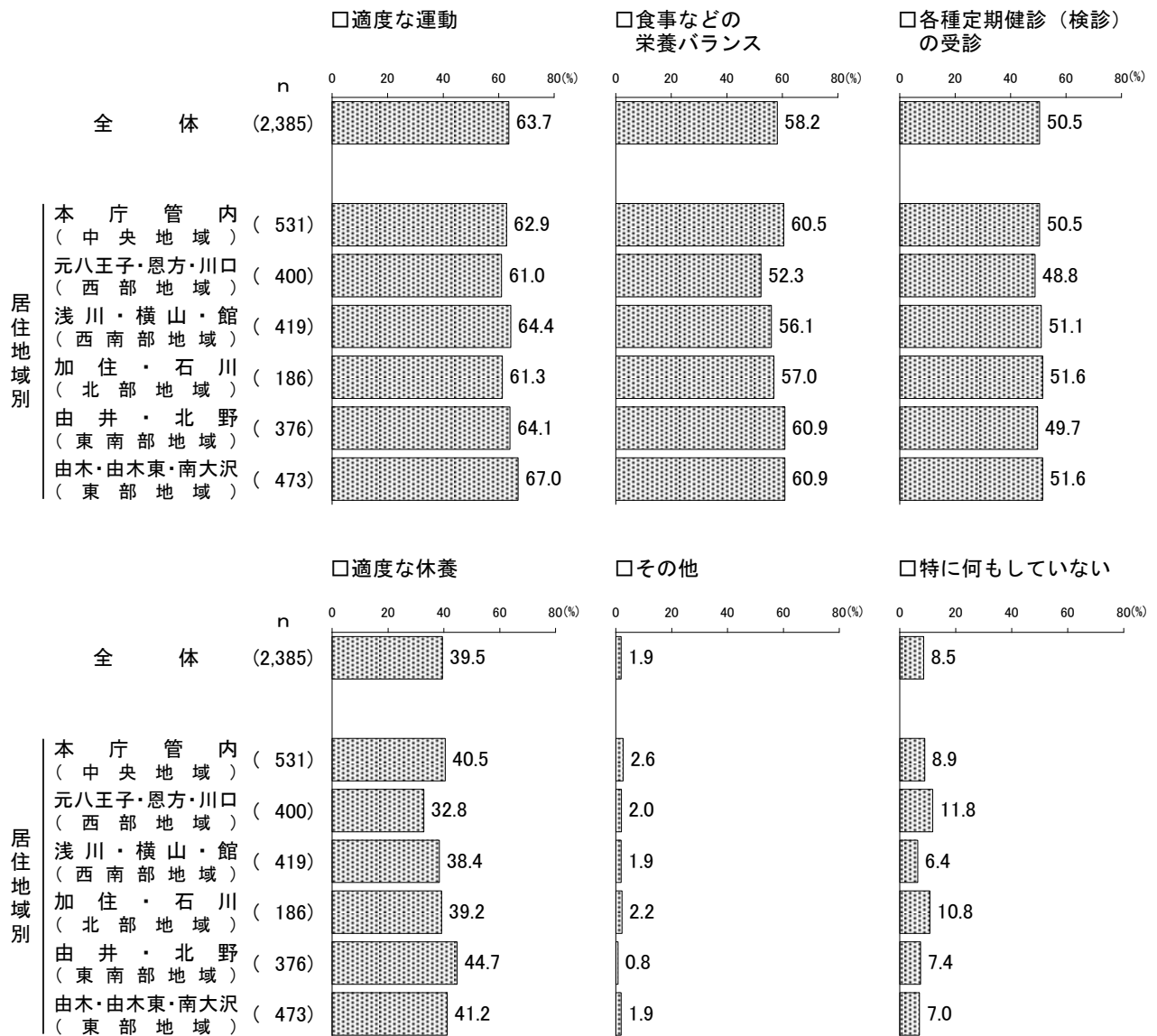
図3-2-2 健康のために心がけていることー性別、年齢別



性別にみると、「各種定期健診（検診）の受診」は女性（53.6%）が男性（47.5%）より6.1ポイント高くなっている。一方、「適度な運動」は男性（66.8%）が女性（61.2%）より5.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「適度な運動」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（74.0%）で7割台半ばと多くなっている。「食事などの栄養バランス」は60~64歳（65.9%）と65歳以上（65.2%）で6割台半ばと多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（62.9%）で6割強と多くなっている。（図3-2-2）

図3-2-3 健康のために心がけていることー居住地域別



居住地域別にみると、「適度な運動」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（67.0%）で7割近くと多くなっている。「食事などの栄養バランス」は由井・北野（東南部地域）（60.9%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（60.9%）、本庁管内（中央地域）（60.5%）で約6割と多くなっている。「適度な休養」は由井・北野（東南部地域）（44.7%）で4割台半ばと多くなっている。

(図3-2-3)

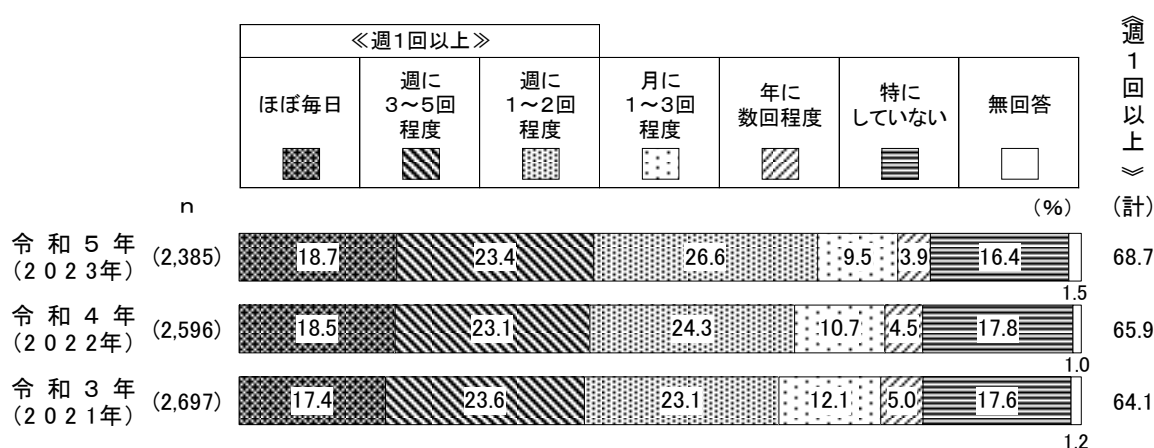
(3) この1年間の運動頻度

◇《週1回以上》が7割近く

問17 あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計回数をお答えください。(○は1つだけ)

※運動には、野外活動（登山やハイキングなど）や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩（散策、ペットの散歩を含む）などで1日合計30分以上行うものも含まれます。

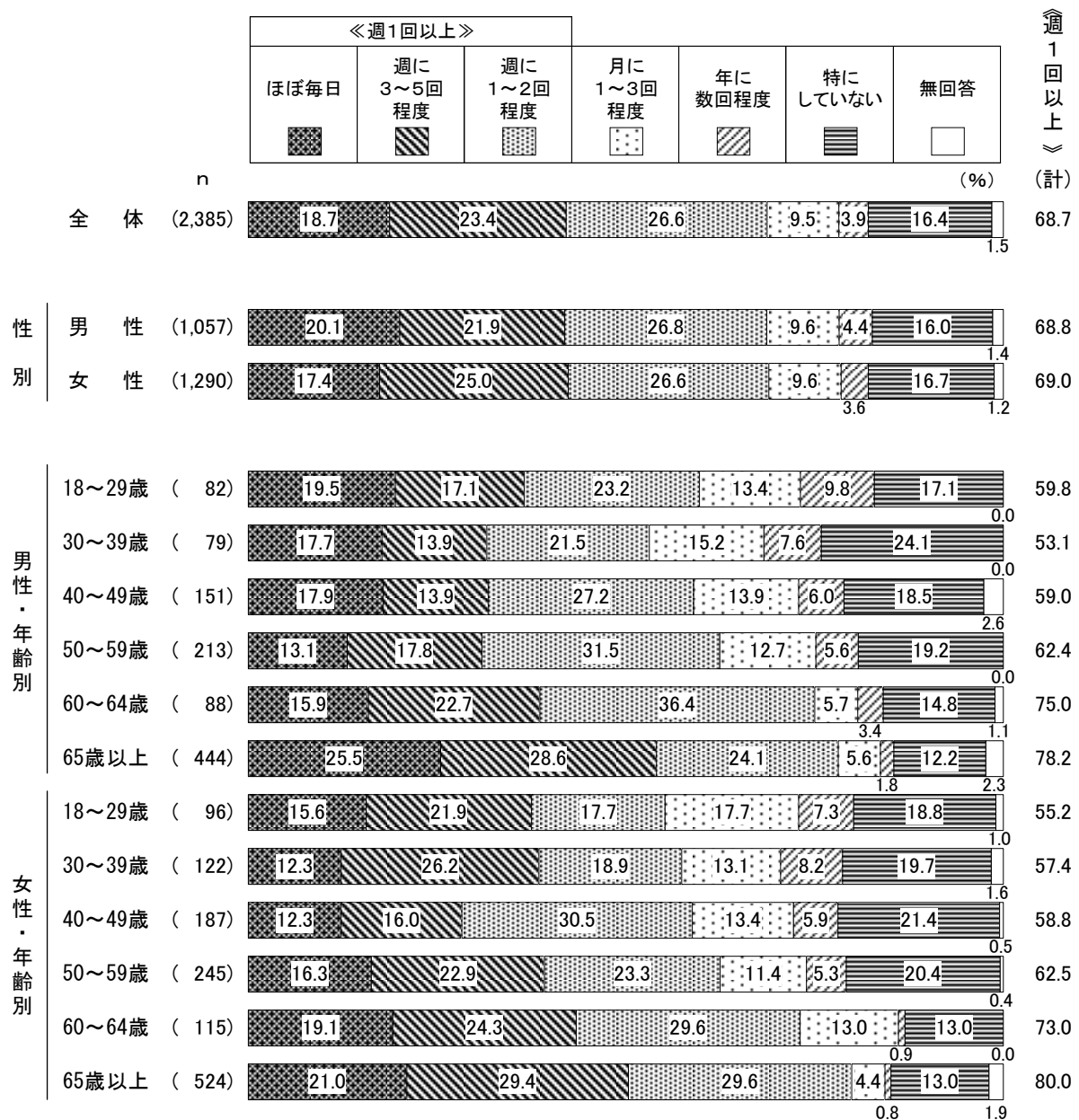
図3-3-1 この1年間の運動頻度—全体、経年比較



この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」(18.7%)、「週に3~5回程度」(23.4%)、「週に1~2回程度」(26.6%)の3つを合わせた《週1回以上》(68.7%)は7割近くとなっている。また、「月に1~3回程度」(9.5%)は1割弱、「年に数回程度」(3.9%)は1割未満となっている。一方、「特にしていない」(16.4%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《週1回以上》は令和4年(2022年)(65.9%)より2.8ポイント増加している。(図3-3-1)

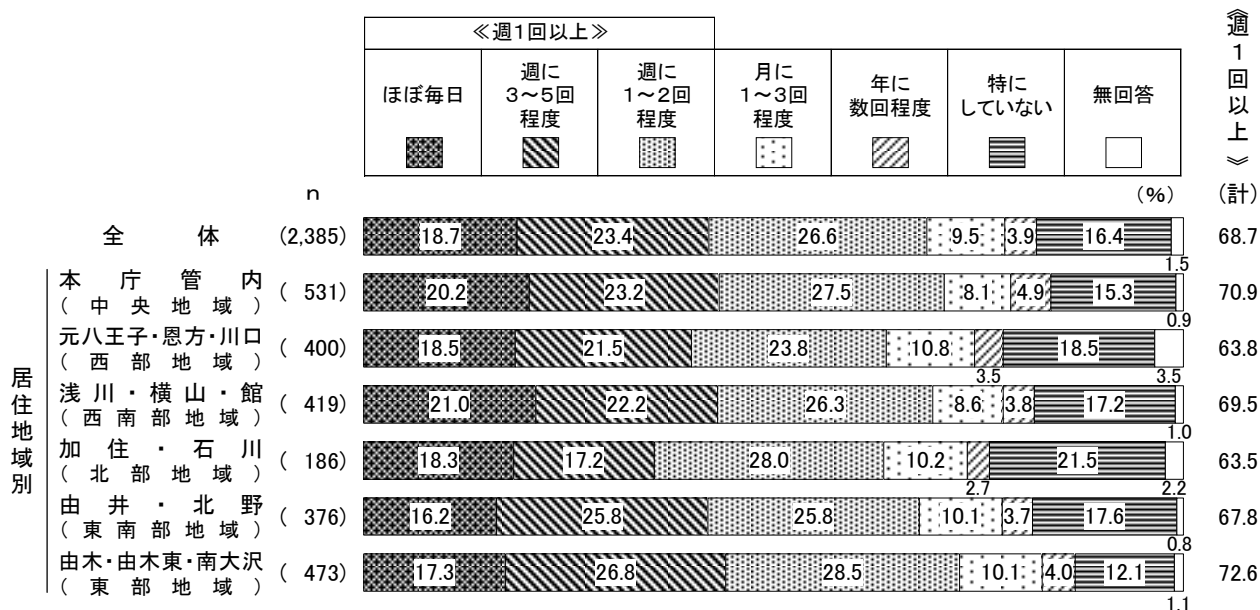
図3-3-2 この1年間の運動頻度—性別、性・年齢別



性別にみると、「週に3~5回程度」は女性(25.0%)が男性(21.9%)より3.1ポイント高くなっている。一方、「ほぼ毎日」は男性(20.1%)が女性(17.4%)より2.7ポイント高くなっている。

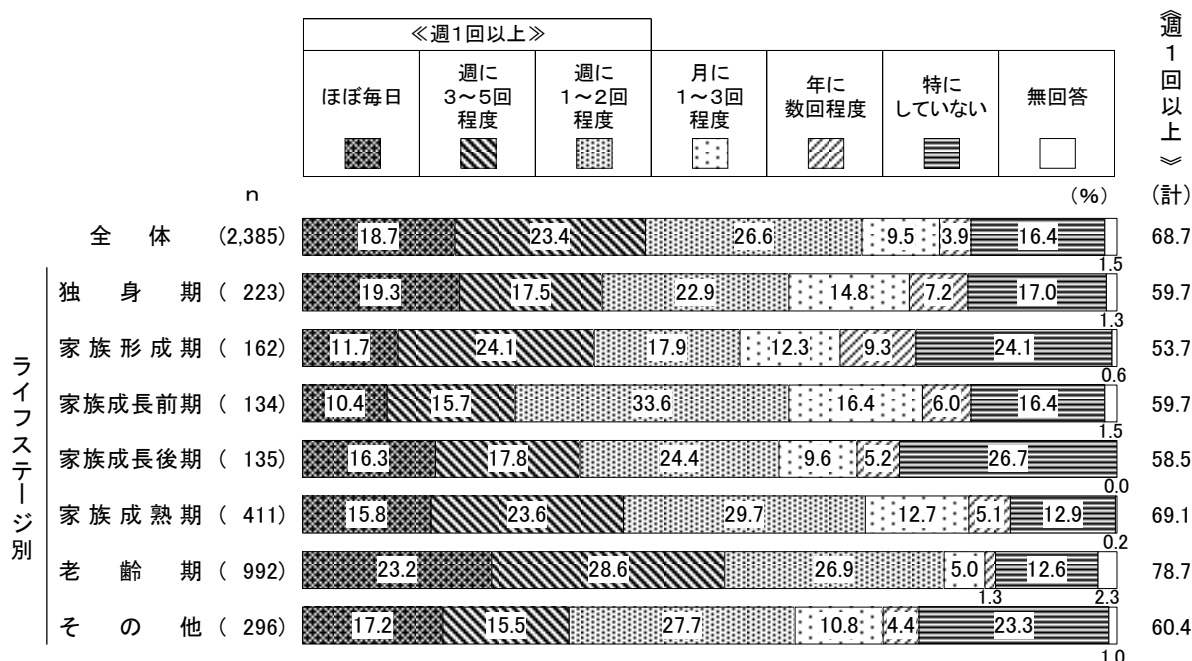
性・年齢別にみると、「週1回以上」は女性65歳以上(80.0%)で8割と多くなっている。一方、「特にしていない」は男性30~39歳(24.1%)で2割台半ばと多くなっている。(図3-3-2)

図 3-3-3 この1年間の運動頻度－居住地地域別



居住地地域別にみると、《週1回以上》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（72.6%）で7割強と多くなっている。一方、「特にしていない」は加住・石川（北部地域）（21.5%）で2割強と多くなっている。（図3-3-3）

図 3-3-4 この1年間の運動頻度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《週1回以上》は老齢期（78.7%）で8割近く、家族成熟期（69.1%）で7割弱と多くなっている。一方、「特にしていない」は家族成長後期（26.7%）で3割近くと多くなっている。（図3-3-4）

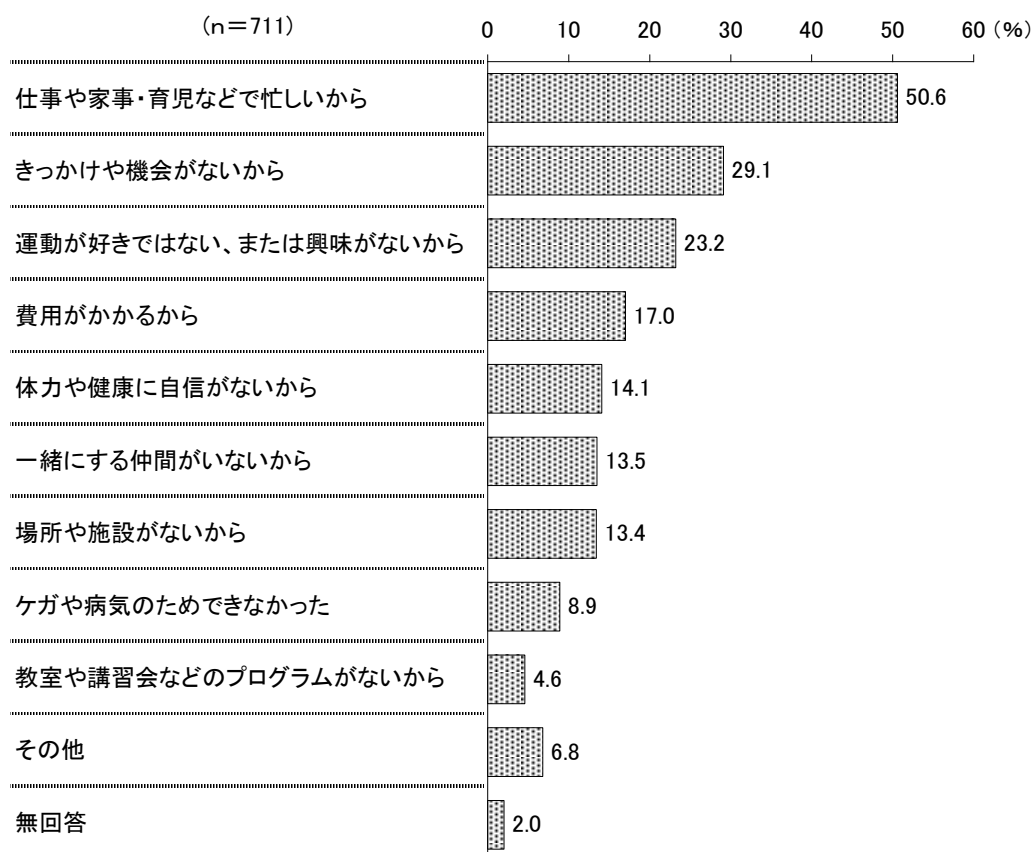
(4) 週1回以上運動しなかった理由

◇「仕事や家事・育児などで忙しいから」が約5割

(問17で「月に1～3回程度」「年に数回程度」「特にしていない」とお答えの方へ)

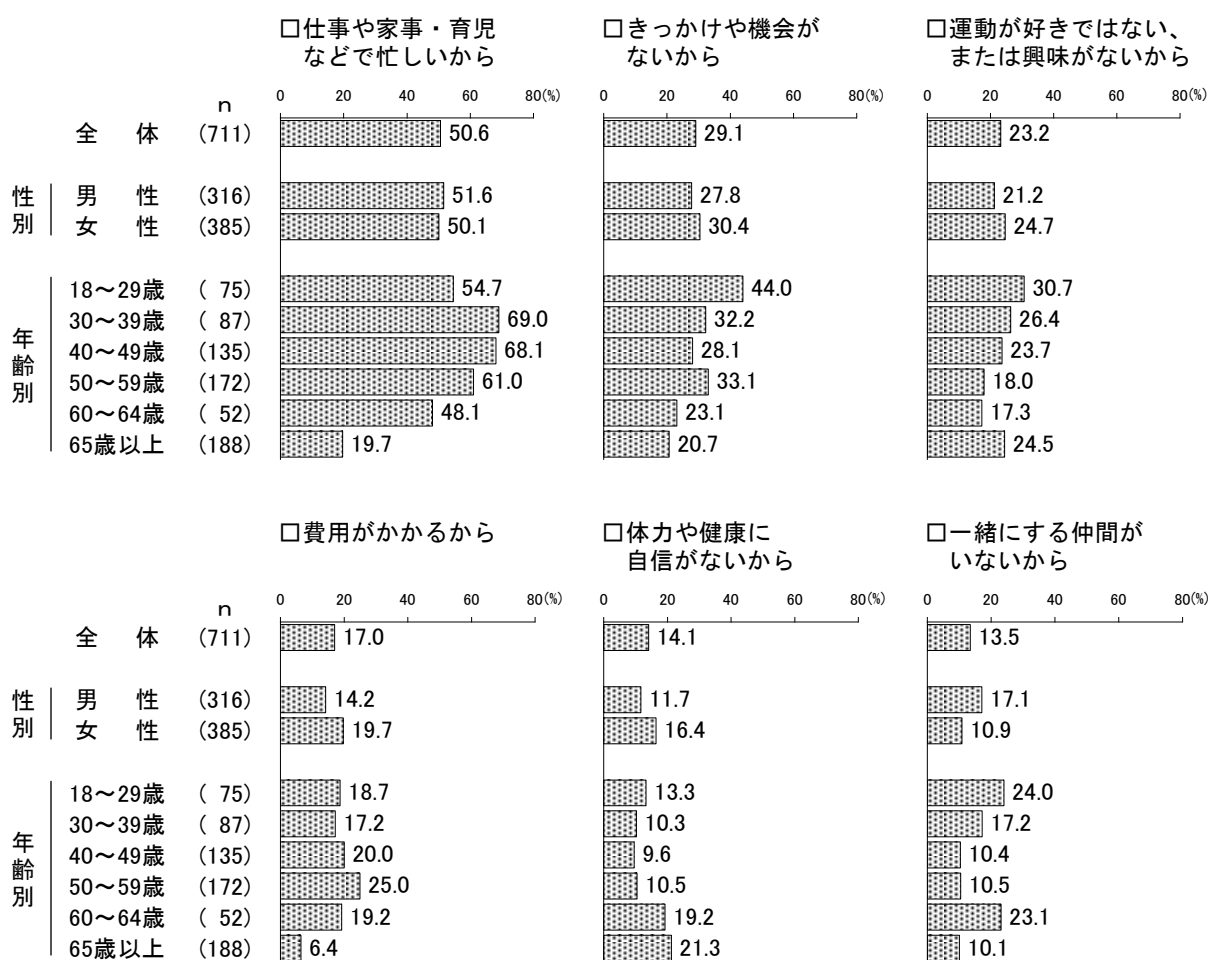
問17-1 八王子市では「スポーツ推進計画」を策定し、週1回以上スポーツ(運動)をする人を増やす取り組みを進めています。あなたが、週1回以上運動しなかった理由をお知らせください。(〇はいくつでも)

図3-4-1 週1回以上運動しなかった理由-全体



運動頻度が週1回未満と回答した711人に、週1回以上運動しなかった理由を聞いたところ、「仕事や家事・育児などで忙しいから」(50.6%)が約5割で最も多くなっている。次いで「きっかけや機会がないから」(29.1%)、「運動が好きではない、または興味がないから」(23.2%)、「費用がかかるから」(17.0%)などの順となっている。(図3-4-1)

図3-4-2 週1回以上運動しなかった理由—性別、年齢別（上位6位）

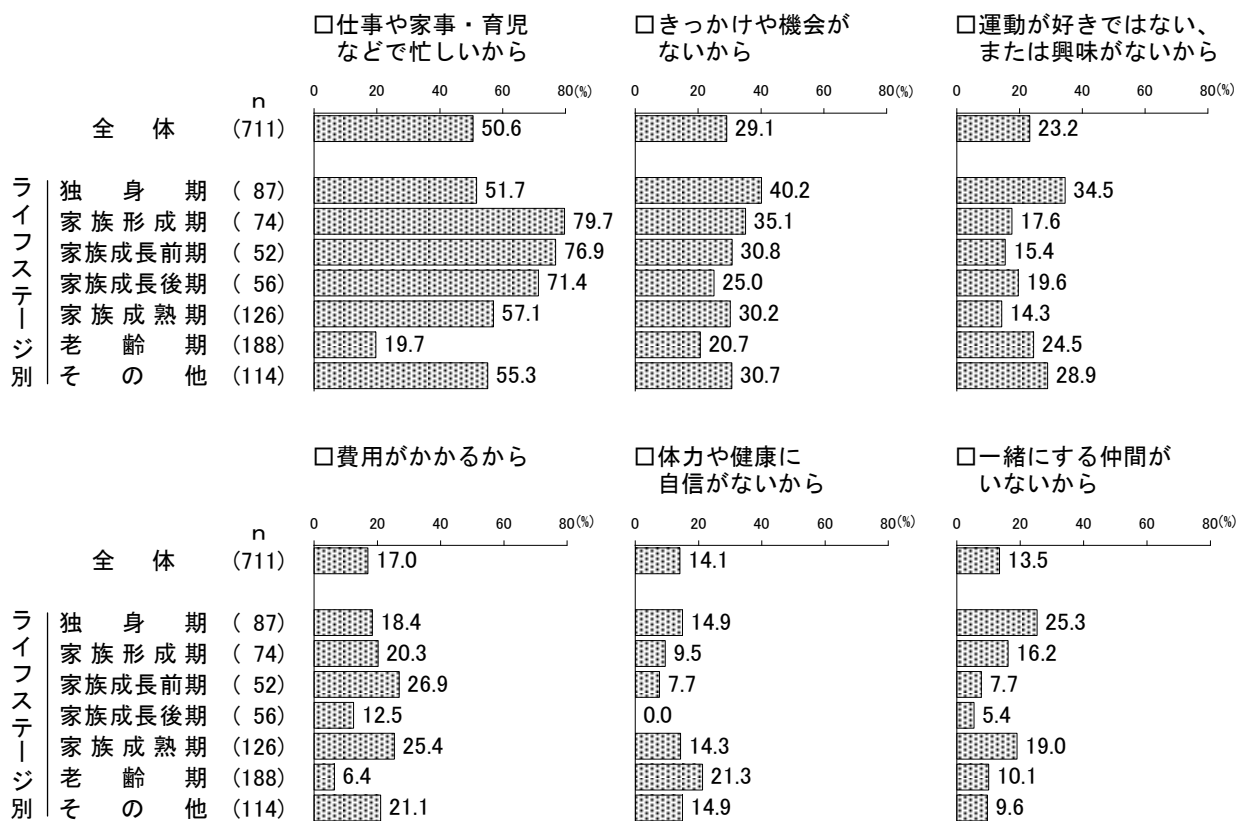


性別にみると、「一緒にする仲間がないから」は男性（17.1%）が女性（10.9%）より6.2ポイント高くなっている。一方、「費用がかかるから」は女性（19.7%）が男性（14.2%）より5.5ポイント、「体力や健康に自信がないから」は女性（16.4%）が男性（11.7%）より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「仕事や家事・育児などで忙しいから」は30~39歳（69.0%）で7割弱と多くなっている。「きっかけや機会がないから」は18~29歳（44.0%）で4割台半ばと多くなっている。「運動が好きではない、または興味がないから」は18~29歳（30.7%）で約3割と多くなっている。

（図3-4-2）

図3-4-3 週1回以上運動しなかった理由—ライフステージ別（上位6位）



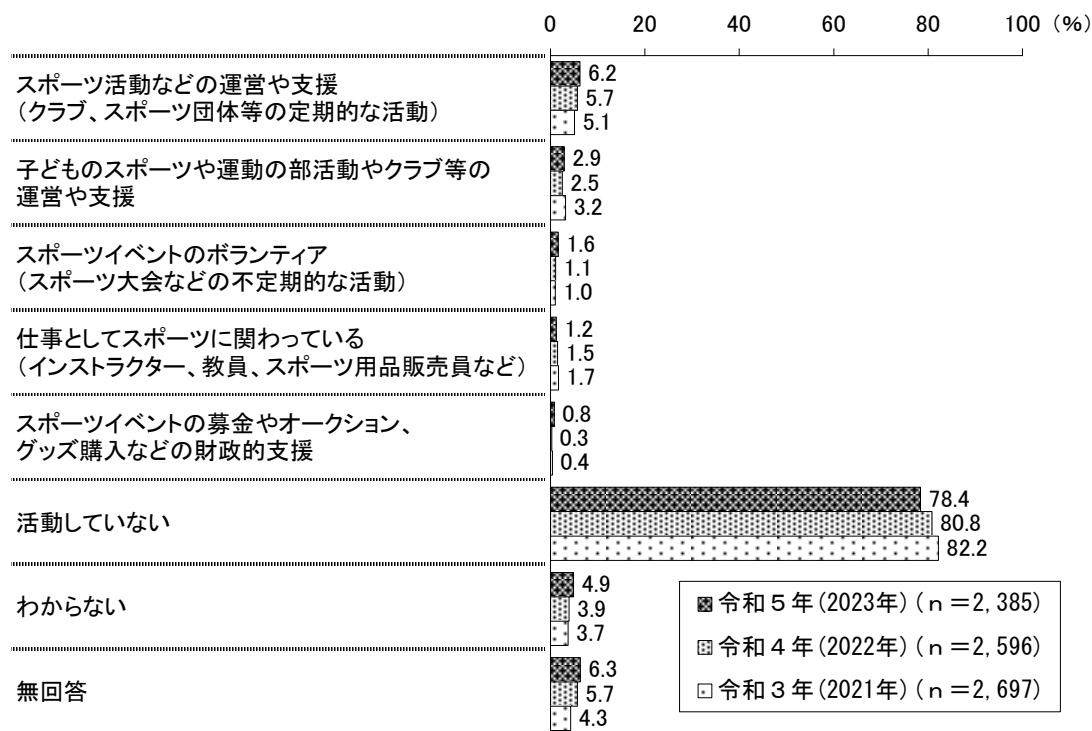
ライフステージ別にみると、「仕事や家事・育児などで忙しいから」は家族形成期（79.7%）で8割弱と多くなっている。「きっかけや機会がないから」は独身期（40.2%）で約4割と多くなっている。「運動が好きではない、または興味がないから」は独身期（34.5%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-4-3）

(5) この1年間に関わったスポーツを支える活動

◇「活動していない」が8割近く

問18 この中に、あなたがこの1年間に関わったスポーツを支える活動がありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

図3-5-1 この1年間に関わったスポーツを支える活動—全体、経年比較

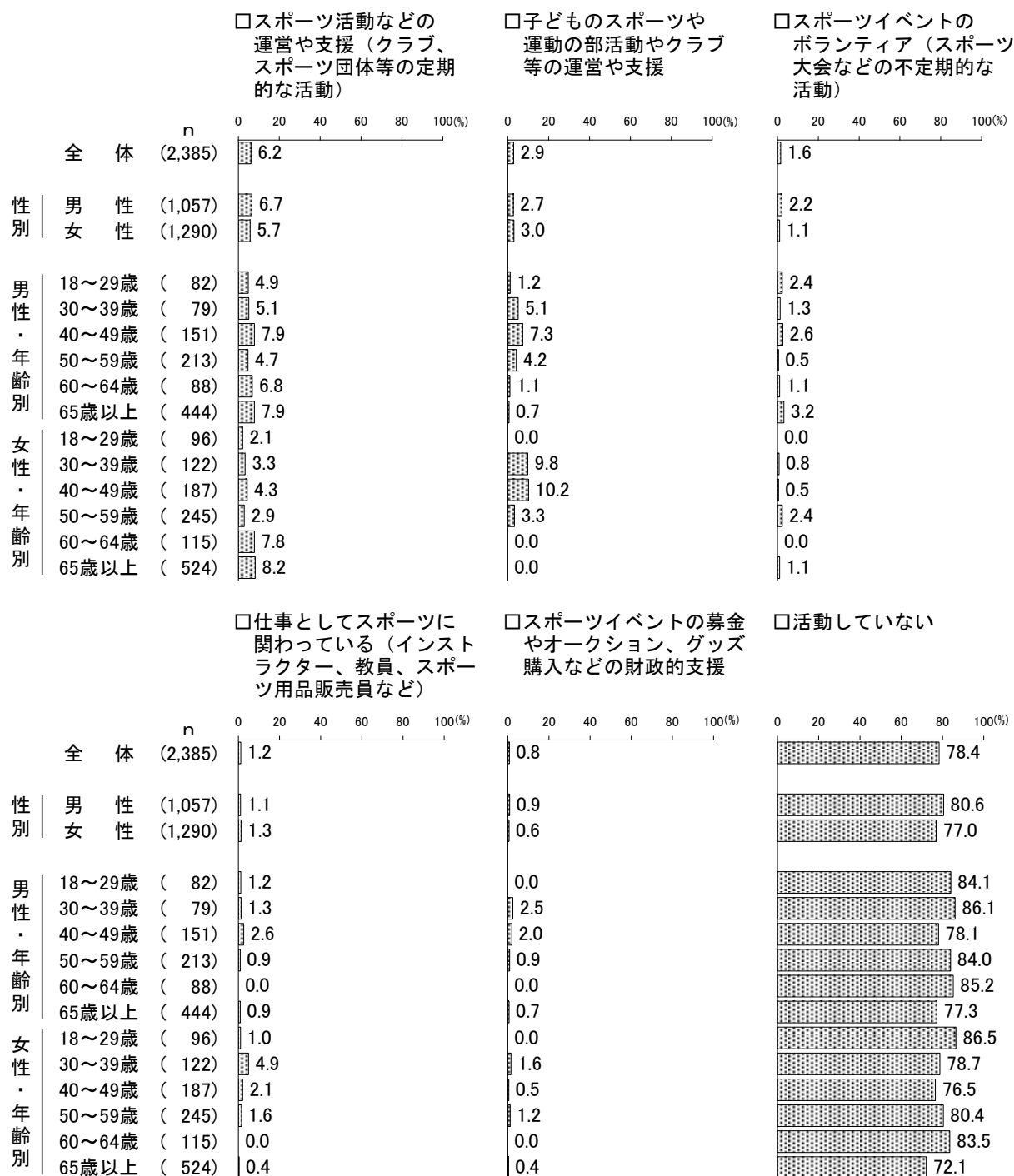


(注)「スポーツイベントの募金やオークション、グッズ購入などの財政的支援」は、令和4年(2022年)までは「スポーツイベントの募金やオークションなどのチャリティ活動」としていた。

この1年間に関わったスポーツを支える活動を聞いたところ、「活動していない」(78.4%)が8割近くとなっている。活動した中では、「スポーツ活動などの運営や支援(クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動)」(6.2%)、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」(2.9%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「活動していない」は令和4年(2022年)(80.8%)より2.4ポイント減少している。(図3-5-1)

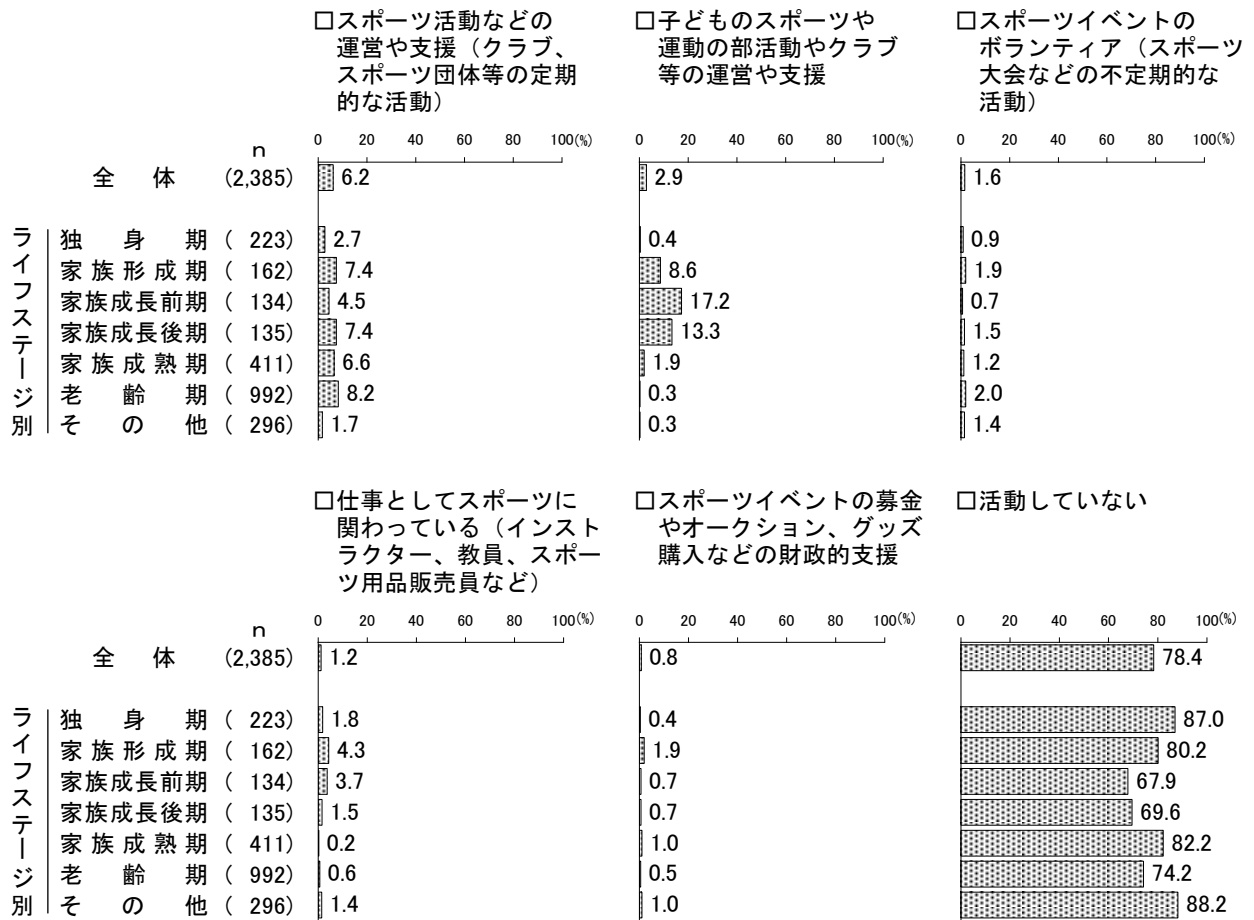
図3-5-2 この1年間に関わったスポーツを支える活動—性別、性・年齢別
 (「わからない」を除く)



性別にみると、「活動していない」は男性（80.6%）が女性（77.0%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は女性40～49歳（10.2%）で約1割となっている。一方、「活動していない」は女性18～29歳（86.5%）と男性30～39歳（86.1%）で9割近くと多くなっている。（図3-5-2）

図3-5-3 この1年間に関わったスポーツを支える活動－ライフステージ別
 (「わからない」を除く)



ライフステージ別にみると、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は家族成長前期 (17.2%) で2割近くとなっている。一方、「活動していない」はその他 (88.2%) と独身期 (87.0%) で9割近くと多くなっている。(図3-5-3)

(6) パラスポーツへの関心

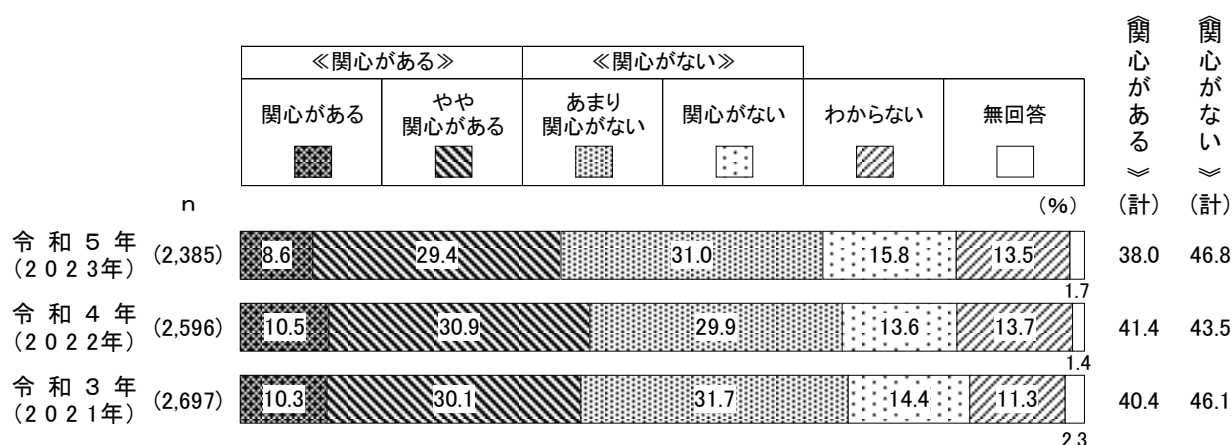
◇《関心がある》が4割近く

問19 あなたは、パラスポーツに関心がありますか。(○は1つだけ)

※「パラスポーツ」とは・・・

障害があってもスポーツ活動ができるよう、障害に応じ競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障害を補ったりする工夫・適合・開発がされたスポーツのことです。

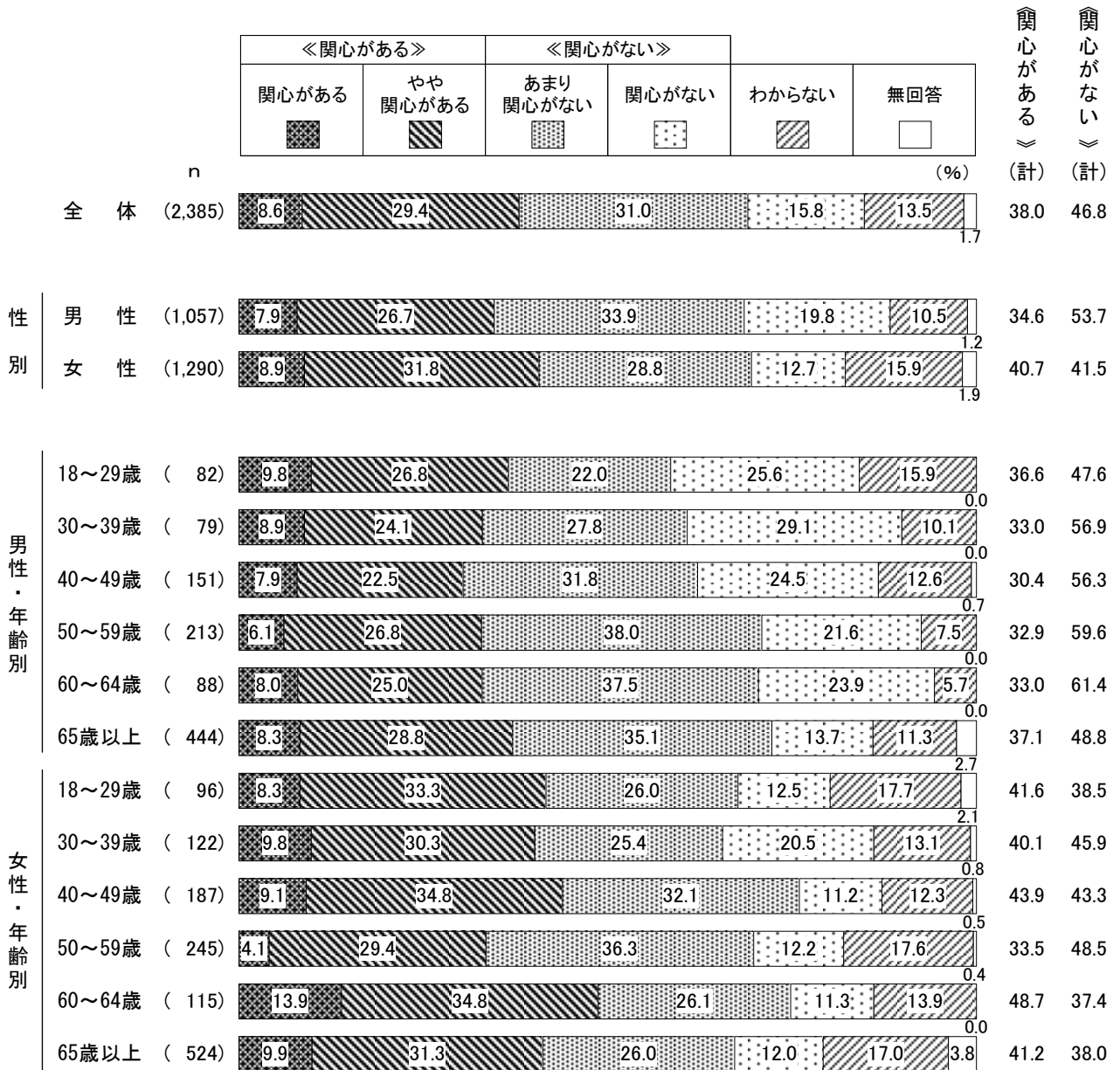
図3-6-1 パラスポーツへの関心—全体、経年比較



パラスポーツへの関心を聞いたところ、「関心がある」(8.6%)と「やや関心がある」(29.4%)を合わせた《関心がある》(38.0%)は4割近くとなっている。一方、「あまり関心がない」(31.0%)と「関心がない」(15.8%)を合わせた《関心がない》(46.8%)は5割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《関心がない》は令和4年(2022年)(43.5%)より3.3ポイント増加している。(図3-6-1)

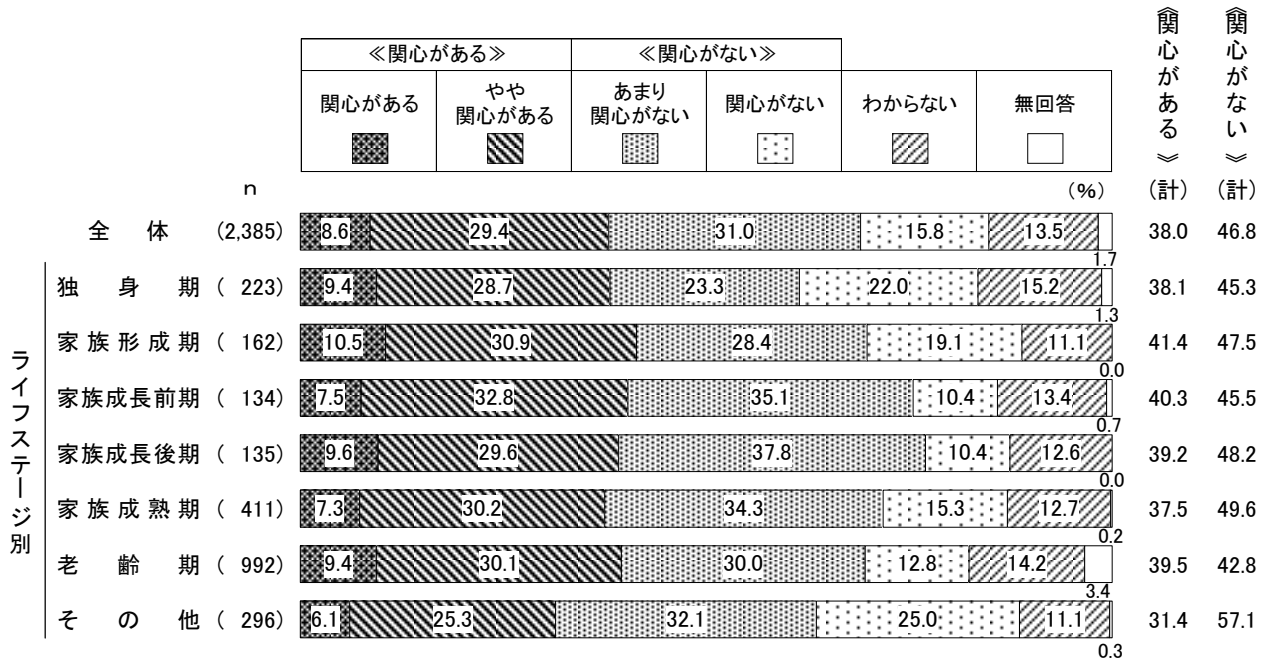
図3-6-2 パラスポーツへの関心—性別、性・年齢別



性別にみると、《関心がある》は女性（40.7%）が男性（34.6%）より6.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《関心がある》は女性60～64歳（48.7%）で5割近くと多くなっている。一方、《関心がない》は男性60～64歳（61.4%）で6割強と多くなっている。（図3-6-2）

図3-6-3 パラスポーツへの関心—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《関心がある》は家族形成期(41.4%)で4割強と多くなっている。一方、《関心がない》はその他(57.1%)で6割近くと多くなっている。(図3-6-3)

(7) かかりつけの医療機関の有無

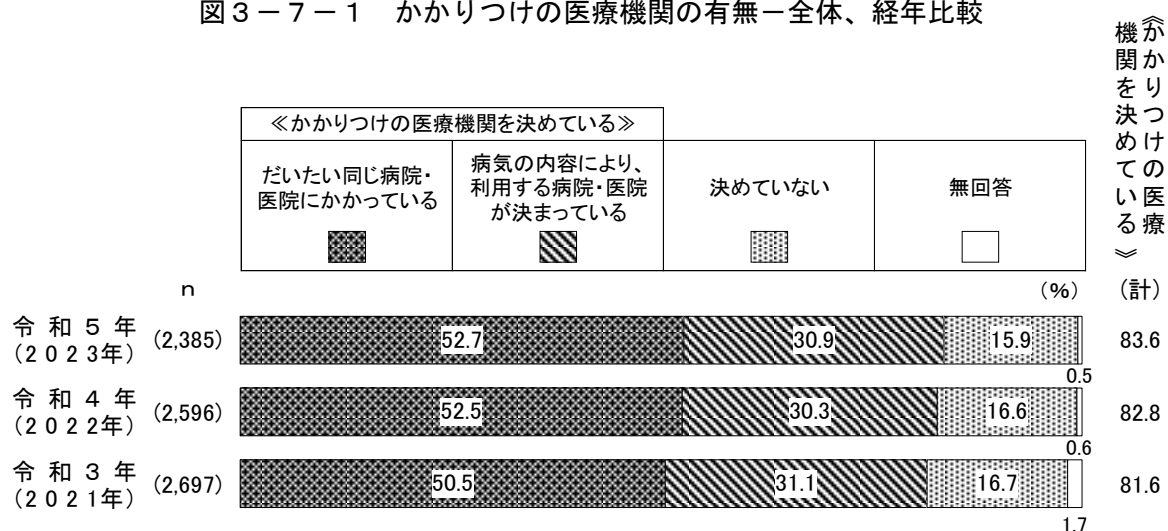
◇《かかりつけの医療機関を決めている》が8割強

問20 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(〇は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

図3-7-1 かかりつけの医療機関の有無－全体、経年比較

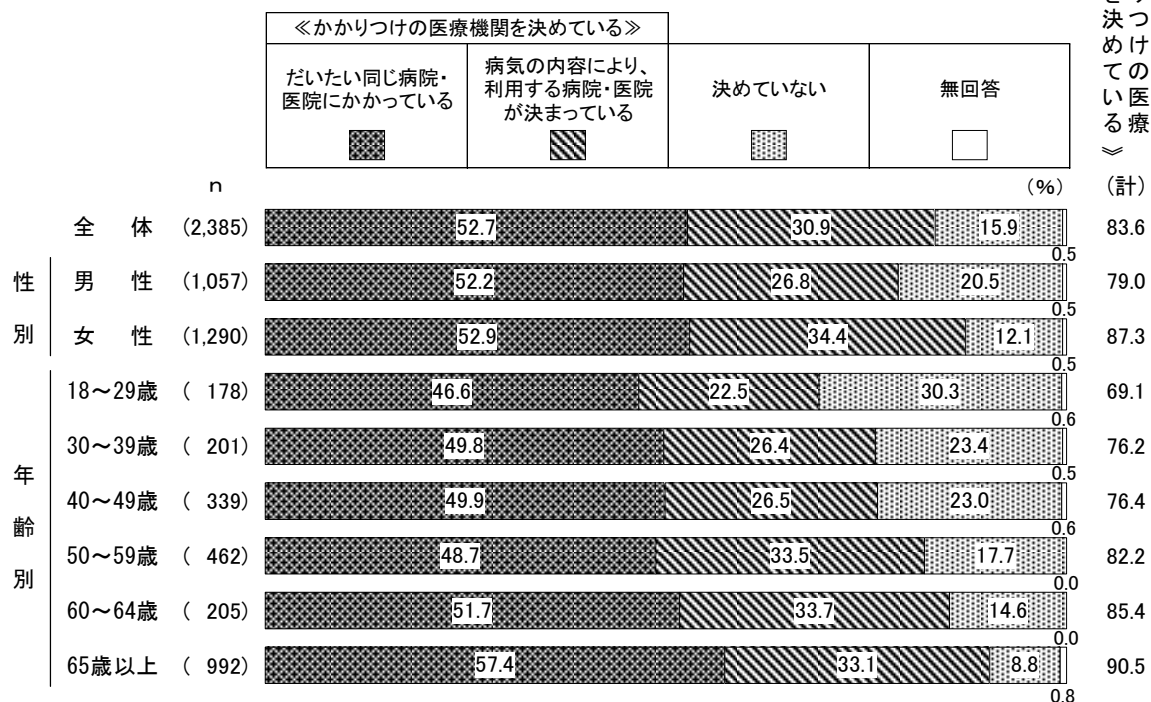


かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(52.7%)と「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(30.9%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》(83.6%)は8割強となっている。一方、「決めていない」(15.9%)は1割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-7-1)

図3-7-2 かかりつけの医療機関の有無－性別、年齢別

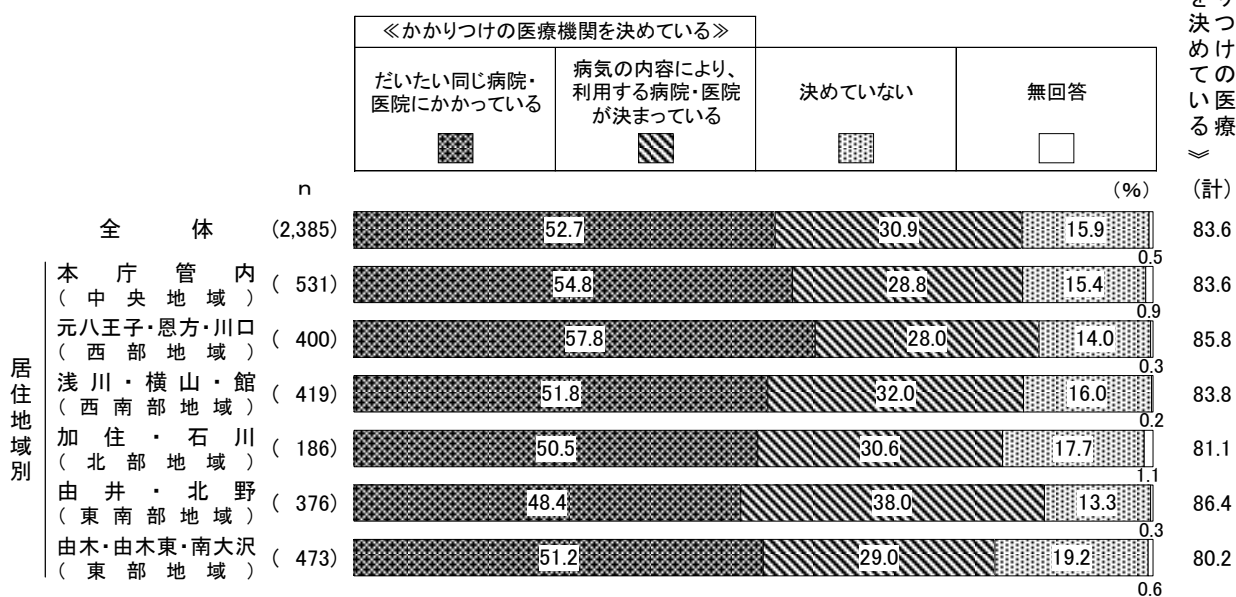


性別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は女性（87.3%）が男性（79.0%）より8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は65歳以上（90.5%）で約9割と多くなっている。一方、「決めていない」は18～29歳（30.3%）で約3割と多くなっている。

(図3-7-2)

図3-7-3 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



居住地域別にみると、《かかりつけの医療機関を決めている》は由井・北野（東南部地域）（86.4%）で9割近くと多くなっている。（図3-7-3）

(8) この1年間に行った学習・余暇活動

◇「趣味的なもの」が4割強

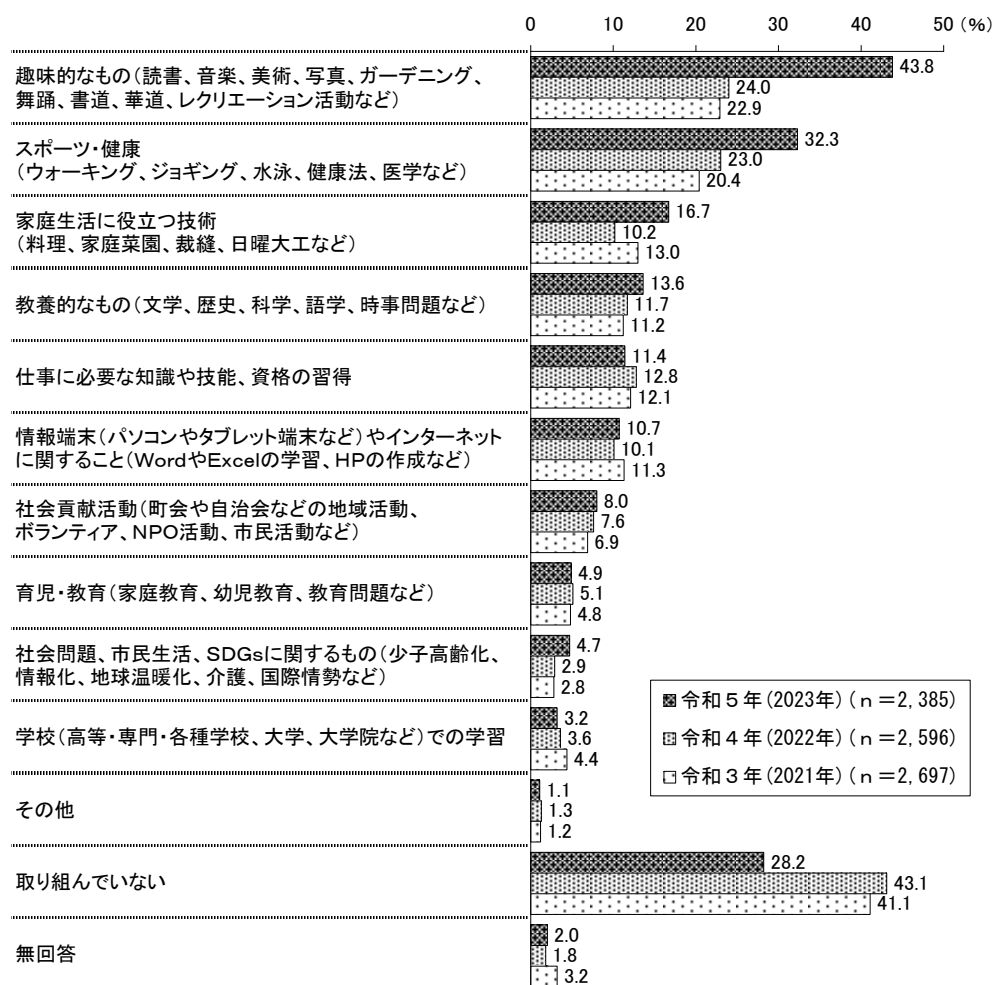
問21 あなたはこの1年間に、次のうちどのような学習・余暇活動を行いましたか。

(〇はいくつでも)

※ここでいう「学習・余暇活動」とは・・・

教育機関での学習だけでなく、個人または仲間と行う趣味・教養、スポーツ・レクリエーション、文化・芸術（鑑賞を含む）、地域貢献、仕事に必要な知識・技能の習得、社会の出来事に対する調べものなど、日常で自発的に行う幅広い活動を指します。

図3-8-1 この1年間に行った学習・余暇活動—全体、経年比較



(注) 設問文の「あなたはこの1年間に、次のうちどのような学習・余暇活動を行いましたか。」は、令和4年(2022年)までは「あなたは、この1年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。」としていた。

(注) 「趣味的なもの(読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など)」は、令和4年(2022年)までは「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」としていた。

(注) 「スポーツ・健康(ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など)」は、令和4年(2022年)までは「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」としていた。

(注) 「家庭生活に役立つ技術(料理、家庭菜園、裁縫、日曜大工など)」は、令和4年(2022年)までは「家庭生活に役立つ技術(料理、裁縫、日曜大工など)」としていた。

(注) 「情報端末(パソコンやタブレット端末など)やインターネットに関すること(WordやExcelの学習、HPの作成など)」は、令和4年(2022年)までは「情報端末(パソコンやタブレット端末など)やインターネットに関すること」としていた。

(注) 「社会貢献活動(町会や自治会などの地域活動、ボランティア、NPO活動、市民活動など)」は、令和4年(2022年)までは「社会貢献活動(町内会などの地域活動、ボランティア、NPO、市民活動など)」としていた。

(注) 「社会問題、市民生活、SDGsに関するもの(少子高齢化、情報化、地球温暖化、介護、国際情勢など)」は、令和4年(2022年)までは「社会問題・市民生活に関するもの(少子高齢化、情報化、環境、介護、国際交流など)」としていた。

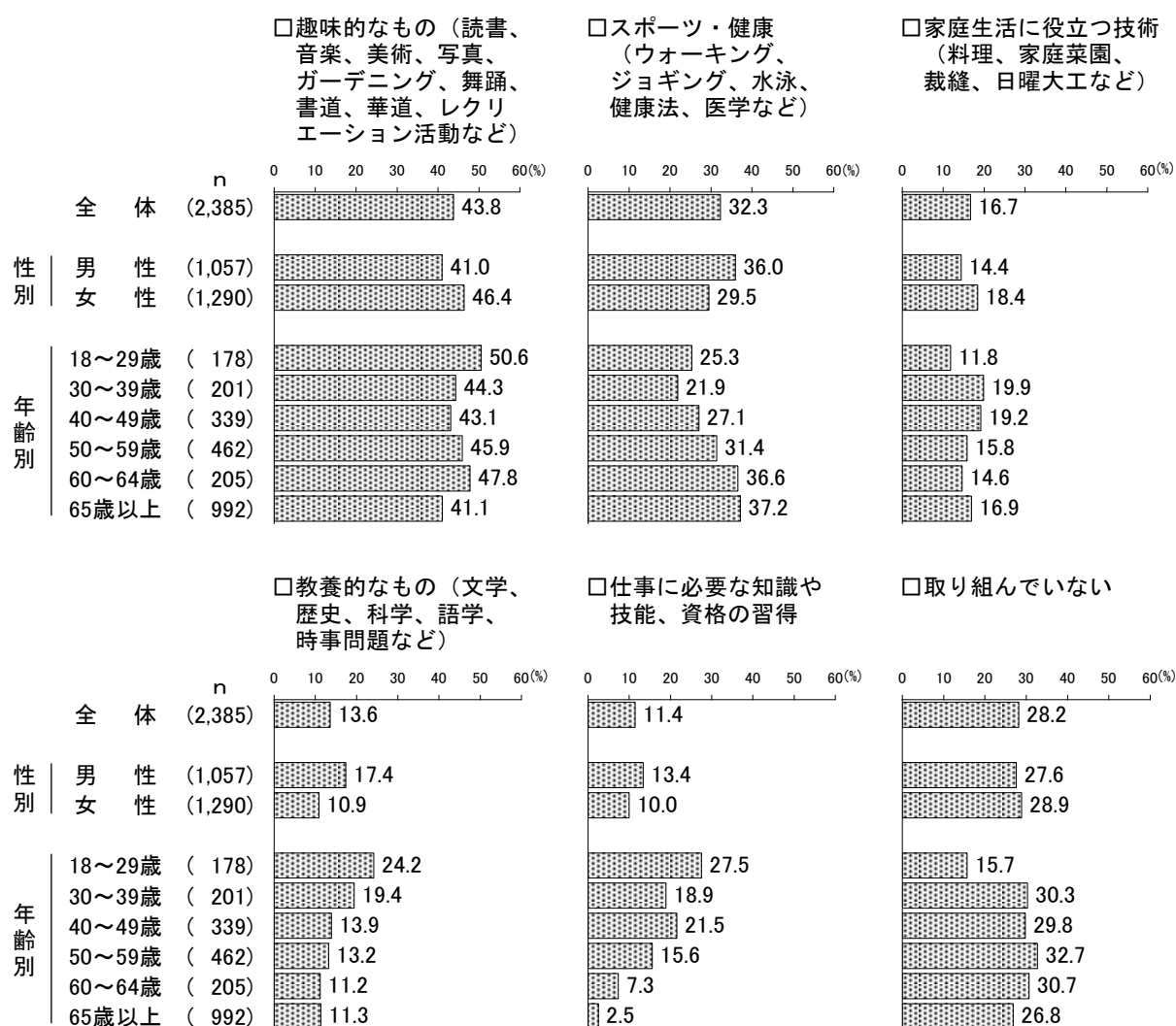
(注) 「学校(高等・専門・各種学校、大学、大学院など)での学習」は、令和4年(2022年)までは「学校(高等・専門・各種学校、大学、大学院など)の正規課程での学習」としていた。

この1年間に行った学習・余暇活動を聞いたところ、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」（43.8%）が4割強で最も多くなっている。次いで「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」（32.3%）、「家庭生活に役立つ技術（料理、家庭菜園、裁縫、日曜大工など）」（16.7%）などの順となっている。一方、「取り組んでいない」（28.2%）は3割近くとなっている。

前回までの調査との比較は、設問文と選択肢が大幅に異なるため参考となるが、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は令和4年（2022年）（24.0%）より19.8ポイント、「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は令和4年（2022年）（23.0%）より9.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「取り組んでいない」は令和4年（2022年）（43.1%）より14.9ポイント減少している。

（図3-8-1）

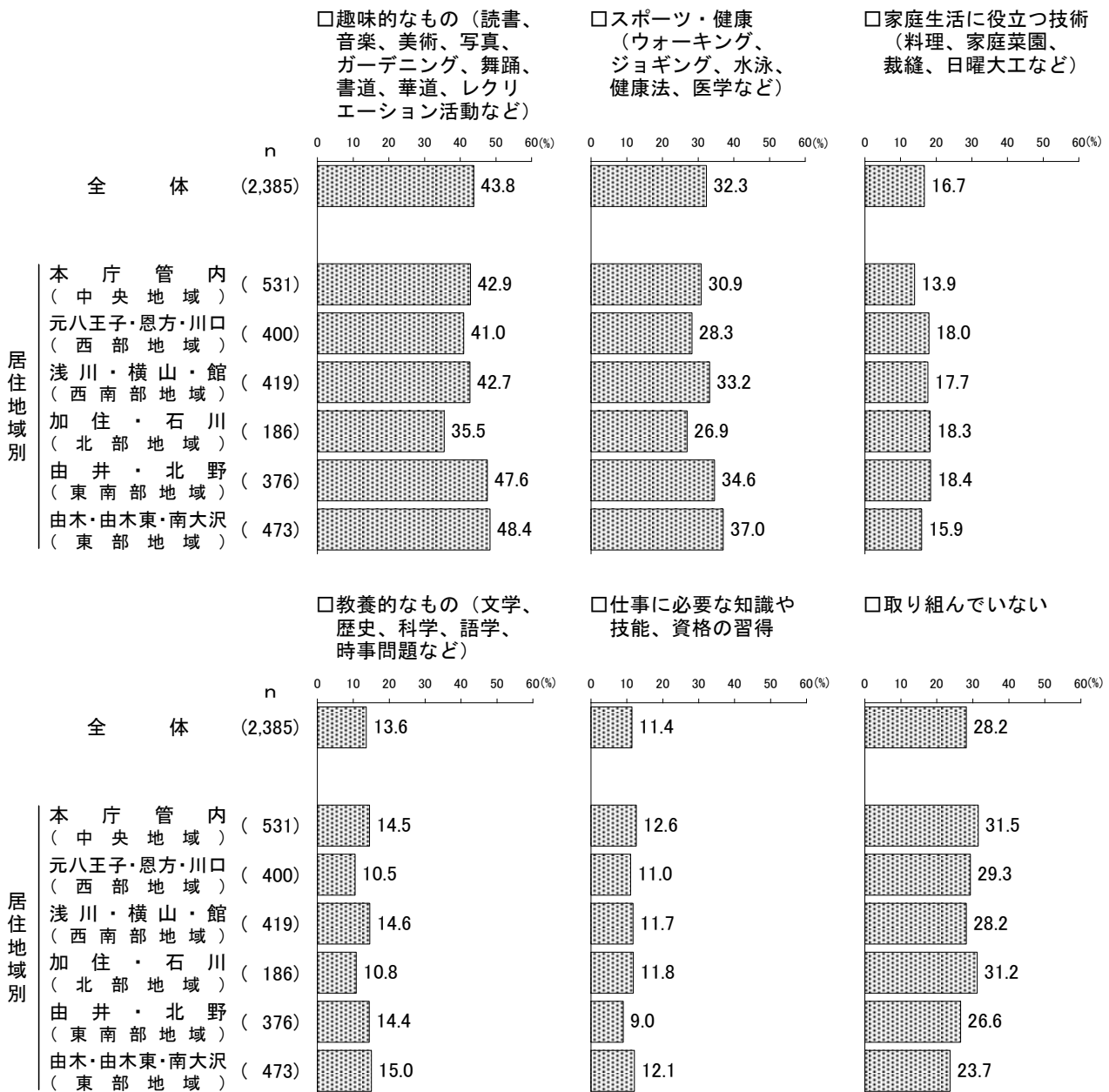
図3-8-2 この1年間に行った学習・余暇活動—性別、年齢別（上位5位+「取り組んでいない」）



性別にみると、「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は男性（36.0%）が女性（29.5%）より6.5ポイント、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」は男性（17.4%）が女性（10.9%）より6.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は女性（46.4%）が男性（41.0%）より5.4ポイント高くなっている。

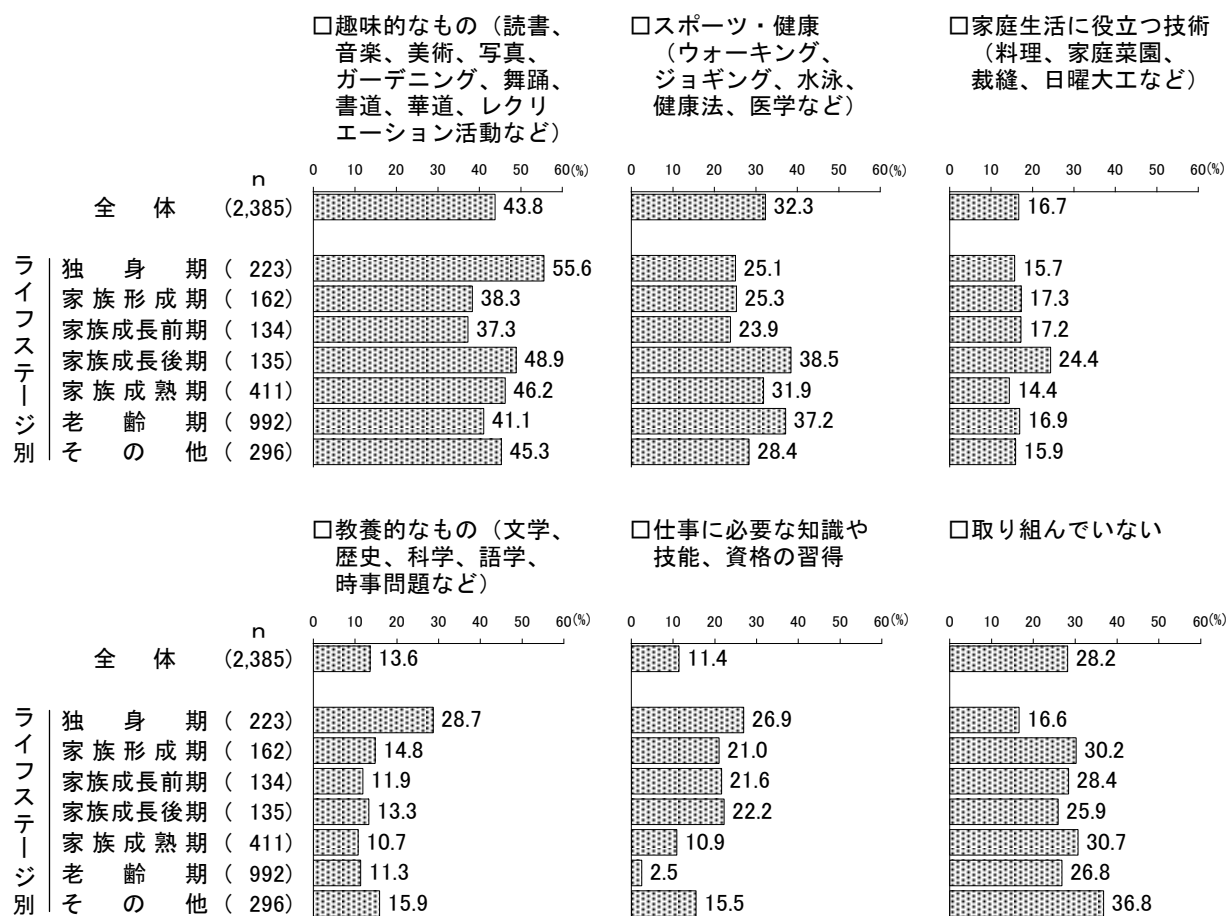
年齢別にみると、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は18~29歳（50.6%）で約5割と多くなっている。「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は60~64歳（36.6%）と65歳以上（37.2%）で4割近くと多くなっている。「仕事に必要な知識や技能、資格の習得」は18~29歳（27.5%）で3割近くと多くなっている。（図3-8-2）

図3-8-3 この1年間に行った学習・余暇活動—居住地域別（上位5位+「取り組んでいない」）



居住地域別にみると、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（48.4%）と由井・北野（東南部地域）（47.6%）で5割近くと多くなっている。「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（37.0%）で4割近くと多くなっている。「取り組んでいない」は本庁管内(中央地域)（31.5%）と加住・石川(北部地域)（31.2%）で3割強と多くなっている。（図3-8-3）

図3-8-4 この1年間に行った学習・余暇活動－ライフステージ別
(上位5位+「取り組んでいない」)



ライフステージ別にみると、「趣味的なもの（読書、音楽、美術、写真、ガーデニング、舞踊、書道、華道、レクリエーション活動など）」は独身期（55.6%）で5割台半ばと多くなっている。「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」は家族成長後期（38.5%）と高齢期（37.2%）で4割近くと多くなっている。「取り組んでいない」はその他（36.8%）で4割近くと多くなっている。（図3-8-4）

(9) 行っている学習や活動に関する情報の入手方法

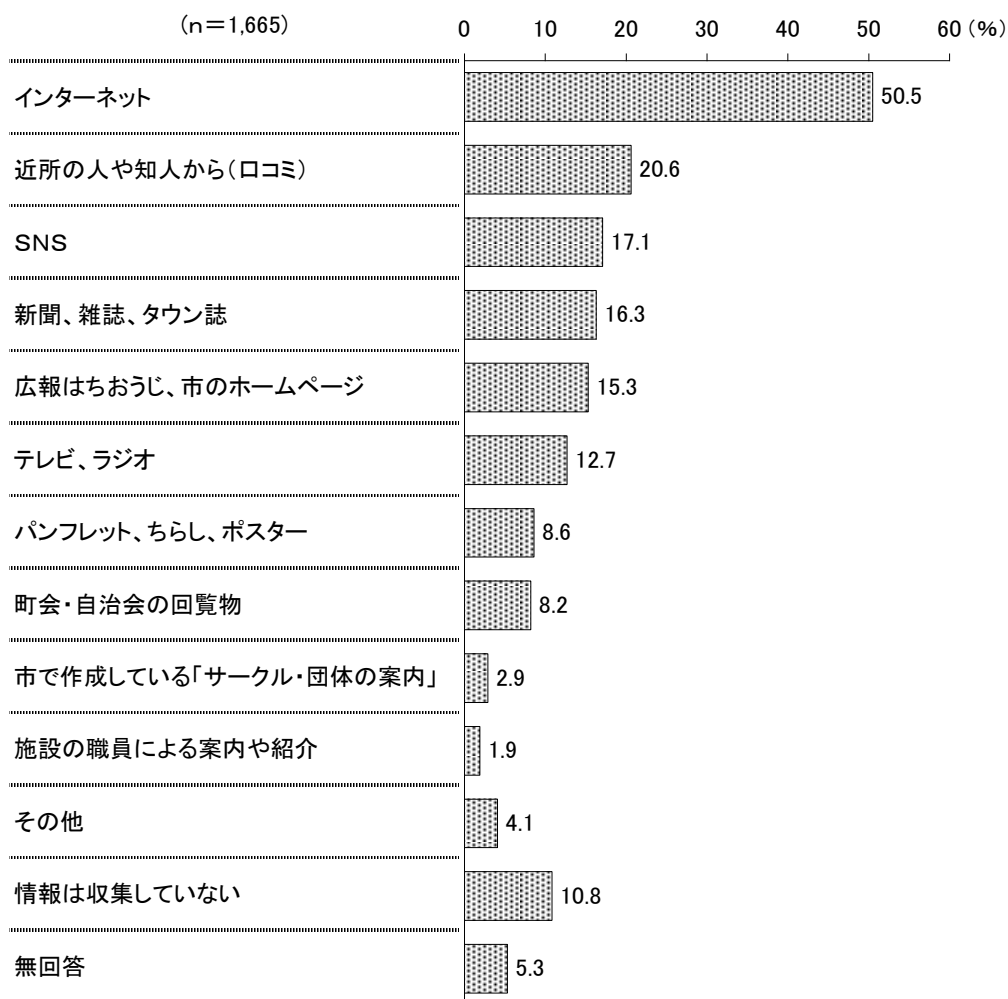
◇「インターネット」が約5割

(問21で何かしらの学習・余暇活動を「行っている」とお答えの方へ)

問21-1 あなたが行っている学習や活動に関する情報は何でお知りになりましたか。

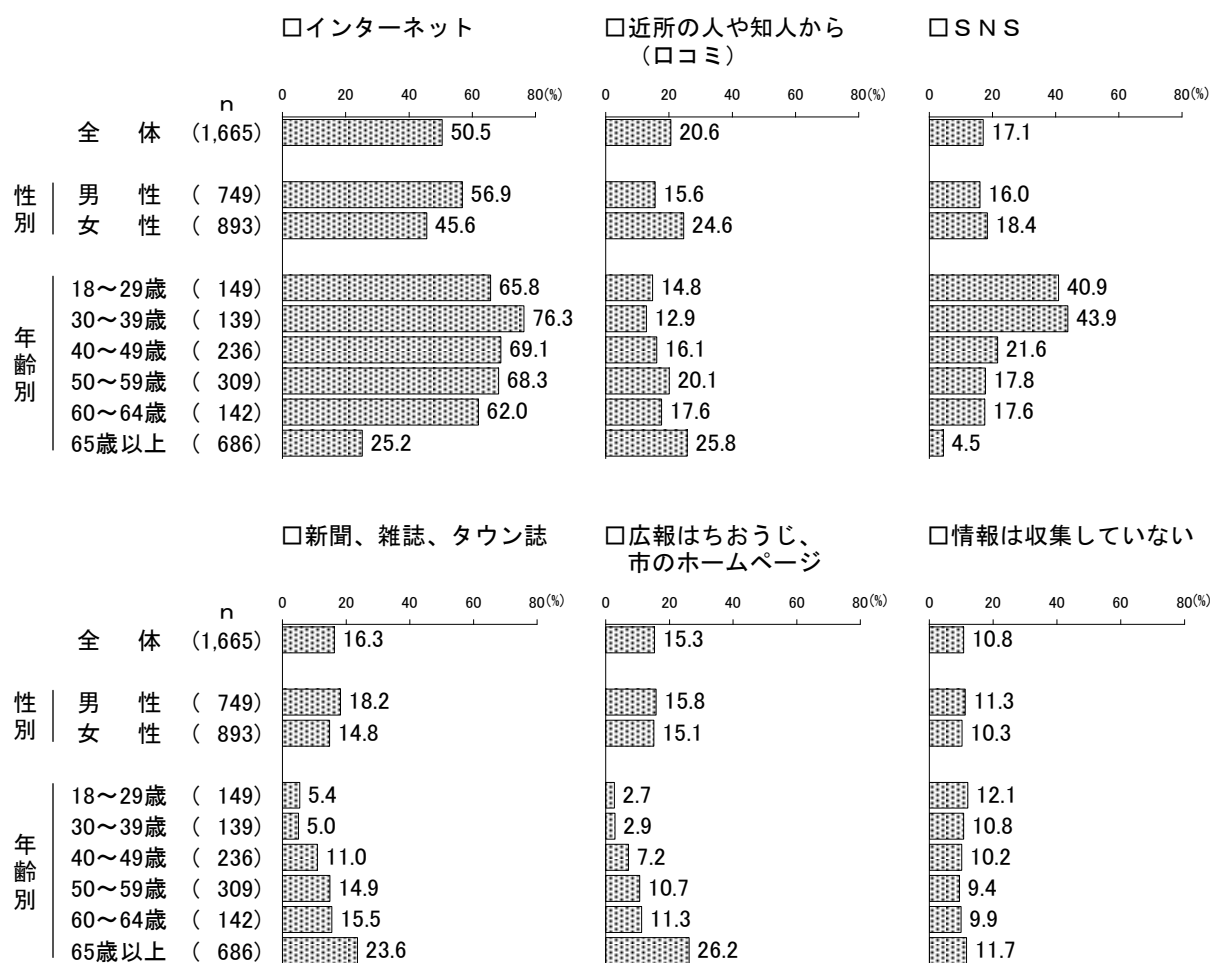
(○はいくつでも)

図3-9-1 行っている学習や活動に関する情報の入手方法-全体



何かしらの学習・余暇活動を行っていると回答した1,665人に、行っている学習や活動に関する情報は何で知ったか聞いたところ、「インターネット」(50.5%)が約5割で最も多くなっている。次いで「近所の人や知人から(口コミ)」(20.6%)、「SNS」(17.1%)、「新聞、雑誌、タウン誌」(16.3%)などの順となっている。(図3-9-1)

図3-9-2 行っている学習や活動に関する情報の入手方法—性別、年齢別
(上位5位+「情報は収集していない」)

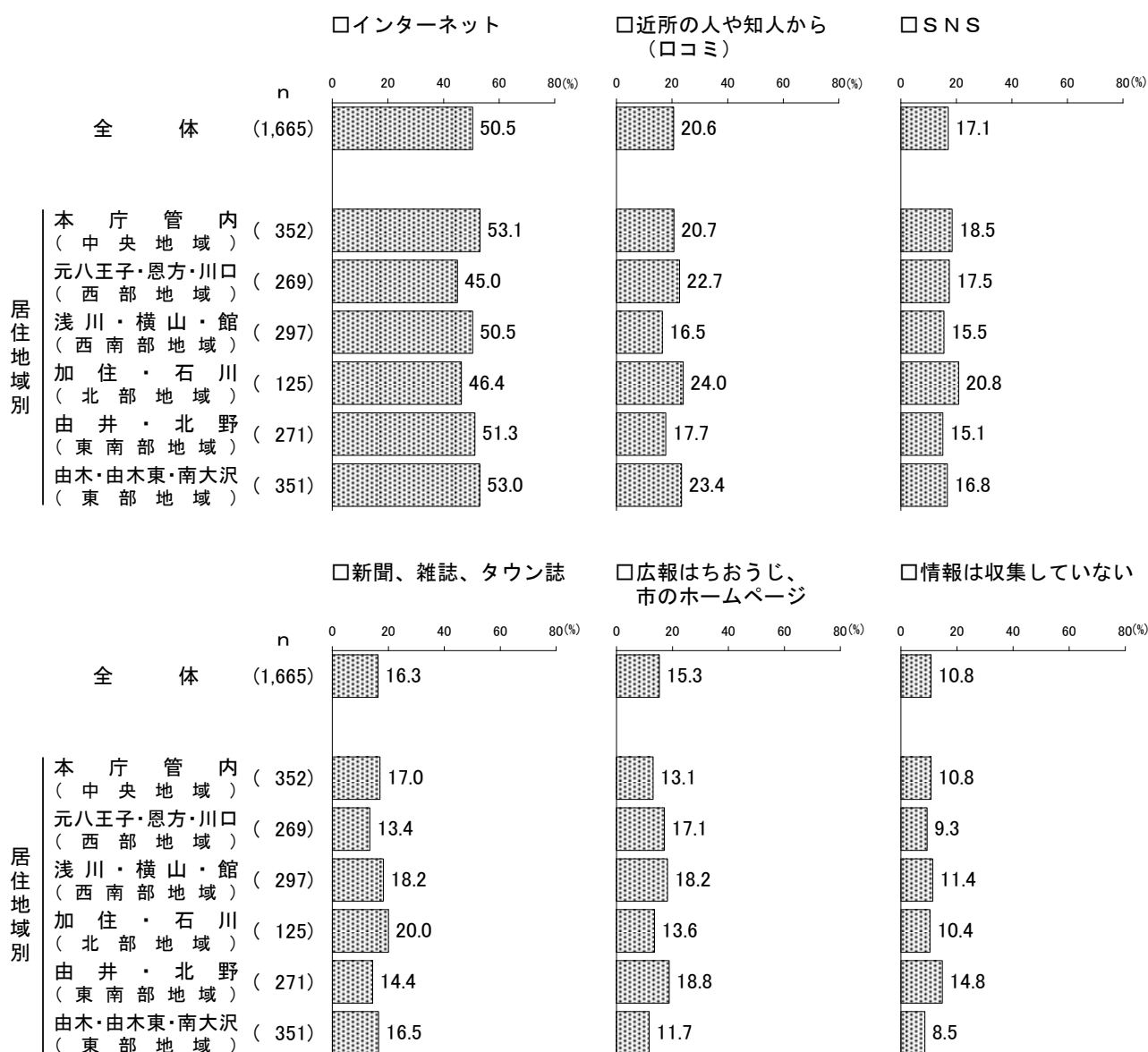


性別にみると、「インターネット」は男性（56.9%）が女性（45.6%）より11.3ポイント高くなっている。一方、「近所の人や知人から（口コミ）」は女性（24.6%）が男性（15.6%）より9.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「インターネット」は30~39歳（76.3%）で8割近くと多くなっている。「SNS」は30~39歳（43.9%）で4割強と多くなっている。「広報はちおうじ、市のホームページ」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（26.2%）で3割近くと多くなっている。

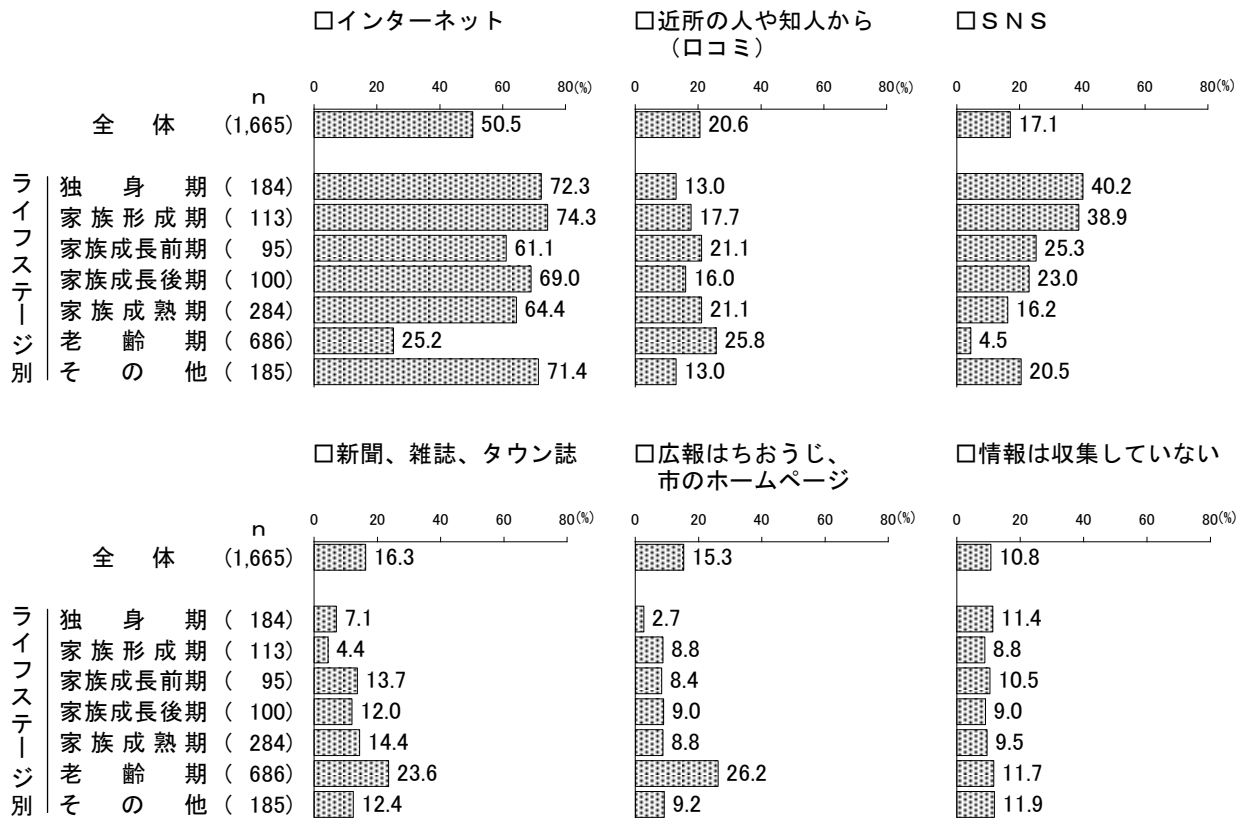
(図3-9-2)

図3-9-3 行っている学習や活動に関する情報の入手方法－居住地域別
(上位5位+「情報は収集していない」)



居住地域別にみると、「インターネット」は本庁管内(中央地域)(53.1%)、由木・由木東・南大沢(東部地域)(53.0%)、由井・北野(東南部地域)(51.3%)で5割強と多くなっている。「近所の人や知人から(口コミ)」は加住・石川(北部地域)(24.0%)で2割台半ばと多くなっている。「SNS」は加住・石川(北部地域)(20.8%)で約2割と多くなっている。(図3-9-3)

図3-9-4 行っている学習や活動に関する情報の入手方法—ライフステージ別
(上位5位+「情報は収集していない」)



ライフステージ別にみると、「インターネット」は家族形成期（74.3%）で7割台半ばと多くなっている。「SNS」は独身期（40.2%）で約4割、家族形成期（38.9%）で4割近くと多くなっている。「広報はちおうじ、市のホームページ」は老齢期（26.2%）で3割近くと多くなっている。

(図3-9-4)

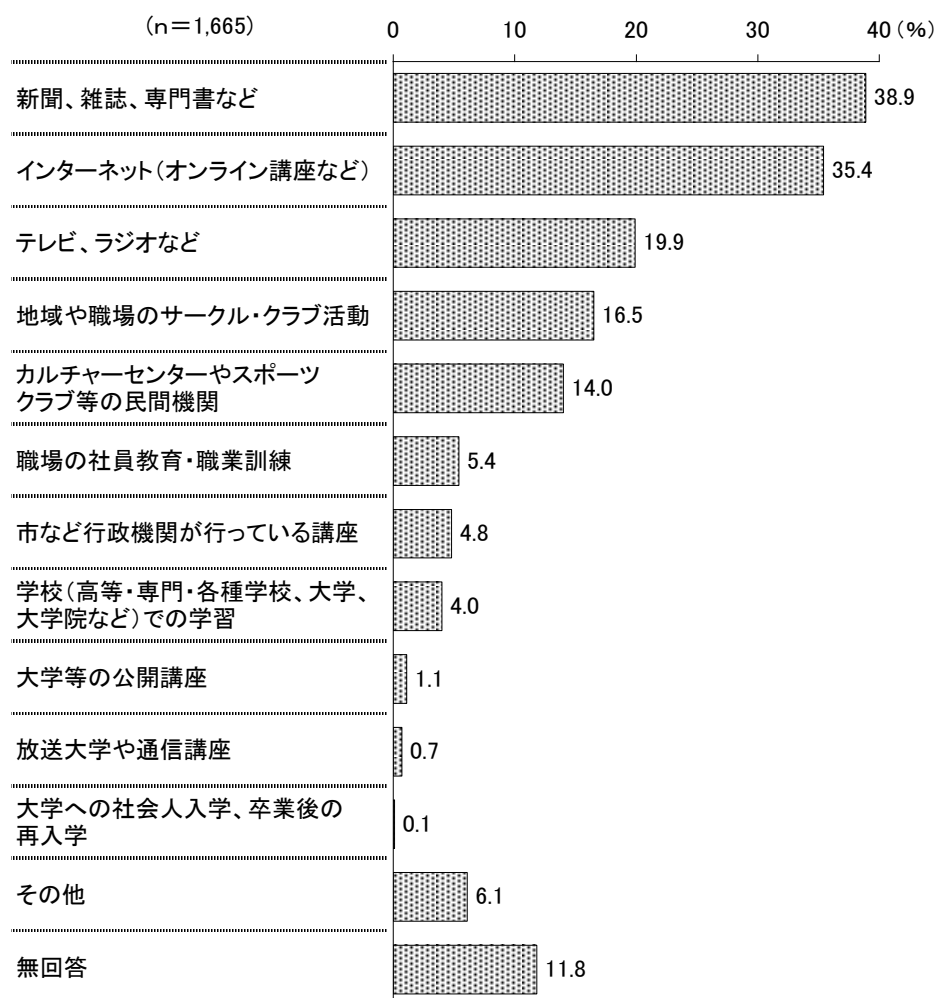
(10) 学習や活動を行う方法

◇「新聞、雑誌、専門書など」が4割近く

(問21で何かしらの学習・余暇活動を「行っている」とお答えの方へ)

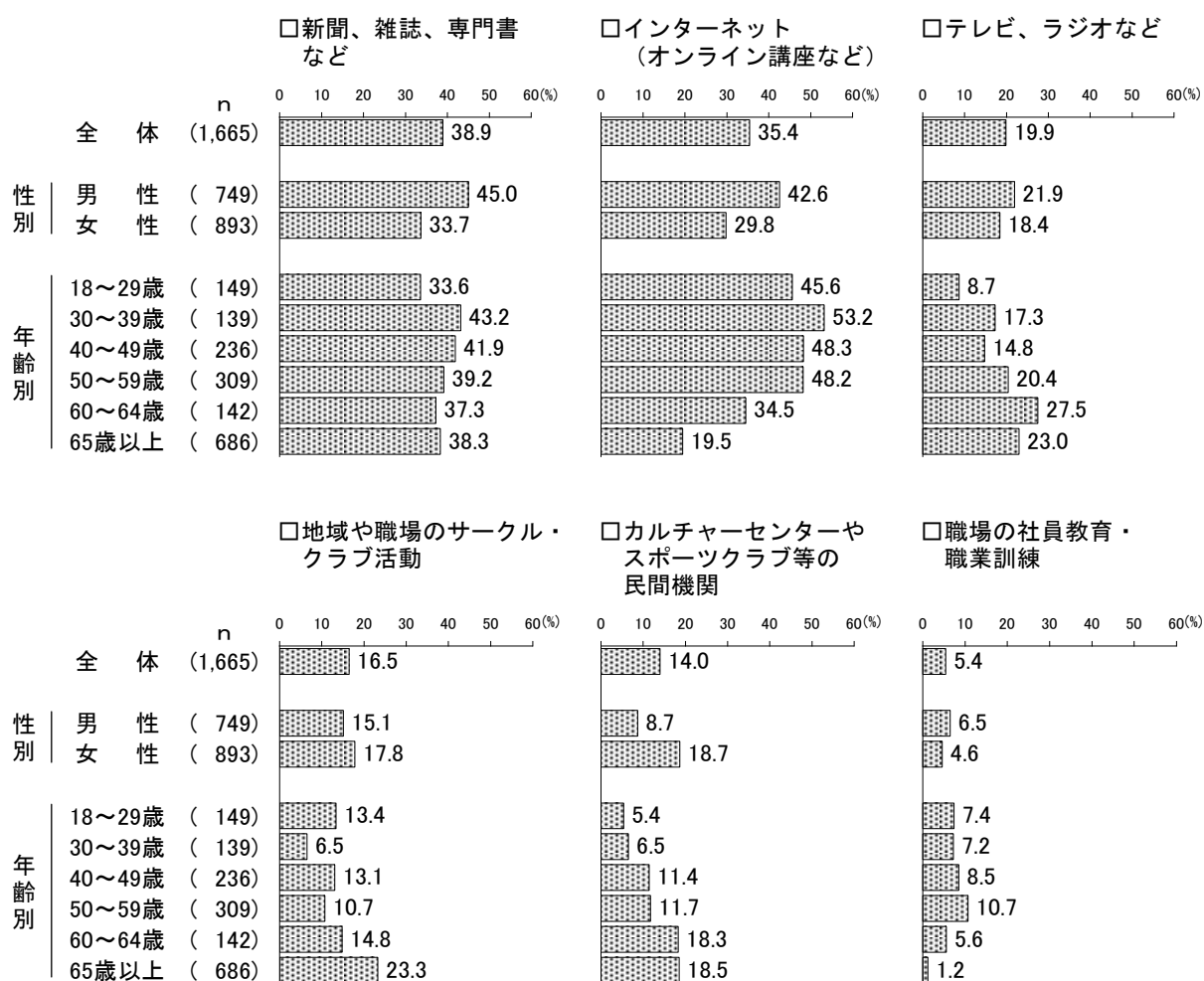
問21-2 あなたは、どのような方法で、学んだり、活動していますか。(〇はいくつでも)

図3-10-1 学習や活動を行う方法-全体



何かしらの学習・余暇活動を行っているとお答えした1,665人に、どのような方法で、学んだり、活動しているか聞いたところ、「新聞、雑誌、専門書など」(38.9%)が4割近くで最も多くなっている。次いで「インターネット(オンライン講座など)」(35.4%)、「テレビ、ラジオなど」(19.9%)、「地域や職場のサークル・クラブ活動」(16.5%)などの順となっている。(図3-10-1)

図 3-10-2 学習や活動を行う方法—性別、年齢別（上位 6 位）

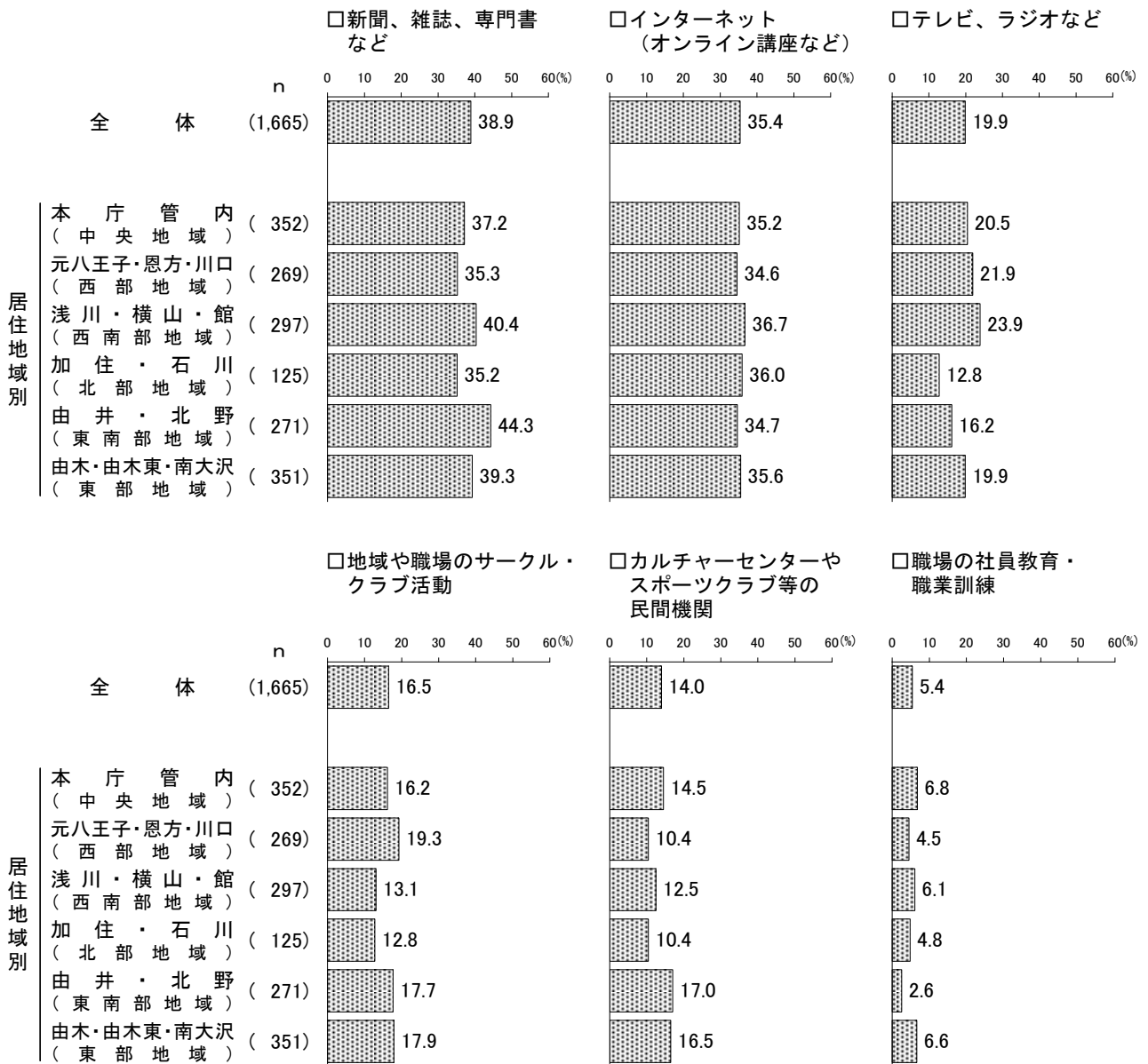


性別にみると、「インターネット（オンライン講座など）」は男性（42.6%）が女性（29.8%）より12.8ポイント、「新聞、雑誌、専門書など」は男性（45.0%）が女性（33.7%）より11.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「カルチャーセンターやスポーツクラブ等の民間機関」は女性（18.7%）が男性（8.7%）より10.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「新聞、雑誌、専門書など」は30～39歳（43.2%）と40～49歳（41.9%）で4割強と多くなっている。「インターネット（オンライン講座など）」は30～39歳（53.2%）で5割強と多くなっている。「テレビ、ラジオなど」は60～64歳（27.5%）で3割近くと多くなっている。

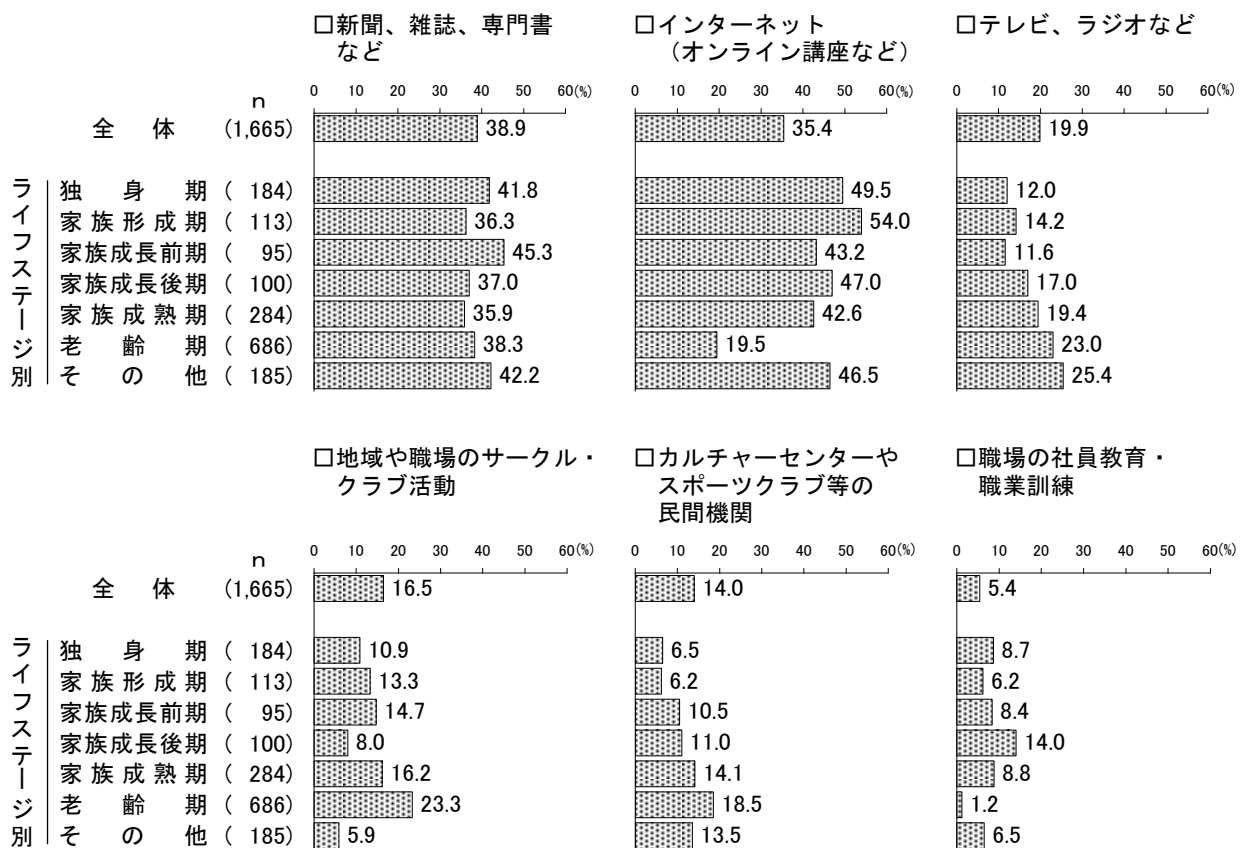
（図 3-10-2）

図3-10-3 学習や活動を行う方法－居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「新聞、雑誌、専門書など」は由井・北野（東南部地域）（44.3%）で4割台半ばと多くなっている。「テレビ、ラジオなど」は浅川・横山・館（西南部地域）（23.9%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（21.9%）で2割強と多くなっている。（図3-10-3）

図3-10-4 学習や活動を行う方法—ライフステージ別（上位6位）



ライフステージ別にみると、「新聞、雑誌、専門書など」は家族成長前期（45.3%）で4割台半ばと多くなっている。「インターネット（オンライン講座など）」は家族形成期（54.0%）で5割台半ばと多くなっている。「テレビ、ラジオなど」はその他（25.4%）で2割台半ばと多くなっている。

（図3-10-4）

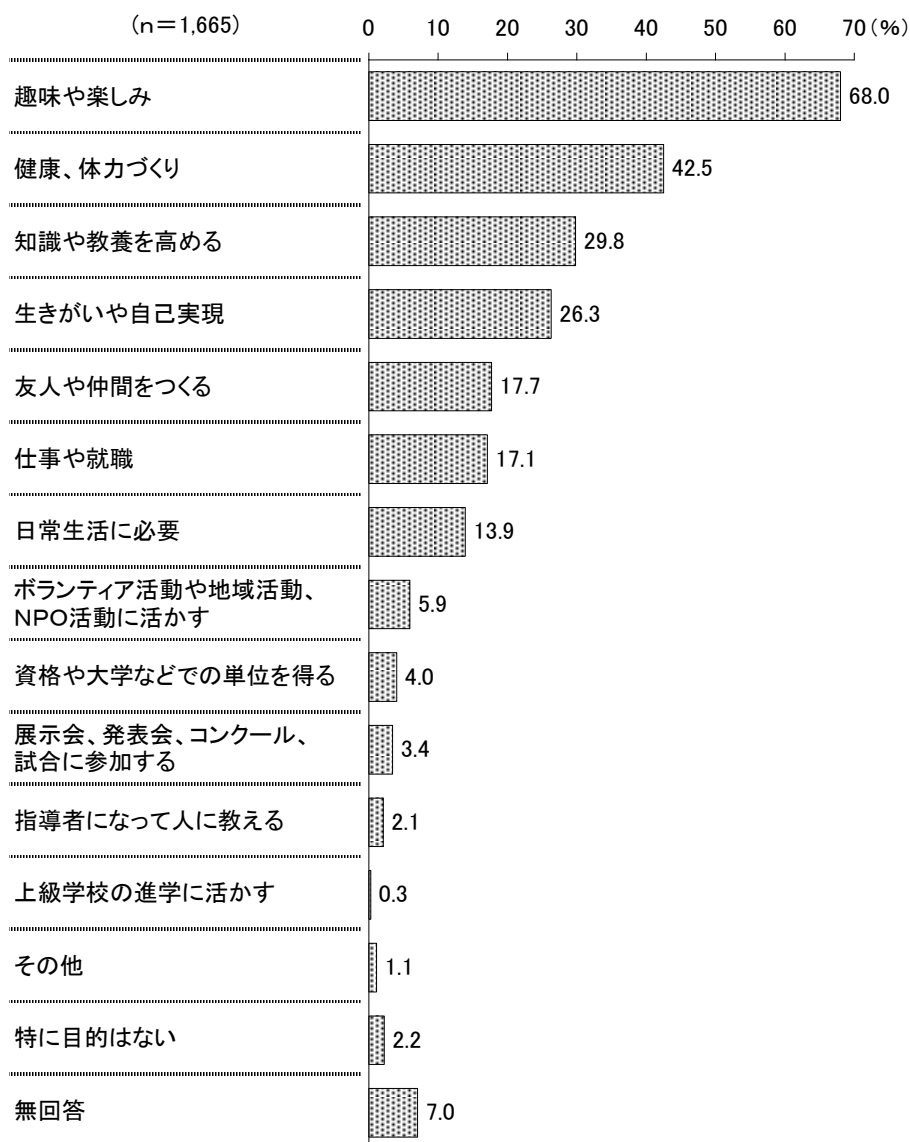
(11) 学習や活動を行う目的

◇「趣味や楽しみ」が7割近く

(問21で何かしらの学習・余暇活動を「行っている」とお答えの方へ)

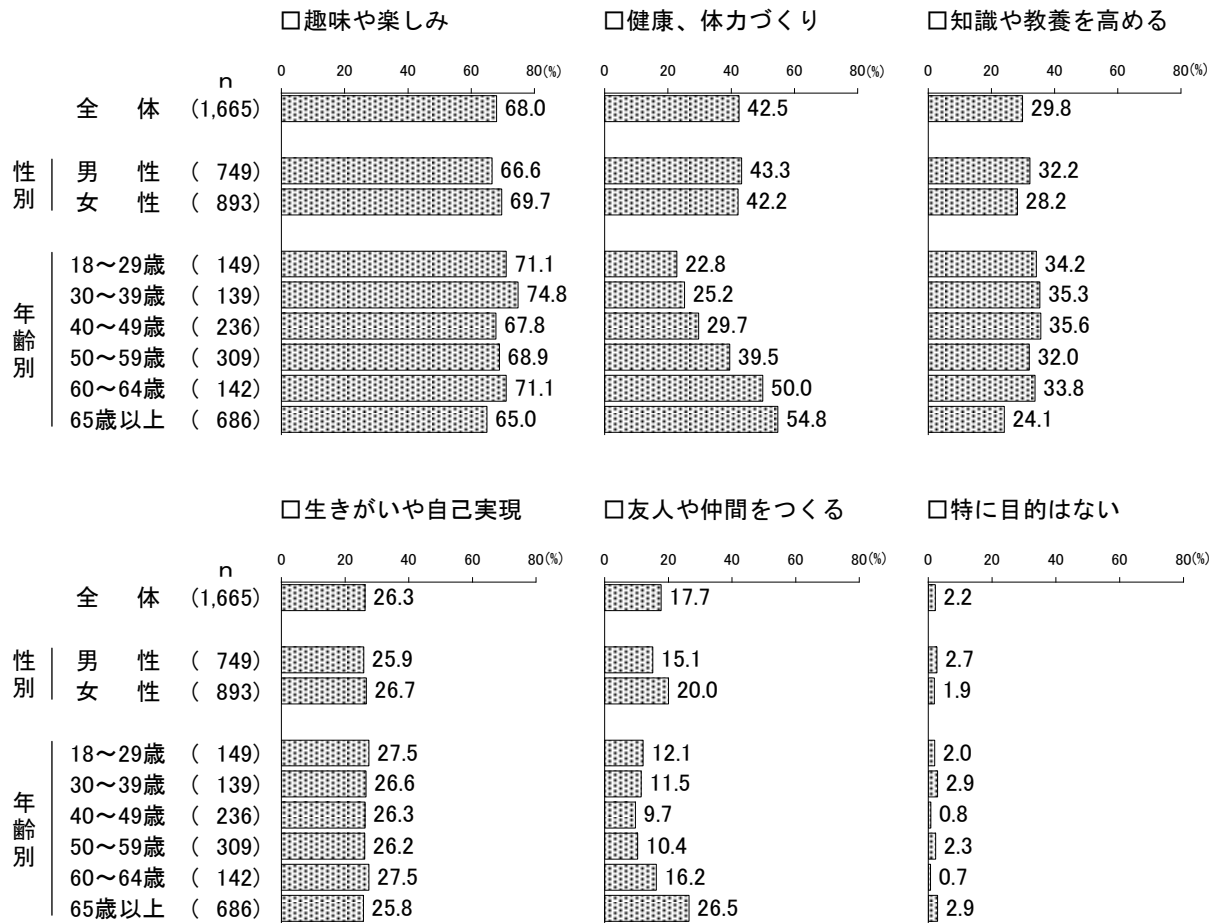
問21-3 あなたは、どのような目的で、学んだり、活動していますか。(〇はいくつでも)

図3-11-1 学習や活動を行う目的—全体



何かしらの学習・余暇活動を行っているとお答えした1,665人に、どのような目的で、学んだり、活動しているか聞いたところ、「趣味や楽しみ」(68.0%)が7割近くで最も多くなっている。次いで「健康、体力づくり」(42.5%)、「知識や教養を高める」(29.8%)、「生きがいや自己実現」(26.3%)などの順となっている。(図3-11-1)

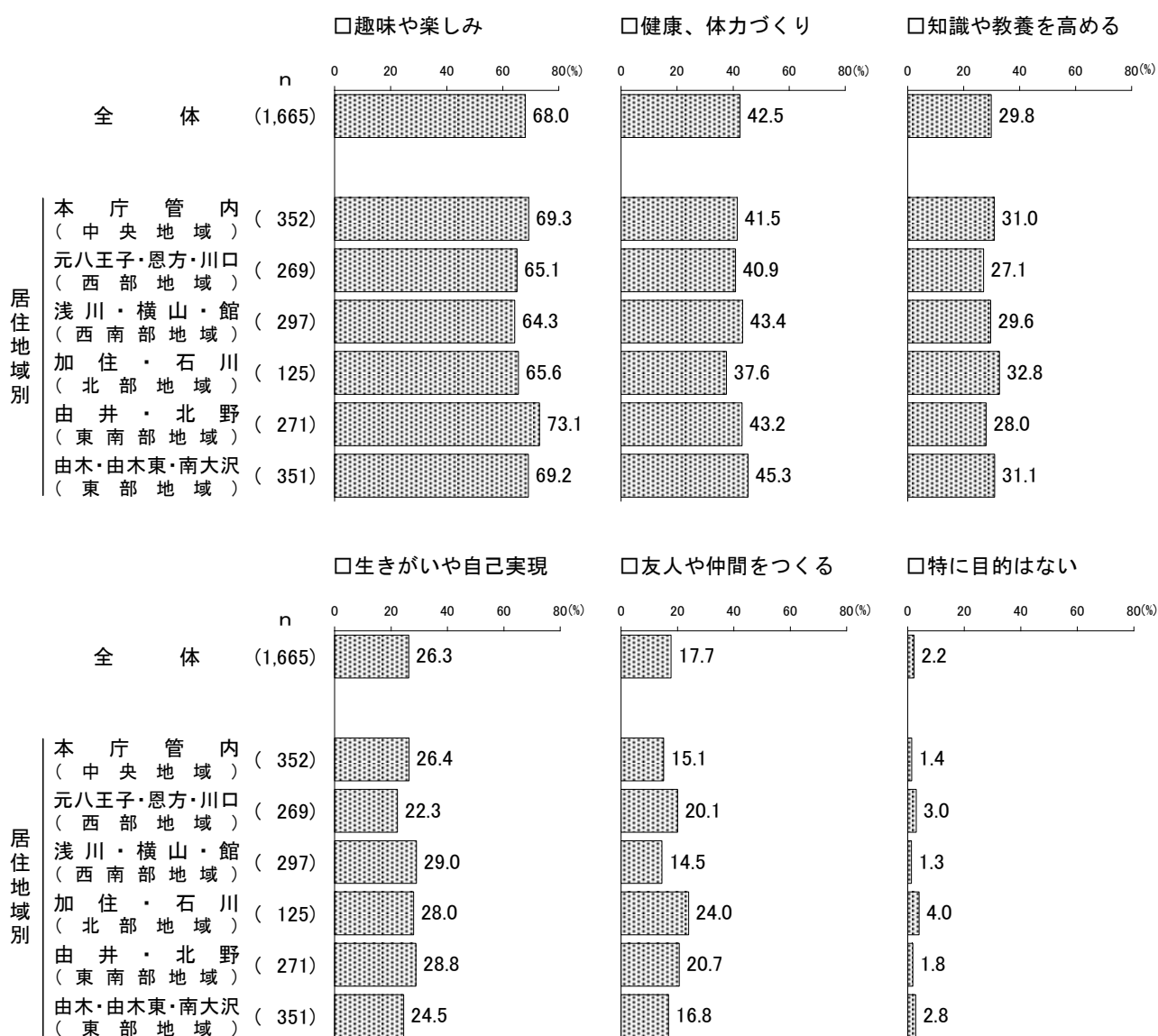
図3-11-2 学習や活動を行う目的—性別、年齢別（上位5位+「特に目的はない」）



性別にみると、「友人や仲間をつくる」は女性（20.0%）が男性（15.1%）より4.9ポイント高くなっている。一方、「知識や教養を高める」は男性（32.2%）が女性（28.2%）より4.0ポイント高くなっている。

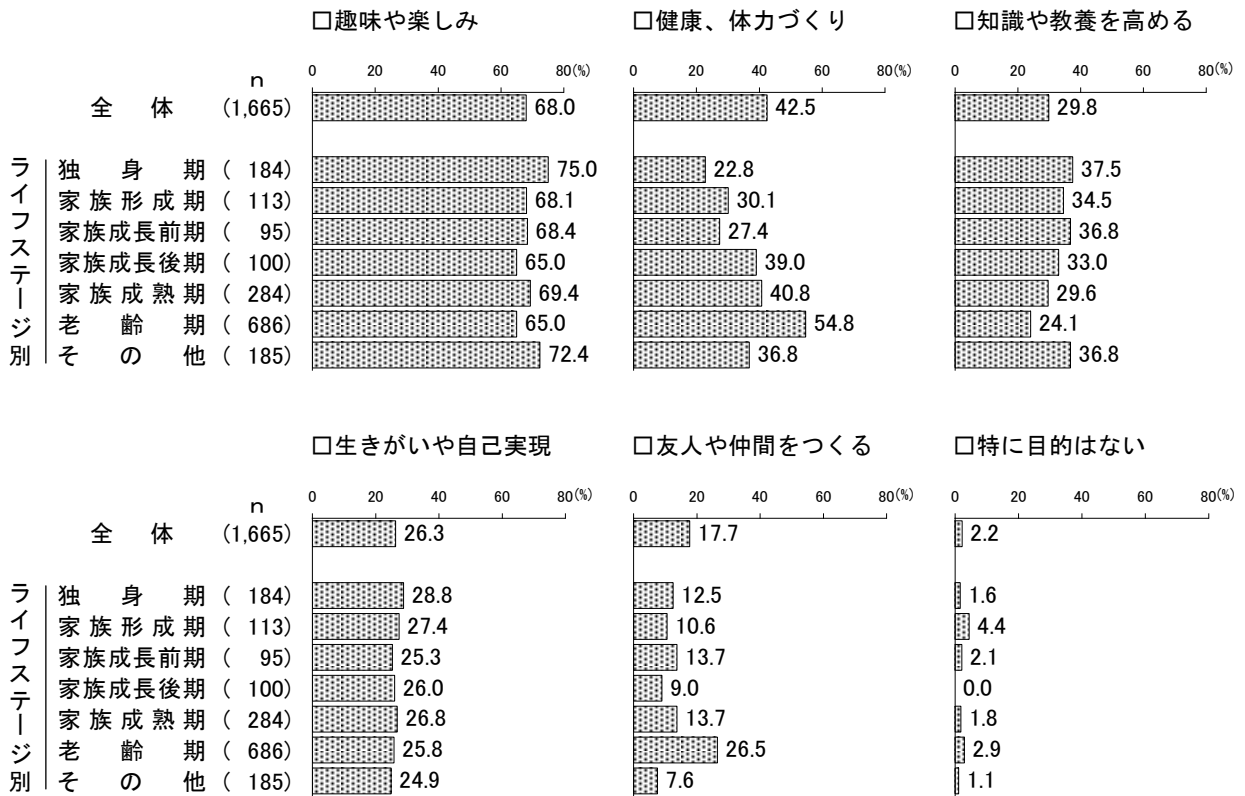
年齢別にみると、「趣味や楽しみ」は30~39歳（74.8%）で7割台半ばと多くなっている。「健康、体力づくり」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（54.8%）で5割台半ばと多くなっている。「友人や仲間をつくる」は65歳以上（26.5%）で3割近くと多くなっている。（図3-11-2）

図3-11-3 学習や活動を行う目的—居住地地域別（上位5位+「特に目的はない」）



居住地地域別にみると、「趣味や楽しみ」は由井・北野（東南部地域）（73.1%）で7割強と多くなっている。「健康、体力づくり」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（45.3%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-11-3）

図3-11-4 学習や活動を行う目的—ライフステージ別（上位5位+「特に目的はない」）



ライフステージ別にみると、「趣味や楽しみ」は独身期（75.0%）で7割台半ばと多くなっている。「健康、体力づくり」は老齢期（54.8%）で5割台半ばと多くなっている。「友人や仲間をつくる」は老齢期（26.5%）で3割近くと多くなっている。（図3-11-4）

(12) 学習や活動を行っていない理由

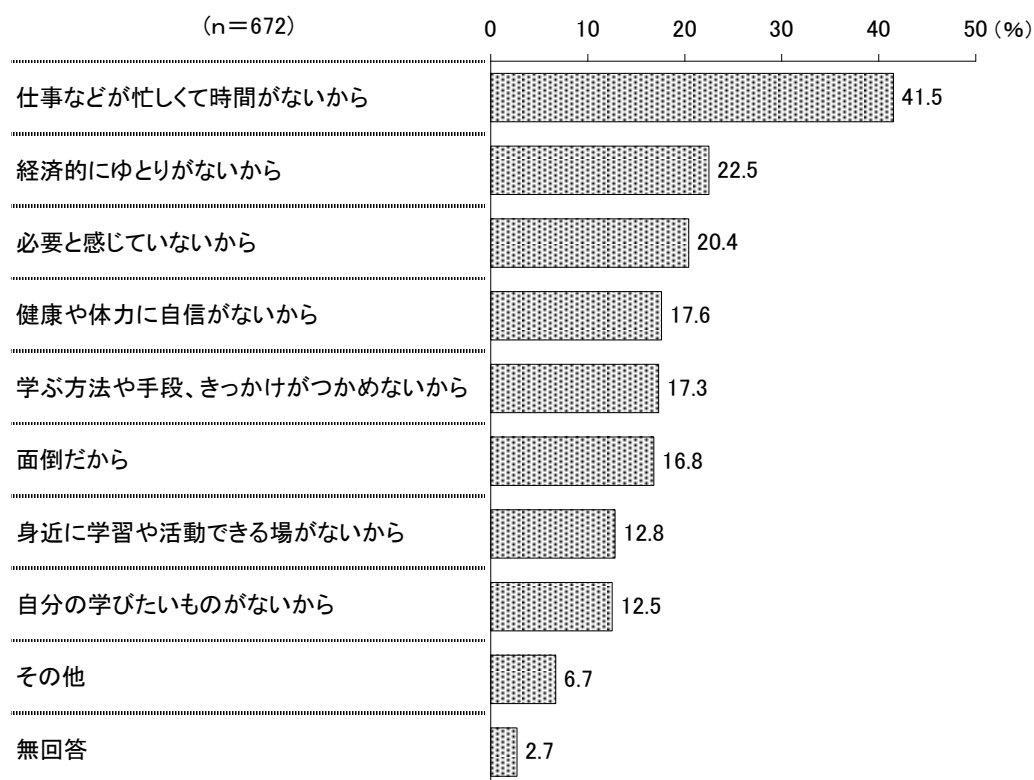
◇「仕事などが忙しくて時間がないから」が4割強

(問21で「取り組んでいない」とお答えの方へ)

問21-4 あなたが学んだり、活動していない(できない)主な理由は何ですか。

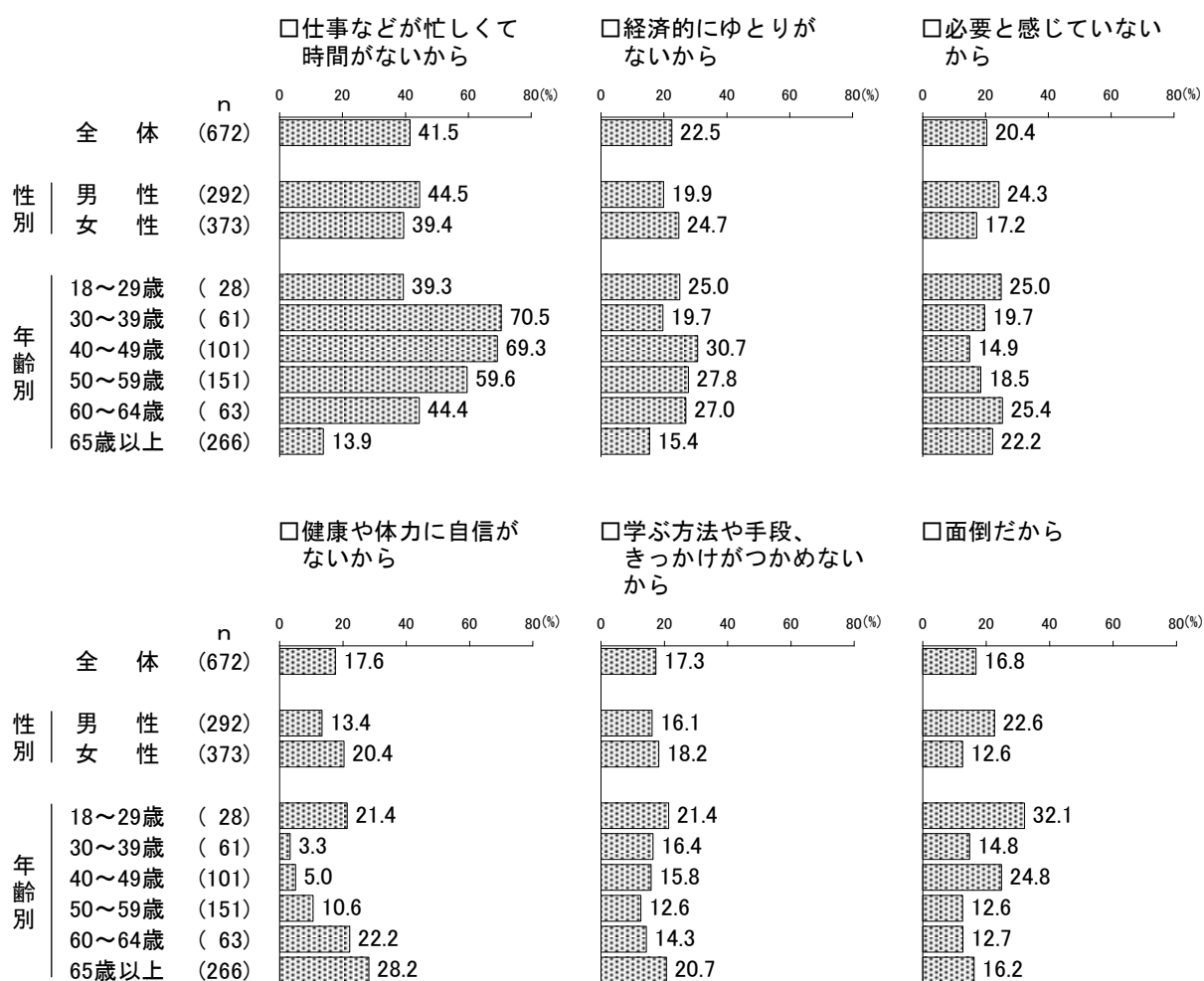
(○はいくつでも)

図3-12-1 学習や活動を行っていない理由-全体



学習・余暇活動に取り組んでいないと回答した672人に、学んだり、活動していない(できない)主な理由を聞いたところ、「仕事などが忙しくて時間がないから」(41.5%)が4割強で最も多くなっている。次いで「経済的にゆとりがないから」(22.5%)、「必要と感じていないから」(20.4%)、「健康や体力に自信がないから」(17.6%)などの順となっている。(図3-12-1)

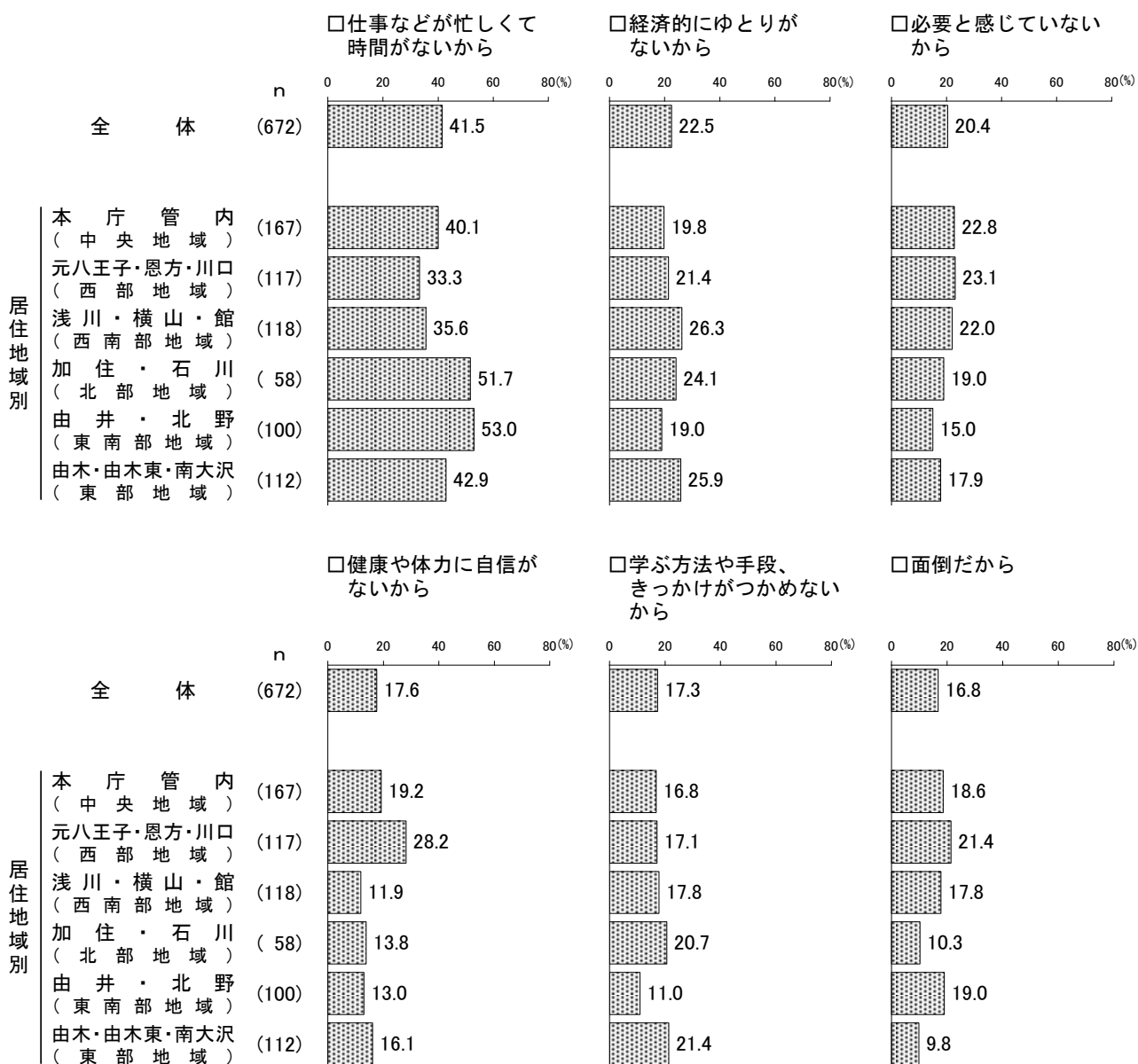
図3-12-2 学習や活動を行っていない理由—性別、年齢別（上位6位）



性別にみると、「面倒だから」は男性（22.6%）が女性（12.6%）より10.0ポイント、「必要と感じていないから」は男性（24.3%）が女性（17.2%）より7.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「健康や体力に自信がないから」は女性（20.4%）が男性（13.4%）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「仕事などが忙しくて時間がないから」は30~39歳（70.5%）で約7割と多くなっている。「経済的にゆとりがないから」は40~49歳（30.7%）で約3割と多くなっている。「健康や体力に自信がないから」は65歳以上（28.2%）で3割近くと多くなっている。（図3-12-2）

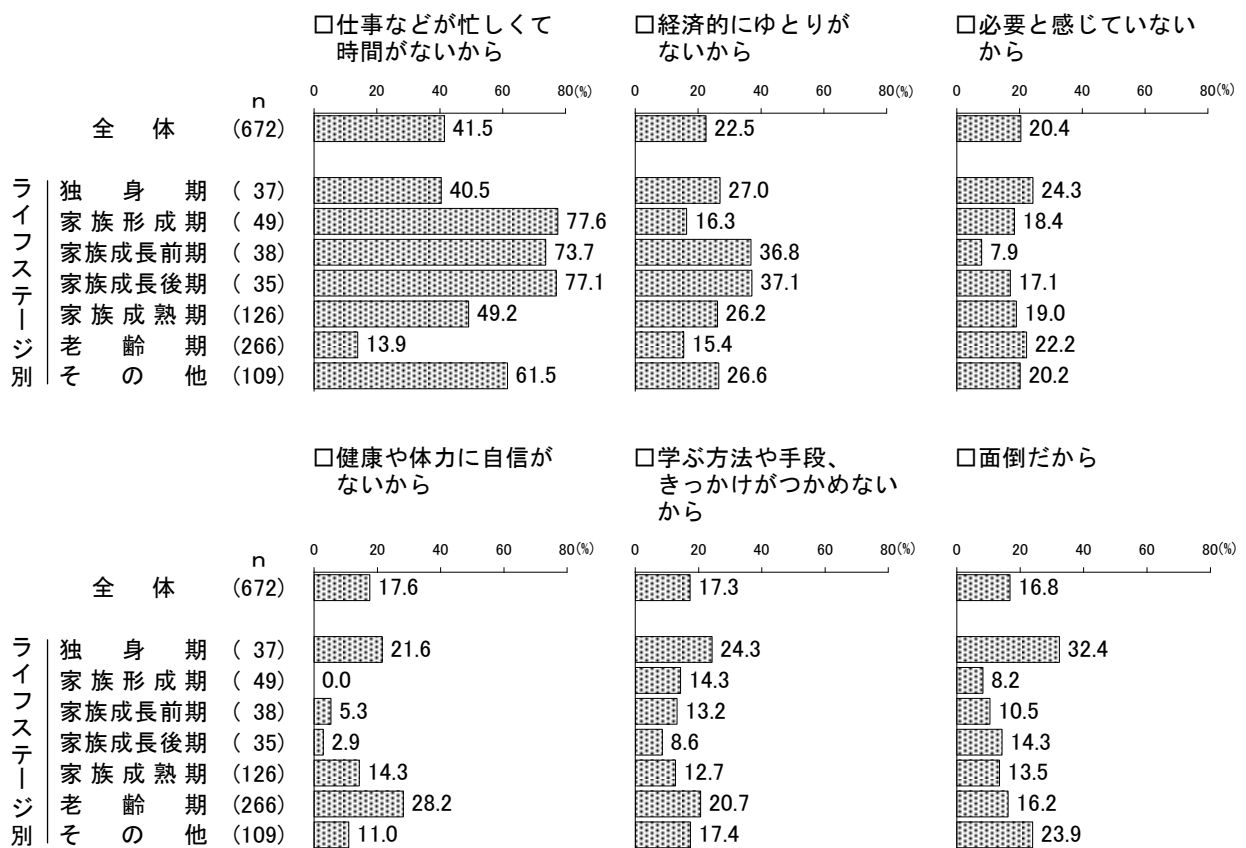
図3-12-3 学習や活動を行っていない理由—居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「仕事などが忙しくて時間がないから」は由井・北野(東南部地域) (53.0%)と加住・石川(北部地域) (51.7%)で5割強と多くなっている。「経済的にゆとりがないから」は浅川・横山・館(西南部地域) (26.3%)で3割近くと多くなっている。「健康や体力に自信がないから」は元八王子・恩方・川口(西部地域) (28.2%)で3割近くと多くなっている。

(図3-12-3)

図3-12-4 学習や活動を行っていない理由—ライフステージ別（上位6位）



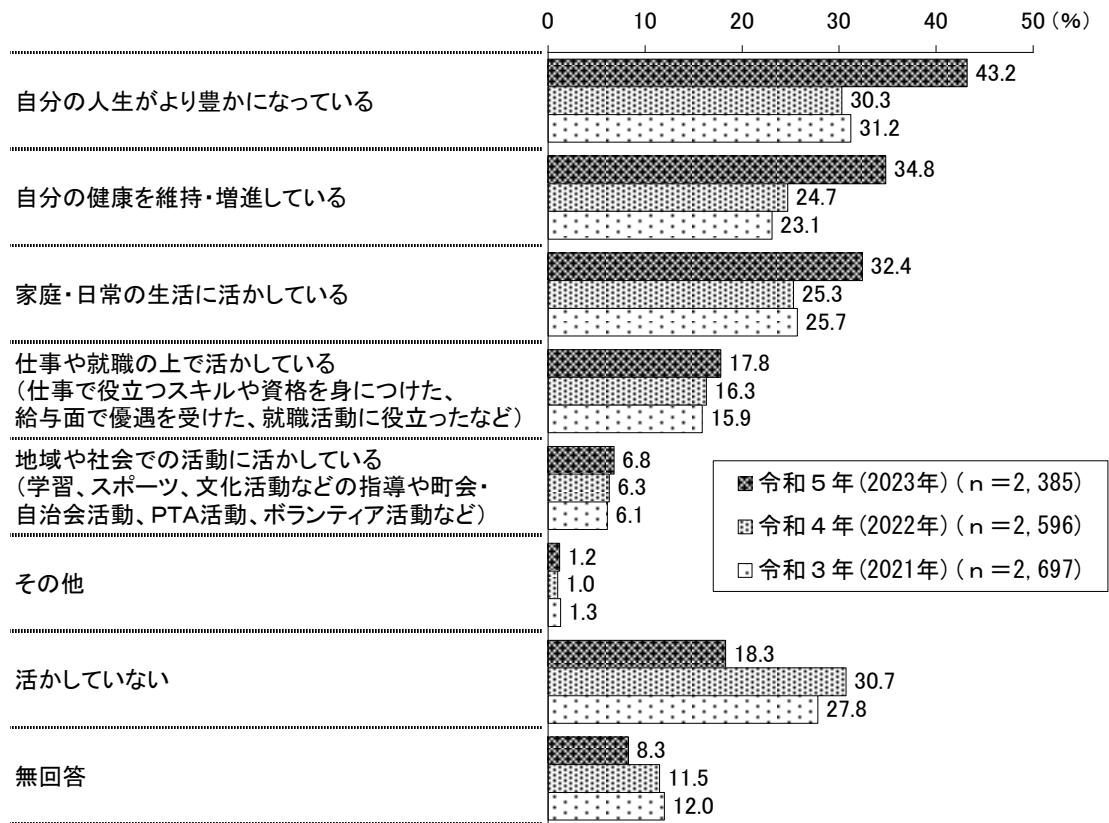
ライフステージ別にみると、「仕事などが忙しくて時間がないから」は家族形成期（77.6%）と家族成長後期（77.1%）で8割近くと多くなっている。「経済的にゆとりがないから」は家族成長後期（37.1%）と家族成長前期（36.8%）で4割近くと多くなっている。「面倒だから」は独身期（32.4%）で3割強と多くなっている。（図3-12-4）

(13) 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法

◇「自分の人生がより豊かになっている」が4割強

問22 あなたは、学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。(〇はいくつでも)

図3-13-1 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法—全体、経年比較

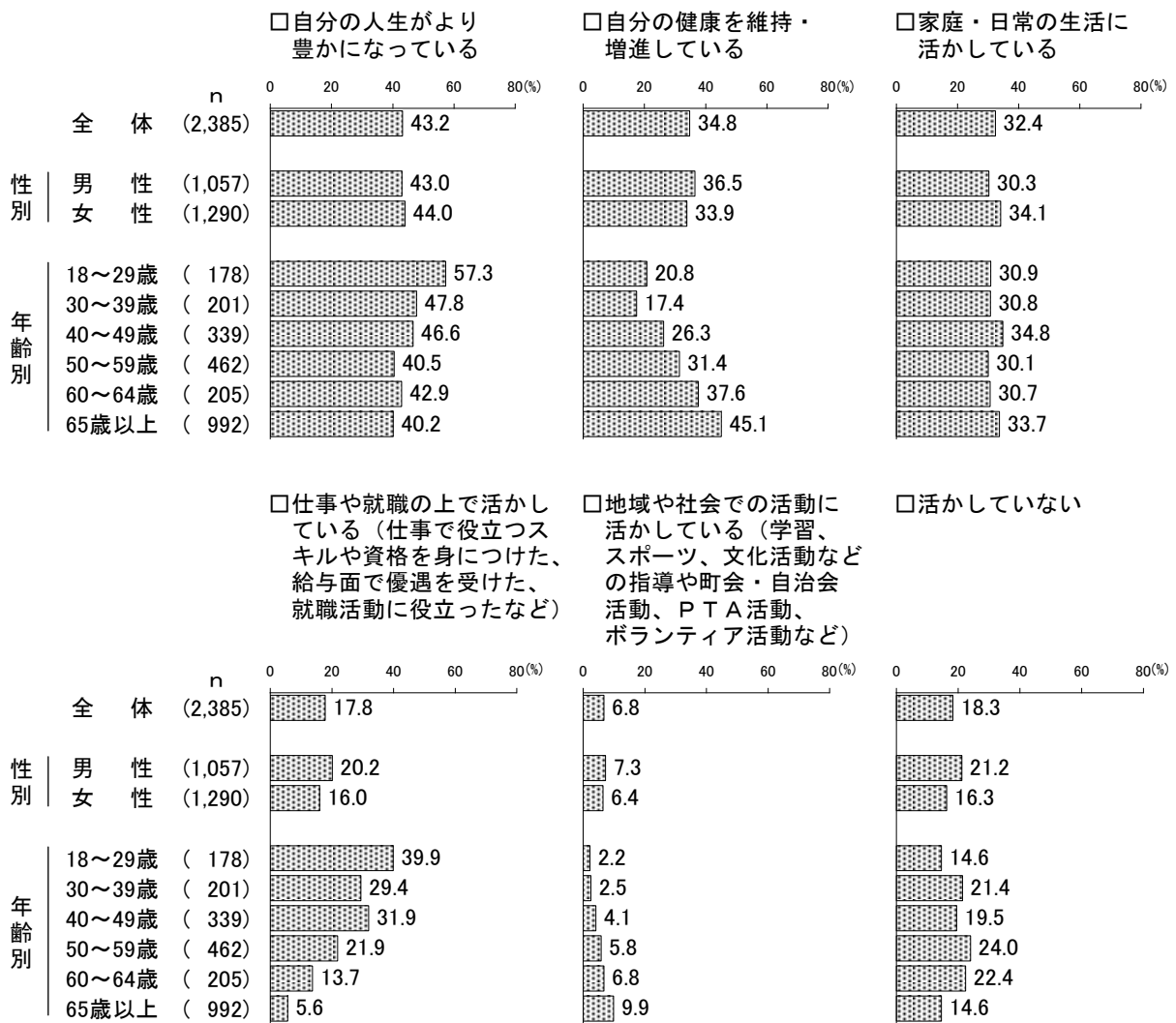


(注) 設問文の「あなたは、学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。」は、令和4年(2022年)までは「あなたは、生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしていますか。」としていた。

学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」(43.2%)が4割強で最も多くなっている。次いで「自分の健康を維持・増進している」(34.8%)、「家庭・日常の生活に活かしている」(32.4%)、「仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)」(17.8%)などの順となっている。一方、「活かしていない」(18.3%)は2割近くとなっている。

前回までの調査との比較は、設問文が異なるため参考となるが、「自分の人生がより豊かになっている」は令和4年(2022年)(30.3%)より12.9ポイント、「自分の健康を維持・増進している」は令和4年(2022年)(24.7%)より10.1ポイント、それぞれ増加している。(図3-13-1)

図3-13-2 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法—性別、年齢別
(上位5位+「活かしていない」)

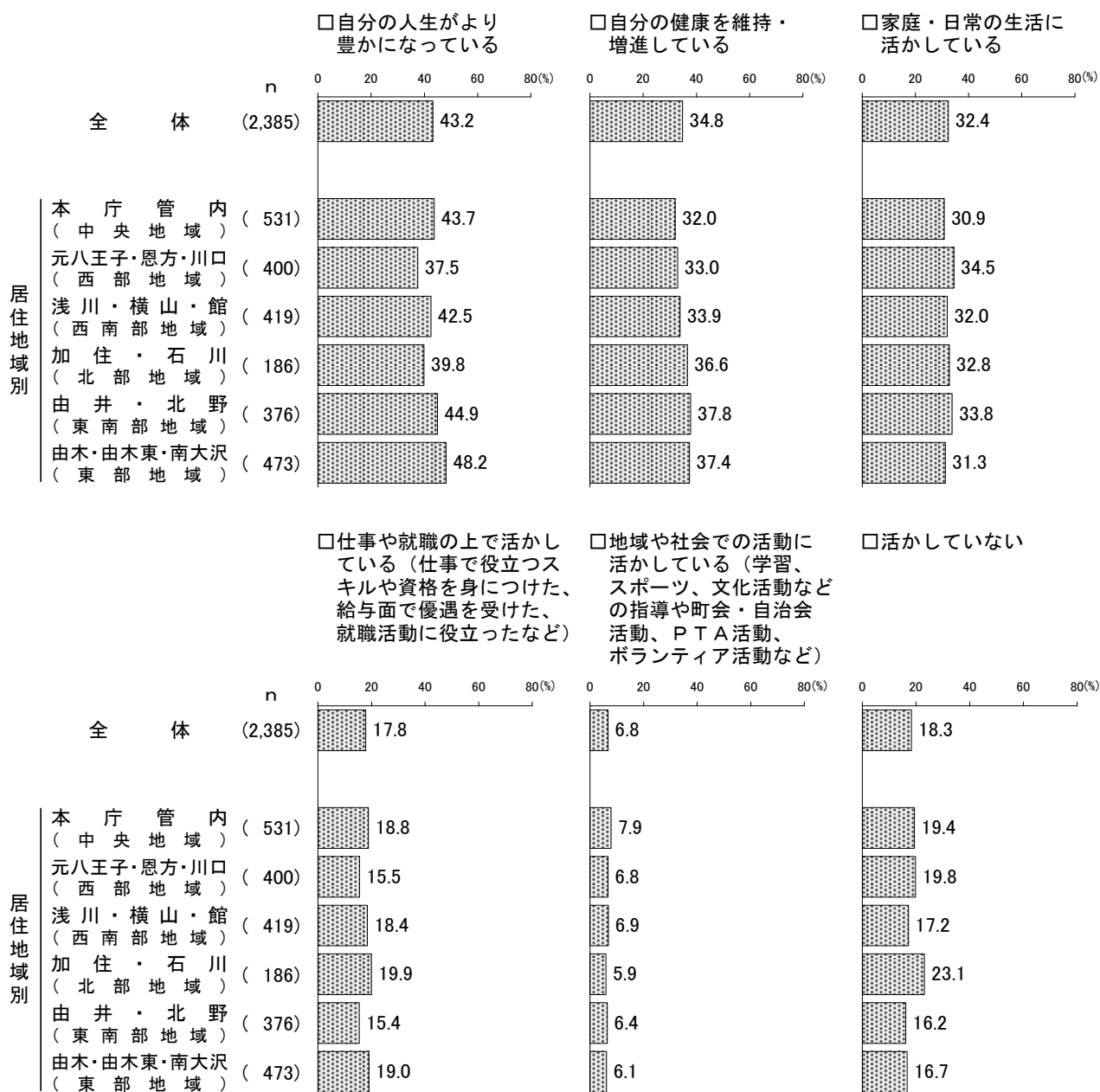


性別にみると、「活かしていない」は男性（21.2%）が女性（16.3%）より4.9ポイント、「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は男性（20.2%）が女性（16.0%）より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「家庭・日常の生活に活かしている」は女性（34.1%）が男性（30.3%）より3.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は18~29歳（57.3%）で6割近くと多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上（45.1%）で4割台半ばと多くなっている。「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は18~29歳（39.9%）で4割弱と多くなっている。

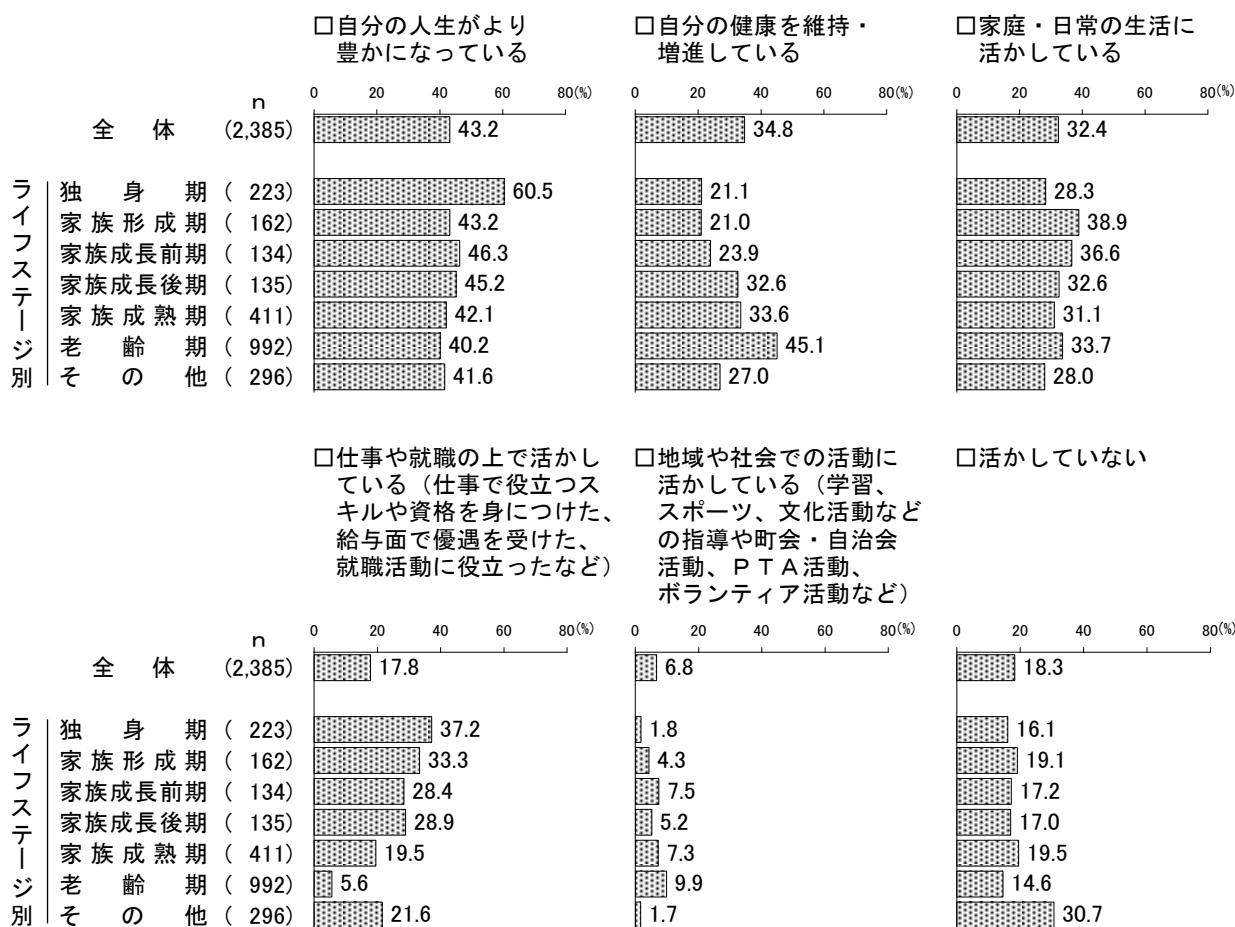
(図3-13-2)

図3-13-3 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法—居住地域別
(上位5位+「活かしていない」)



居住地域別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（48.2%）で5割近くと多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（34.5%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-13-3）

図3-13-4 学習や活動を通じて身につけた知識や技能、経験の活用方法—ライフステージ別
(上位5位+「活かしていない」)



ライフステージ別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は独身期（60.5%）で約6割と多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は老齢期（45.1%）で4割台半ばと多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は家族形成期（38.9%）と家族成長前期（36.6%）で4割近くと多くなっている。（図3-13-4）

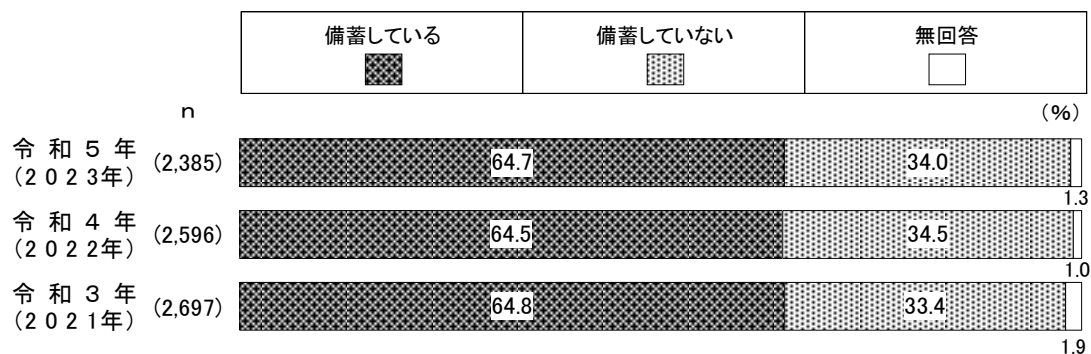
(14) 食料の備蓄の有無

◇「備蓄している」が6割台半ば

問23 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【1. 食料について】(○は1つだけ)

図3-14-1 食料の備蓄の有無－全体、経年比較

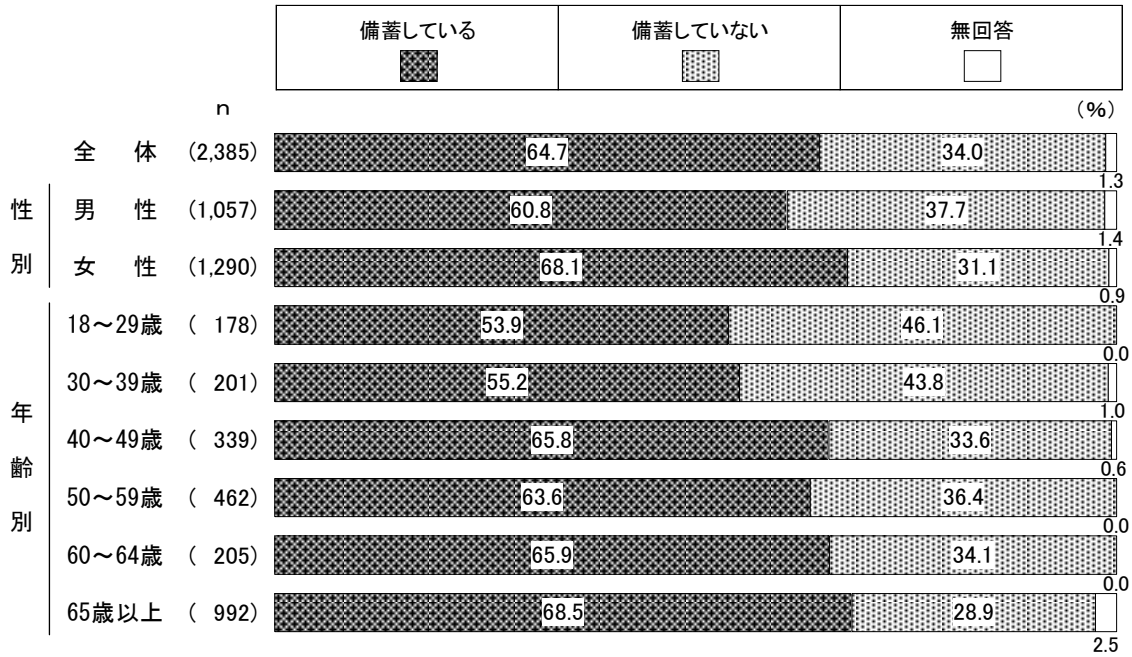


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(64.7%)が6割台半ばとなっている。一方、「備蓄していない」(34.0%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-14-1)

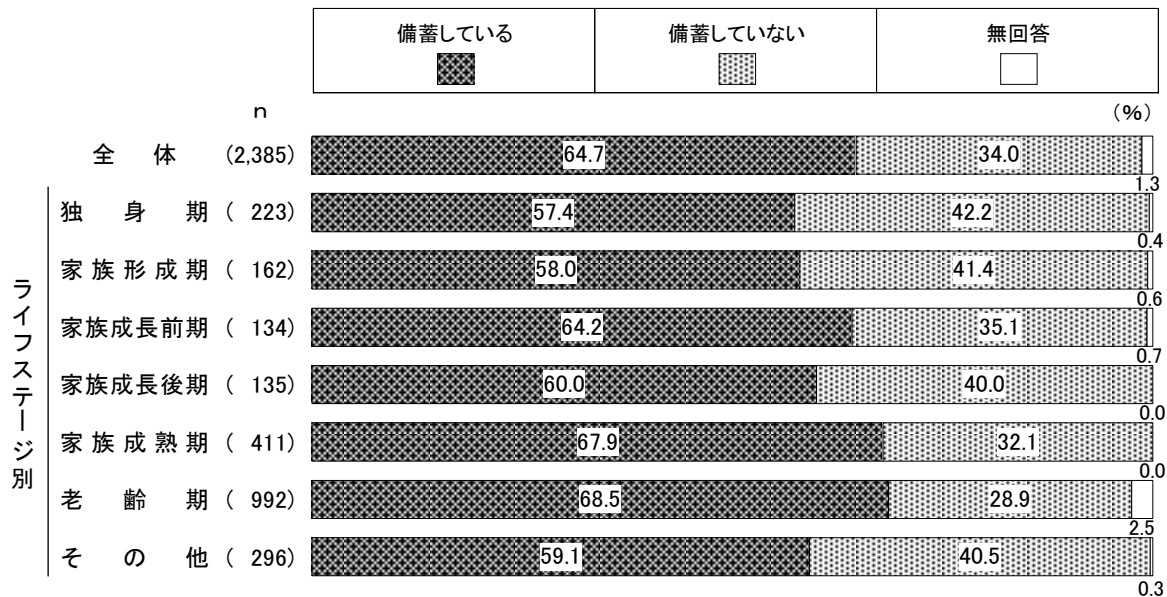
図3-14-2 食料の備蓄の有無－性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（68.1%）が男性（60.8%）より7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は65歳以上（68.5%）で7割近くと多くなっている。一方、「備蓄していない」は18～29歳（46.1%）で5割近くと多くなっている。（図3-14-2）

図3-14-3 食料の備蓄の有無－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は老齢期（68.5%）と家族成熟期（67.9%）で7割近くと多くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期（42.2%）と家族形成期（41.4%）で4割強と多くなっている。（図3-14-3）

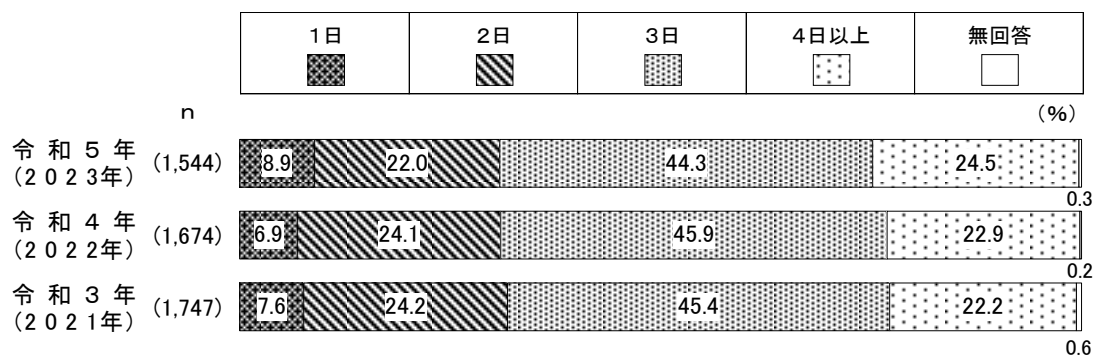
(15) 食料の備蓄量

◇ 「3日」が4割台半ば

(食料を「備蓄している」とお答えの方へ)

問23-1-1 家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄していますか。(〇は1つだけ)

図3-15-1 食料の備蓄量－全体、経年比較

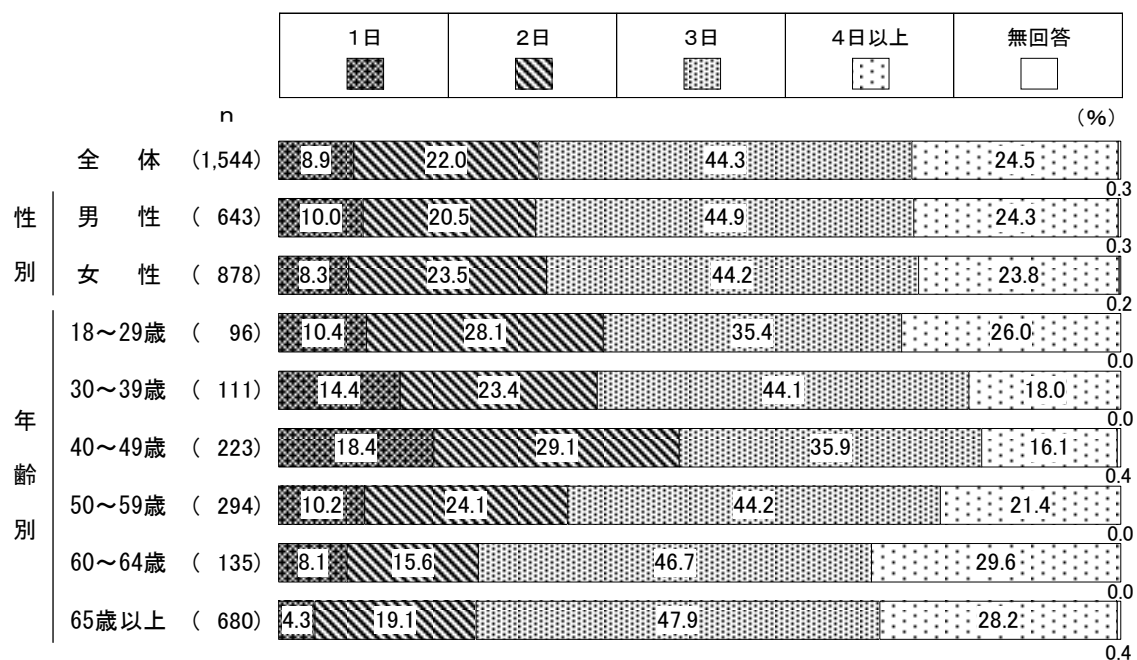


食料を「備蓄している」と回答した1,544人に、家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(44.3%)が4割台半ばで最も多くなっている。次いで「4日以上」(24.5%)、「2日」(22.0%)、「1日」(8.9%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、「1日」は令和4年(2022年)(6.9%)より2.0ポイント増加している。一方、「2日」は令和4年(2022年)(24.1%)より2.1ポイント減少している。

(図3-15-1)

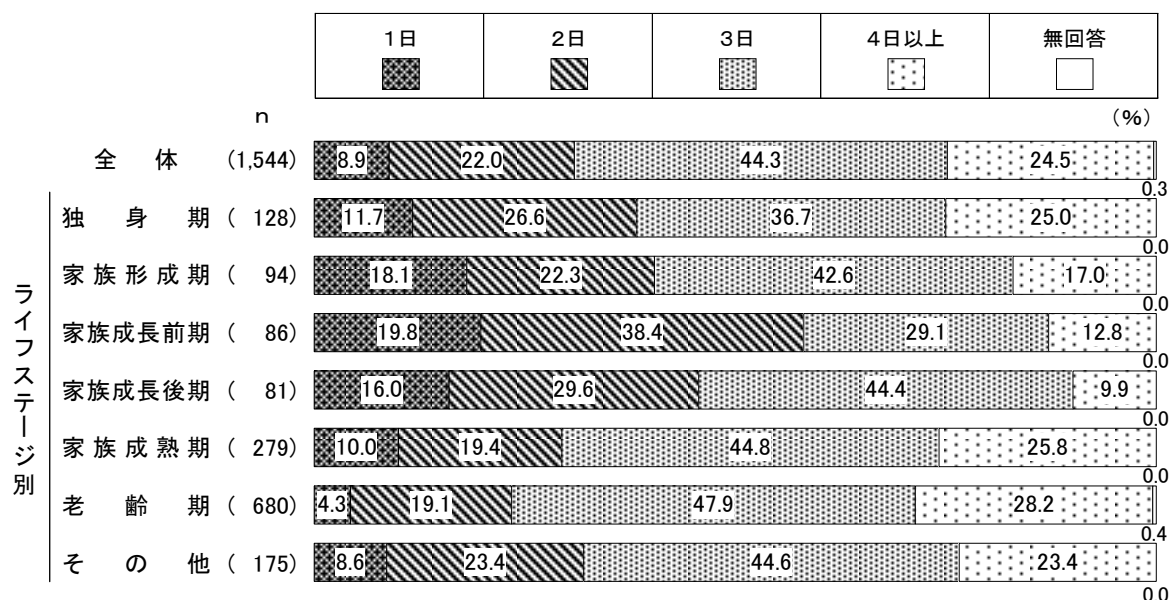
図3-15-2 食料の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「2日」は女性（23.5%）が男性（20.5%）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「3日」は60～64歳（46.7%）と65歳以上（47.9%）で5割近くと多くなっている。「4日以上」は60～64歳（29.6%）で3割弱と多くなっている。（図3-15-2）

図3-15-3 食料の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「2日」は家族成長前期（38.4%）で4割近くと多くなっている。「3日」は老齢期（47.9%）で5割近くと多くなっている。「4日以上」は老齢期（28.2%）で3割近くと多くなっている。（図3-15-3）

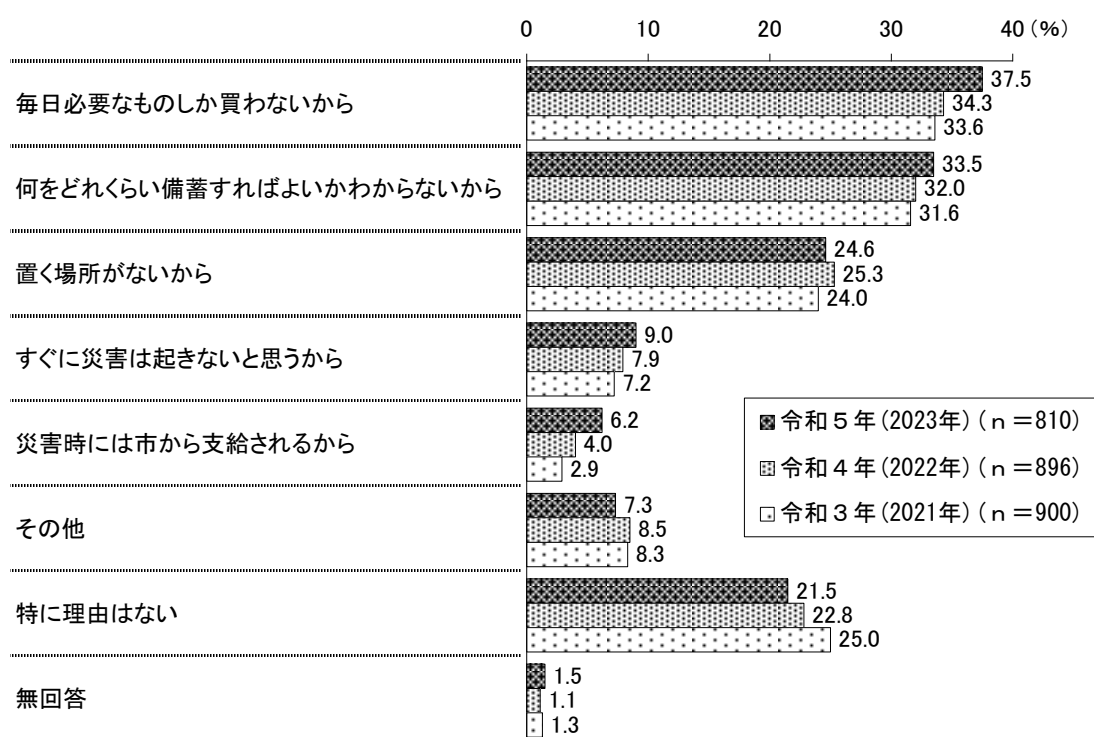
(16) 食料を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が4割近く

(食料を「備蓄していない」とお答えの方へ)

問23-1-2 食料を備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

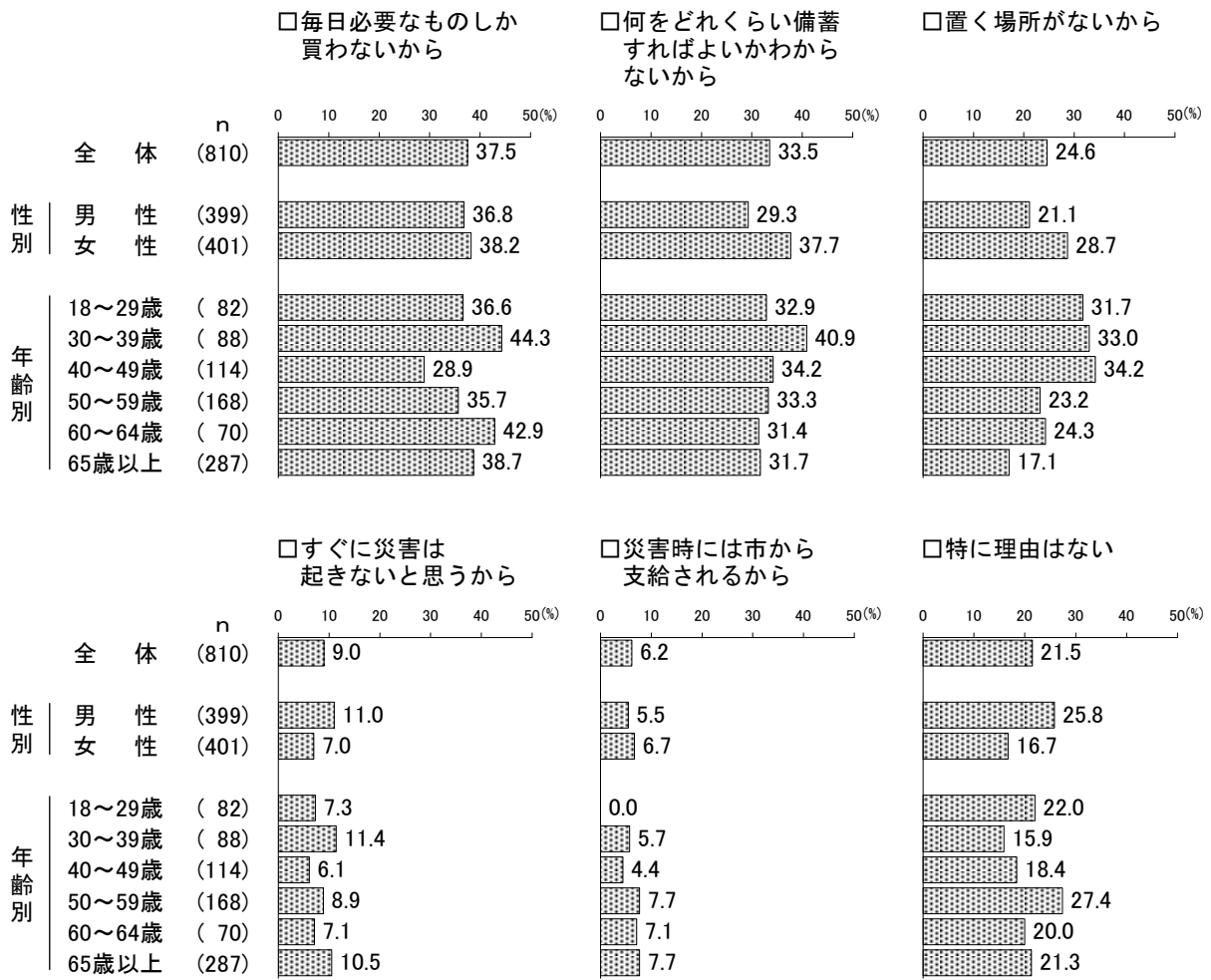
図3-16-1 食料を備蓄していない理由-全体、経年比較



食料を「備蓄していない」と回答した810人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(37.5%)が4割近くで最も多くなっている。次いで「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(33.5%)、「置く場所がないから」(24.6%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「毎日必要なものしか買わないから」は令和4年(2022年)(34.3%)より3.2ポイント、「災害時には市から支給されるから」は令和4年(2022年)(4.0%)より2.2ポイント、それぞれ増加している。(図3-16-1)

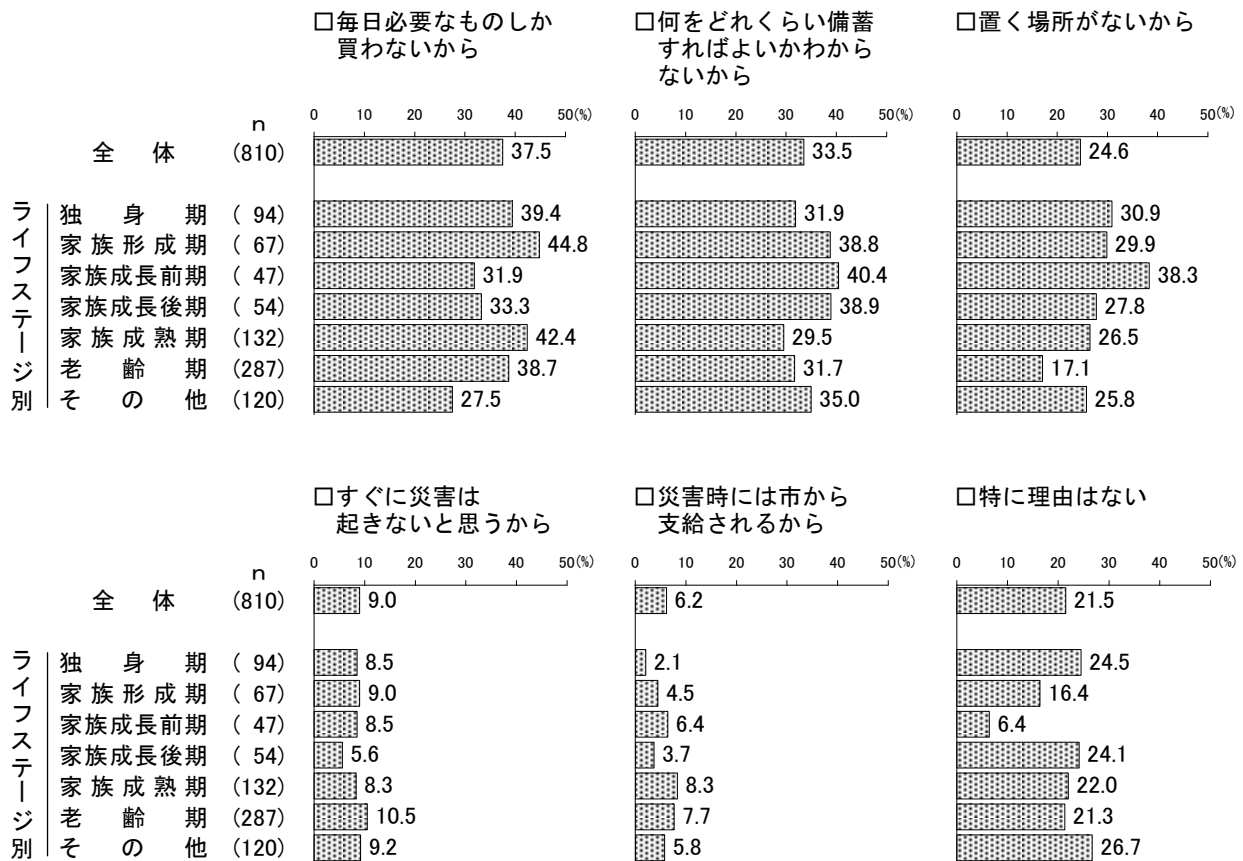
図3-16-2 食料を備蓄していない理由—性別、年齢別（「その他」を除く）



性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（37.7%）が男性（29.3%）より8.4ポイント、「置く場所がないから」は女性（28.7%）が男性（21.1%）より7.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性（25.8%）が女性（16.7%）より9.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は30～39歳（44.3%）で4割台半ばと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は30～39歳（40.9%）で約4割と多くなっている。「置く場所がないから」は40～49歳（34.2%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-16-2）

図3-16-3 食料を備蓄していない理由－ライフステージ別（「その他」を除く）



ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族形成期（44.8%）で4割台半ばと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族成長前期（40.4%）で約4割と多くなっている。「置く場所がないから」は家族成長前期（38.3%）で4割近くと多くなっている。（図3-16-3）

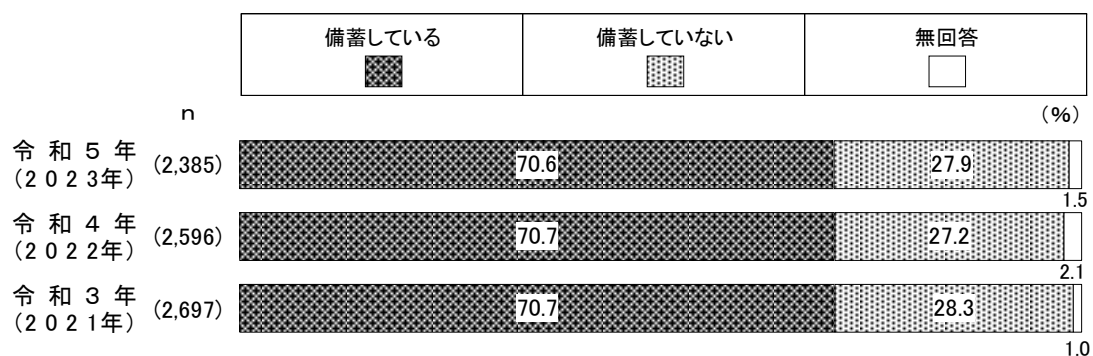
(17) 飲料水の備蓄の有無

◇「備蓄している」が約7割

問23 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【2. 飲料水について】（○は1つだけ）

図3-17-1 飲料水の備蓄の有無—全体、経年比較

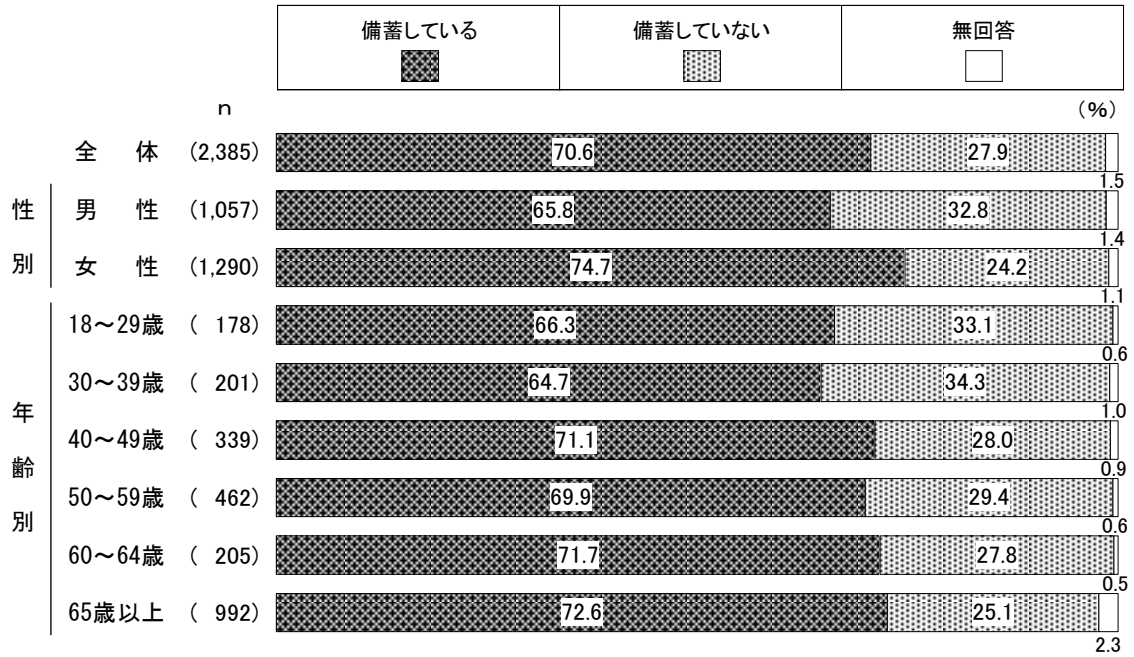


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(70.6%)が約7割となっている。一方、「備蓄していない」(27.9%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-17-1)

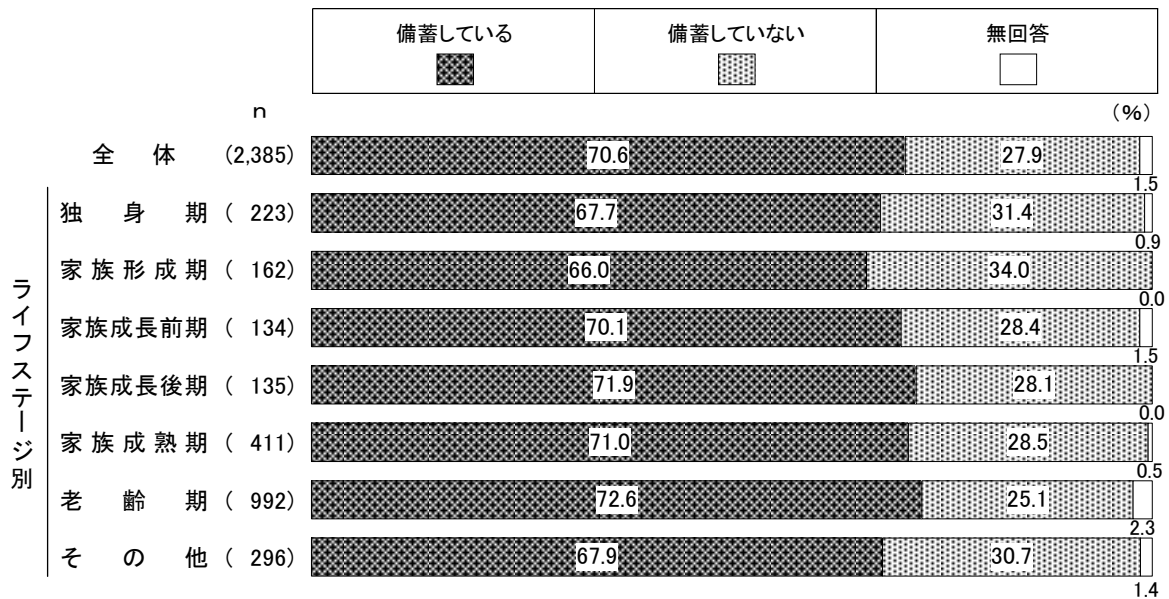
図3-17-2 飲料水の備蓄の有無—性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（74.7%）が男性（65.8%）より8.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は40~49歳（71.1%）、60~64歳（71.7%）、65歳以上（72.6%）で7割強と多くなっている。一方、「備蓄していない」は30~39歳（34.3%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-17-2）

図3-17-3 飲料水の備蓄の有無—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は老齢期（72.6%）、家族成長後期（71.9%）、家族成熟期（71.0%）で7割強と多くなっている。一方、「備蓄していない」は家族形成期（34.0%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-17-3）

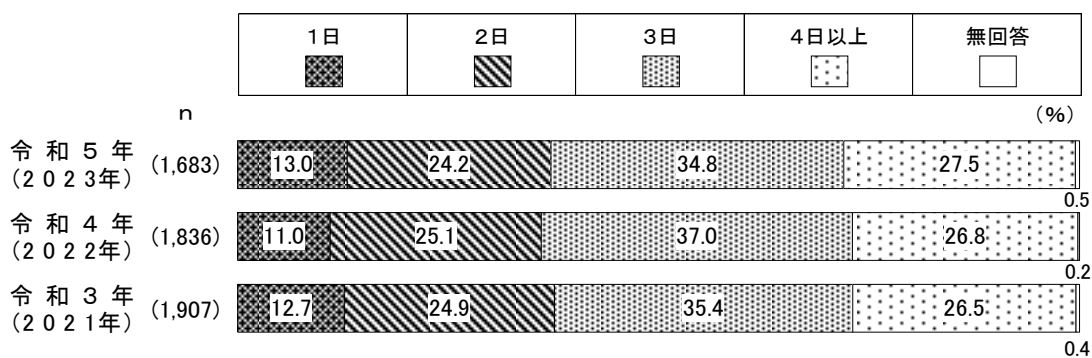
(18) 飲料水の備蓄量

◇ 「3日」が3割台半ば

(飲料水を「備蓄している」とお答えの方へ)

問23-2-1 家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄していますか。(〇は1つだけ)

図3-18-1 飲料水の備蓄量－全体、経年比較



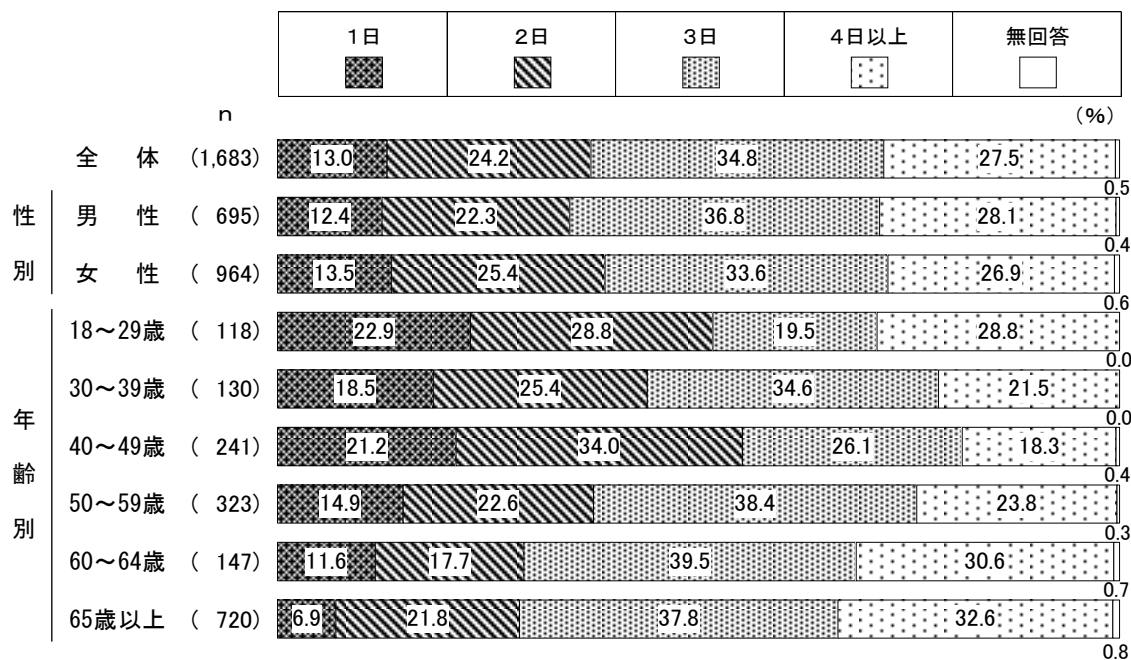
(注) 飲料水は大人1人1日3リットルで計算

飲料水を「備蓄している」と回答した1,683人に、家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(34.8%)が3割台半ばで最も多くなっている。次いで「4日以上」(27.5%)、「2日」(24.2%)、「1日」(13.0%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、「1日」は令和4年(2022年)(11.0%)より2.0ポイント増加している。一方、「3日」は令和4年(2022年)(37.0%)より2.2ポイント減少している。

(図3-18-1)

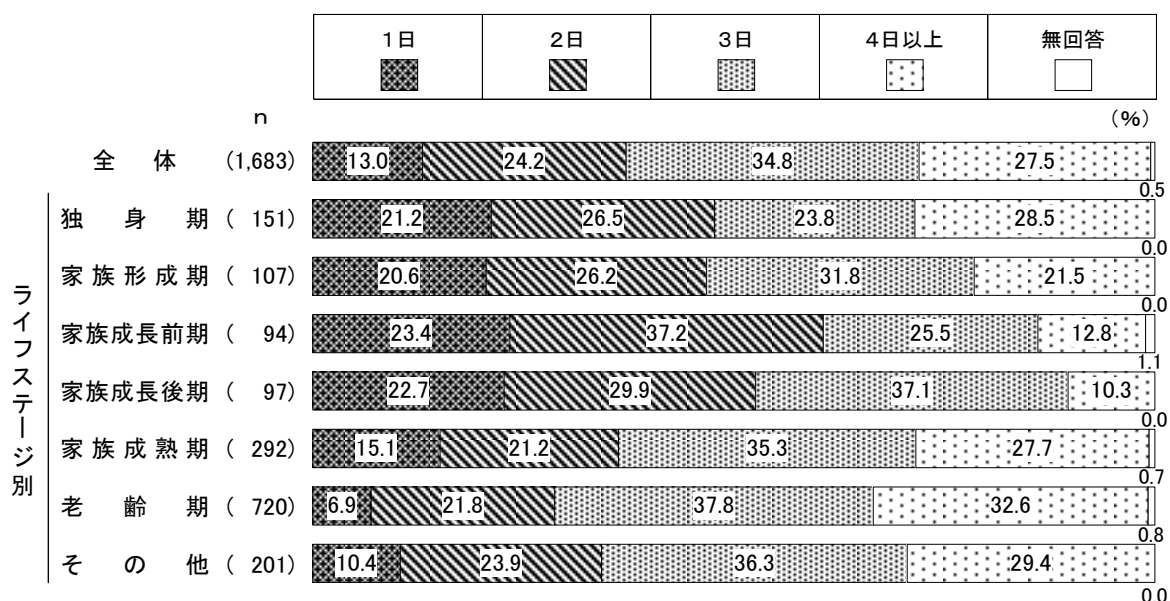
図3-18-2 飲料水の備蓄量－性別、年齢別



性別にみると、「3日」は男性（36.8%）が女性（33.6%）より3.2ポイント高くなっている。一方、「2日」は女性（25.4%）が男性（22.3%）より3.1ポイント高くなっている。

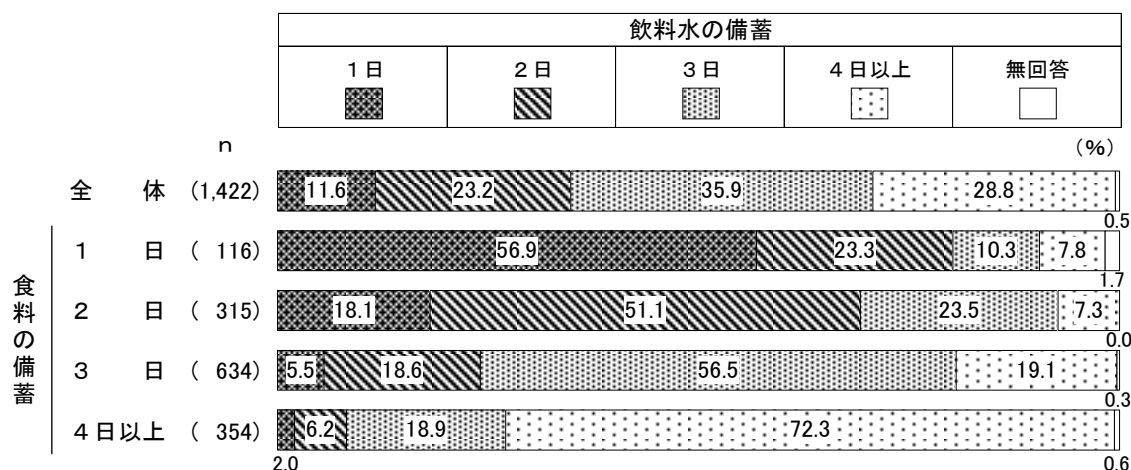
年齢別にみると、「2日」は40～49歳（34.0%）で3割台半ばと多くなっている。「3日」は60～64歳（39.5%）で4割弱と多くなっている。（図3-18-2）

図3-18-3 飲料水の備蓄量－ライフステージ別



ライフステージ別にみると「2日」は家族成長前期（37.2%）で4割近くと多くなっている。「4日以上」は老齢期（32.6%）で3割強と多くなっている。（図3-18-3）

図3-18-4 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量



飲料水の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄量をみると、飲料水の備蓄日数と食料の備蓄日数はほぼ相関関係にあり、「飲料水、食料ともに4日分以上」(72.3%)が7割強で最も多くなっている。(図3-18-4)

図3-18-5 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量 (全体に占める人数及び構成比)

		飲料水の備蓄量							
		4日以上	3日	2日	1日	日数不明	備蓄無し	不備蓄有無	
(n=2,385)		463 19.4	586 24.6	407 17.1	218 9.1	9 0.4	666 27.9	36 1.5	
食料の備蓄量	4日以上	378 15.8	256 10.7	67 2.8	22 0.9	7 0.3	2 0.1	22 0.9	2 0.1
	3日	684 28.7	121 5.1	358 15.0	118 4.9	35 1.5	2 0.1	39 1.6	11 0.5
	2日	340 14.3	23 1.0	74 3.1	161 6.8	57 2.4	-	24 1.0	1 0.0
	1日	138 5.8	9 0.4	12 0.5	27 1.1	66 2.8	2 0.1	20 0.8	2 0.1
	日数不明	4 0.2	-	-	2 0.1	-	1 0.0	1 0.0	-
	備蓄無し	810 34.0	52 2.2	71 3.0	73 3.1	52 2.2	1 0.0	551 23.1	10 0.4
	備蓄有無不明	31 1.3	2 0.1	4 0.2	4 0.2	1 0.0	1 0.0	9 0.4	10 0.4

飲料水の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量(全体に占める人数及び構成比)をみると、「飲料水、食料ともに備蓄無し」(n=551、23.1%)が全体の2割強と最も多くなっている。次いで「飲料水、食料ともに3日分」(n=358、15.0%)、「飲料水、食料ともに4日分以上」(n=256、10.7%)、「飲料水、食料ともに2日分」(n=161、6.8%)などの順となっている。なお、「飲料水、食料ともに3日以上備蓄」(グレー網掛け部分)(n=802、33.6%)している人は全体の3割強となっている。(図3-18-5)

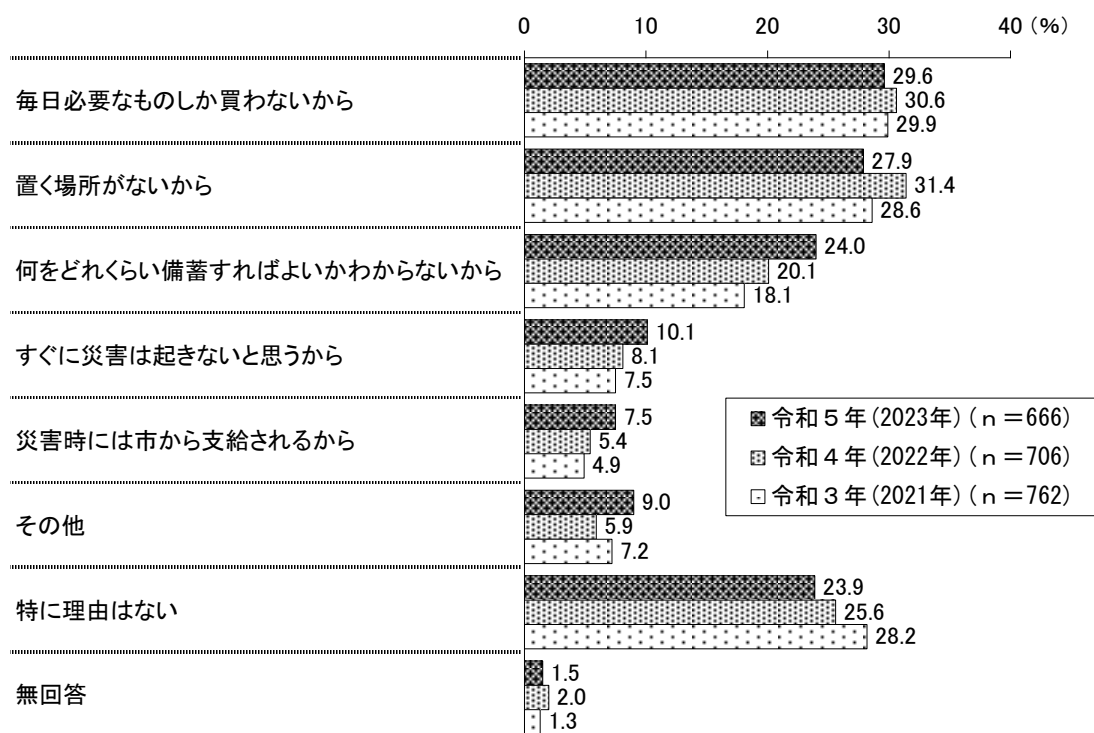
(19) 飲料水を備蓄していない理由

◇「毎日必要なものしか買わないから」が3割弱

(飲料水を「備蓄していない」とお答えの方へ)

問23-2-2 飲料水を備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

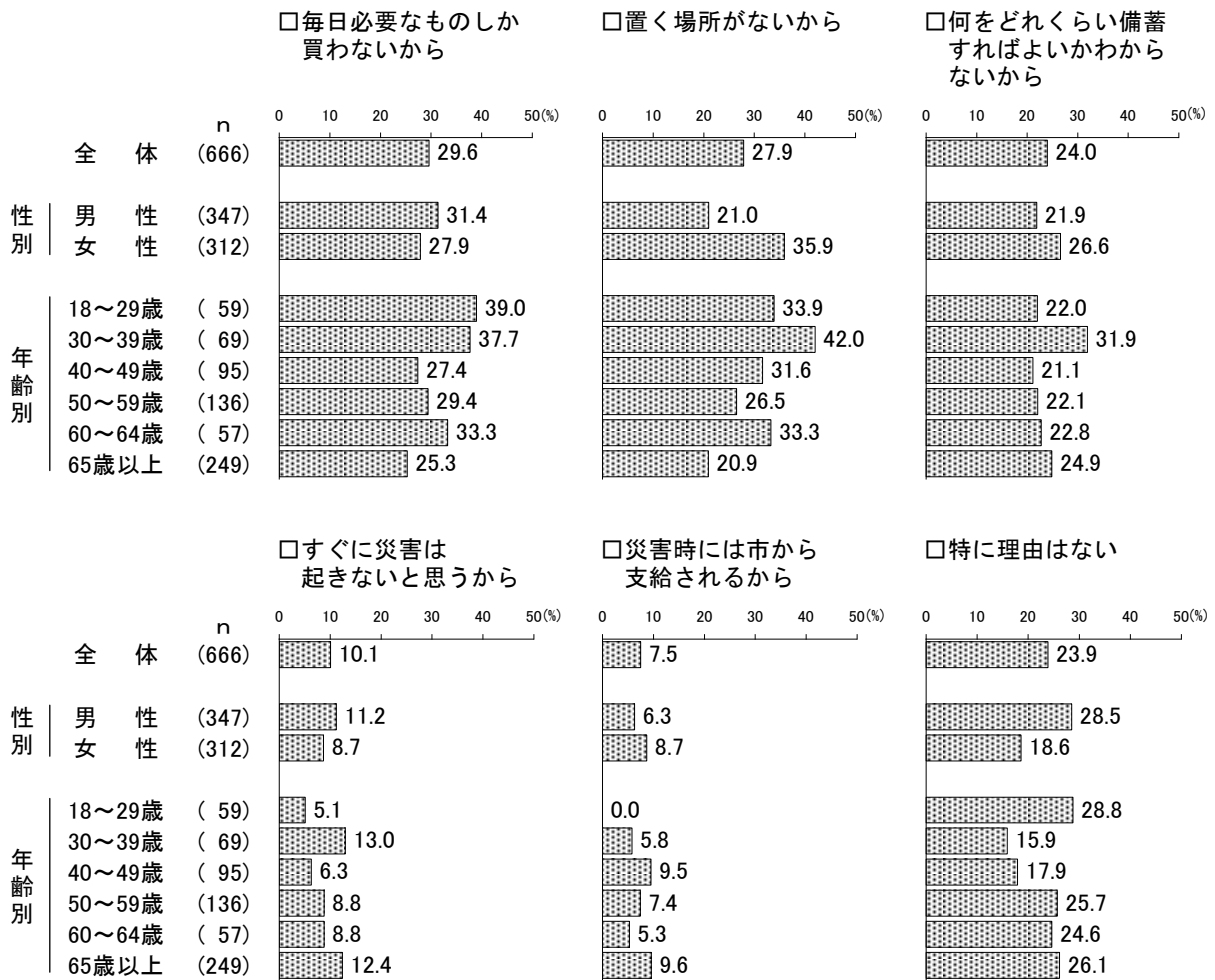
図3-19-1 飲料水を備蓄していない理由-全体、経年比較



飲料水を「備蓄していない」と回答した666人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(29.6%)が3割弱で最も多くなっている。次いで「置く場所がないから」(27.9%)、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(24.0%)などの順となっている。一方、「特に理由はない」(23.9%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は令和4年(2022年) (20.1%)より3.9ポイント増加している。一方、「置く場所がないから」は令和4年(2022年) (31.4%)より3.5ポイント減少している。(図3-19-1)

図3-19-2 飲料水を備蓄していない理由—性別、年齢別（「その他」を除く）

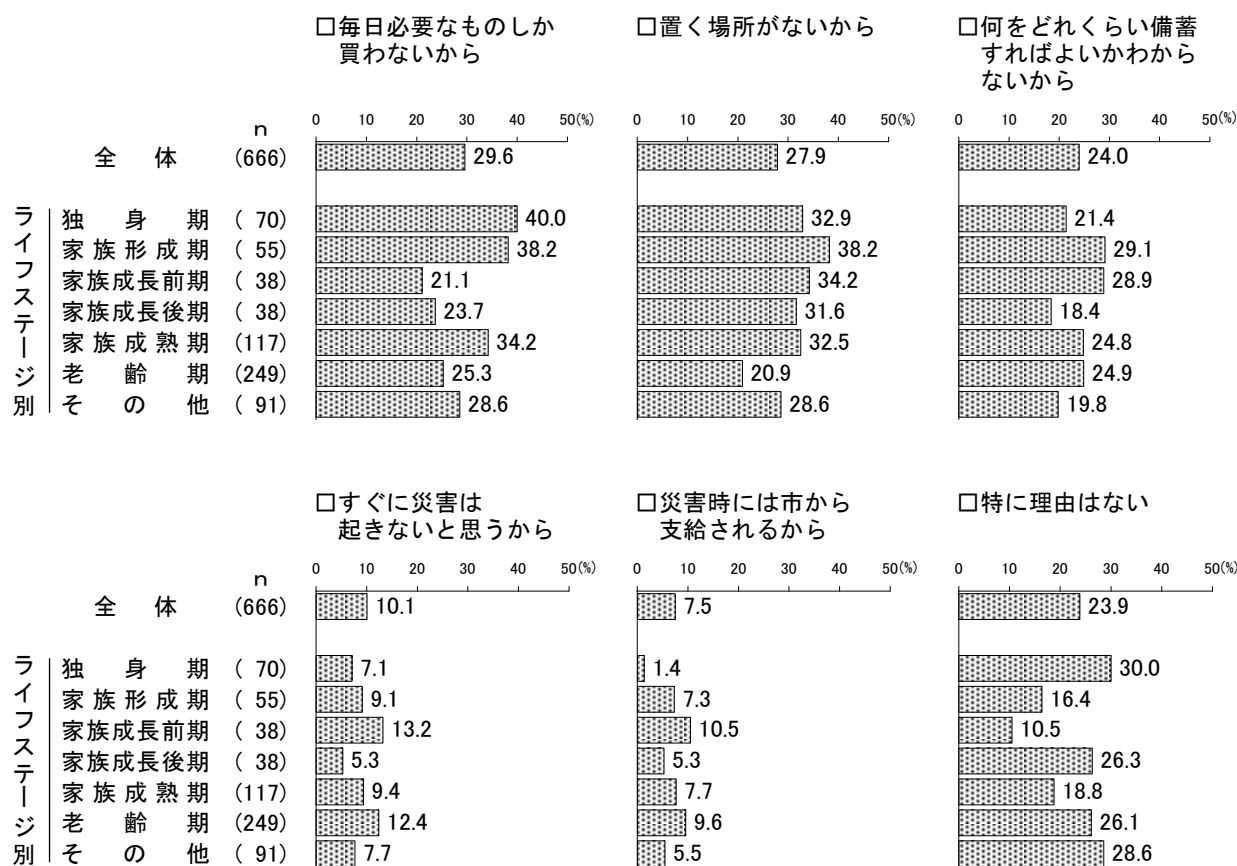


性別にみると、「置く場所がないから」は女性（35.9%）が男性（21.0%）より14.9ポイント、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（26.6%）が男性（21.9%）より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性（28.5%）が女性（18.6%）より9.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は18~29歳（39.0%）で4割弱と多くなっている。「置く場所がないから」は30~39歳（42.0%）で4割強と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は30~39歳（31.9%）で3割強と多くなっている。

（図3-19-2）

図3-19-3 飲料水を備蓄していない理由—ライフステージ別（「その他」を除く）



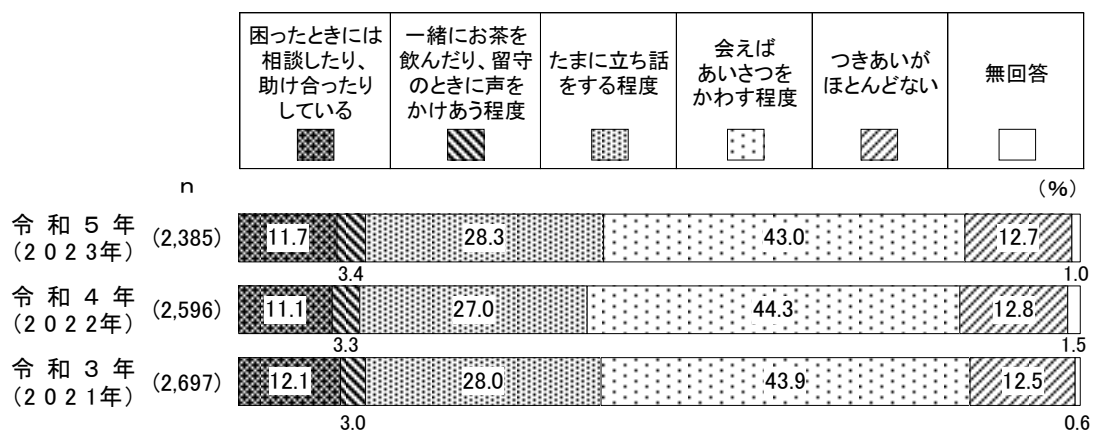
ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は独身期（40.0%）で4割と多くなっている。「置く場所がないから」は家族形成期（38.2%）で4割近くと多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（29.1%）で3割弱と多くなっている。（図3-19-3）

(20) 隣近所とのつきあい方

◇「会えばあいさつをかわす程度」が4割強

問24 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○は1つだけ)

図3-20-1 隣近所とのつきあい方—全体、経年比較

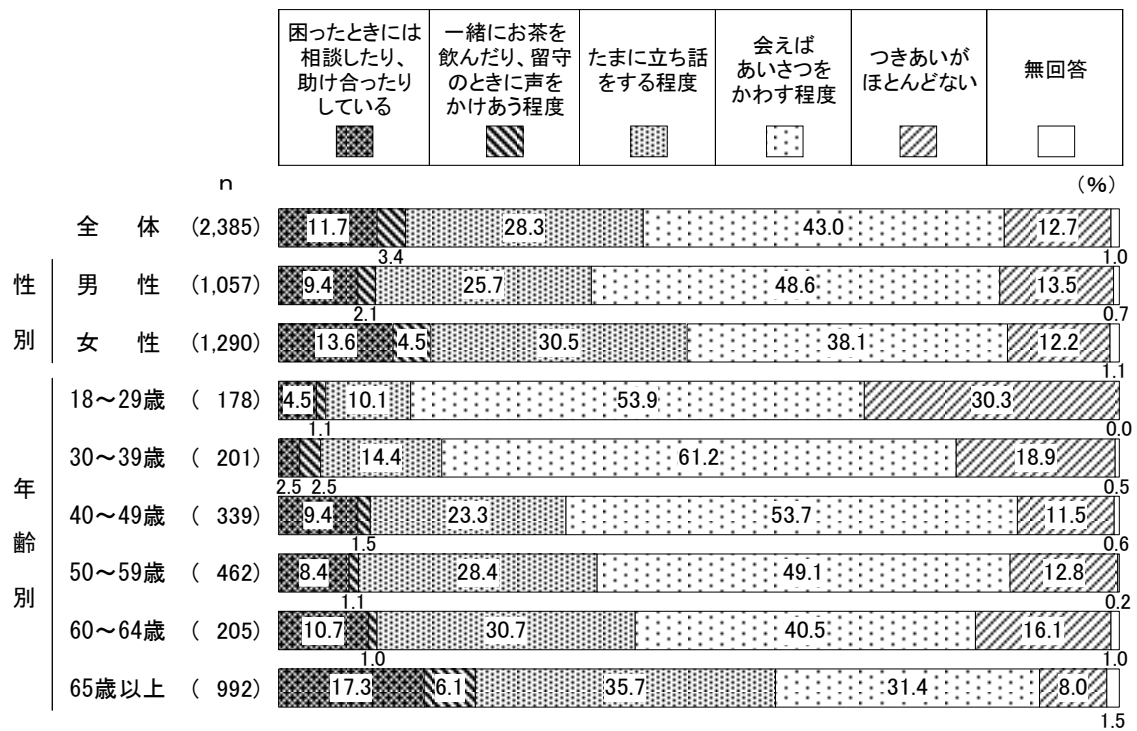


日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」(43.0%)が4割強で最も多くなっている。次いで「たまに立ち話をする程度」(28.3%)、「つきあいがほとんどない」(12.7%)、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」(11.7%)、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあう程度」(3.4%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-20-1)

図 3-20-2 隣近所とのつきあい方—性別、年齢別

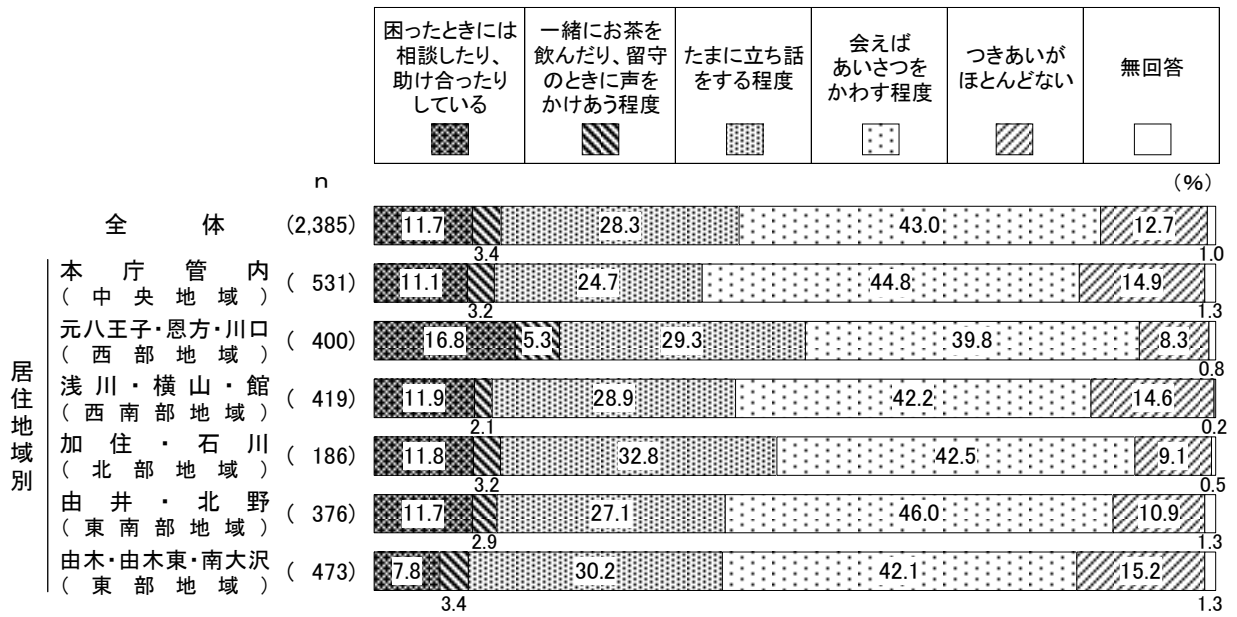


性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性（48.6%）が女性（38.1%）より10.5ポイント高くなっている。一方、「たまに立ち話をする程度」は女性（30.5%）が男性（25.7%）より4.8ポイント、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は女性（13.6%）が男性（9.4%）より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「たまに立ち話をする程度」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（35.7%）で3割台半ばと多くなっている。「会えばあいさつをかわす程度」は30~39歳（61.2%）で6割強と多くなっている。「つきあいがほとんどない」は18~29歳（30.3%）で約3割と多くなっている。

(図 3-20-2)

図3-20-3 隣近所とのつきあい方—居住地域別



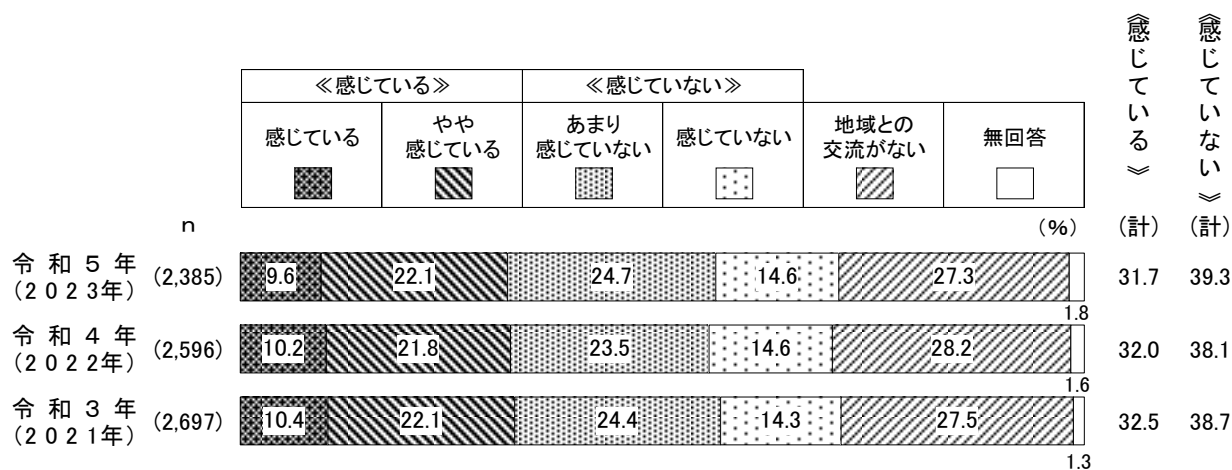
居住地域別にみると、「たまに立ち話をする程度」は加住・石川(北部地域) (32.8%) で3割強と多くなっている。「会えばあいさつをかわす程度」は由井・北野(東南部地域) (46.0%) で5割近くと多くなっている。(図3-20-3)

(21) 地域での交流や活動による充実感や生きがい

◇《感じる》が3割強

問25 あなたは、地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで、充実感や生きがいを感じていますか。(〇は1つだけ)

図3-21-1 地域での交流や活動による充実感や生きがい—全体、経年比較

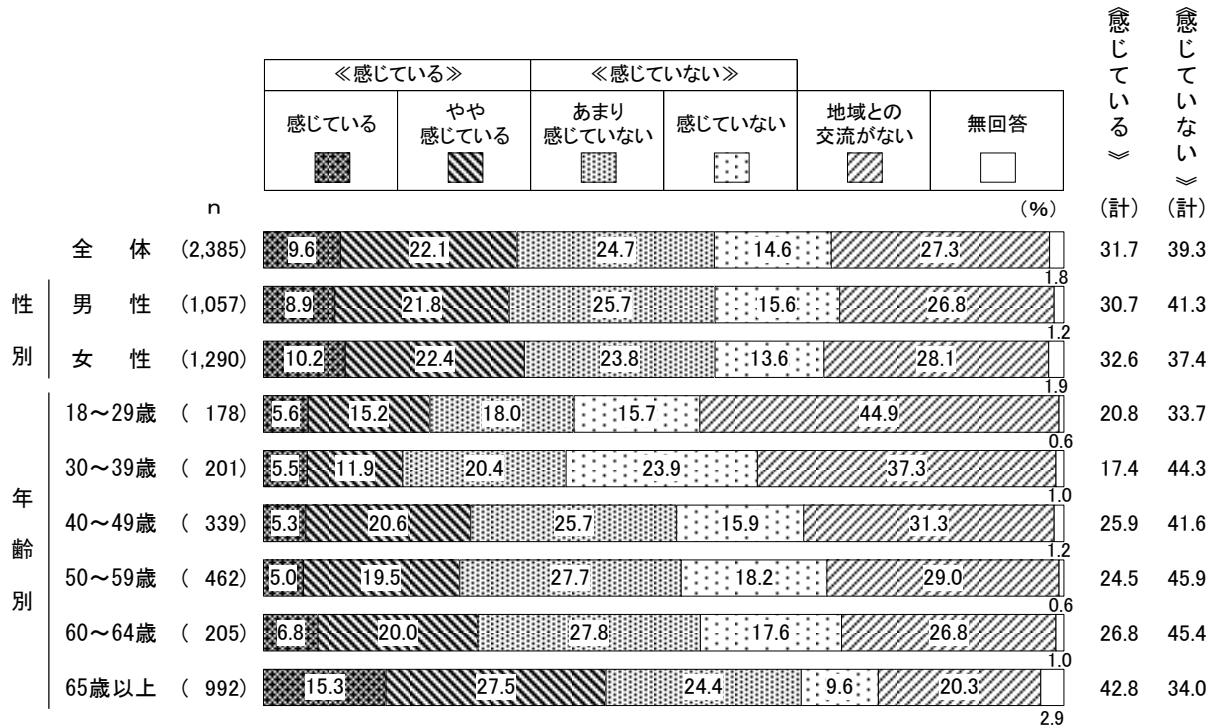


地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで充実感や生きがいを感じているか聞いたところ、「感じる」(9.6%)と「やや感じる」(22.1%)を合わせた《感じる》(31.7%)は3割強となっている。一方、「あまり感じていない」(24.7%)と「感じていない」(14.6%)を合わせた《感じていない》(39.3%)は4割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-21-1)

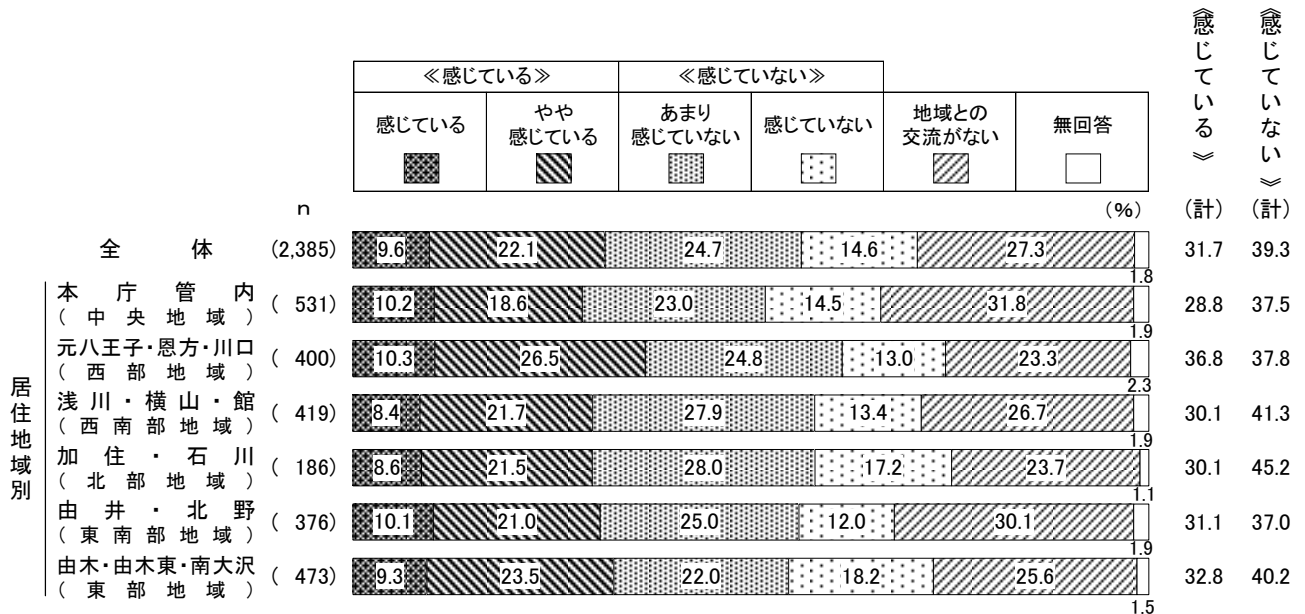
図3-21-2 地域での交流や活動による充実感や生きがい—性別、年齢別



性別にみると、《感じていない》は男性（41.3%）が女性（37.4%）より3.9ポイント高くなっている。

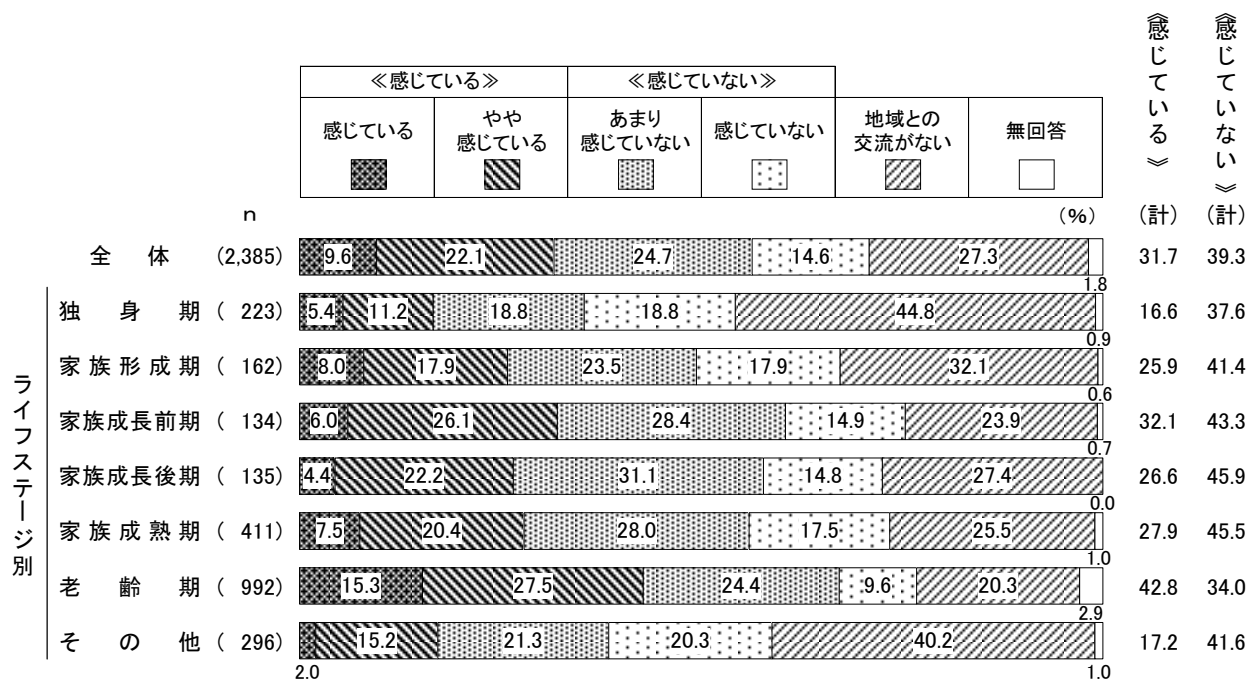
年齢別にみると、《感じている》は65歳以上（42.8%）で4割強と多くなっている。一方、《感じていない》は30~39歳（44.3%）、50~59歳（45.9%）、60~64歳（45.4%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-21-2）

図3-21-3 地域での交流や活動による充実感や生きがい—居住地域別



居住地域別にみると、《感じている》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（36.8%）で4割近くと多くなっている。一方、《感じていない》は加住・石川（北部地域）（45.2%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-21-3）

図3-21-4 地域での交流や活動による充実感や生きがい—ライフステージ別



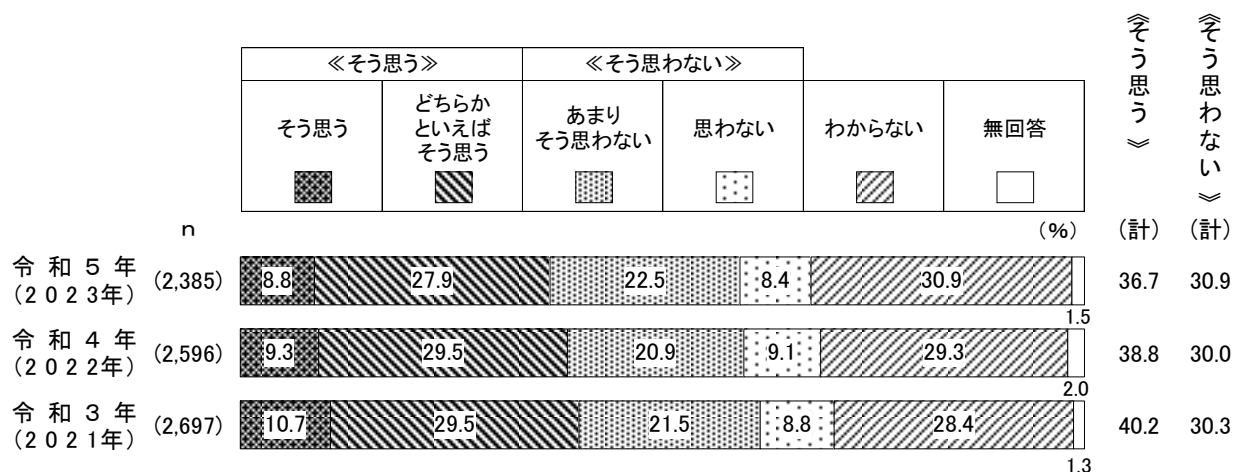
ライフステージ別にみると、《感じる》は老齢期（42.8%）で4割強と多くなっている。一方、《感じていない》は家族成長後期（45.9%）と家族成熟期（45.5%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-21-4）

(22) 地域と子どもたちとのかかわりあい

◇《《そう思う》》が4割近く

問26 あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(〇は1つだけ)

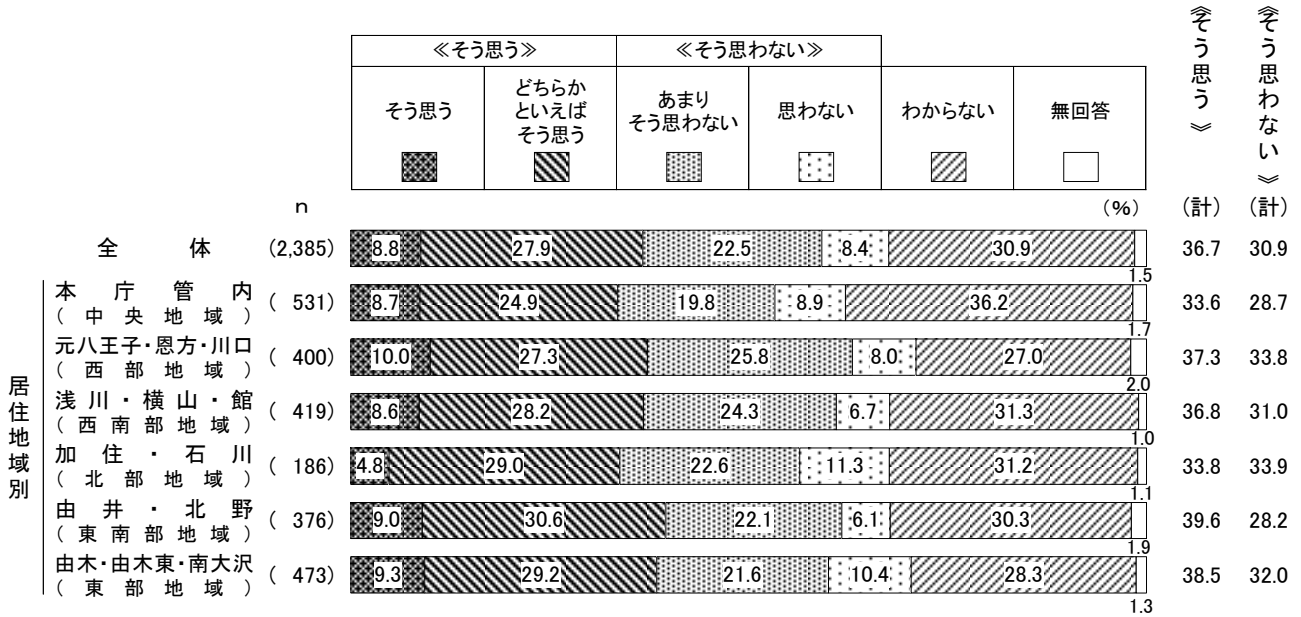
図3-22-1 地域と子どもたちとのかかわりあい—全体、経年比較



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」(8.8%)と「どちらかといえばそう思う」(27.9%)を合わせた《《そう思う》》(36.7%)は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(22.5%)と「思わない」(8.4%)を合わせた《《そう思わない》》(30.9%)は約3割となっている。

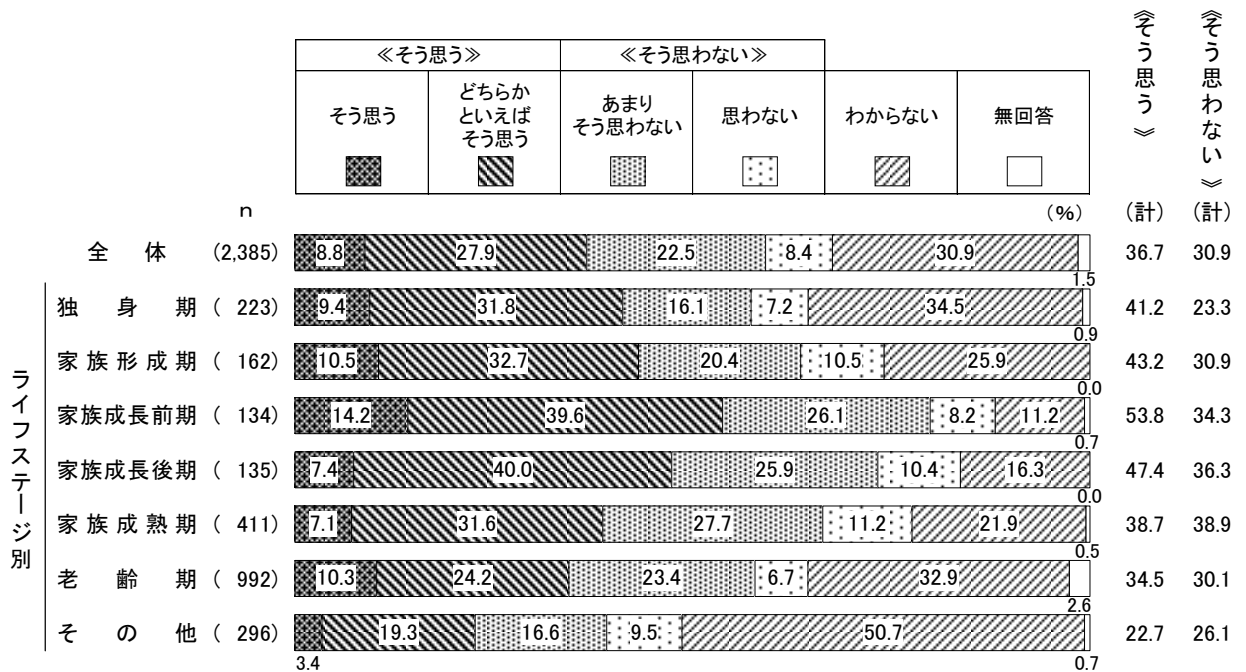
前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和4年(2022年)(38.8%)より2.1ポイント減少している。(図3-22-1)

図3-22-2 地域と子どもたちとのかかわりあい—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（39.6%）で4割弱と多くなっている。（図3-22-2）

図3-22-3 地域と子どもたちとのかかわりあい—ライフステージ別



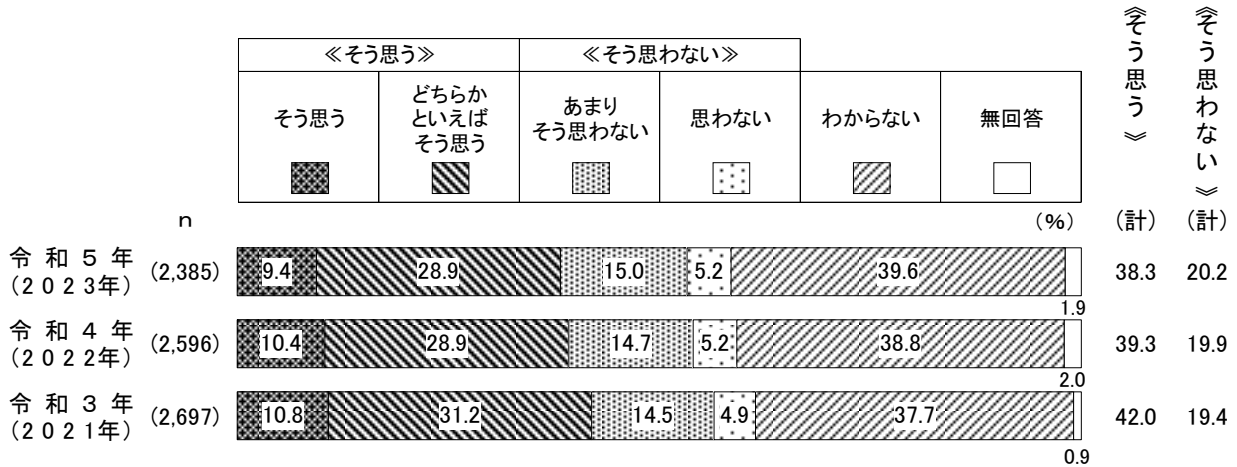
ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（53.8%）で5割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は家族成熟期（38.9%）と家族成長後期（36.3%）で4割近くと多くなっている。（図3-22-3）

(23) 地域と学校の協力による子どもたちの育み

◇《《そう思う》》が4割近く

問27 あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-23-1 地域と学校の協力による子どもたちの育み—全体、経年比較

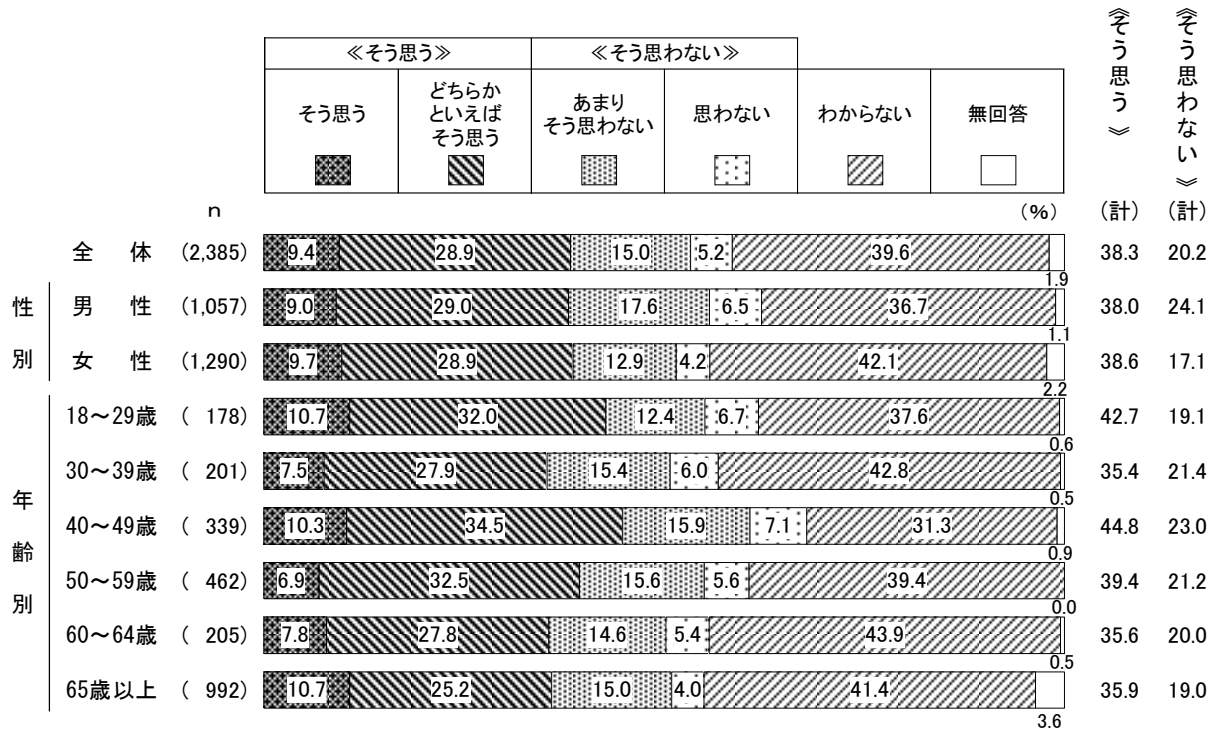


地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思うか聞いたところ、「そう思う」(9.4%)と「どちらかといえばそう思う」(28.9%)を合わせた《《そう思う》》(38.3%)は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(15.0%)と「思わない」(5.2%)を合わせた《《そう思わない》》(20.2%)は約2割となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-23-1)

図3-23-2 地域と学校の協力による子どもたちの育み—性別、年齢別

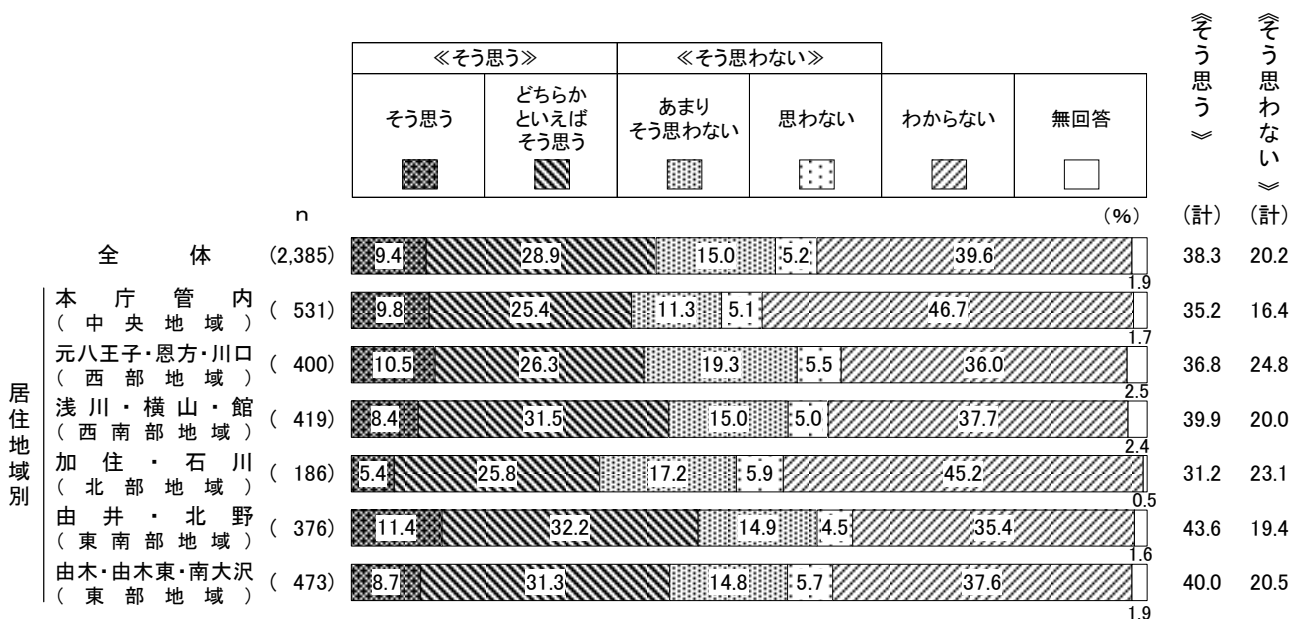


性別にみると、《そう思わない》は男性（24.1%）が女性（17.1%）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は40~49歳（44.8%）で4割台半ばと多くなっている。

(図3-23-2)

図3-23-3 地域と学校の協力による子どもたちの育み—居住地域別



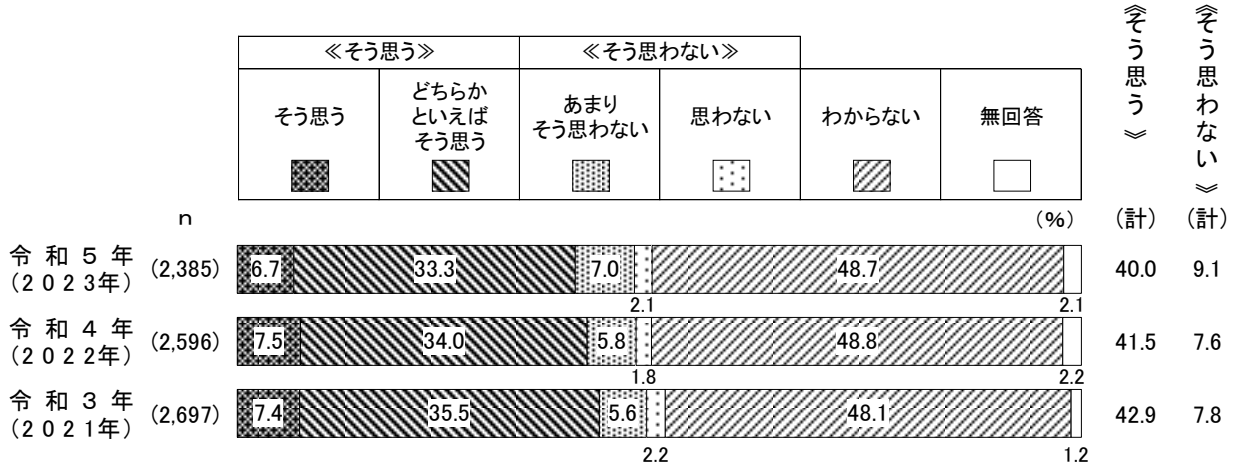
居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（43.6%）で4割強と多くなっている。(図3-23-3)

(24) 市などの支援による子育ての状況

◇《《そう思う》》が4割

問28 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか。(○は1つだけ)

図3-24-1 市などの支援による子育ての状況—全体、経年比較

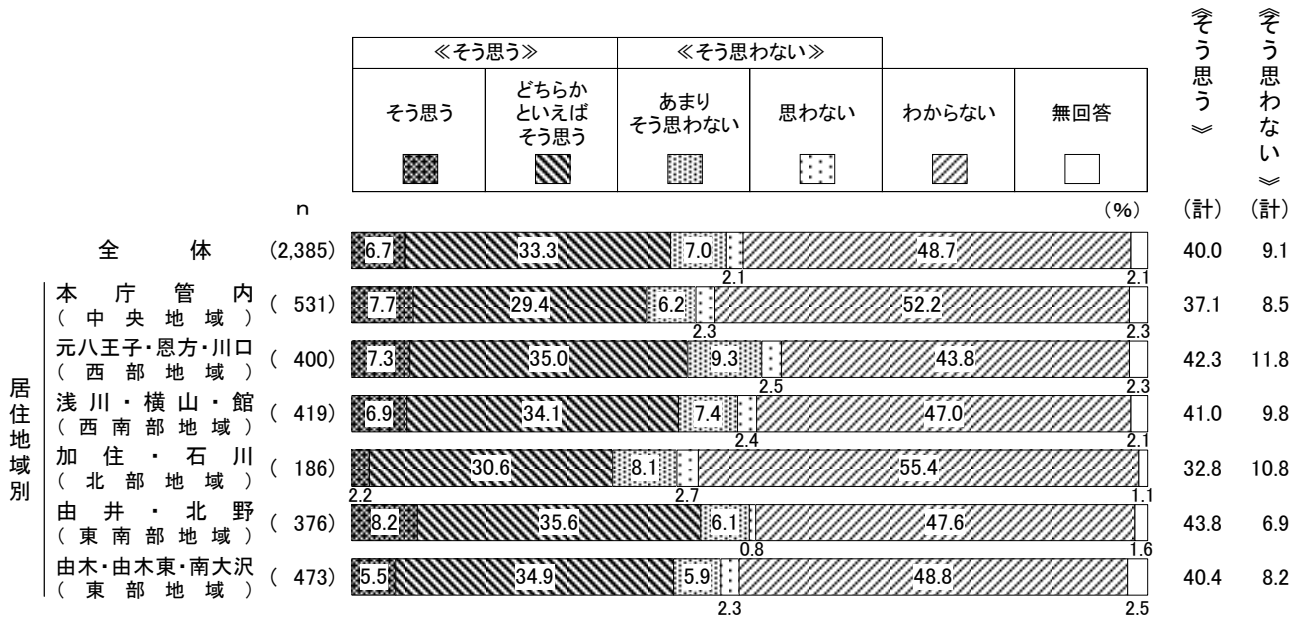


子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか聞いたところ、「そう思う」(6.7%)と「どちらかといえばそう思う」(33.3%)を合わせた《《そう思う》》(40.0%)は4割となっている。一方、「あまりそう思わない」(7.0%)と「思わない」(2.1%)を合わせた《《そう思わない》》(9.1%)は1割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-24-1)

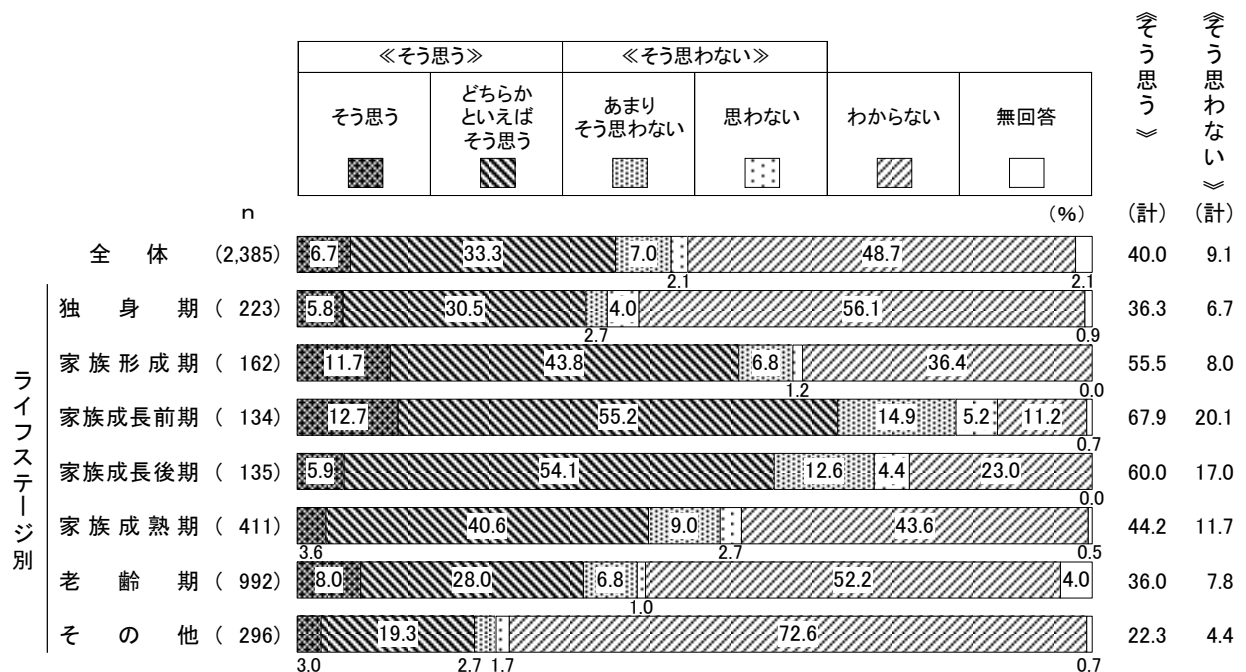
図3-24-2 市などの支援による子育ての状況—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（43.8%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（42.3%）、浅川・横山・館（西南部地域）（41.0%）で4割強と多くなっている。

(図3-24-2)

図3-24-3 市などの支援による子育ての状況—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《そう思う》は家族成長前期（67.9%）で7割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》でも家族成長前期（20.1%）で約2割と多くなっている。

(図3-24-3)

(25) 安心した子育てができていないと思う理由（自由意見）

（問28で「あまりそう思わない」または「思わない」とお答えの方へ）

問28-1 そのように感じる理由があれば、以下の欄にご自由にお書きください。（自由記述）

子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていくかについて「あまりそう思わない」または「思わない」と答えた218人に、そのように思う理由を自由記述形式で聞いたところ、127人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載する。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがあ

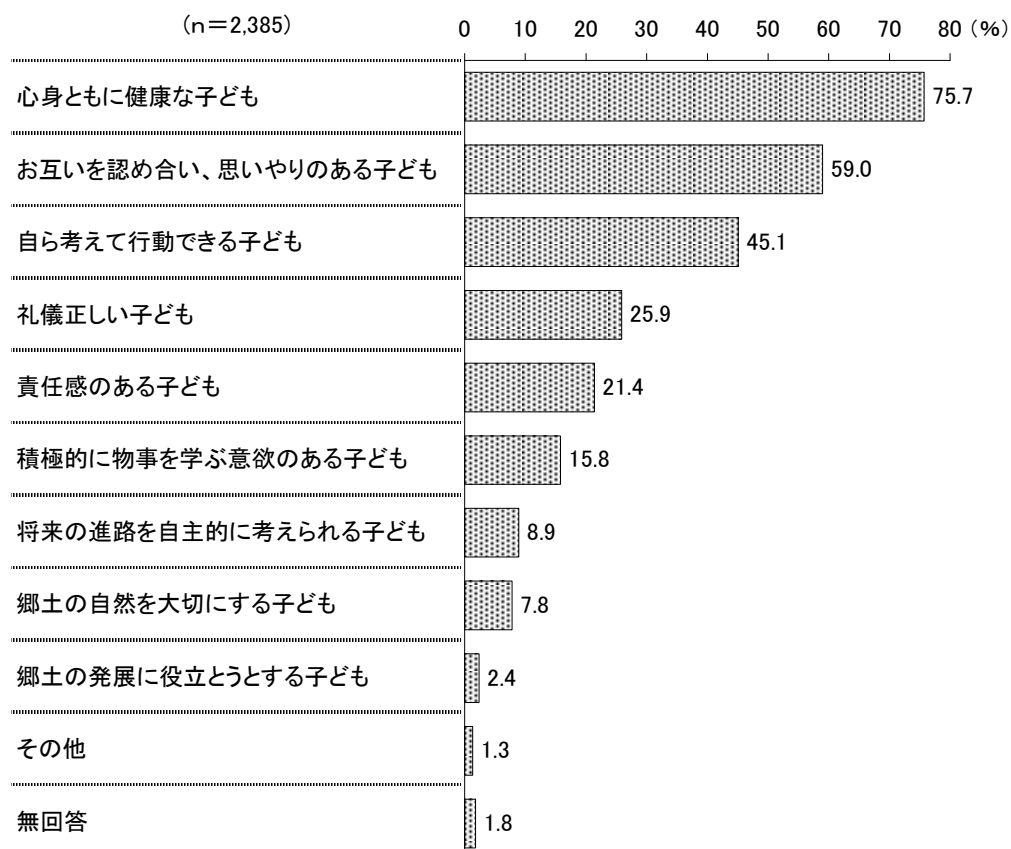
- 夏の学校のプールが限られていたり、社会科見学のバス費用が小学5年生だけなかったりと、子どもの学びの場から削減されるのは先行き不安。（女性40～49歳）
- 乳幼児検診の場所をもっと増やしてほしいと思う。車でしか行けない所とかはやめてほしい。バスの本数も少なくなったり、車移動する人ばかりでないこともわかってほしい。（女性40～49歳）
- 貧困世帯、子育てに不安がある家庭が、自ら支援の場や支援者と関わっていない。困っている家庭が増えている。（女性40～49歳）
- サポーター制度や病児保育も結局、利用しないと決断せざるを得なかったから。選択肢が少なかった。（女性40～49歳）
- 小→中→高となるにつれ費用がかかるのに、大きくなるにつれ手当や支援は減り、それでも負担は変わらない。子育て支援を行ってくれるのであれば負担額に応じた支援をして欲しい。
(男性40～49歳)
- 私たちが子育てした時代と違い、外出しても子育てをしている方々にあまり会わない。外に安心して子どもを出す事ができないのかと思います。（女性50～59歳）
- 子ども夫婦ですがファミリーサポートなど利用しようと思っても時間的に合う人がいない。子育て世代にもっと手を差し伸べて欲しい。（女性50～59歳）
- 市の支援はいろいろとあると思いますが、それが安心して子育てできるに通じているとはいちがいはないから。こまっている人々に情報がきちんとつたわる方法を考えてほしい。
(女性50～59歳)
- 子どもが多く、学費などの費用負担が大きいのが、低所得者層にしか学費無償など支援がない。
(男性50～59歳)
- 子育てに不安はつきもので、どれだけ支援しても安心することはないと思うので。
(男性50～59歳)
- 八王子市という事ではなく、子どもがのびのびと生きにくい時代だと感じている、例えば、公園とかでも禁止事項が多すぎるのではないかと思う。（女性65歳以上）
- サポートが必要な子育て層に十分な支援がなされているとは思えないから。（女性65歳以上）
- 障害のある小学生の移動支援が中核市なのに実現できていない。通学にも使えない。障害児の家庭は困っています。病児保育の充実を望みます。（女性65歳以上）
- 地域の歩道環境や交通状況は、子ども達にとってあまり安全ではない。（男性65歳以上）
- 小学校6年生までを預かる学童施設等の不足。中学校における給食の不備。（男性65歳以上）

(26) 八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいか

◇「心身ともに健康な子ども」が7割台半ば

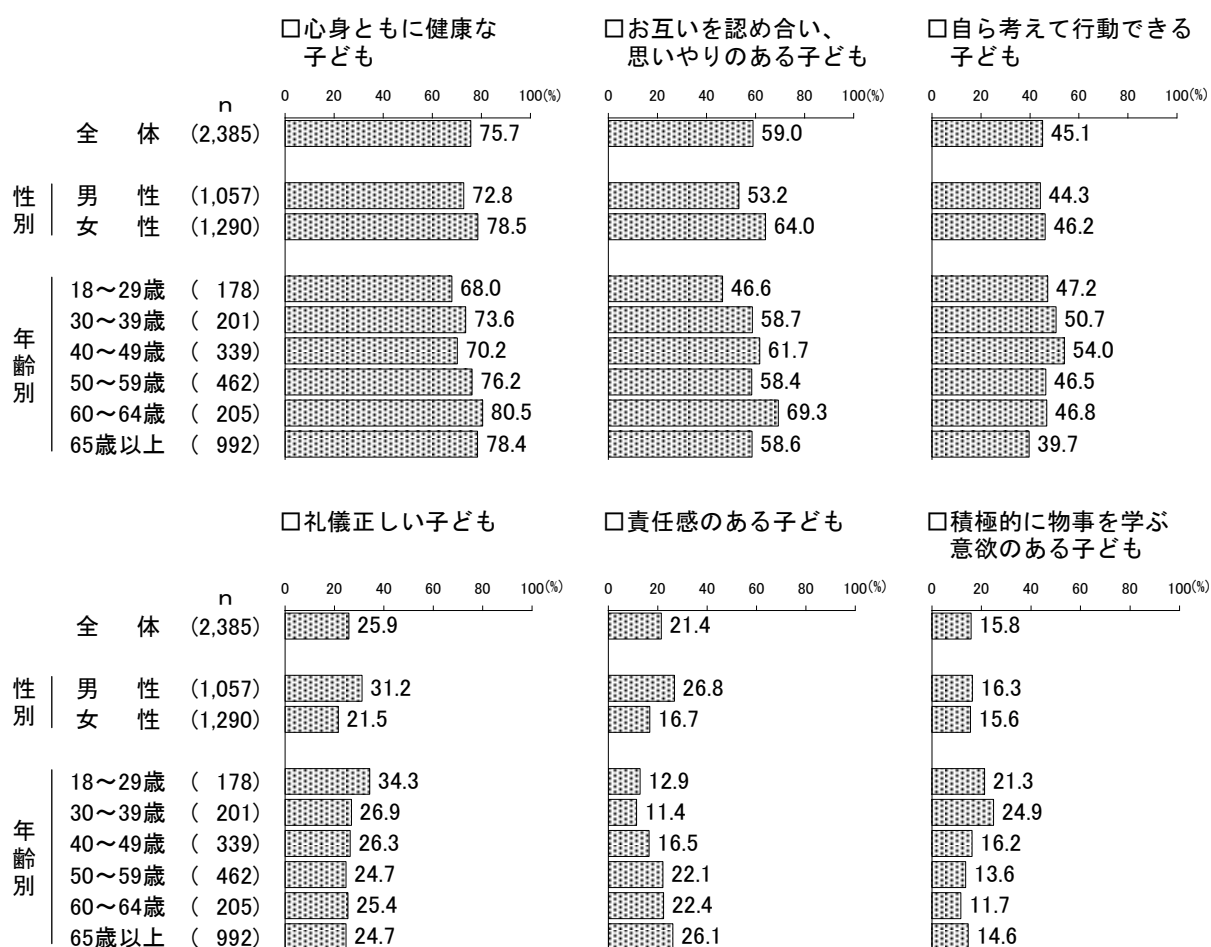
問29 あなたは、八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいと思いますか。
(○は3つまで)

図3-26-1 八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいかー全体



八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいか聞いたところ、「心身ともに健康な子ども」(75.7%)が7割台半ばで最も多くなっている。次いで「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」(59.0%)、「自ら考えて行動できる子ども」(45.1%)、「礼儀正しい子ども」(25.9%)などの順となっている。(図3-26-1)

図3-26-2 八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいか—性別、年齢別（上位6位）

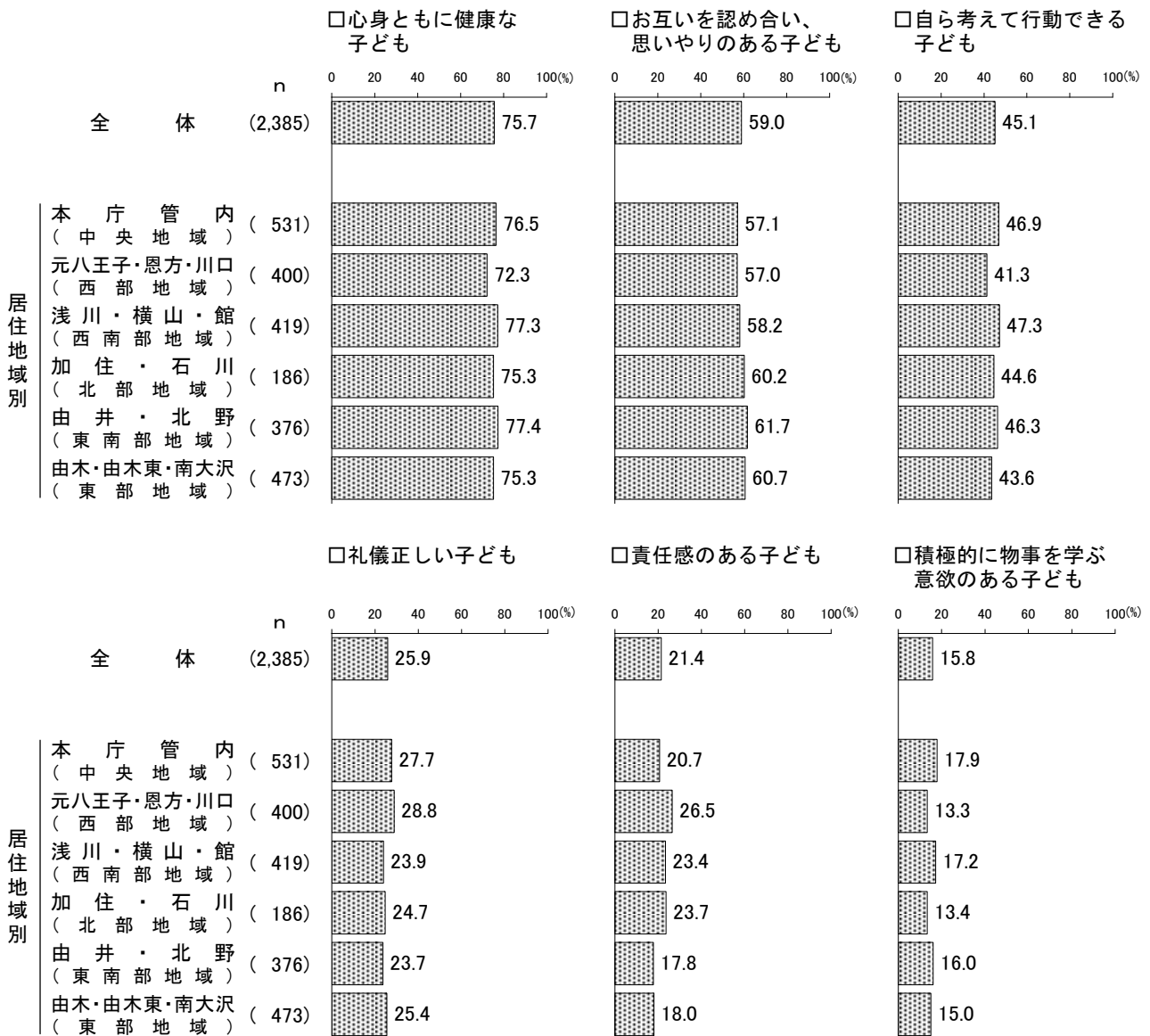


性別にみると、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」は女性（64.0%）が男性（53.2%）より10.8ポイント、「心身ともに健康な子ども」は女性（78.5%）が男性（72.8%）より5.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「責任感のある子ども」は男性（26.8%）が女性（16.7%）より10.1ポイント、「礼儀正しい子ども」は男性（31.2%）が女性（21.5%）より9.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「心身ともに健康な子ども」は60~64歳（80.5%）で約8割と多くなっている。「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」は60~64歳（69.3%）で7割弱と多くなっている。「自ら考えて行動できる子ども」は40~49歳（54.0%）で5割台半ばと多くなっている。

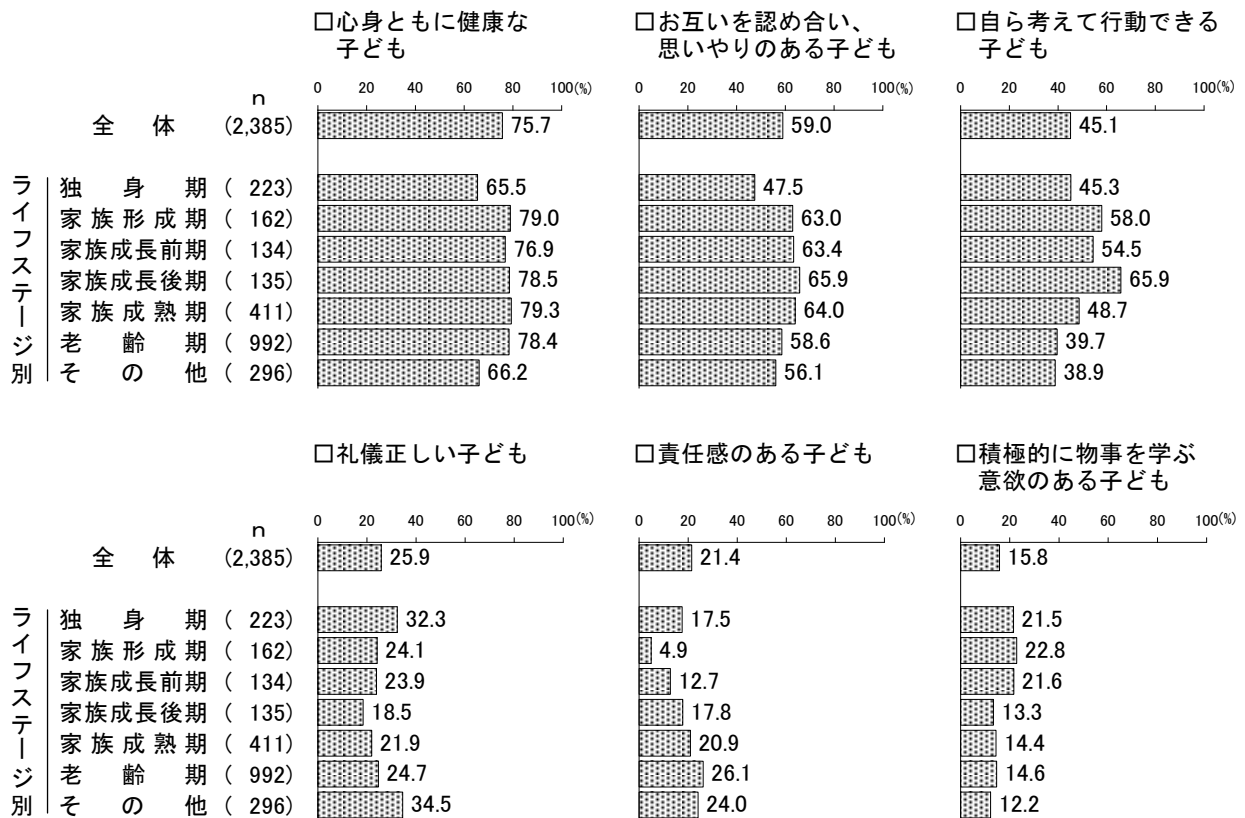
（図3-26-2）

図3-26-3 八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいか—居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「心身ともに健康な子ども」は由井・北野（東南部地域）（77.4%）、浅川・横山・館（西南部地域）（77.3%）、本庁管内（中央地域）（76.5%）で8割近くと多くなっている。「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」は由井・北野（東南部地域）（61.7%）で6割強と多くなっている。（図3-26-3）

図3-26-4 八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいかーライフステージ別（上位6位）



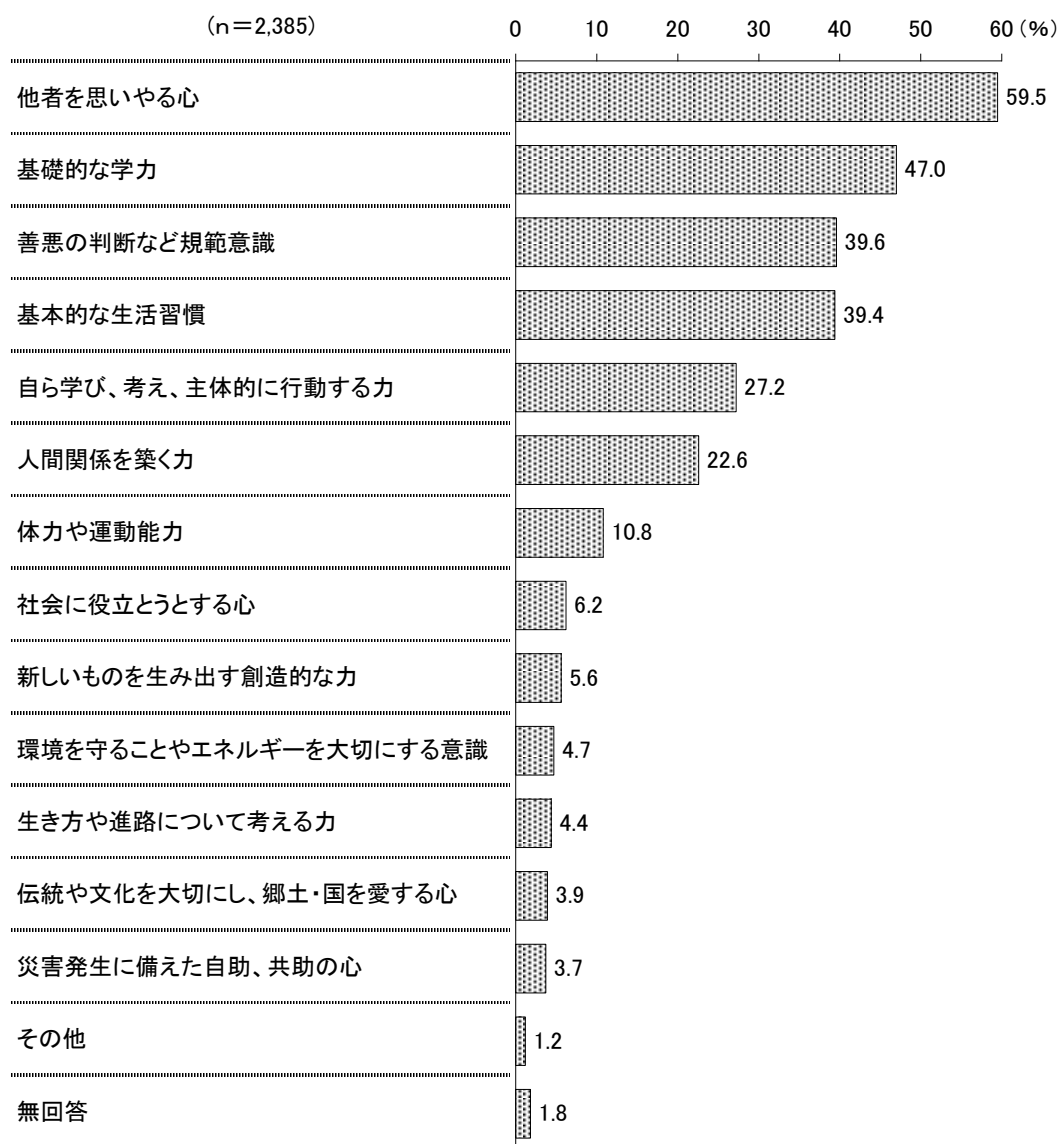
ライフステージ別にみると、「心身ともに健康な子ども」は家族成熟期（79.3%）と家族形成期（79.0%）で8割弱と多くなっている。「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」は家族成長後期（65.9%）と家族成熟期（64.0%）で6割台半ばと多くなっている。「自ら考えて行動できる子ども」は家族成長後期（65.9%）で6割台半ばと多くなっている。（図3-26-4）

(27) 小学生に必要な教育

◇「他者を思いやる心」が6割弱

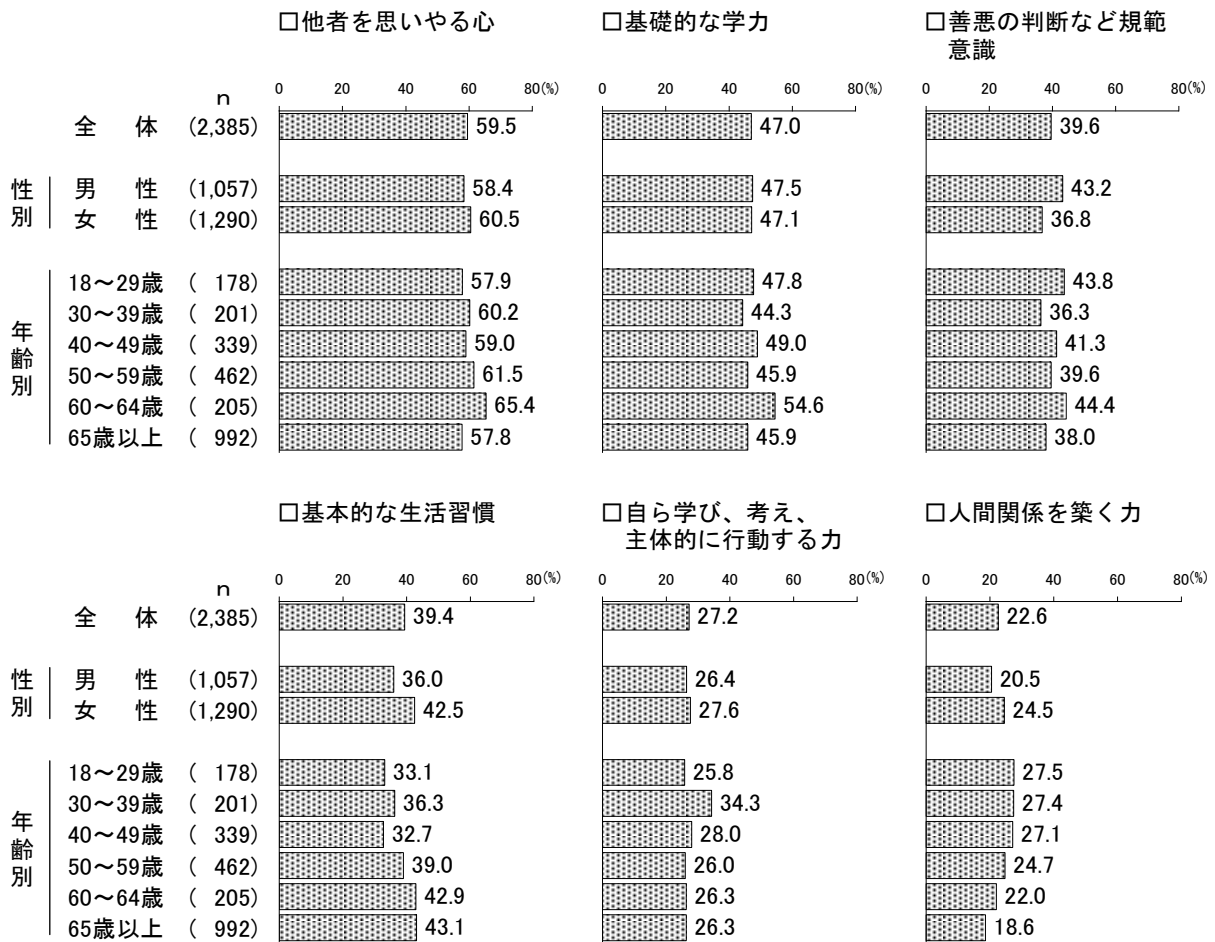
問30 あなたは、小学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要だと思いますか。
(○は3つまで)

図3-27-1 小学生に必要な教育－全体



小学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要か聞いたところ、「他者を思いやる心」(59.5%)が6割弱で最も多くなっている。次いで「基礎的な学力」(47.0%)、「善悪の判断など規範意識」(39.6%)、「基本的な生活習慣」(39.4%)、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」(27.2%)などの順となっている。(図3-27-1)

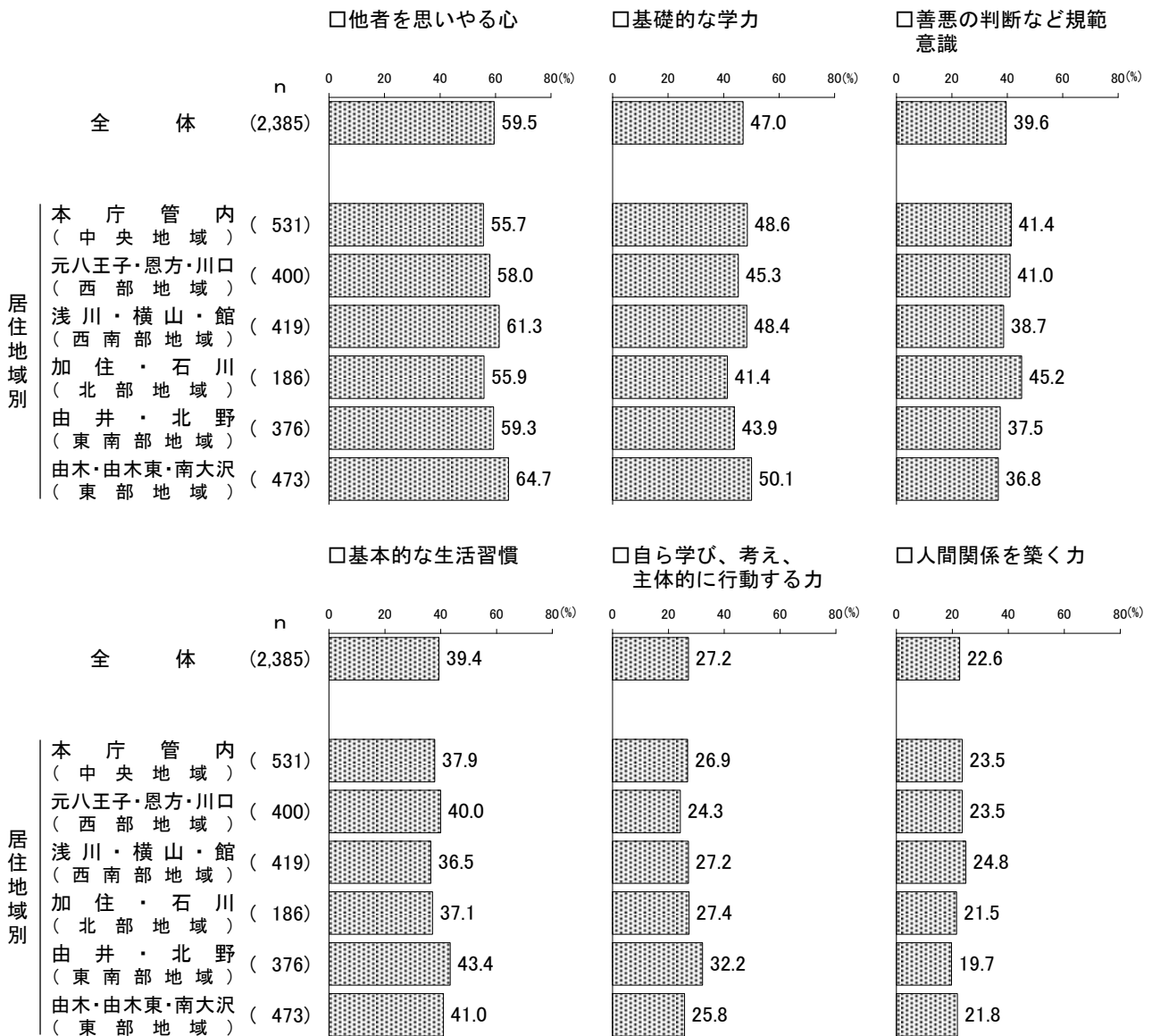
図3-27-2 小学生に必要な教育－性別、年齢別（上位6位）



性別にみると、「基本的な生活習慣」は女性（42.5%）が男性（36.0%）より6.5ポイント、「人間関係を築く力」は女性（24.5%）が男性（20.5%）より4.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「善悪の判断など規範意識」は男性（43.2%）が女性（36.8%）より6.4ポイント高くなっている。

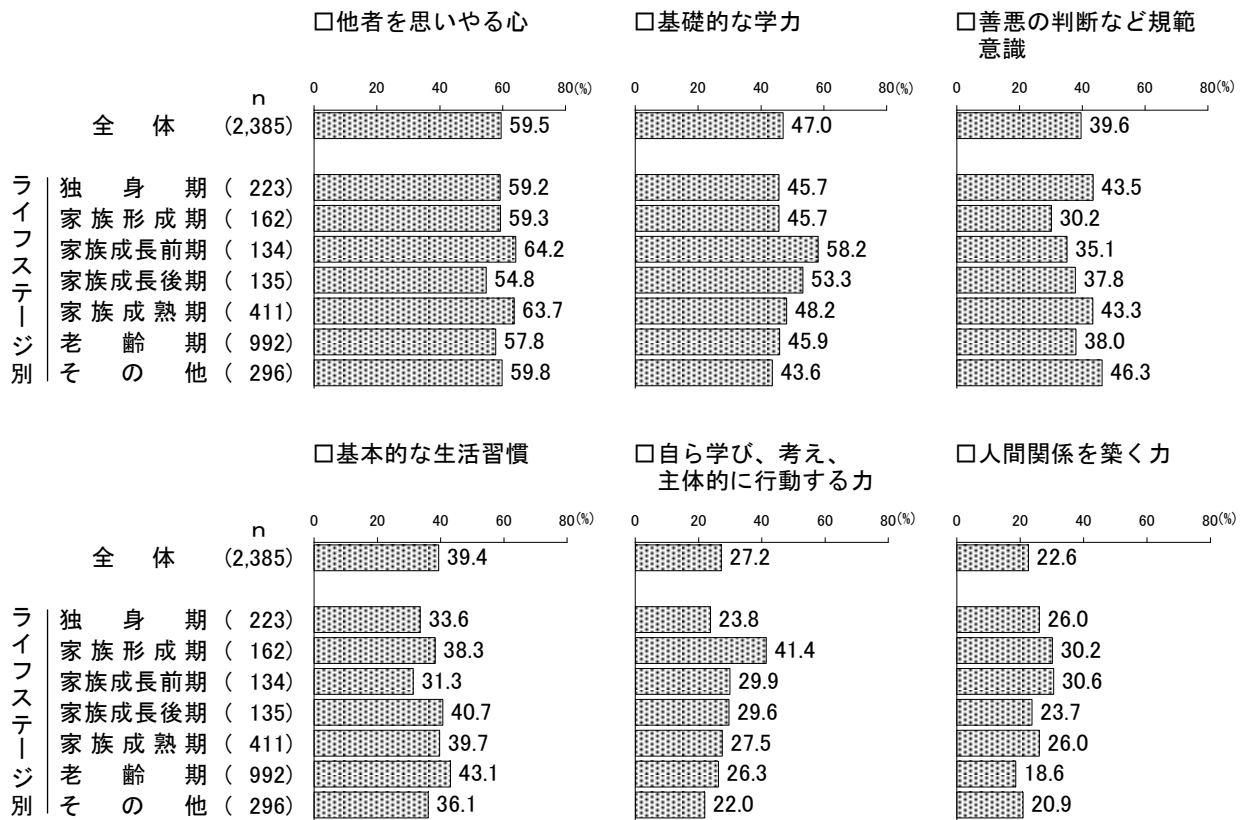
年齢別にみると、「他者を思いやる心」は60～64歳（65.4%）で6割台半ばと多くなっている。「基礎的な学力」は60～64歳（54.6%）で5割台半ばと多くなっている。「善悪の判断など規範意識」は60～64歳（44.4%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-27-2）

図3-27-3 小学生に必要な教育—居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「他者を思いやる心」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.7%）で6割台半ばと多くなっている。「基礎的な学力」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（50.1%）で約5割と多くなっている。「善悪の判断など規範意識」は加住・石川（北部地域）（45.2%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-27-3）

図3-27-4 小学生に必要な教育－ライフステージ別（上位6位）



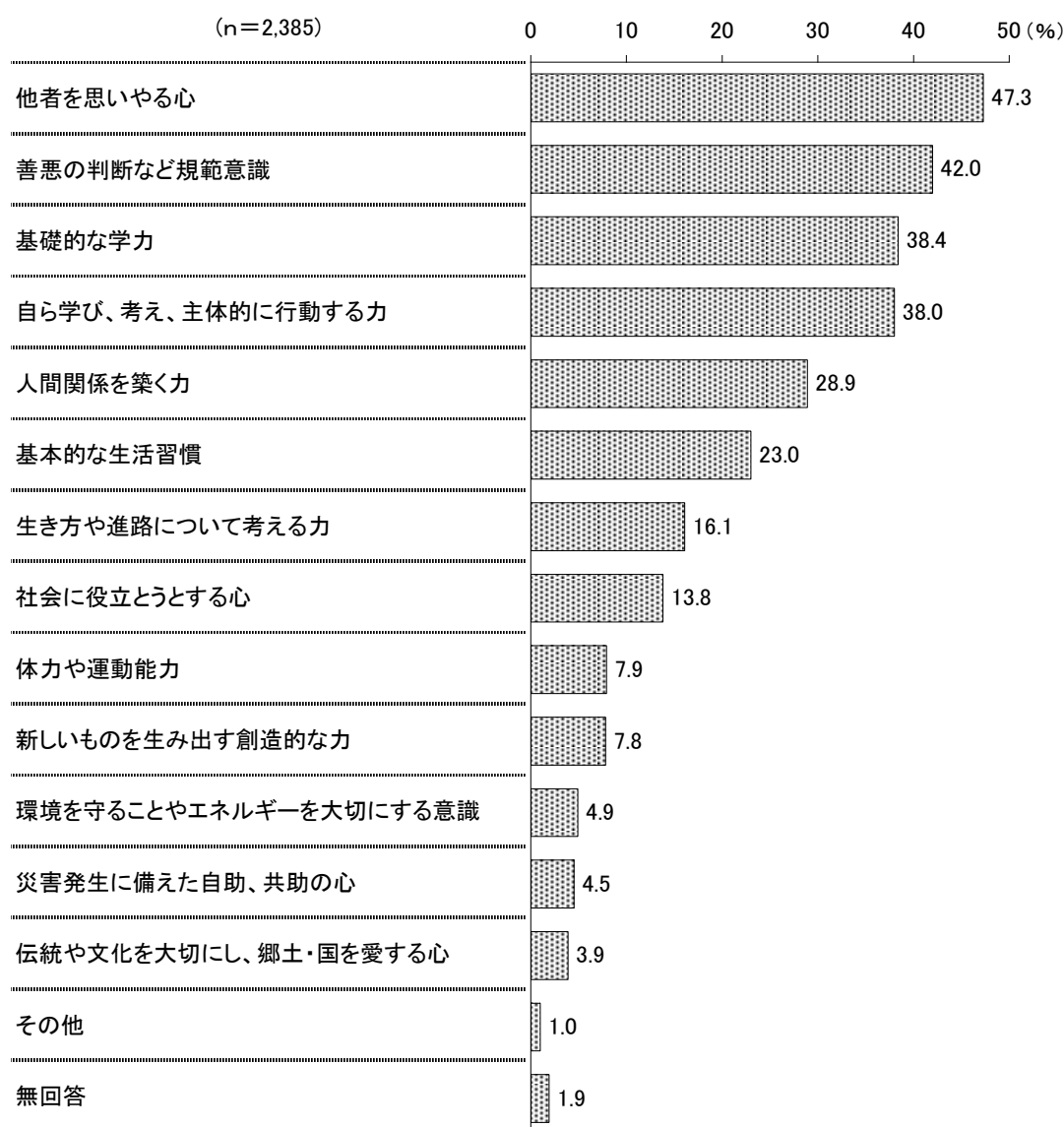
ライフステージ別にみると、「他者を思いやる心」は家族成長前期（64.2%）で6割台半ばと多くなっている。「基礎的な学力」は家族成長前期（58.2%）で6割近くと多くなっている。「善悪の判断など規範意識」はその他（46.3%）で5割近くと多くなっている。（図3-27-4）

(28) 中学生に必要な教育

◇「他者を思いやる心」が5割近く

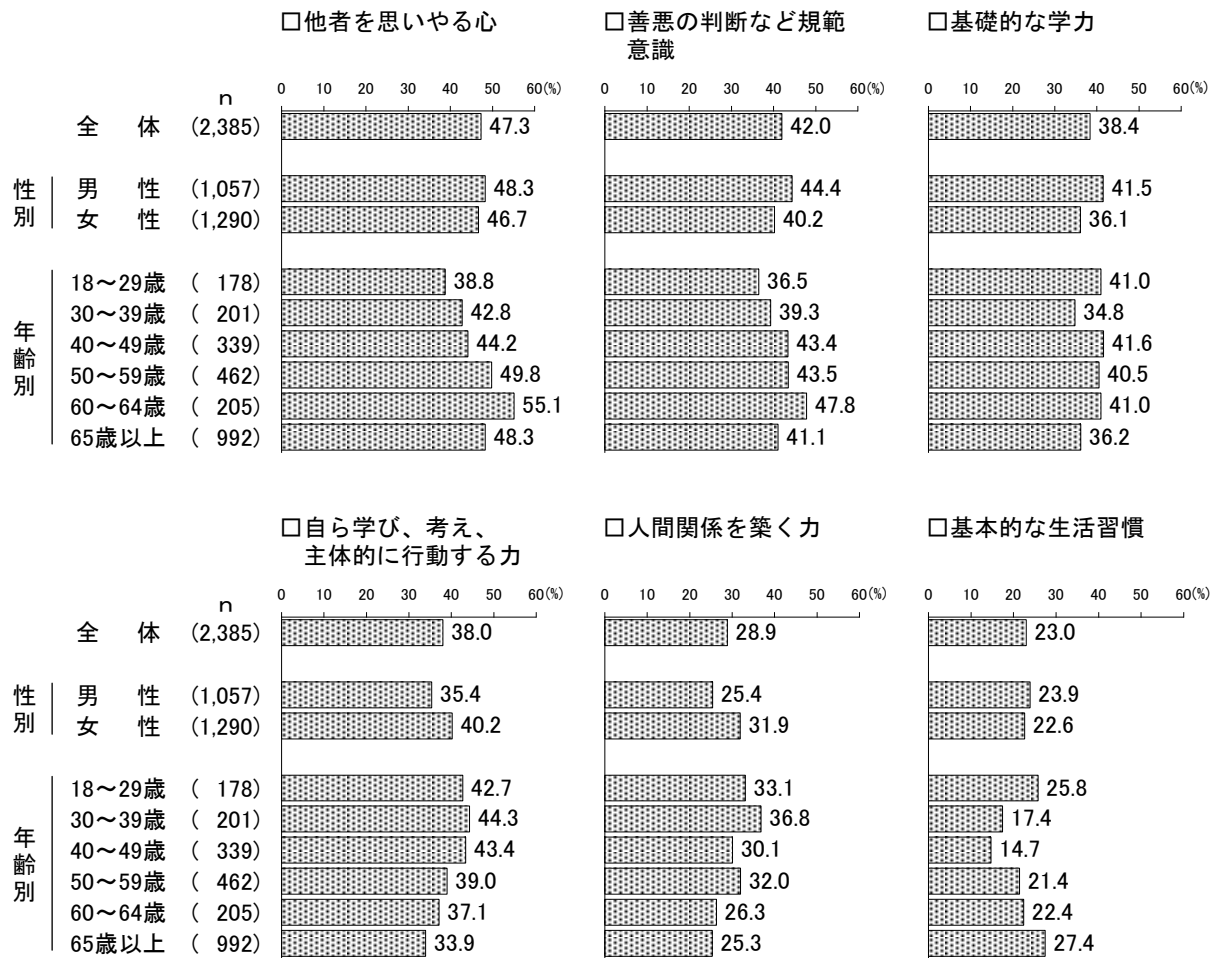
問31 あなたは、中学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要だと思いますか。
(○は3つまで)

図3-28-1 中学生に必要な教育－全体



中学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要か聞いたところ、「他者を思いやる心」(47.3%)が5割近くで最も多くなっている。次いで「善悪の判断など規範意識」(42.0%)、「基礎的な学力」(38.4%)、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」(38.0%)、「人間関係を築く力」(28.9%)などの順となっている。(図3-28-1)

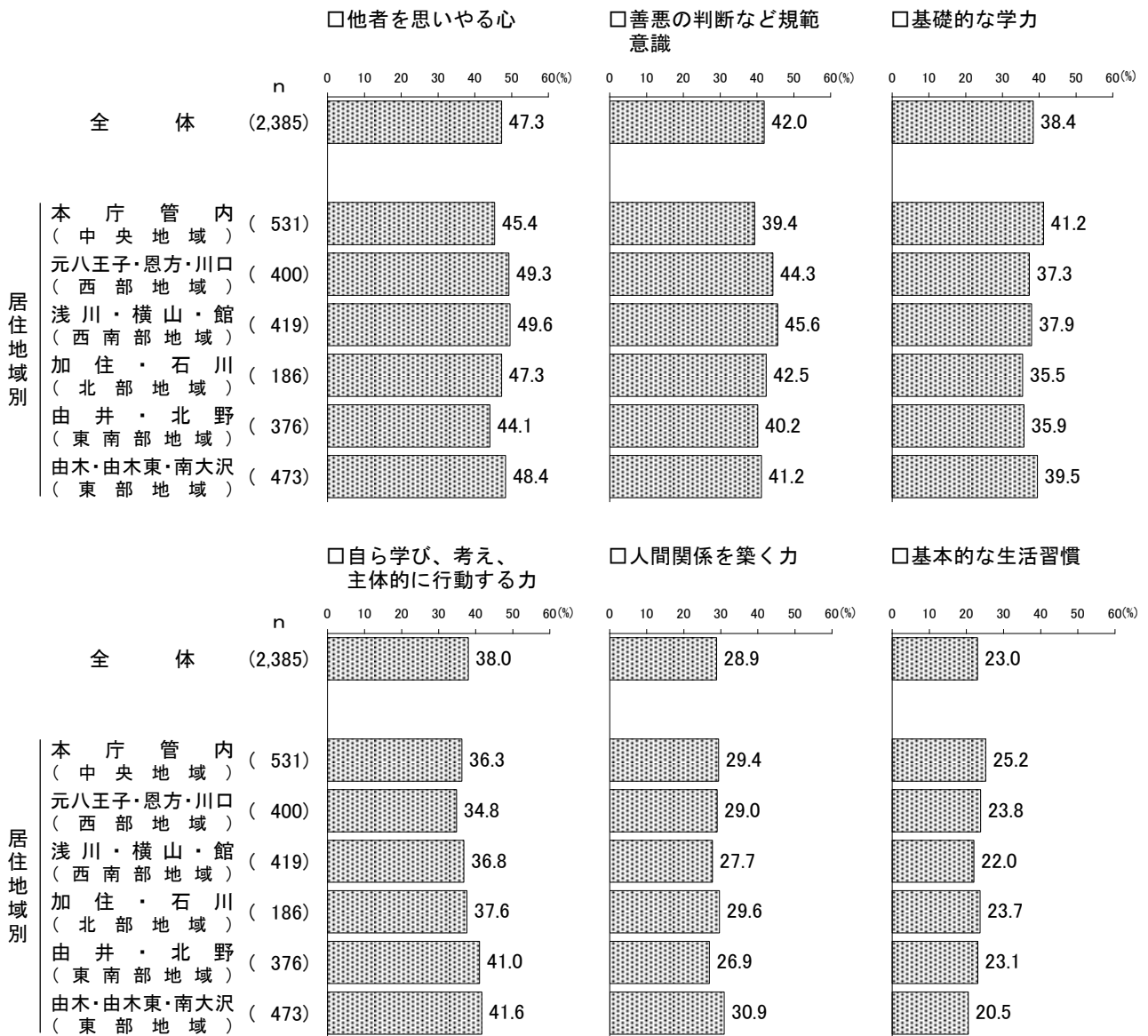
図3-28-2 中学生に必要な教育－性別、年齢別（上位6位）



性別にみると、「人間関係を築く力」は女性（31.9%）が男性（25.4%）より6.5ポイント、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は女性（40.2%）が男性（35.4%）より4.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「基礎的な学力」は男性（41.5%）が女性（36.1%）より5.4ポイント、「善悪の判断など規範意識」は男性（44.4%）が女性（40.2%）より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「他者を思いやる心」は60～64歳（55.1%）で5割台半ばと多くなっている。「善悪の判断など規範意識」は60～64歳（47.8%）で5割近くと多くなっている。「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は30～39歳（44.3%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-28-2）

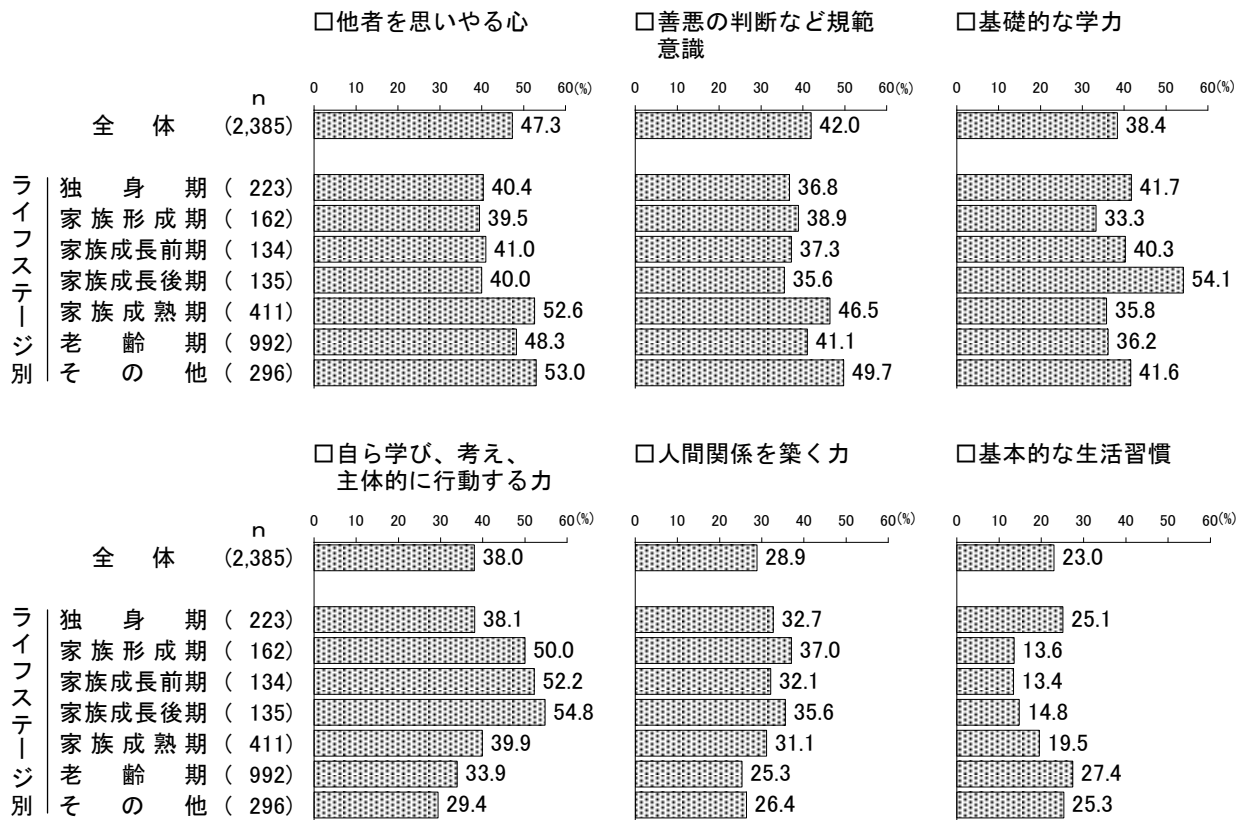
図3-28-3 中学生に必要な教育—居住地地域別（上位6位）



居住地地域別にみると、「他者を思いやる心」は浅川・横山・館（西南部地域）（49.6%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（49.3%）で5割弱と多くなっている。「善悪の判断など規範意識」は浅川・横山・館（西南部地域）（45.6%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（44.3%）で4割台半ばと多くなっている。「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（41.6%）と由井・北野（東南部地域）（41.0%）で4割強と多くなっている。

(図3-28-3)

図3-28-4 中学生に必要な教育－ライフステージ別（上位6位）



ライフステージ別にみると、「他者を思いやる心」はその他（53.0%）と家族成熟期（52.6%）で5割強と多くなっている。「基礎的な学力」は家族成長後期（54.1%）で5割台半ばと多くなっている。「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は家族成長後期（54.8%）で5割台半ばと多くなっている。（図3-28-4）

(29) 市民協働の進捗状況

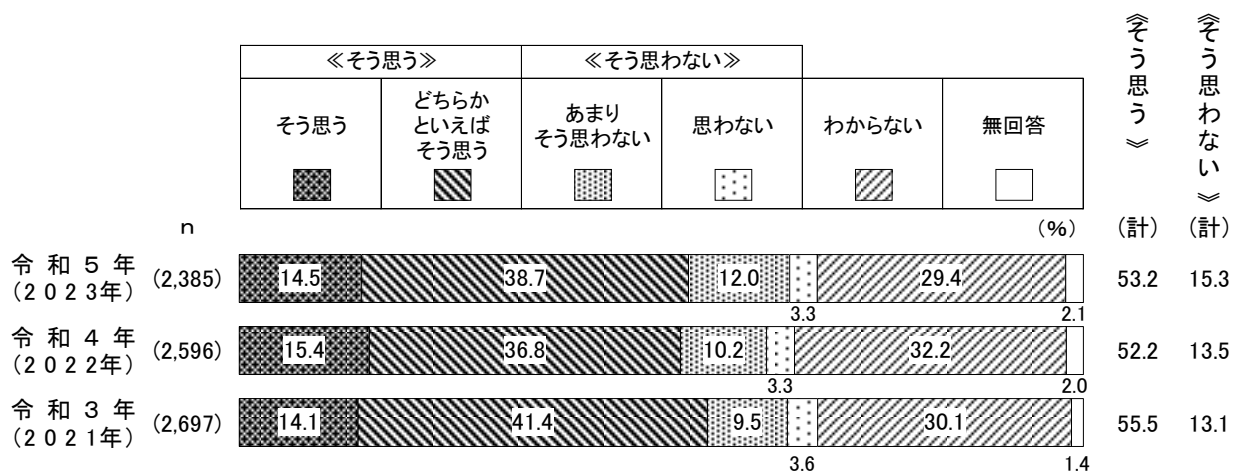
◇《《そう思う》が5割強

問32 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。(〇は1つだけ)

※市民協働によるまちづくりとは・・・

- 八王子まつり、いちょう祭り、環境フェスティバルなどを市民と市が協力して開催
- 町会・自治会等が主体となって行う防犯・防災活動や環境美化活動
- 公園や道路の維持活動（清掃や除草などのボランティア活動）を地域の住民の方が担う
アドプト制度
- 各種審議会や市の計画策定などに参加していただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント（意見募集）の実施 など

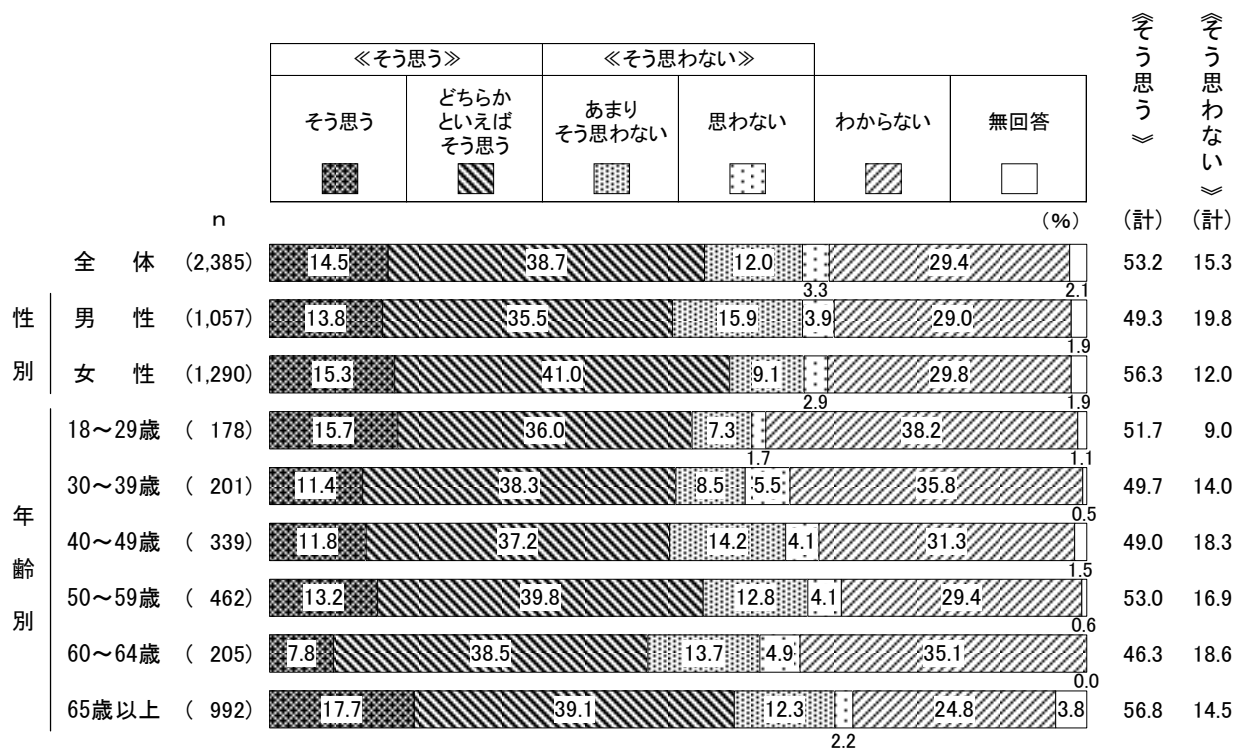
図3-29-1 市民協働の進捗状況－全体、経年比較



市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「そう思う」（14.5%）と「どちらかといえばそう思う」（38.7%）を合わせた《《そう思う》》（53.2%）は5割強となっている。一方、「あまりそう思わない」（12.0%）と「思わない」（3.3%）を合わせた《《そう思わない》》（15.3%）は1割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「わからない」は令和4年（2022年）（32.2%）より2.8ポイント減少している。（図3-29-1）

図3-29-2 市民協働の進捗状況—性別、年齢別

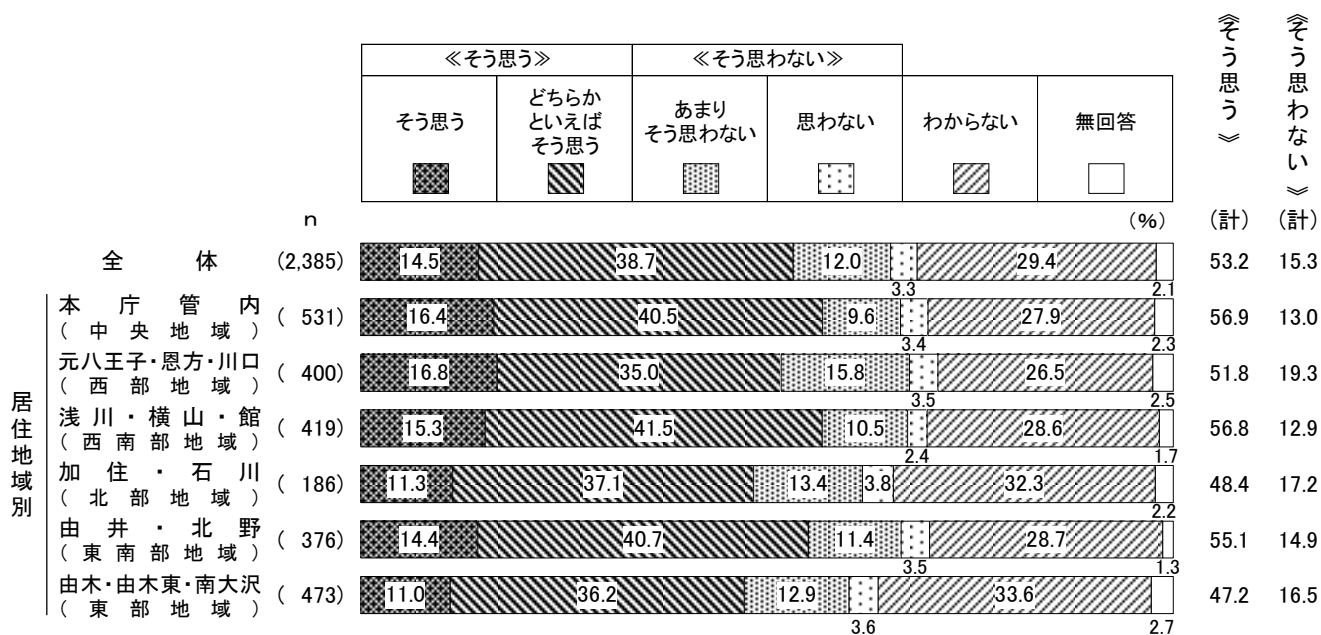


性別にみると、《そう思う》は女性（56.3%）が男性（49.3%）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上（56.8%）で6割近くと多くなっている。

(図3-29-2)

図3-29-3 市民協働の進捗状況—居住地域別



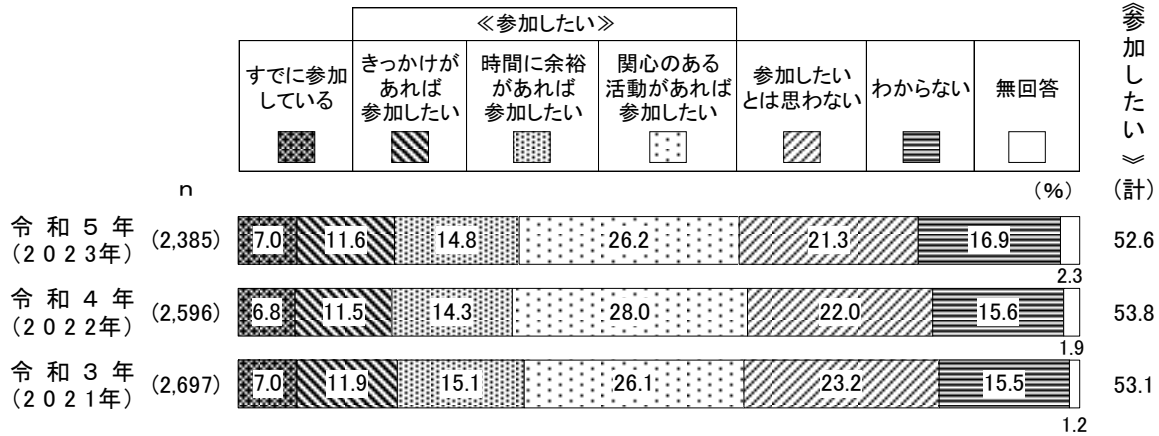
居住地域別にみると、《そう思う》は本庁管内（中央地域）（56.9%）と浅川・横山・館（西南部地域）（56.8%）で6割近くと多くなっている。（図3-29-3）

(30) 市民協働によるまちづくりへの参加意向

◇《参加したい》が5割強

問33 あなたは、問32で例示したような市民協働によるまちづくりに参加したいと思えますか。(○は1つだけ)

図3-30-1 市民協働によるまちづくりへの参加意向—全体、経年比較

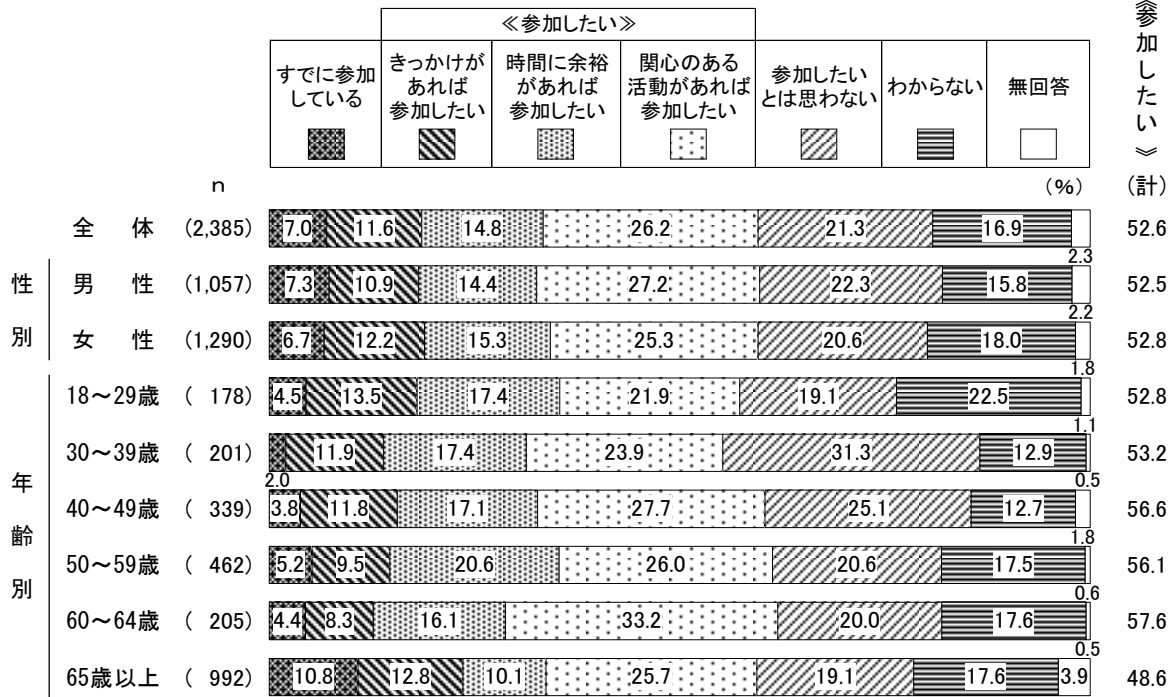


市民協働によるまちづくりに参加したいと思うか聞いたところ、「すでに参加している」(7.0%)は1割未満となっている。また、「きっかけがあれば参加したい」(11.6%)、「時間に余裕があれば参加したい」(14.8%)、「関心のある活動があれば参加したい」(26.2%)の3つを合わせた《参加したい》(52.6%)は5割強となっている。一方、「参加したいとは思わない」(21.3%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-30-1)

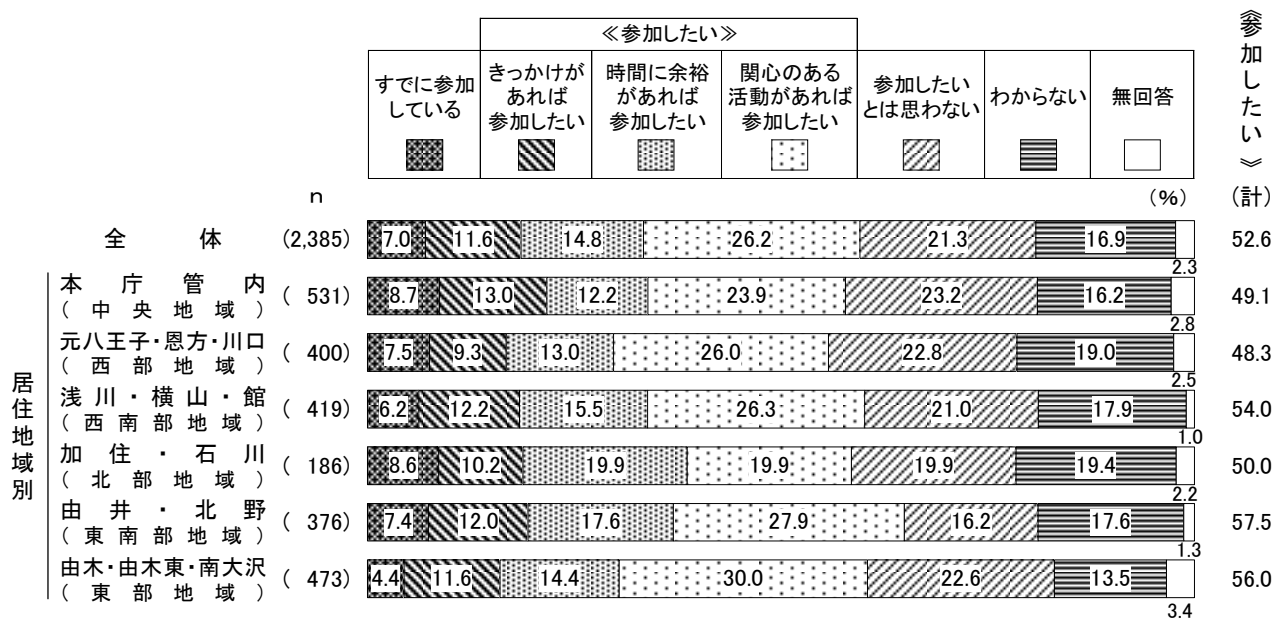
図 3-30-2 市民協働によるまちづくりへの参加意向—性別、年齢別



性別にみると、「わからない」は女性（18.0%）が男性（15.8%）より2.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《参加したい》は40~49歳（56.6%）、50~59歳（56.1%）、60~64歳（57.6%）で6割近くと多くなっている。（図 3-30-2）

図 3-30-3 市民協働によるまちづくりへの参加意向—居住地域別



居住地域別にみると、《参加したい》は由井・北野（東南部地域）（57.5%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（56.0%）で6割近くと多くなっている。（図 3-30-3）

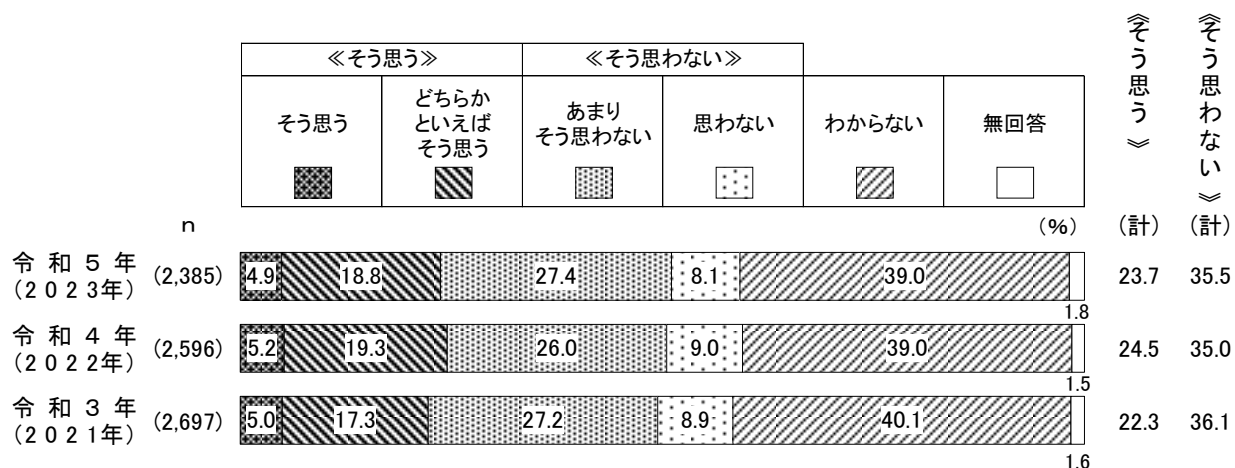
(31) 大学等のまちづくりへの活用

◇《《そう思う》》が2割強

問34 あなたは、市内およびその周辺地域に立地している大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力が、まちづくりに活かされていると思いますか。

(○は1つだけ)

図3-31-1 大学等のまちづくりへの活用—全体、経年比較

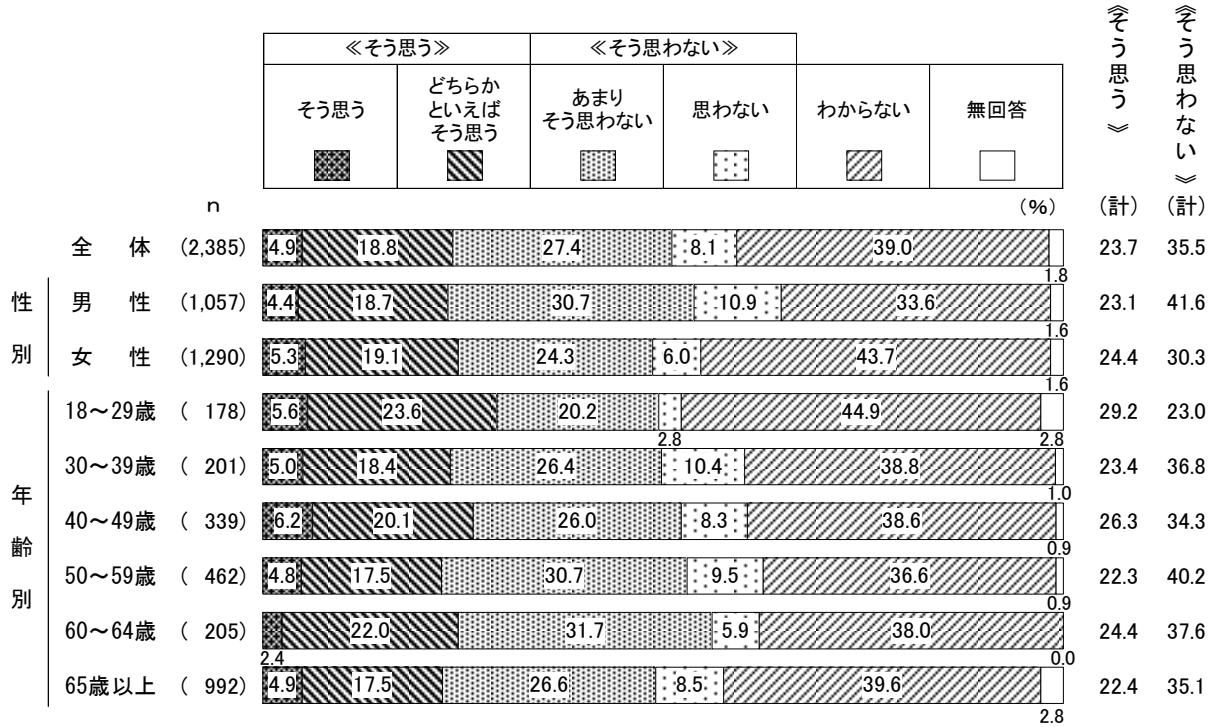


大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.9%)と「どちらかといえばそう思う」(18.8%)を合わせた《《そう思う》》(23.7%)は2割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(27.4%)と「思わない」(8.1%)を合わせた《《そう思わない》》(35.5%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-31-1)

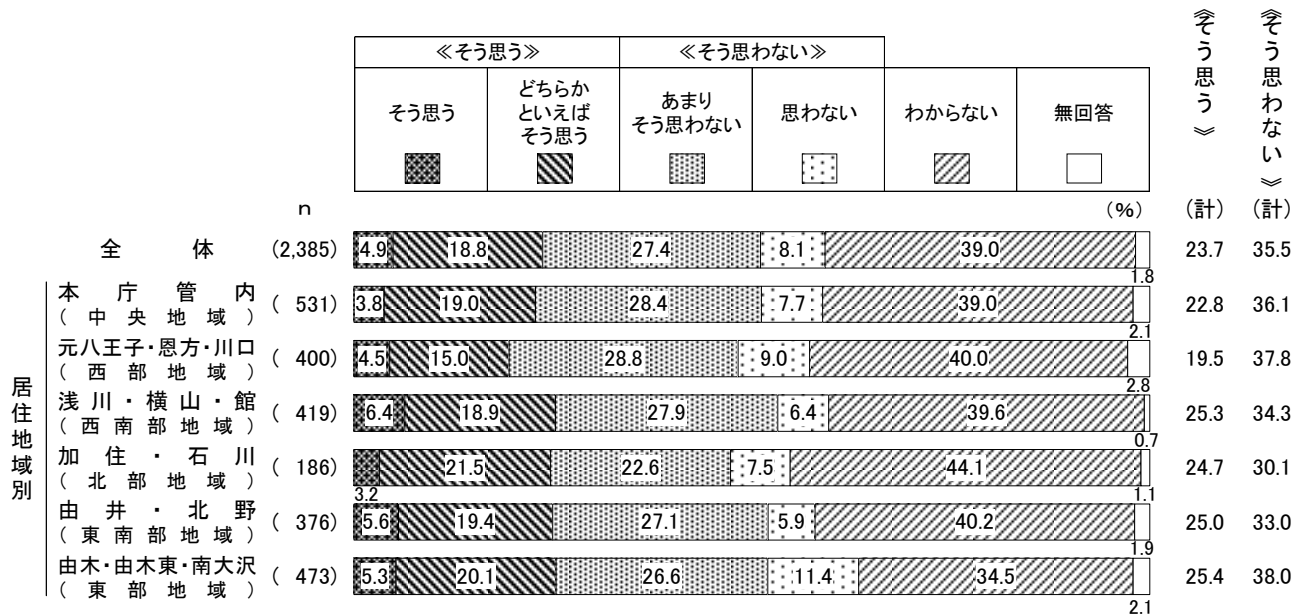
図3-31-2 大学等のまちづくりへの活用—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（41.6%）が女性（30.3%）より11.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18~29歳（29.2%）で3割弱と多くなっている。一方、《そう思わない》は50~59歳（40.2%）で約4割と多くなっている。（図3-31-2）

図3-31-3 大学等のまちづくりへの活用—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思わない》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（38.0%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（37.8%）、本庁管内（中央地域）（36.1%）で4割近くと多くなっている。（図3-31-3）

(32) この1年間の文化芸術活動への参加頻度

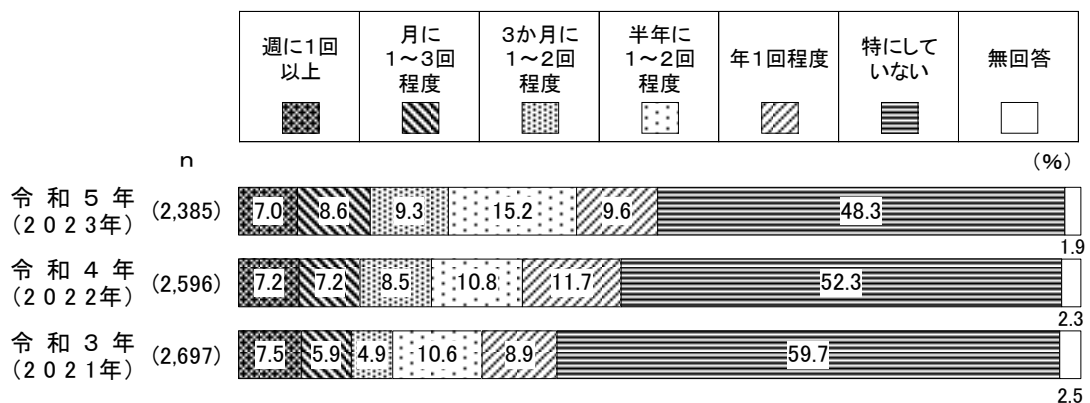
◇「半年に1～2回程度」が1割台半ば

問35 あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）しましたか。（○は1つだけ）

※文化芸術活動とは・・・

- 音楽（オペラ、オーケストラ、合唱、吹奏楽、ジャズなど）
- ポップス（J-POP（日本の若者向けポピュラー音楽）など）
- 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）
- メディア芸術（映画、マンガ、アニメーション、メディアアートなど）
- 伝統芸能（歌舞伎、落語、車人形、雅楽、能楽など）
- 歴史的な建物や遺跡（建造物、史跡、名勝など）
- 文学（小説、詩、短歌、俳句など）
- 生活文化（茶道、華道、書道、囲碁、将棋など）
- 演劇（現代演劇、ミュージカル、人形劇など）
- 舞踊（日本舞踊、バレエ、コンテンポラリーダンスなど）
- 芸能（落語、講談、浪曲、漫才など）

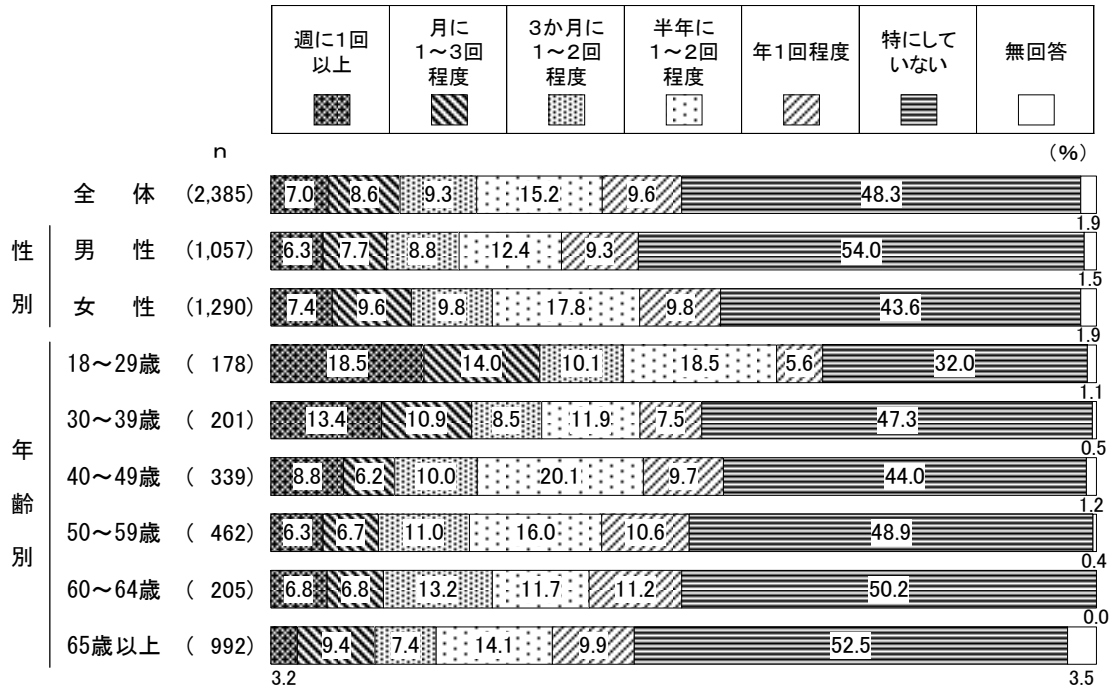
図3-32-1 この1年間の文化芸術活動への参加頻度－全体、経年比較



この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加したか聞いたところ、「半年に1～2回程度」(15.2%)が1割台半ばで最も多くなっている。次いで「年1回程度」(9.6%)、「3か月に1～2回程度」(9.3%)などの順となっている。一方、「特にしていない」(48.3%)は5割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「半年に1～2回程度」は令和4年(2022年)(10.8%)より4.4ポイント増加している。一方、「特にしていない」は令和4年(2022年)(52.3%)より4.0ポイント減少している。(図3-32-1)

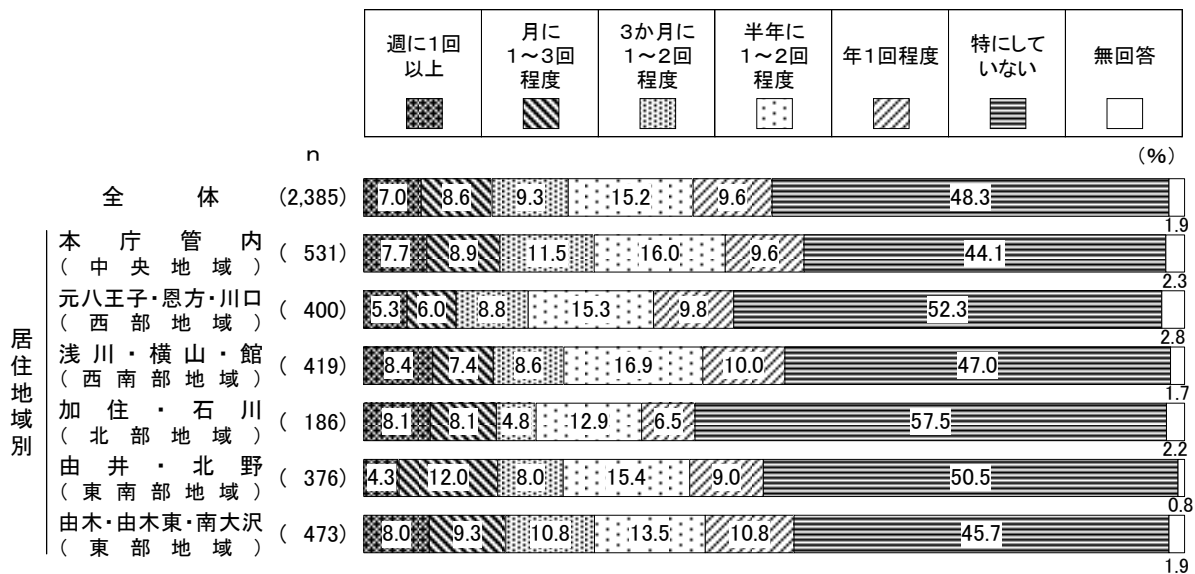
図3-32-2 この1年間の文化芸術活動への参加頻度—性別、年齢別



性別にみると、「特にしていない」は男性（54.0%）が女性（43.6%）より10.4ポイント高くなっている。一方、「半年に1～2回程度」は女性（17.8%）が男性（12.4%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「半年に1～2回程度」は40～49歳（20.1%）で約2割と多くなっている。「特にしていない」は65歳以上（52.5%）で5割強と多くなっている。（図3-32-2）

図3-32-3 この1年間の文化芸術活動への参加頻度—居住地域別



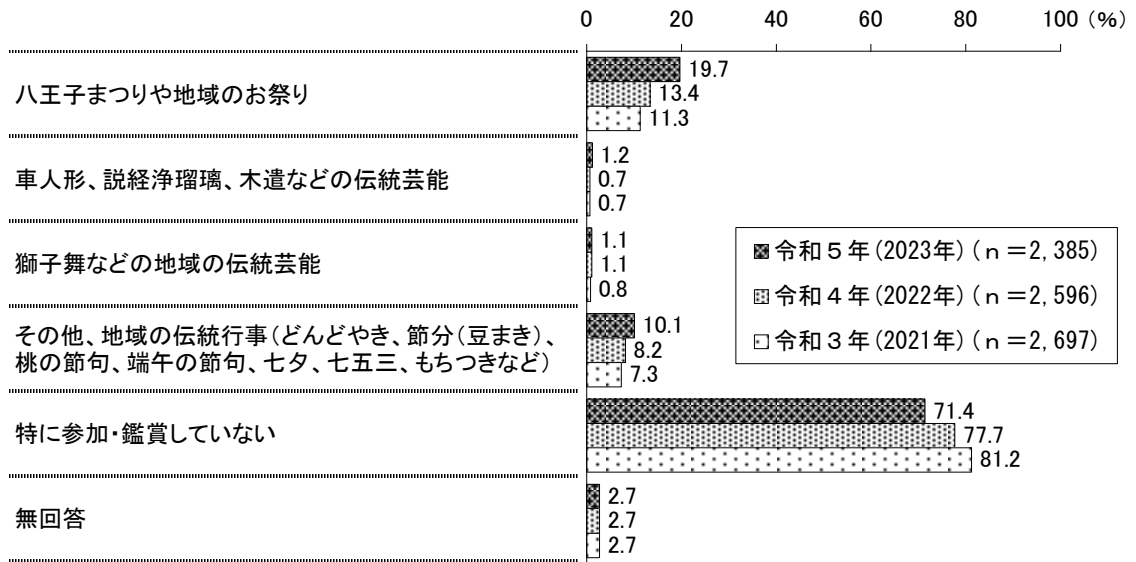
居住地域別にみると、「特にしていない」は加住・石川(北部地域)（57.5%）で6割近くと多くなっている。（図3-32-3）

(33) この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が2割弱

問36 あなたは、この1年間に、次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（〇はいくつでも）

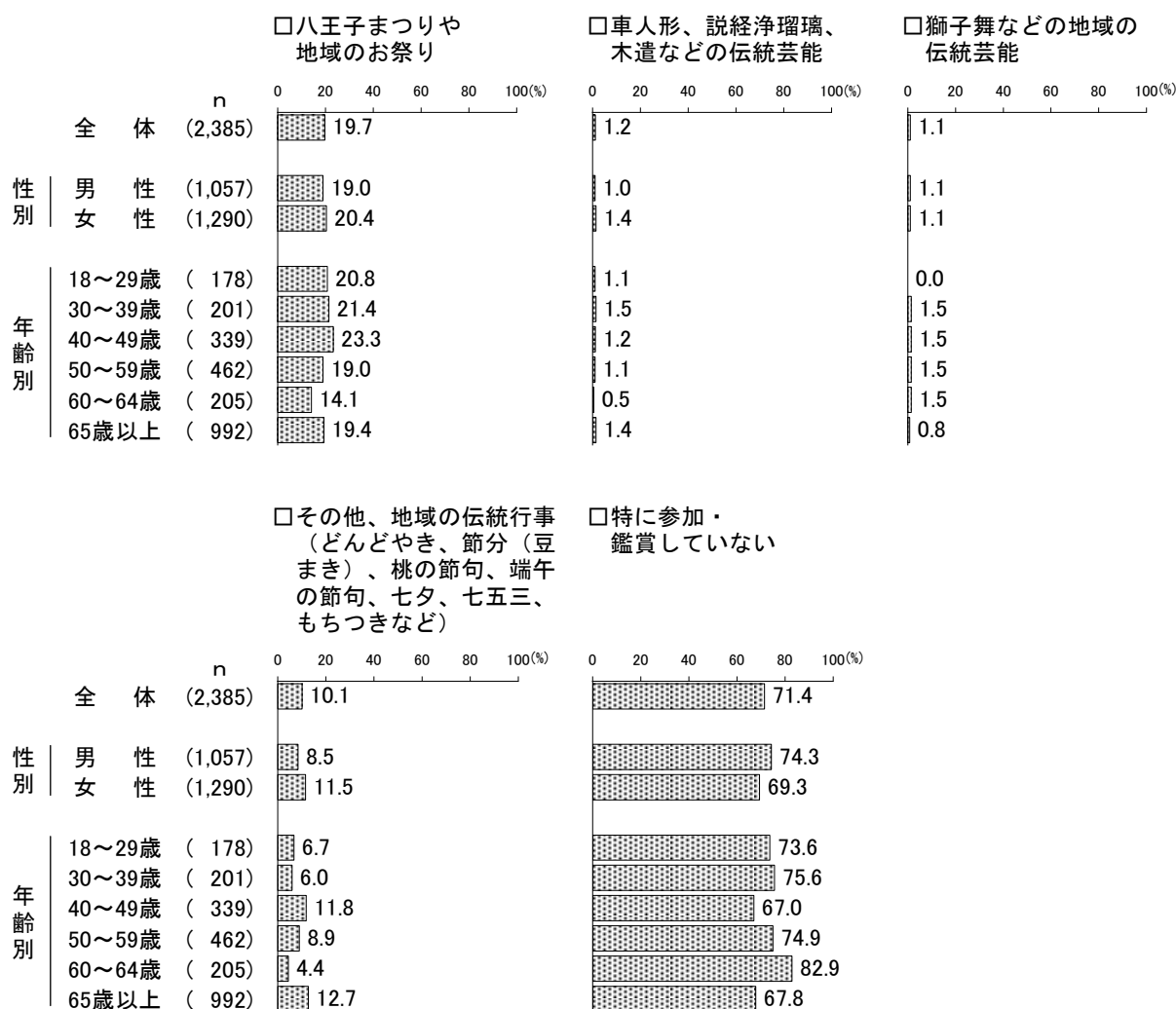
図3-33-1 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－全体、経年比較



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」(19.7%)が2割弱で最も多くなっている。次いで「その他、地域の伝統行事(どんどこやき、節分(豆まき)、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど)」(10.1%)、「車人形、説経浄瑠璃、木遣などの伝統芸能」(1.2%)、「獅子舞などの地域の伝統芸能」(1.1%)の順となっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」(71.4%)は7割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「八王子まつりや地域のお祭り」は令和4年(2022年)(13.4%)より6.3ポイント増加している。一方、「特に参加・鑑賞していない」は令和4年(2022年)(77.7%)より6.3ポイント減少している。(図3-33-1)

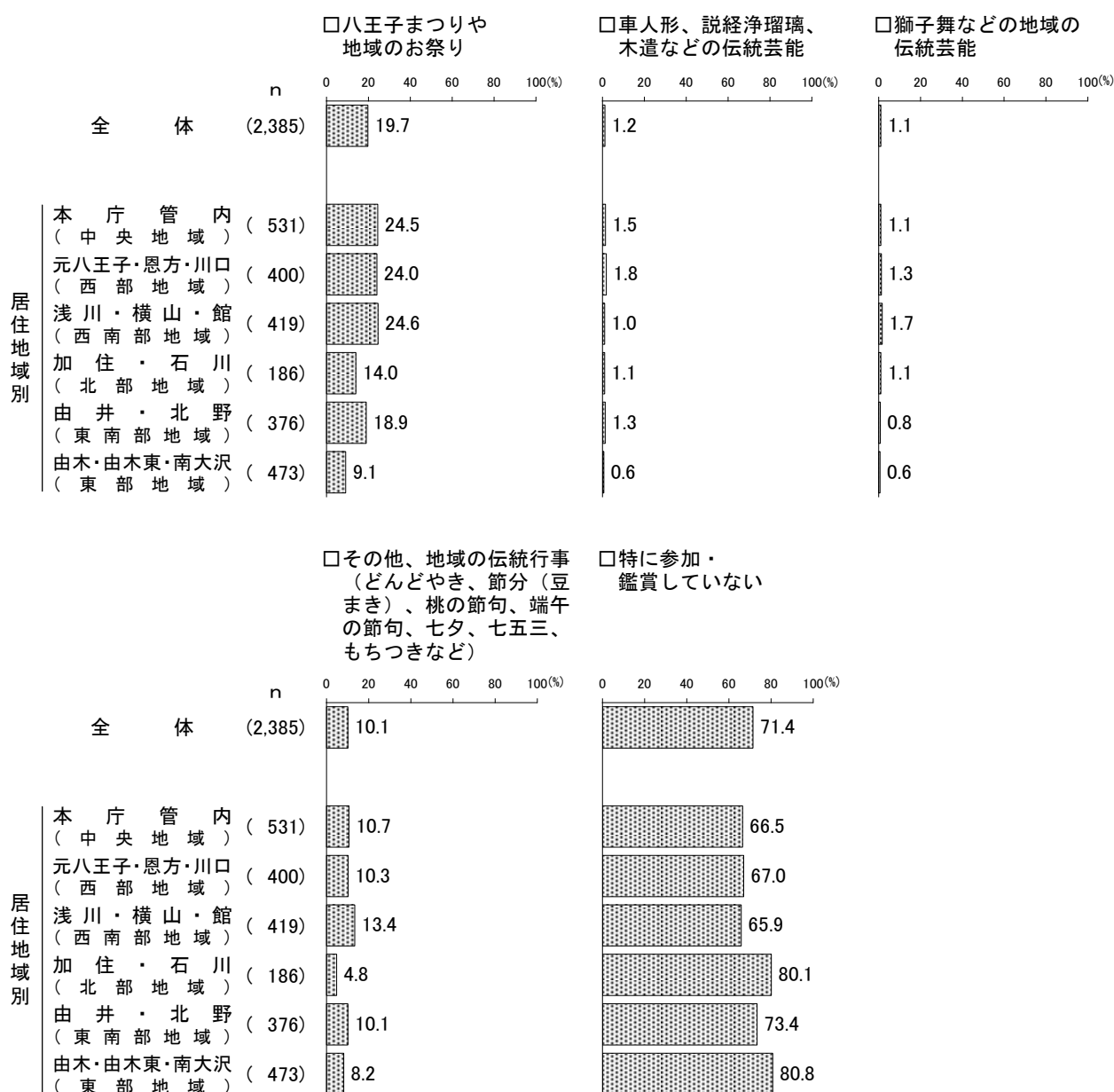
図3-33-2 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－性別、年齢別



性別にみると、「特に参加・鑑賞していない」は男性（74.3%）が女性（69.3%）より5.0ポイント高くなっている。一方、「その他、地域の伝統行事（どんとやき、節分（豆まき）、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど）」は女性（11.5%）が男性（8.5%）より3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は30～39歳（21.4%）と40～49歳（23.3%）で2割強と多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は60～64歳（82.9%）で8割強と多くなっている。（図3-33-2）

図3-33-3 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況—居住地域別



居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は浅川・横山・館(西南部地域)(24.6%)、本庁管内(中央地域)(24.5%)、元八王子・恩方・川口(西部地域)(24.0%)で2割台半ばと多くなっている。「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(80.8%)と加住・石川(北部地域)(80.1%)で約8割と多くなっている。(図3-33-3)

(34) 日本遺産認定の周知度

◇《認定されたことを知っている》が5割強

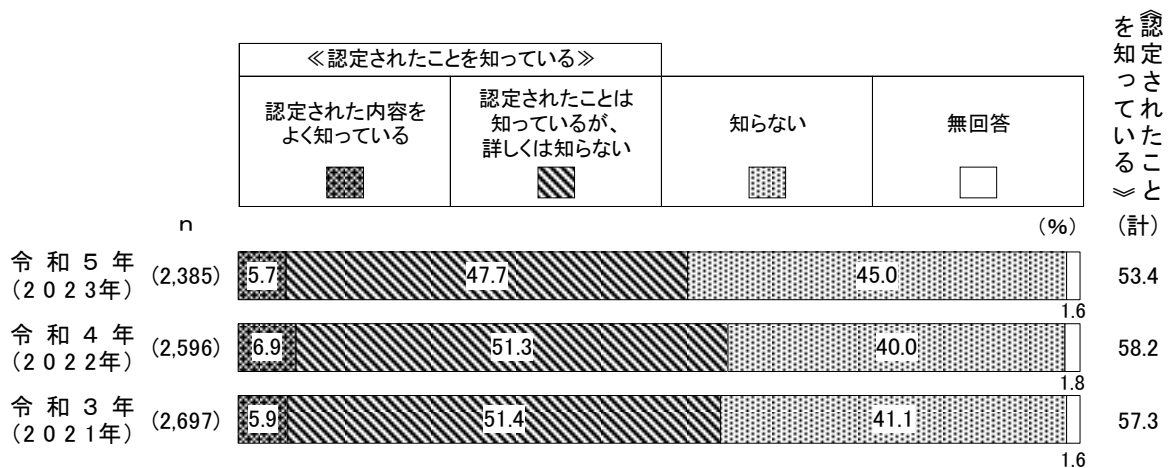
問37 八王子市の歴史文化の魅力を語るストーリーが『日本遺産』に認定されたことを知っていますか。(〇は1つだけ)

※「日本遺産」とは・・・

地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを国が認定する制度です。日本全国で、104のストーリーが「日本遺産」に認定されており、都内で唯一認定されているのが、八王子市のストーリー『靈氣満山 高尾山 ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～』です。

このストーリーは、養蚕や織物が盛んだったことから「桑都」と称された八王子の発展の歴史を、靈山・高尾山への人々の祈りをテーマにしてつづられています。

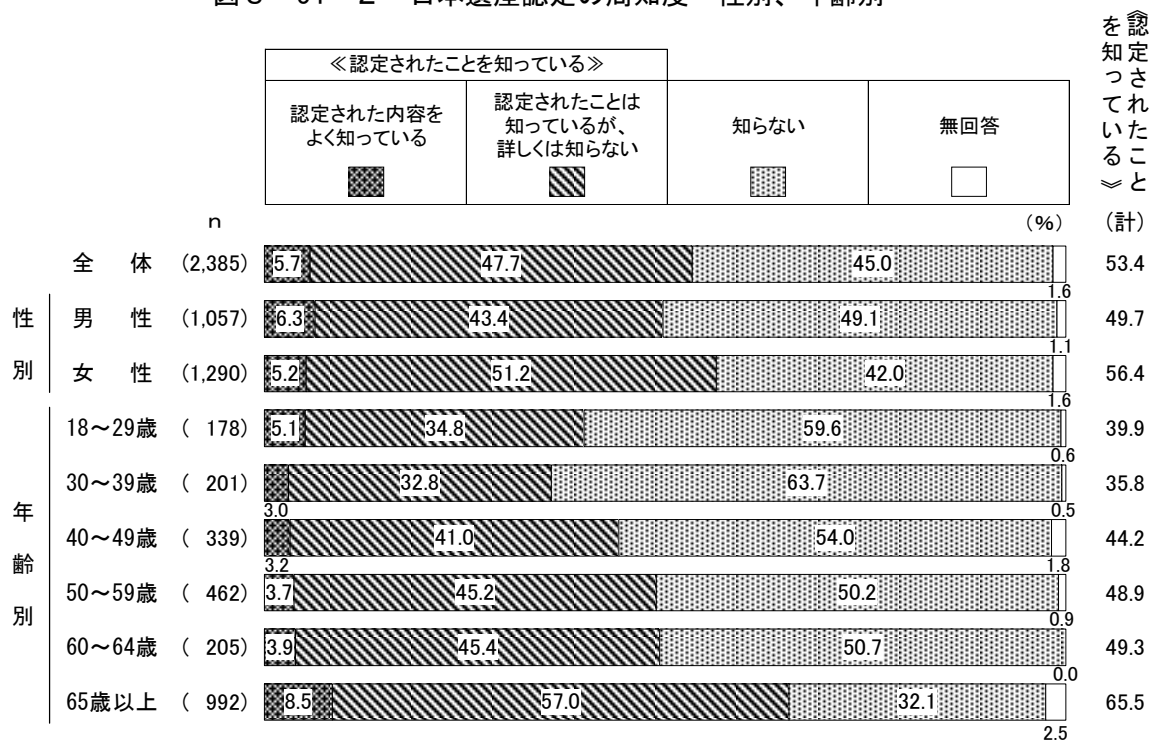
図3-34-1 日本遺産認定の周知度－全体、経年比較



八王子市の歴史文化の魅力を語るストーリーが『日本遺産』に認定されたことを知っているか聞いたところ、「認定された内容をよく知っている」(5.7%)と「認定されたことは知っているが、詳しくは知らない」(47.7%)を合わせた《認定されたことを知っている》(53.4%)は5割強となっている。一方、「知らない」(45.0%)は4割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、《認定されたことを知っている》は令和4年(2022年)(58.2%)より4.8ポイント減少している。(図3-34-1)

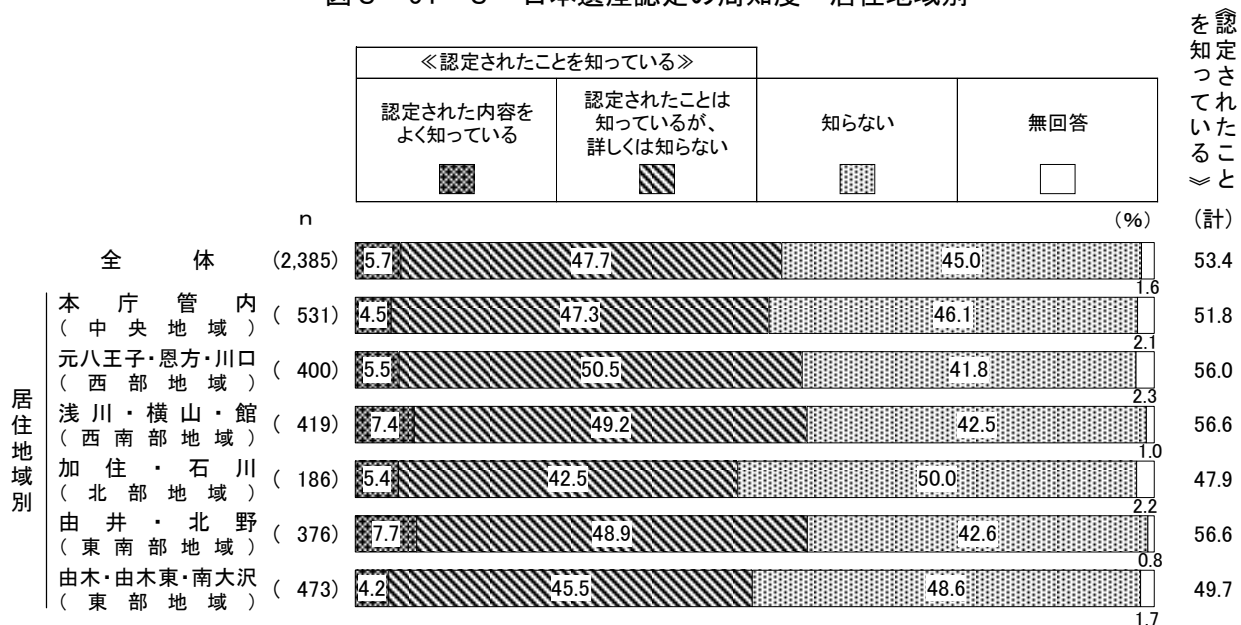
図3-34-2 日本遺産認定の周知度—性別、年齢別



性別にみると、《認定されたことを知っている》は女性（56.4%）が男性（49.7%）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《認定されたことを知っている》は65歳以上（65.5%）で6割台半ばと多くなっている。一方、「知らない」は30~39歳（63.7%）で6割強と多くなっている。（図3-34-2）

図3-34-3 日本遺産認定の周知度—居住地域別



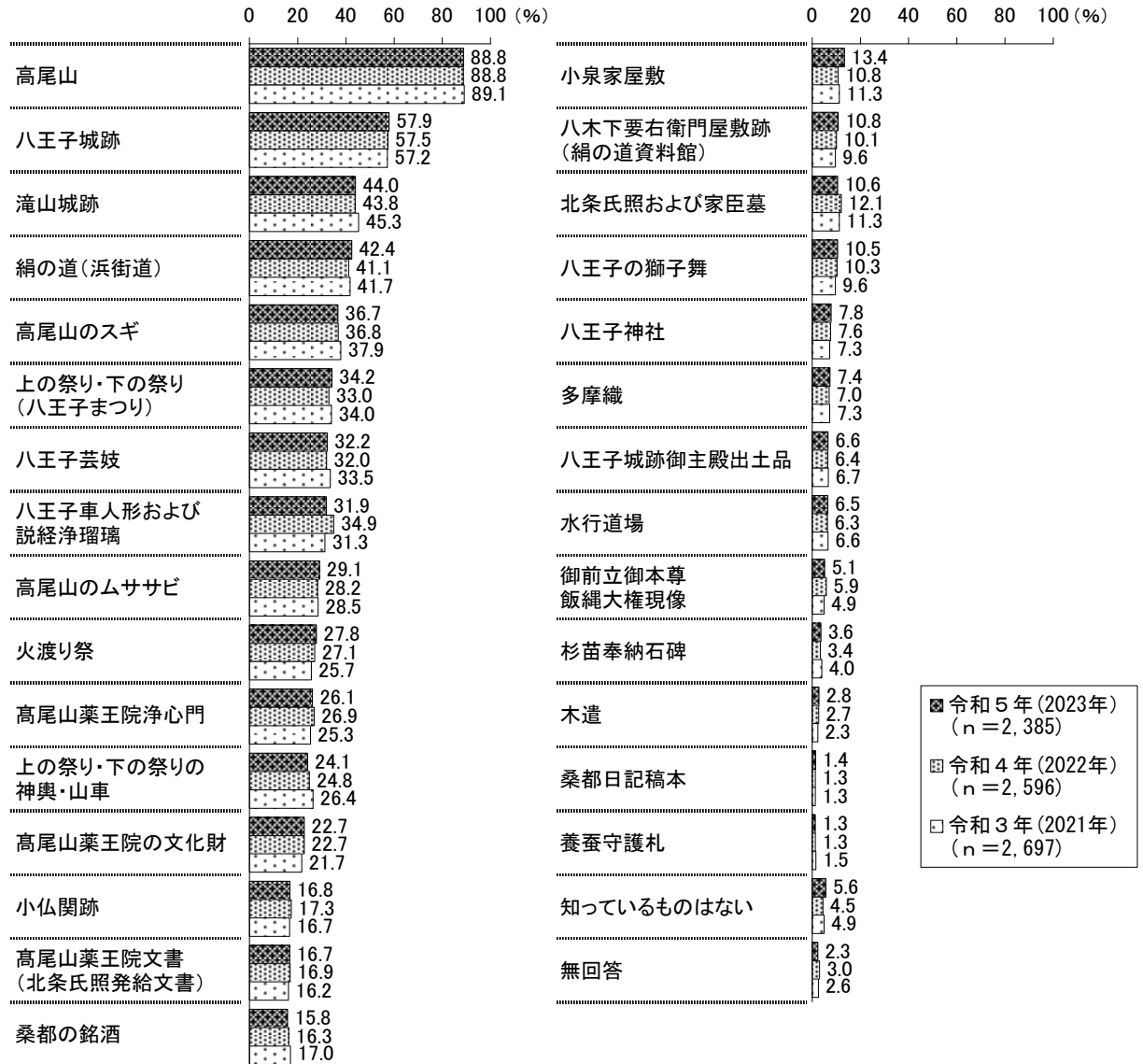
居住地域別にみると、《認定されたことを知っている》は浅川・横山・館（西南部地域）（56.6%）、由井・北野（東南部地域）（56.6%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）（56.0%）で6割近くと多くなっている。（図3-34-3）

(35) 日本遺産構成文化財の周知度

◇「高尾山」が9割近く

問38 八王子市の『日本遺産』の構成文化財（29件）のうち、知っているものは何がありますか。（○はいくつでも）

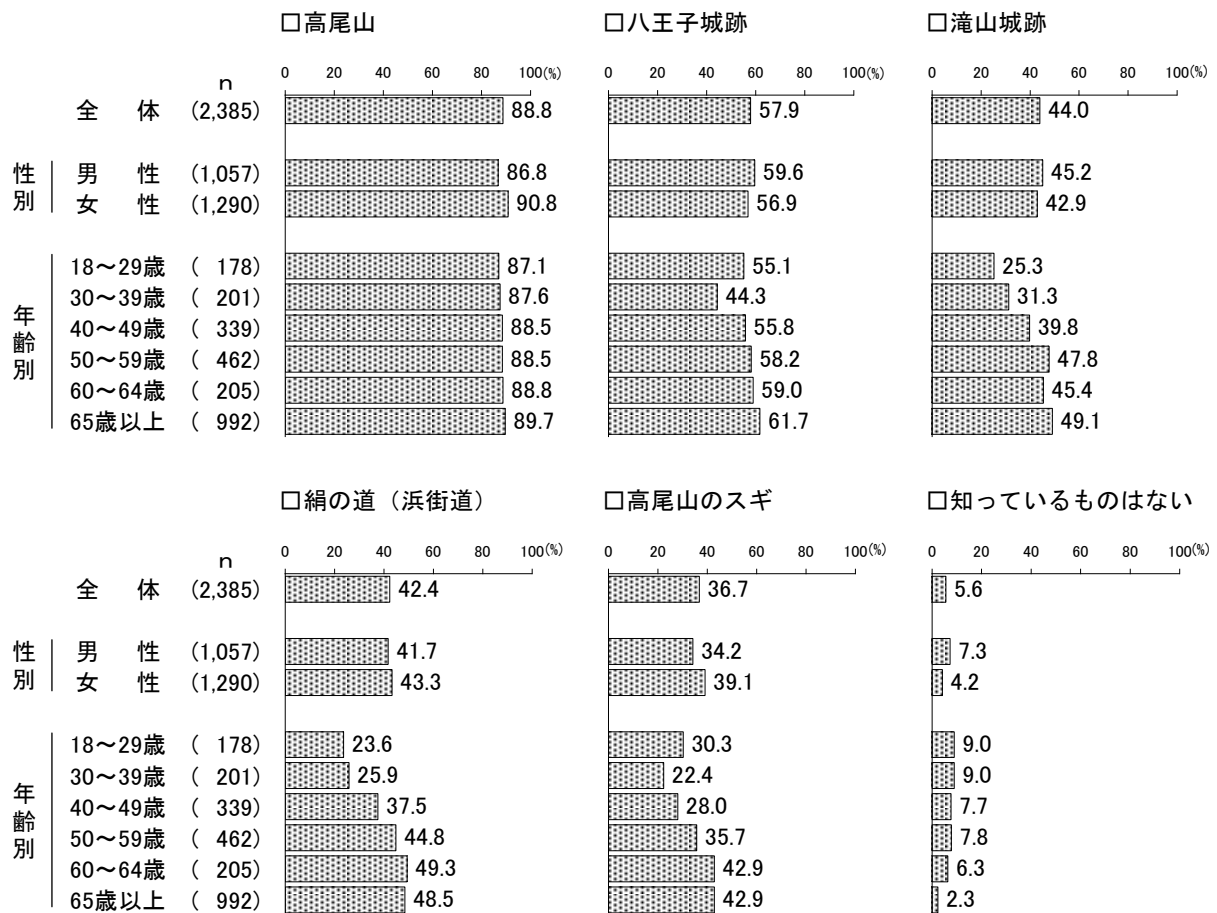
図3-35-1 日本遺産構成文化財の周知度—全体、経年比較



八王子市の『日本遺産』の構成文化財（29件）のうち、知っているものを聞いたところ、「高尾山」(88.8%)が9割近くで最も多くなっている。次いで「八王子城跡」(57.9%)、「滝山城跡」(44.0%)、「絹の道(浜街道)」(42.4%)、「高尾山のスギ」(36.7%)などの順となっている。一方、「知っているものはない」(5.6%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、「小泉家屋敷」は令和4年(2022年)(10.8%)より2.6ポイント増加している。一方、「八王子車人形および説経浄瑠璃」は令和4年(2022年)(34.9%)より3.0ポイント減少している。(図3-35-1)

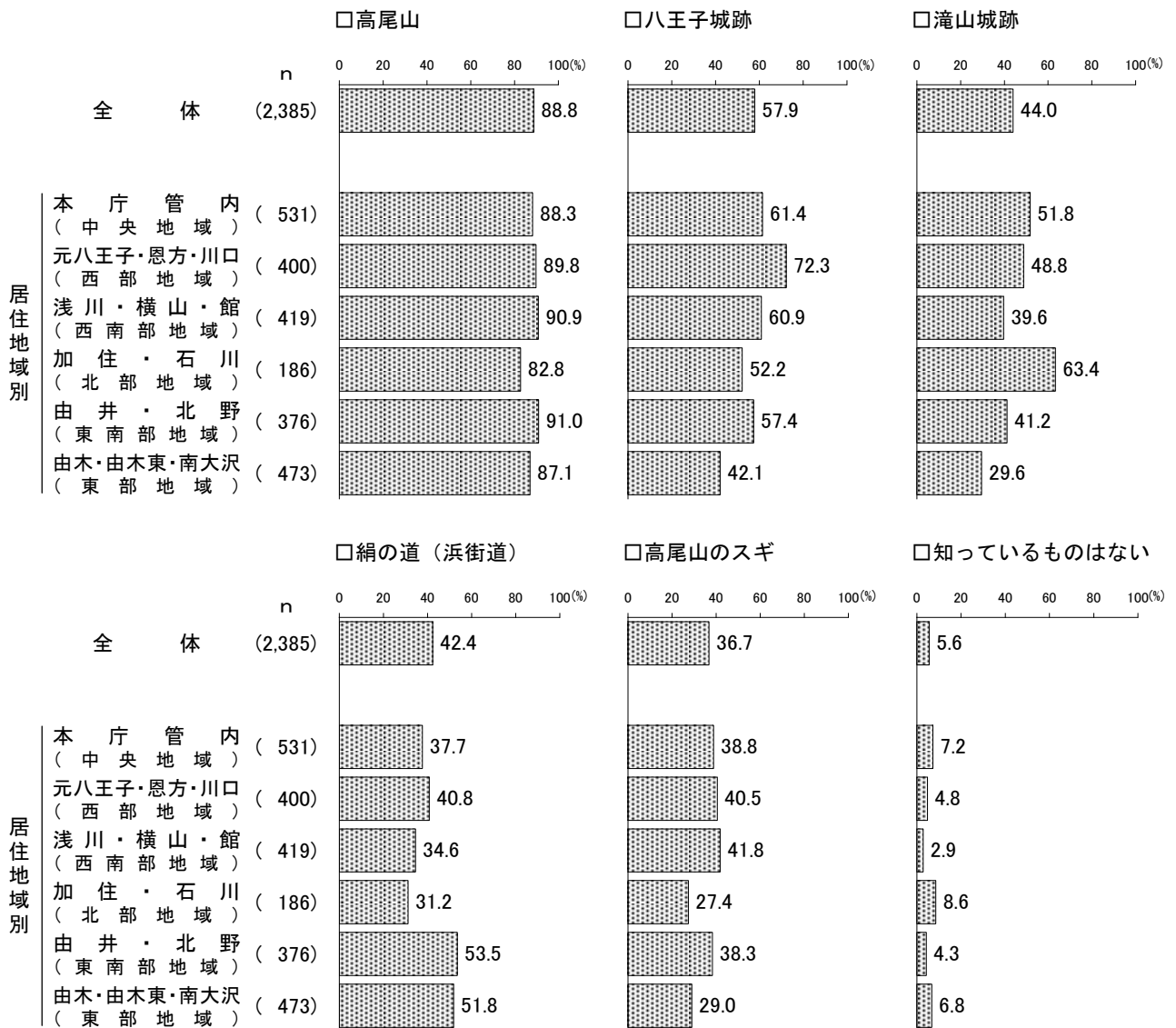
図3-35-2 日本遺産構成文化財の周知度—性別、年齢別（上位5位+「知っているものはない」）



性別にみると、「高尾山のスギ」は女性（39.1%）が男性（34.2%）より4.9ポイント、「高尾山」は女性（90.8%）が男性（86.8%）より4.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「知っているものはない」は男性（7.3%）が女性（4.2%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「高尾山」は65歳以上（89.7%）で9割弱と多くなっている。「八王子城跡」は65歳以上（61.7%）で6割強と多くなっている。「絹の道（浜街道）」は60~64歳（49.3%）で5割弱と多くなっている。（図3-35-2）

図 3-35-3 日本遺産構成文化財の周知度—居住地域別（上位 5 位 + 「知っているものはない」）



居住地域別にみると、「高尾山」は由井・北野（東南部地域）（91.0%）で9割強と多くなっている。「八王子城跡」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（72.3%）で7割強と多くなっている。「滝山城跡」は加住・石川（北部地域）（63.4%）で6割強と多くなっている。（図 3-35-3）

(36) 海外友好交流都市の周知度

◇《知っている》が3割強

問39 あなたは、市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っていますか。

(○は1つだけ)

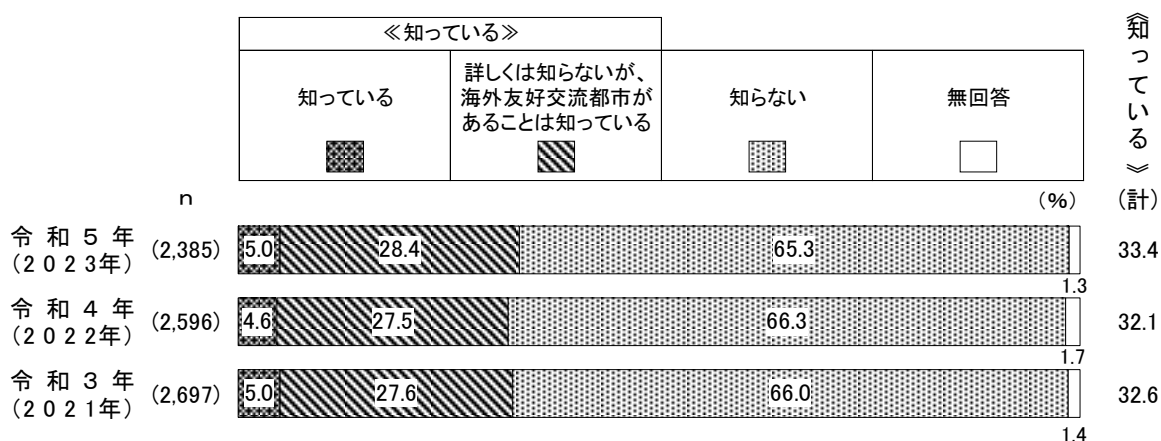
※「海外友好交流都市との交流」とは・・・

○平成18年(2006年)の市制施行90周年を機に、幅広い市民交流が実現できるよう、市は中国・泰安(たいあん)市、台湾・高雄(たかお)市、韓国・始興(しふん)市の3都市との間で友好交流協定を締結し、文化・教育・スポーツなど様々な面で交流を実施しています。

交流実績：海外友好交流都市写真展、八王子まつりへの出演、サッカー交流 など

○また、市制100周年の節目である平成29年(2017年)に、本市中町出身の医師・肥沼 信次(こえぬまのぶつぐ)博士ゆかりのドイツ・ヴリーツェン市と新たな友好交流協定を締結しました。

図3-36-1 海外友好交流都市の周知度－全体、経年比較

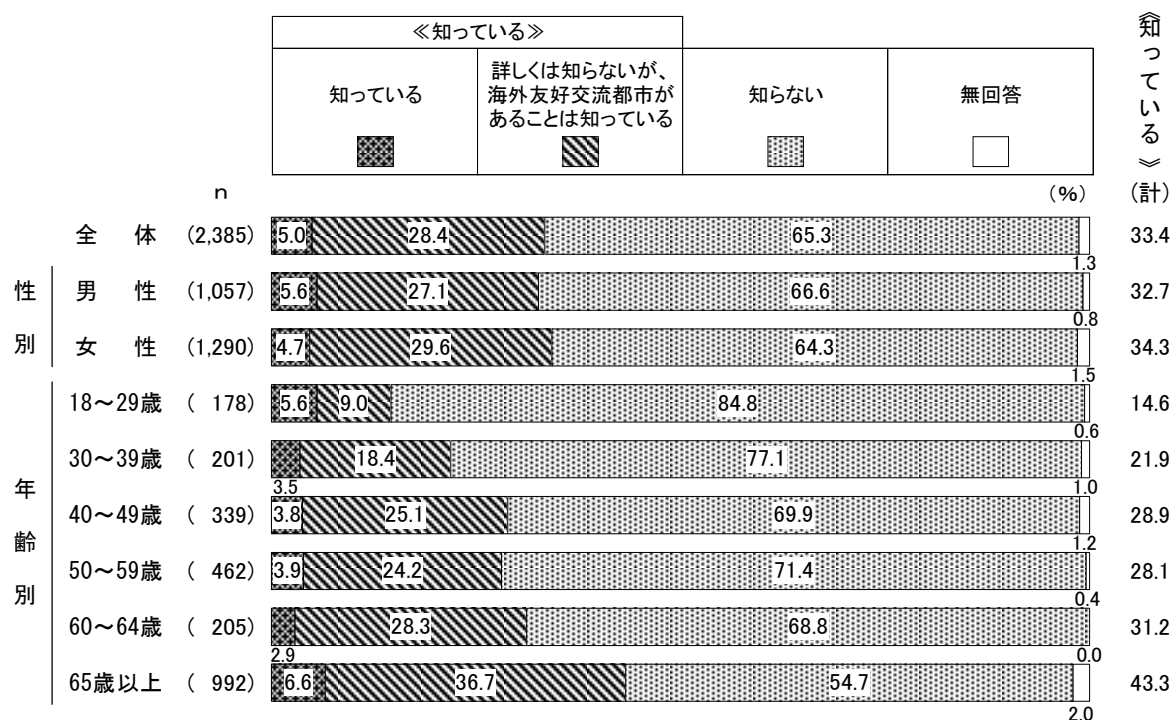


市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(5.0%)と「詳しくは知らないが、海外友好交流都市があることは知っている」(28.4%)を合わせた《知っている》(33.4%)は3割強となっている。一方、「知らない」(65.3%)は6割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-36-1)

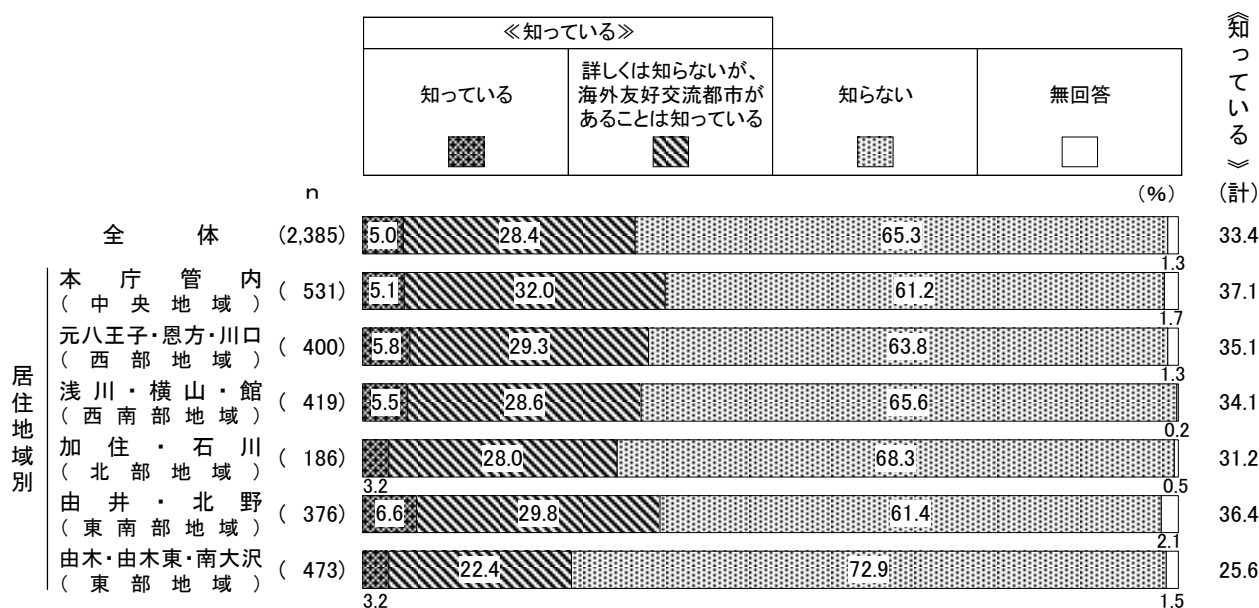
図3-36-2 海外友好交流都市の周知度－性別、年齢別



性別にみると、「詳しくは知らないが、海外友好交流都市があることは知っている」は女性(29.6%)が男性(27.1%)より2.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《知っている》は65歳以上(43.3%)で4割強と多くなっている。一方、「知らない」は18～29歳(84.8%)で8割台半ばと多くなっている。(図3-36-2)

図3-36-3 海外友好交流都市の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、《知っている》は本庁管内(中央地域)(37.1%)と由井・北野(東南部地域)(36.4%)で4割近くと多くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(72.9%)で7割強と多くなっている。(図3-36-3)

(37) 障害のある方への理解や配慮

◇《している》が7割弱

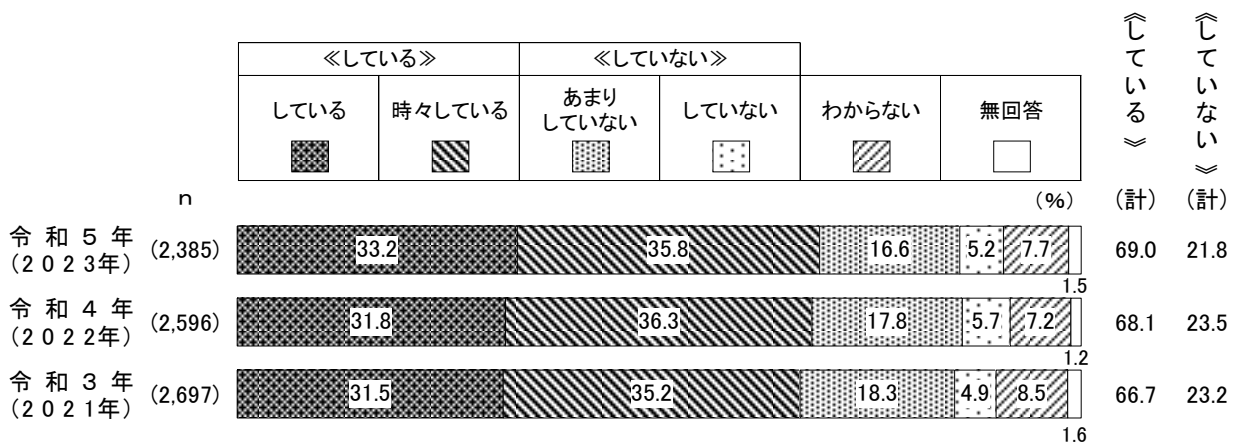
問40 あなたは、日ごろ障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。

(○は1つだけ)

※「適切な配慮」とは・・・

- 困っている様子の方を見かけたら、声をかける。
- ゆっくりわかりやすく話すなどしたり、筆談したりするなど障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。
- 優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどを必要としている方の妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、内部障害、難病など、外見からは障害がわかりにくい方々もいます。)

図3-37-1 障害のある方への理解や配慮—全体、経年比較

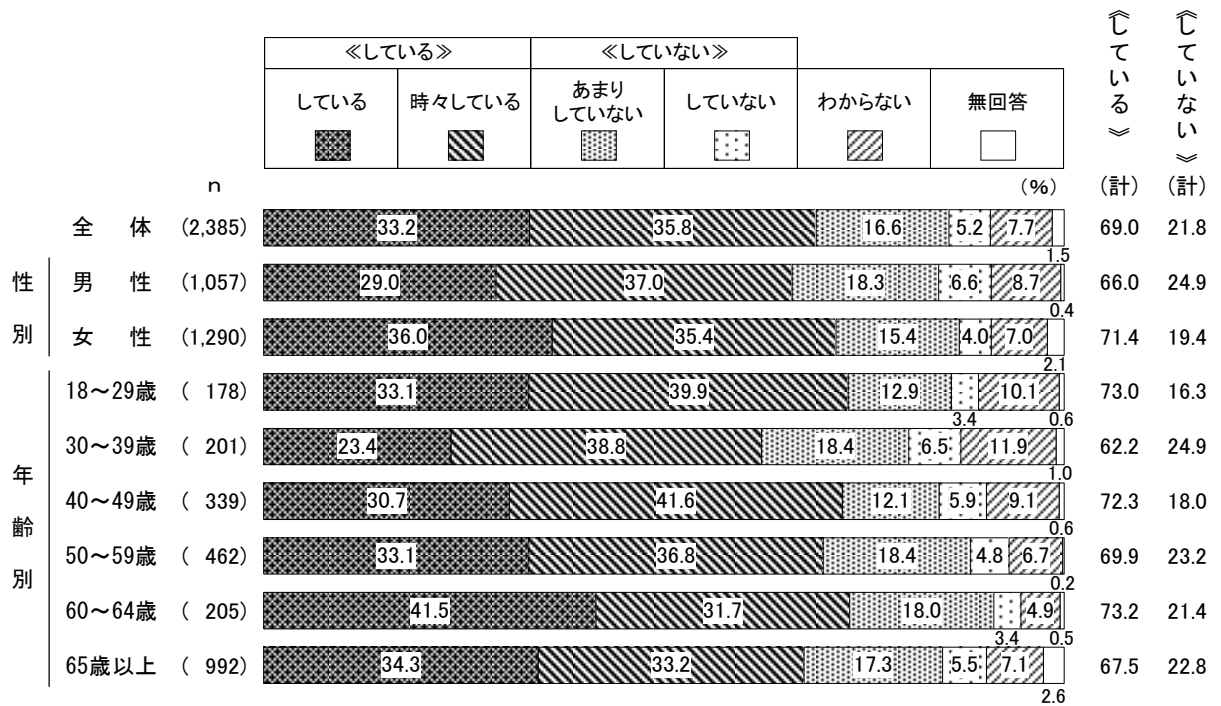


日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「している」(33.2%)と「時々している」(35.8%)を合わせた《している》(69.0%)は7割弱となっている。一方、「あまりしていない」(16.6%)と「していない」(5.2%)を合わせた《していない》(21.8%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-37-1)

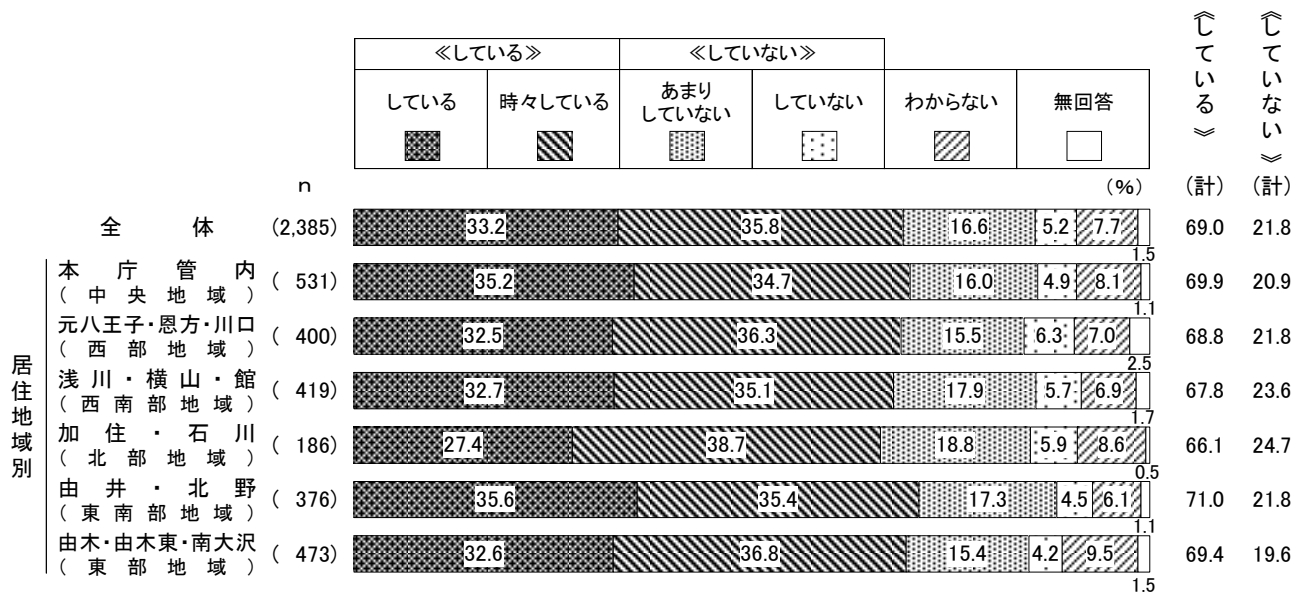
図3-37-2 障害のある方への理解や配慮—性別、年齢別



性別にみると、《している》は女性（71.4%）が男性（66.0%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《している》は18~29歳（73.0%）、40~49歳（72.3%）、60~64歳（73.2%）で7割強と多くなっている。（図3-37-2）

図3-37-3 障害のある方への理解や配慮—居住地域別



居住地域別にみると、《している》は由井・北野（東南部地域）（71.0%）で7割強と多くなっている。（図3-37-3）

(38) 高齢者あんしん相談センターの周知度

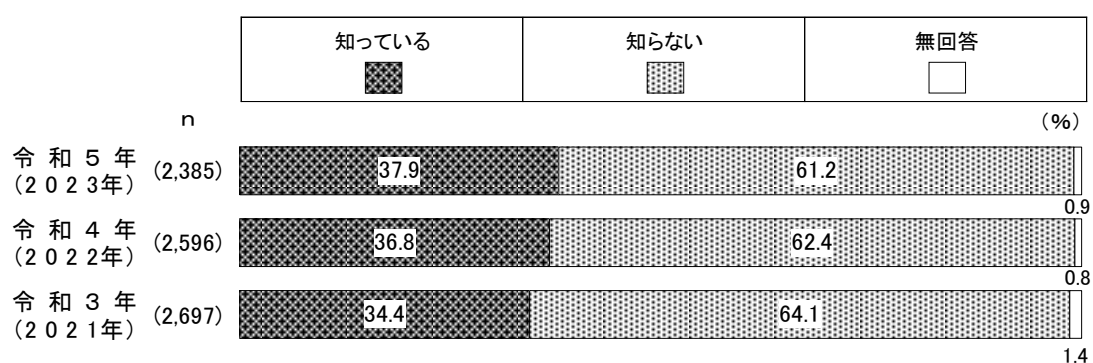
◇「知っている」が4割近く

問41 あなたは、「高齢者あんしん相談センター」を知っていますか。(○は1つだけ)

※高齢者あんしん相談センターとは・・・

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らせるよう、地域の身近な相談窓口として市内に設置している施設です。介護保険法に規定された地域包括支援センターのことで、八王子市では親しみやすいようこの愛称を付けています。

図3-38-1 高齢者あんしん相談センターの周知度－全体、経年比較

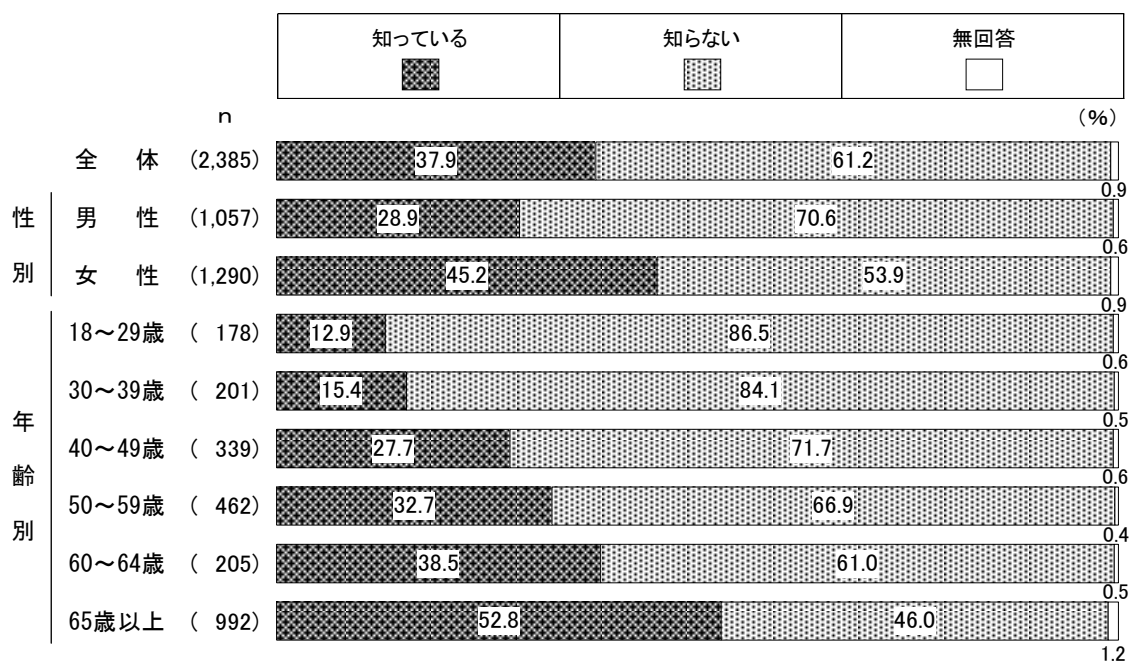


高齢者あんしん相談センターを知っているか聞いたところ、「知っている」(37.9%)が4割近く、「知らない」(61.2%)は6割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-38-1)

図 3-38-2 高齢者あんしん相談センターの周知度—性別、年齢別

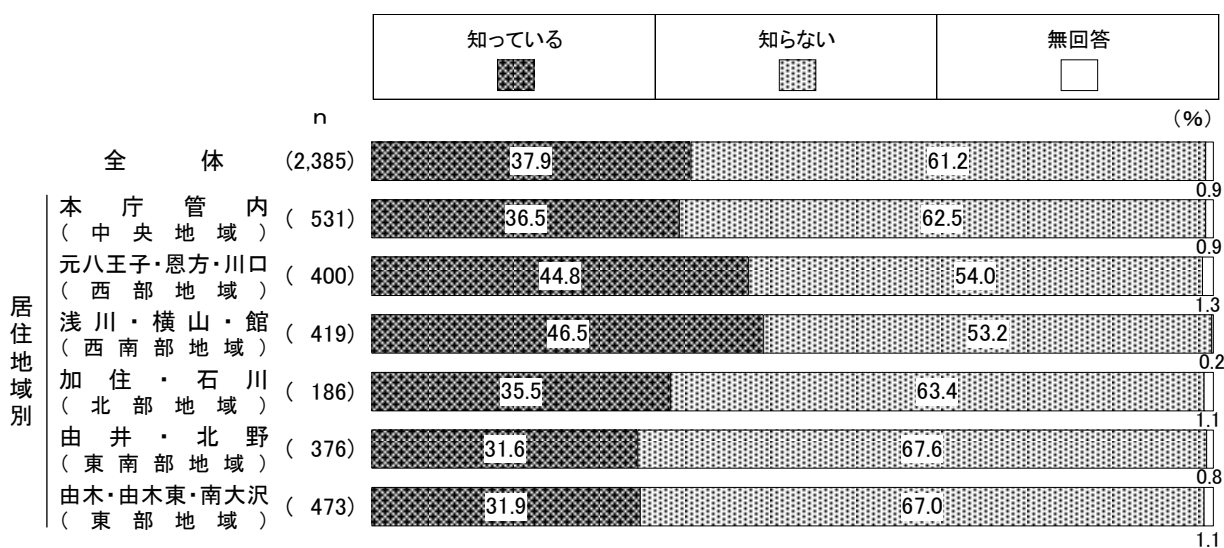


性別にみると、「知っている」は女性（45.2%）が男性（28.9%）より16.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（52.8%）で5割強と多くなっている。一方、「知らない」は18~29歳（86.5%）で9割近くと多くなっている。

(図 3-38-2)

図 3-38-3 高齢者あんしん相談センターの周知度—居住地域別



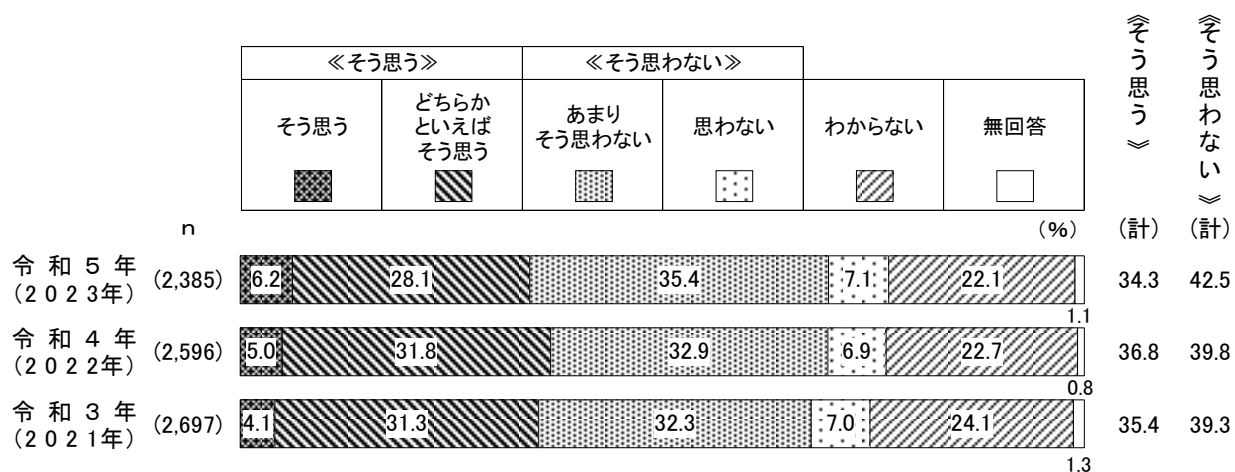
居住地域別にみると、「知っている」は浅川・横山・館（西南部地域）（46.5%）で5割近くと多くなっている。一方、「知らない」は由井・北野（東南部地域）（67.6%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（67.0%）で7割近くと多くなっている。（図 3-38-3）

(39) 誰もが安全で快適に暮らせるまち

◇《《そう思う》》が3割台半ば

問42 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。(〇は1つだけ)

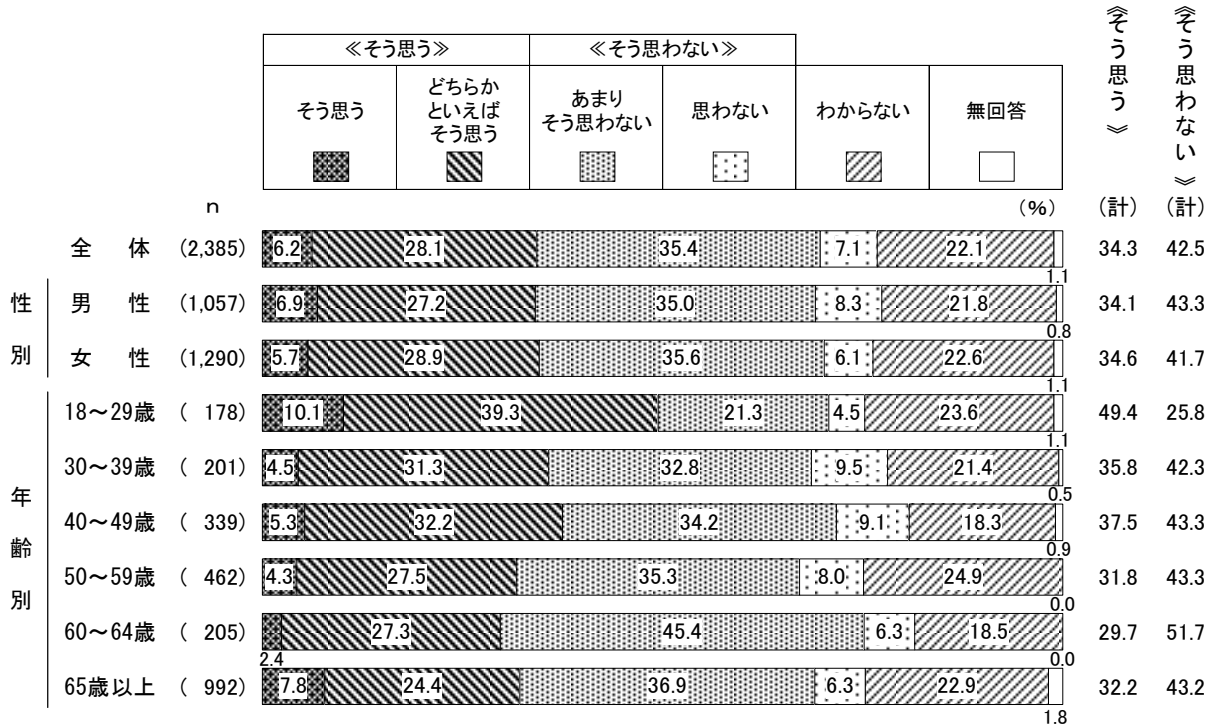
図3-39-1 誰もが安全で快適に暮らせるまち—全体、経年比較



市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(6.2%)と「どちらかといえばそう思う」(28.1%)を合わせた《《そう思う》》(34.3%)は3割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(35.4%)と「思わない」(7.1%)を合わせた《《そう思わない》》(42.5%)は4割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思わない》》は令和4年(2022年)(39.8%)より2.7ポイント増加している。(図3-39-1)

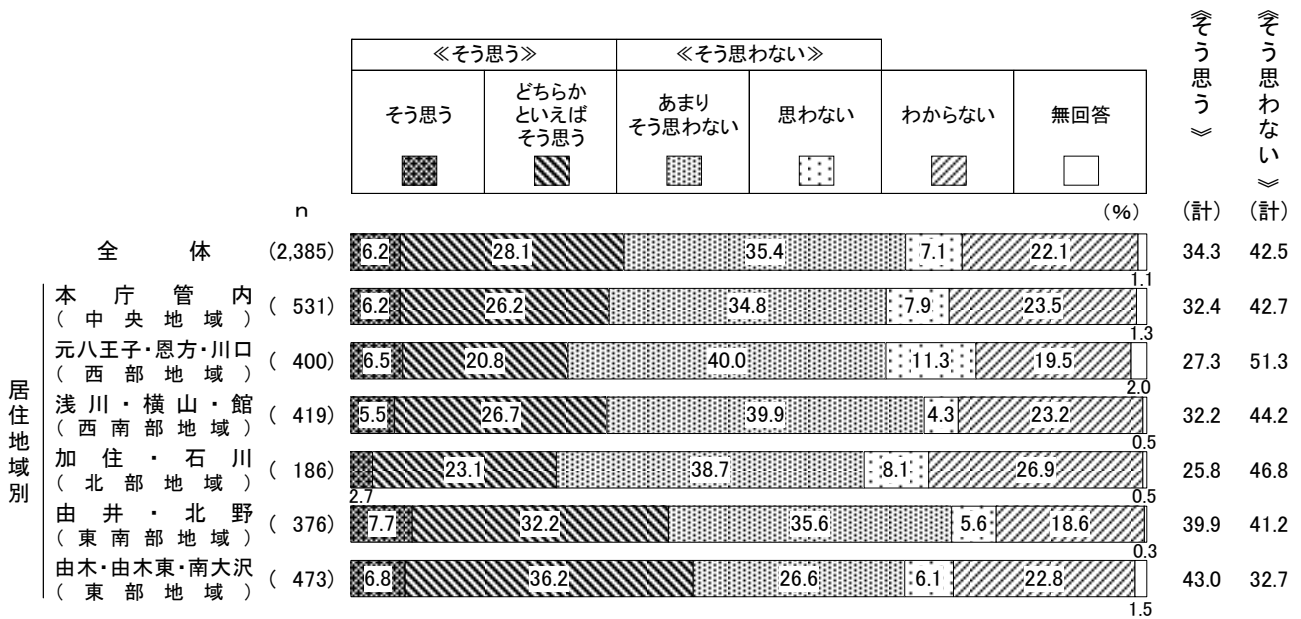
図3-39-2 誰もが安全で快適に暮らせるまち—性別、年齢別



性別にみると、「思わない」は男性（8.3%）が女性（6.1%）より2.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《《そう思う》》は18~29歳（49.4%）で5割弱と多くなっている。一方、《《そう思わない》》は60~64歳（51.7%）で5割強と多くなっている。（図3-39-2）

図3-39-3 誰もが安全で快適に暮らせるまち—居住地域別



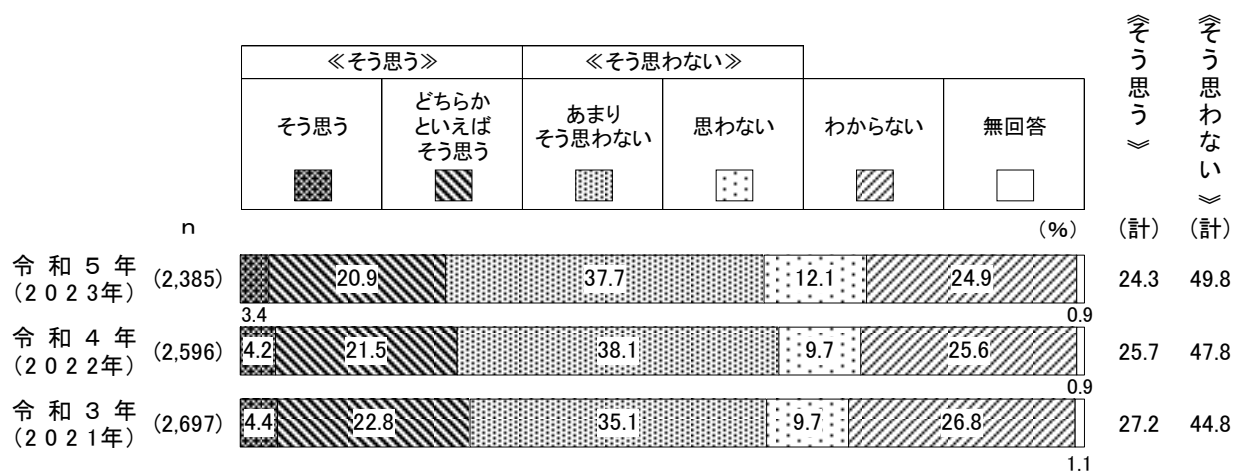
居住地域別にみると、《《そう思う》》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（43.0%）で4割強と多くなっている。一方、《《そう思わない》》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（51.3%）で5割強と多くなっている。（図3-39-3）

(40) 市内の交通渋滞緩和

◇《《そう思う》》が2割台半ば

問43 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。(○は1つだけ)

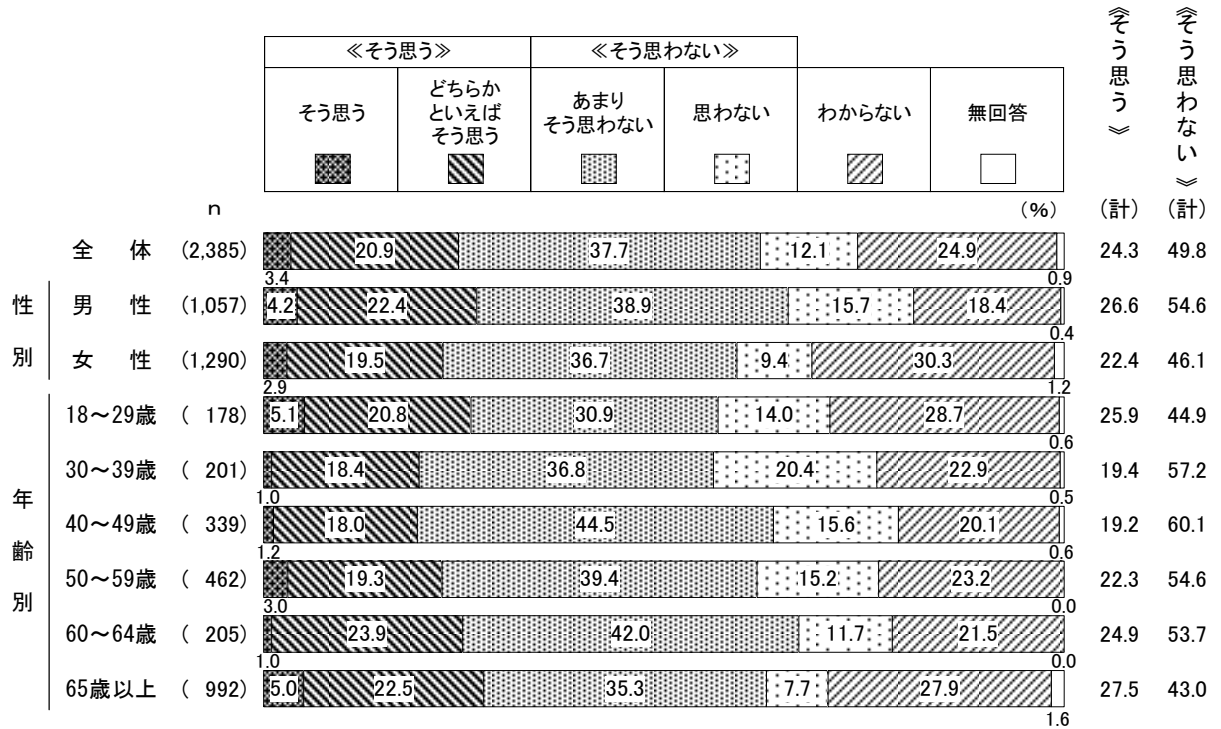
図3-40-1 市内の交通渋滞緩和—全体、経年比較



市内の交通渋滞が緩和されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.4%)と「どちらかといえばそう思う」(20.9%)を合わせた《《そう思う》》(24.3%)は2割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(37.7%)と「思わない」(12.1%)を合わせた《《そう思わない》》(49.8%)は5割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思わない》》は令和4年(2022年)(47.8%)より2.0ポイント増加している。(図3-40-1)

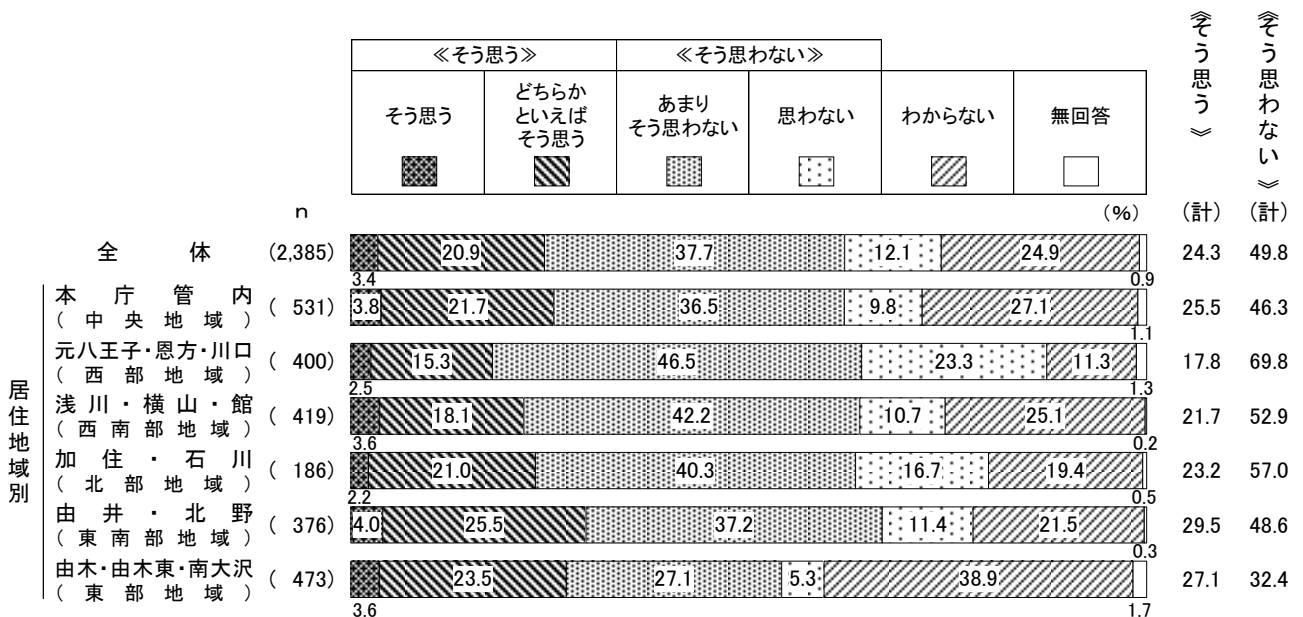
図3-40-2 市内の交通渋滞緩和—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（54.6%）が女性（46.1%）より8.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上（27.5%）で3割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は40~49歳（60.1%）で約6割と多くなっている。（図3-40-2）

図3-40-3 市内の交通渋滞緩和—居住地域別



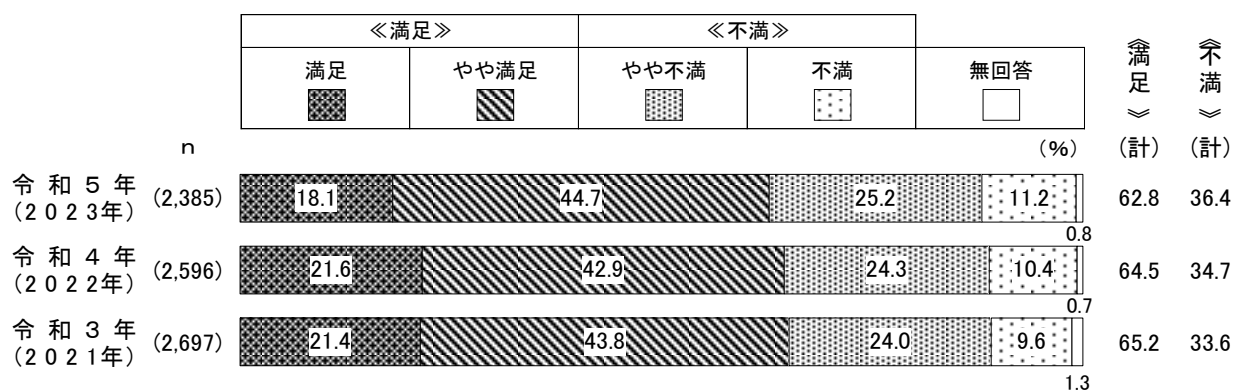
居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（29.5%）で3割弱と多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（69.8%）で7割弱と多くなっている。（図3-40-3）

(41) 公共交通の利便性の満足度

◇《満足》が6割強

問44 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は1つだけ）

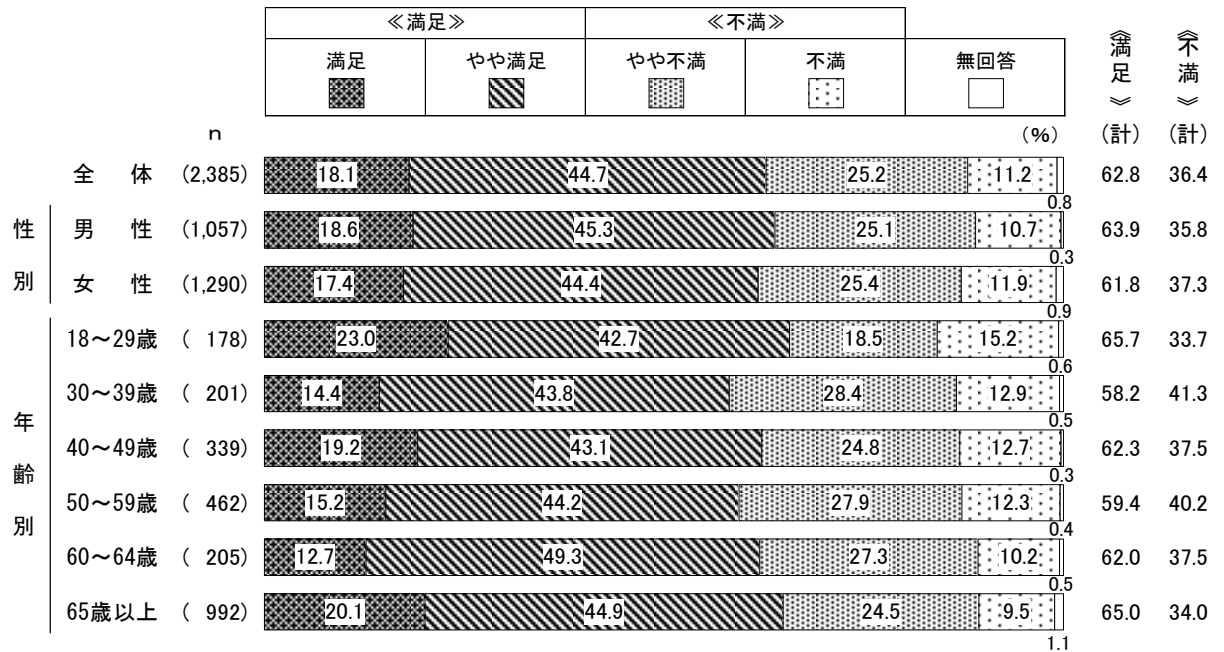
図3-41-1 公共交通の利便性の満足度—全体、経年比較



地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足しているか聞いたところ、「満足」（18.1%）と「やや満足」（44.7%）を合わせた《満足》（62.8%）は6割強となっている。一方、「やや不満」（25.2%）と「不満」（11.2%）を合わせた《不満》（36.4%）は4割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「満足」は令和4年（2022年）（21.6%）より3.5ポイント減少している。（図3-41-1）

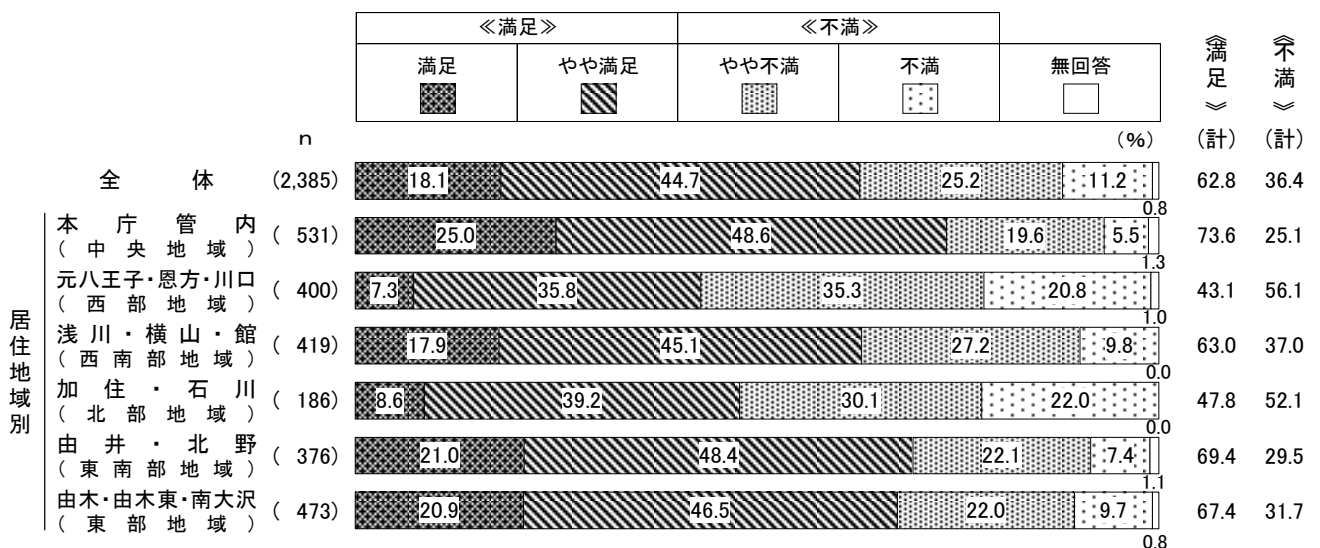
図3-41-2 公共交通の利便性の満足度－性別、年齢別



性別にみると、《満足》は男性（63.9%）が女性（61.8%）より2.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《満足》は18～29歳（65.7%）と65歳以上（65.0%）で6割台半ばと多くなっている。一方、《不満》は30～39歳（41.3%）で4割強と多くなっている。（図3-41-2）

図3-41-3 公共交通の利便性の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）（73.6%）で7割強と多くなっている。一方、《不満》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（56.1%）で6割近くと多くなっている。

（図3-41-3）

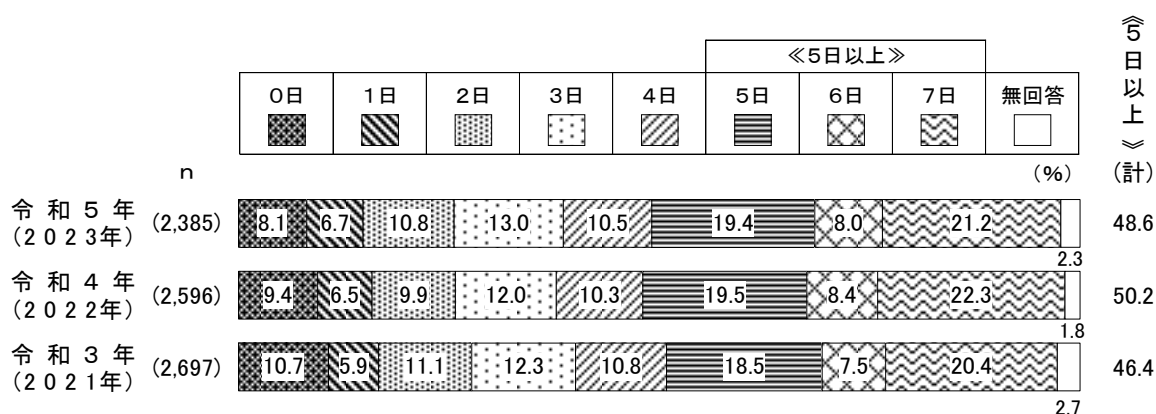
(42) 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数

◇《5日以上》が5割近く

問45 1週間のうち、あなたが10分以上続けて歩く日は何日ありますか。(〇は1つだけ)

※歩くとは仕事や日常生活で歩くこと、ある場所からある場所へ移動すること、あるいは趣味や運動としてのウォーキング、散歩などを含みます。

図3-42-1 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数—全体、経年比較

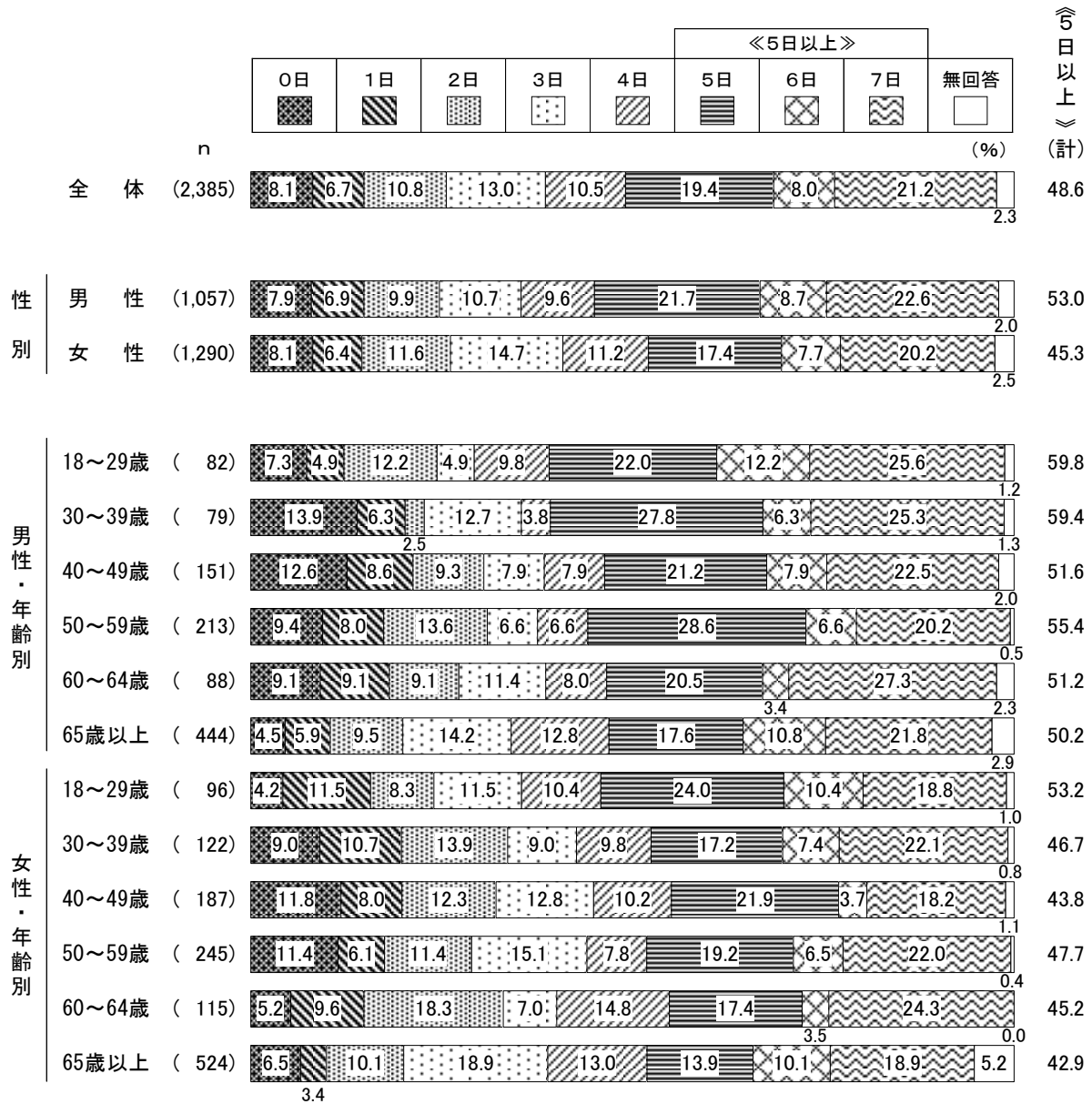


1週間のうち、10分以上続けて歩く日は何日あるか聞いたところ、「7日」(21.2%)が2割強で最も多く、これに「5日」(19.4%)と「6日」(8.0%)を合わせた《5日以上》(48.6%)は5割近くとなっている。一方、「0日」(8.1%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-42-1)

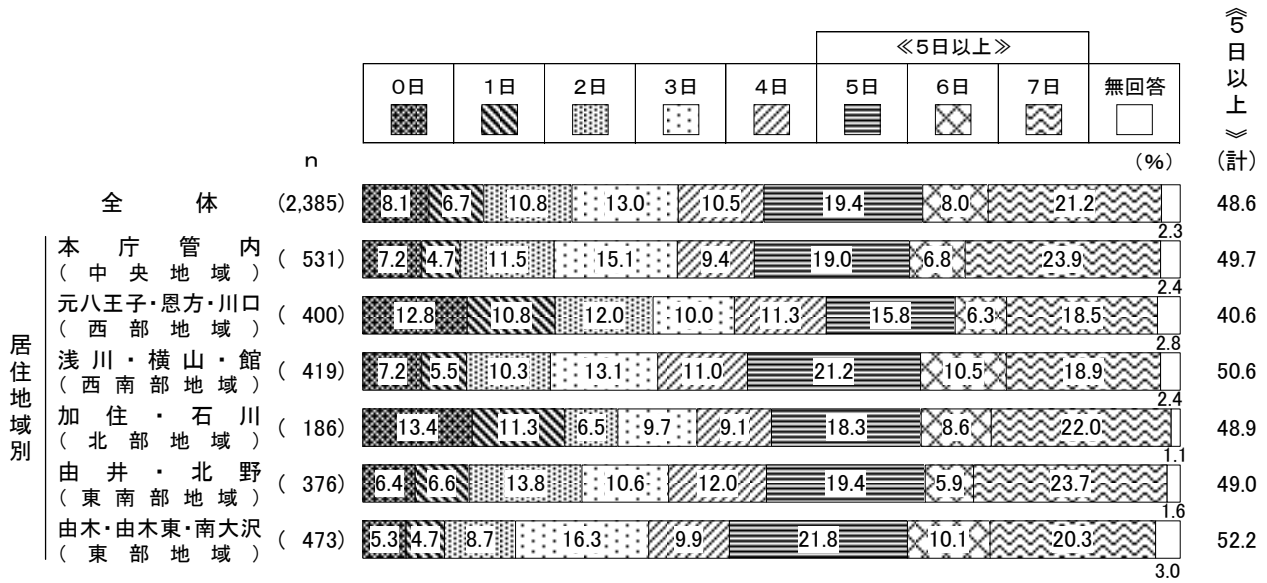
図3-42-2 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数—性別、性・年齢別



性別にみると、≧5日以上は男性（53.0%）が女性（45.3%）より7.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、≧5日以上は男性18~29歳（59.8%）と男性30~39歳（59.4%）で6割弱と多くなっている。（図3-42-2）

図3-42-3 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数－居住地域別



居住地域別にみると、「5日以上」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（52.2%）で5割強と多くなっている。（図3-42-3）

(43) 1日の平均的な歩行時間と平均歩数

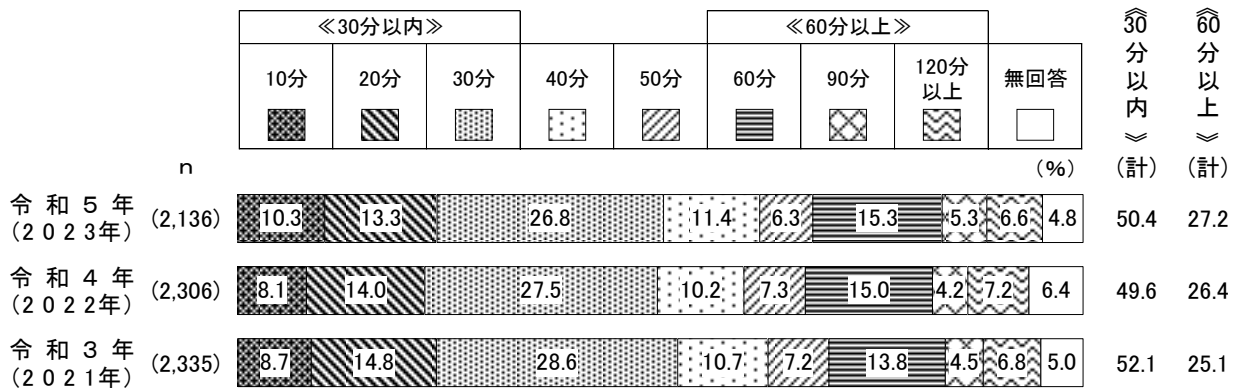
◇《30分以内》が約5割

(問45で「1日」～「7日」とお答えの方へ)

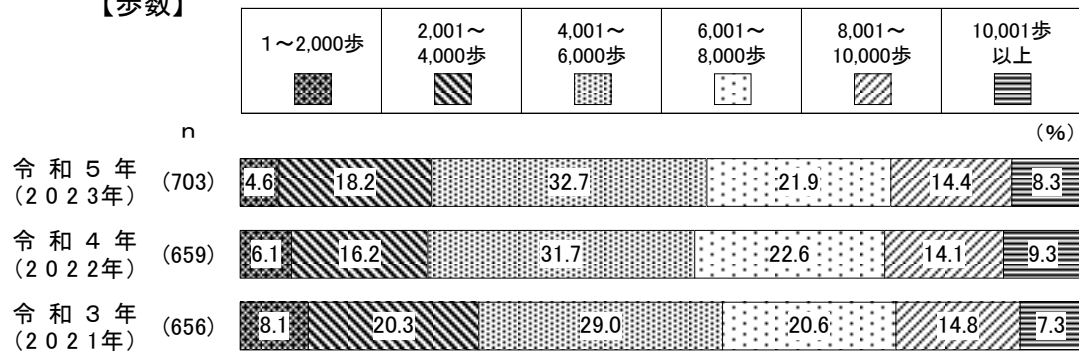
問45-1 10分以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度ですか。
(○は1つだけ) また歩数計を所持している方は歩数を記入してください。

図3-43-1 1日の平均的な歩行時間と平均歩数-全体、経年比較

【歩行時間】



【歩数】



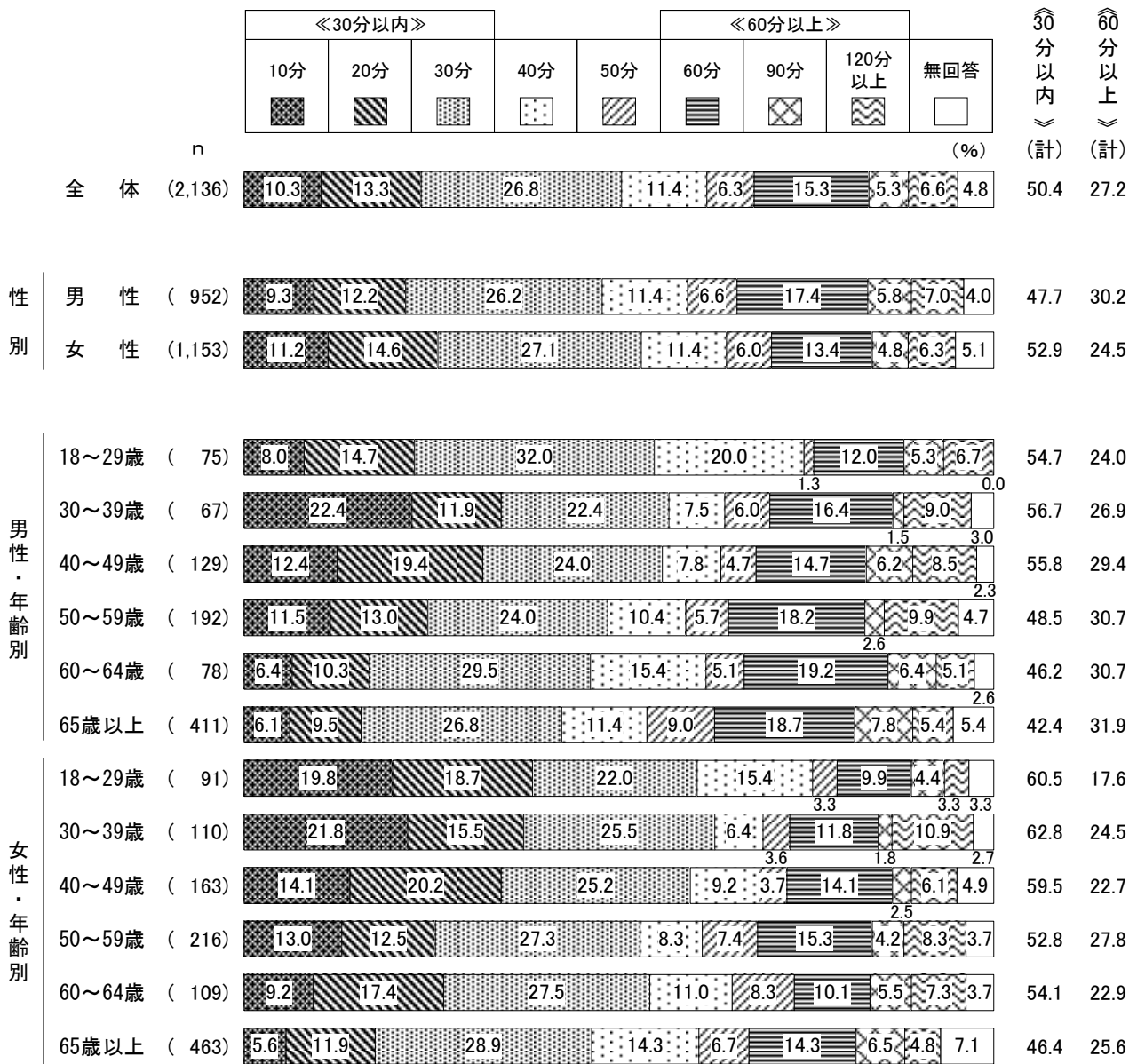
10分以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度か聞いたところ、「30分」(26.8%)が3割近くで最も多く、これに「10分」(10.3%)と「20分」(13.3%)を合わせた《30分以内》(50.4%)は約5割となっている。また、「60分」(15.3%)、「90分」(5.3%)、「120分以上」(6.6%)の3つを合わせた《60分以上》(27.2%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「10分」は令和4年(2022年)(8.1%)より2.2ポイント増加している。

1日の平均歩数について聞いたところ、「4,001~6,000歩」(32.7%)が3割強で最も多く、次いで「6,001~8,000歩」(21.9%)、「2,001~4,000歩」(18.2%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「2,001~4,000歩」は令和4年(2022年)(16.2%)より2.0ポイント増加している。(図3-43-1)

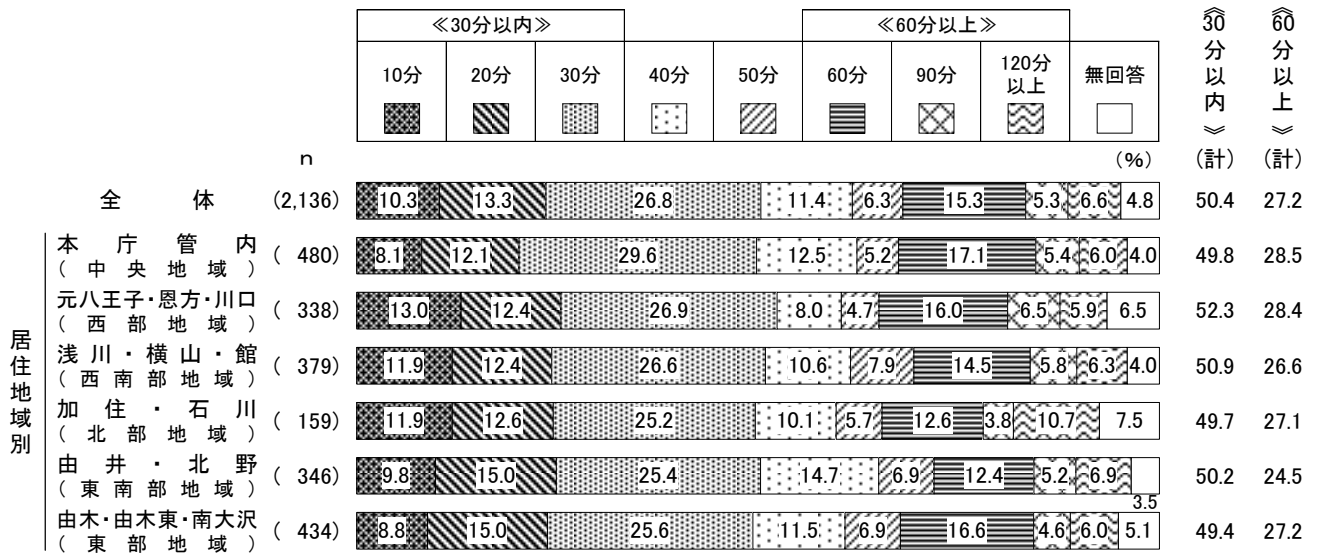
図3-43-2 1日の平均的な歩行時間—性別、性・年齢別



性別にみると、《60分以上》は男性（30.2%）が女性（24.5%）より5.7ポイント高くなっている。一方、《30分以内》は女性（52.9%）が男性（47.7%）より5.2ポイント高くなっている。

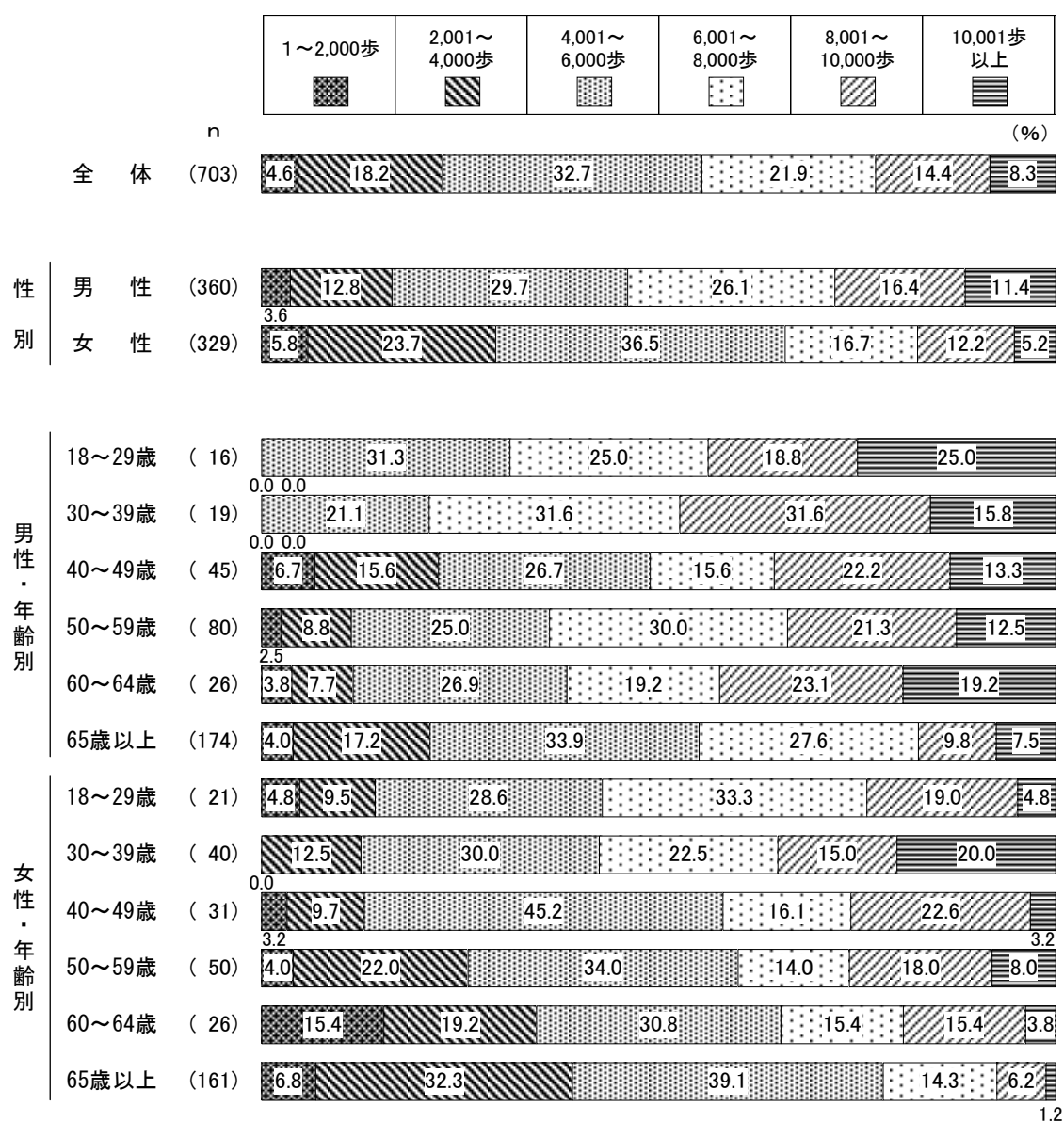
性・年齢別にみると、《30分以内》は女性30～39歳（62.8%）で6割強と多くなっている。一方、《60分以上》は男性65歳以上（31.9%）で3割強と多くなっている。（図3-43-2）

図 3-43-3 1日の平均的な歩行時間—居住地域別



居住地域別にみると、《30分以内》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（52.3%）で5割強と多くなっている。（図3-43-3）

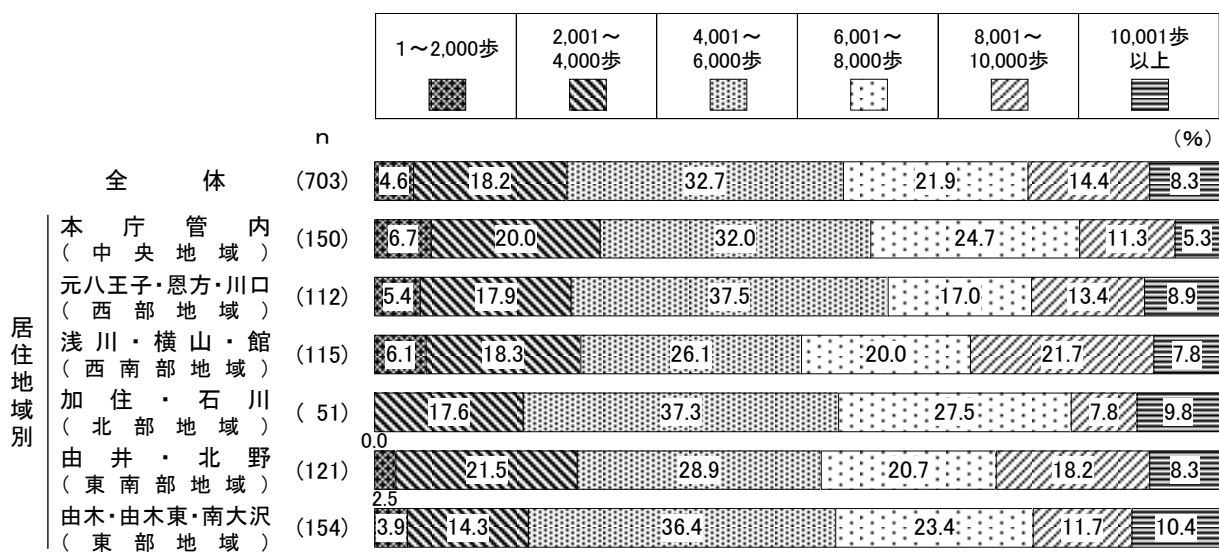
図3-43-4 1日の平均歩数－性別、性・年齢別



性別にみると、「2,001~4,000歩」は女性（23.7%）が男性（12.8%）より10.9ポイント高くなっている。一方、「6,001~8,000歩」は男性（26.1%）が女性（16.7%）より9.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「2,001~4,000歩」は女性65歳以上（32.3%）で3割強と多くなっている。「4,001~6,000歩」は女性40~49歳（45.2%）で4割台半ばと多くなっている。（図3-43-4）

図3-43-5 1日の平均歩数—居住地域別



居住地域別にみると、「6,001~8,000歩」は加住・石川(北部地域) (27.5%) で3割近くと多くなっている。「8,001~10,000歩」は浅川・横山・館(西南部地域) (21.7%) で2割強と多くなっている。(図3-43-5)

(44) 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的

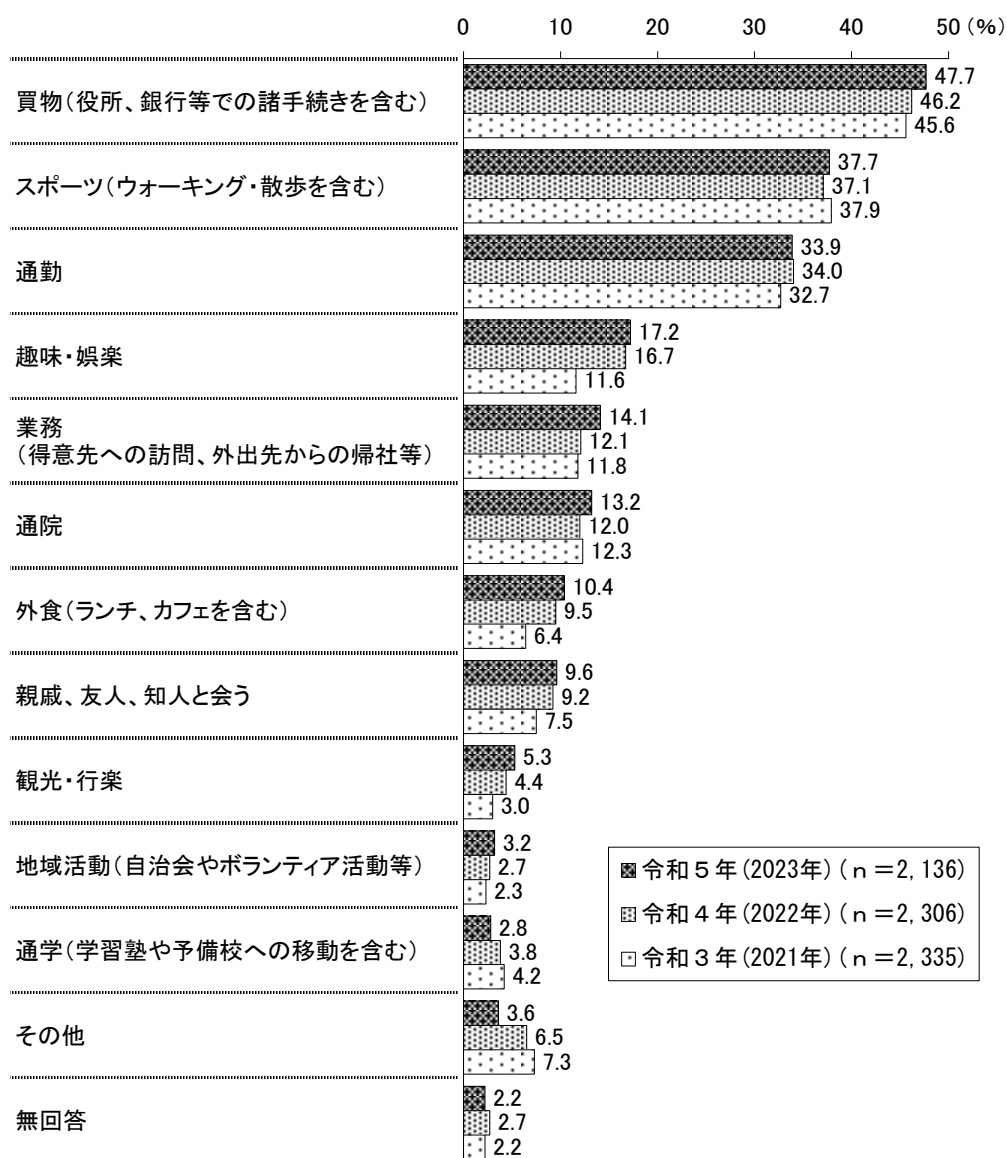
◇「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」が5割近く

(問45で「1日」～「7日」とお答えの方へ)

問45-2 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的についてお答えください。

(〇はいくつでも)

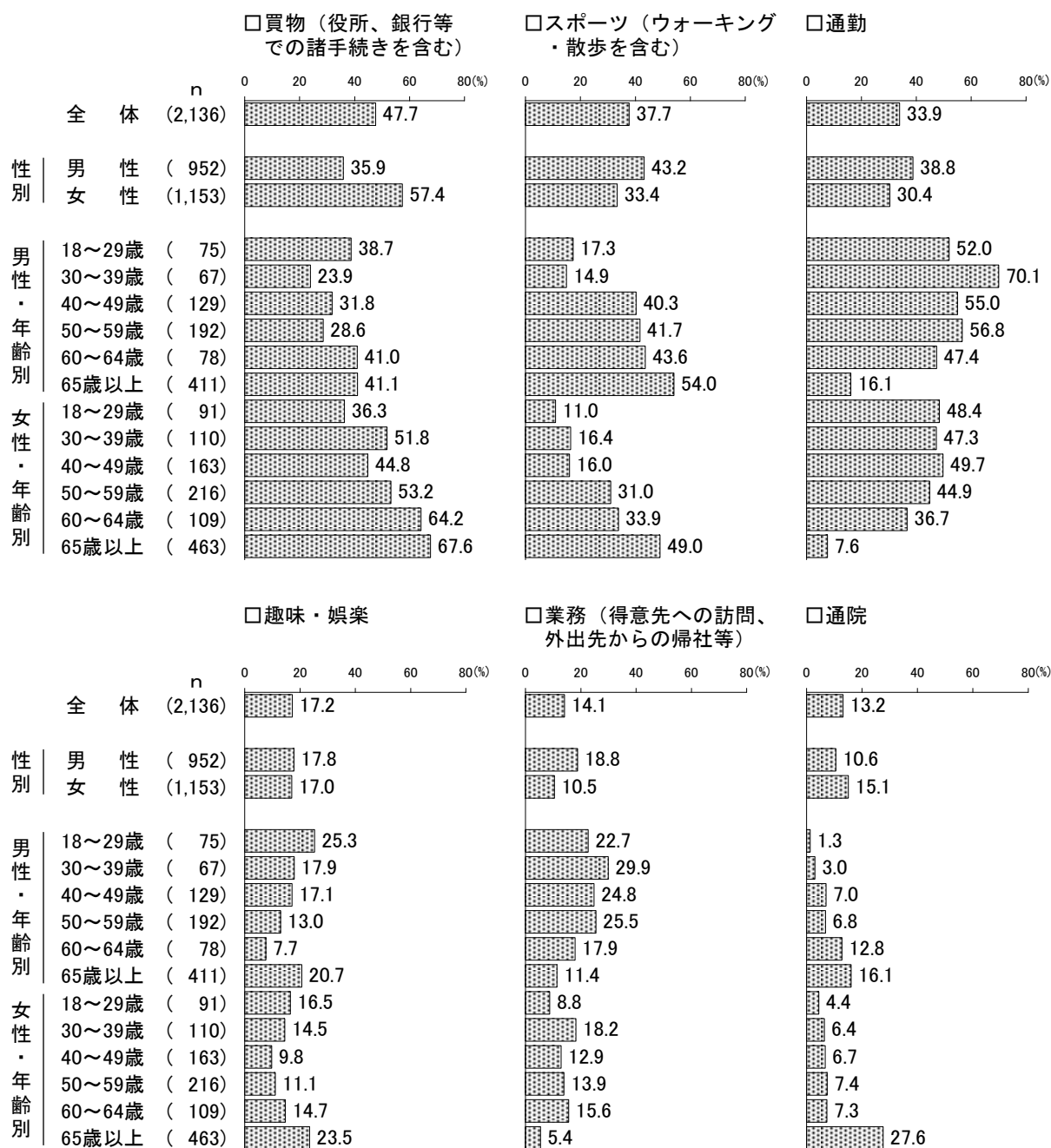
図3-44-1 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的—全体、経年比較



1週間のうち、10分間以上続けて歩く日があると回答した2,136人に、主な外出目的について聞いたところ、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」(47.7%)が5割近くで最も多くなっている。次いで「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」(37.7%)、「通勤」(33.9%)、「趣味・娯楽」(17.2%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「業務（得意先への訪問、外出先からの帰社等）」は令和4年(2022年)(12.1%)より2.0ポイント増加している。(図3-44-1)

図3-44-2 10分以上続けて歩く日の主な外出目的—性別、性・年齢別（上位6位）

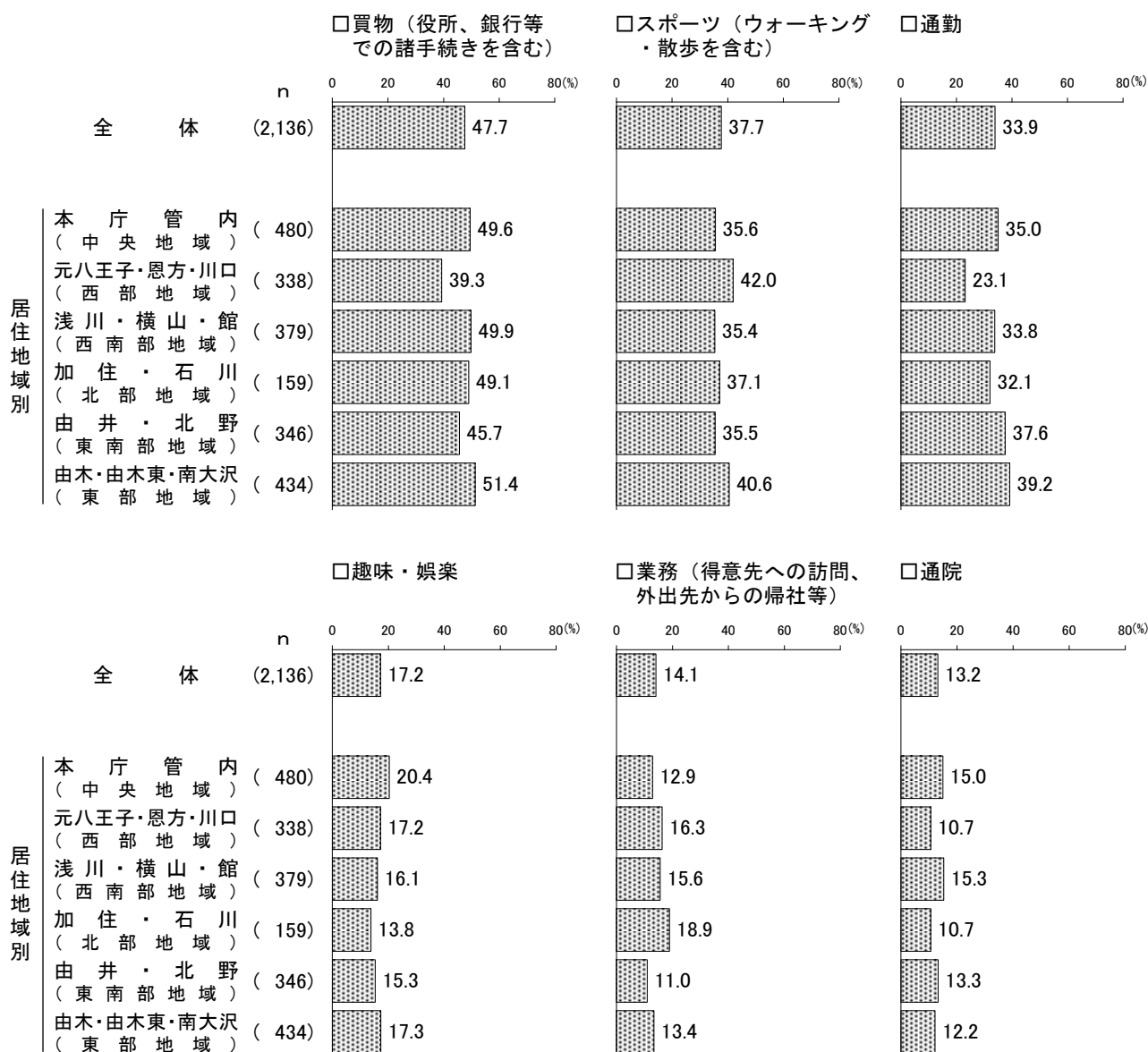


性別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性（57.4%）が男性（35.9%）より21.5ポイント高くなっている。一方、「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は男性（43.2%）が女性（33.4%）より9.8ポイント、「通勤」は男性（38.8%）が女性（30.4%）より8.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性65歳以上（67.6%）で7割近くと多くなっている。「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は男性65歳以上（54.0%）で5割台半ばと多くなっている。「通勤」は男性30~39歳（70.1%）で約7割と多くなっている。

(図3-44-2)

図3-44-3 10分以上続けて歩く日の主な外出目的—居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（51.4%）で5割強と多くなっている。「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（42.0%）で4割強と多くなっている。「通勤」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（39.2%）で4割弱と多くなっている。（図3-44-3）

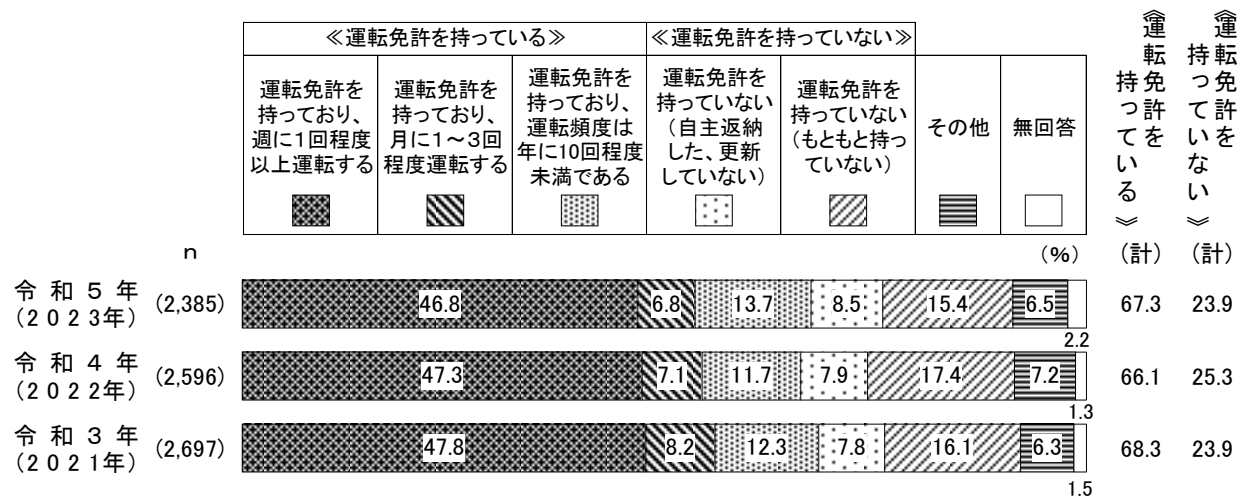
(45) 運転免許保有状況と運転頻度

◇「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」が5割近く

問46 あなたの運転免許の保有状況と自動車の運転頻度についてお答えください。

(○は1つだけ)

図3-45-1 運転免許保有状況と運転頻度－全体、経年比較

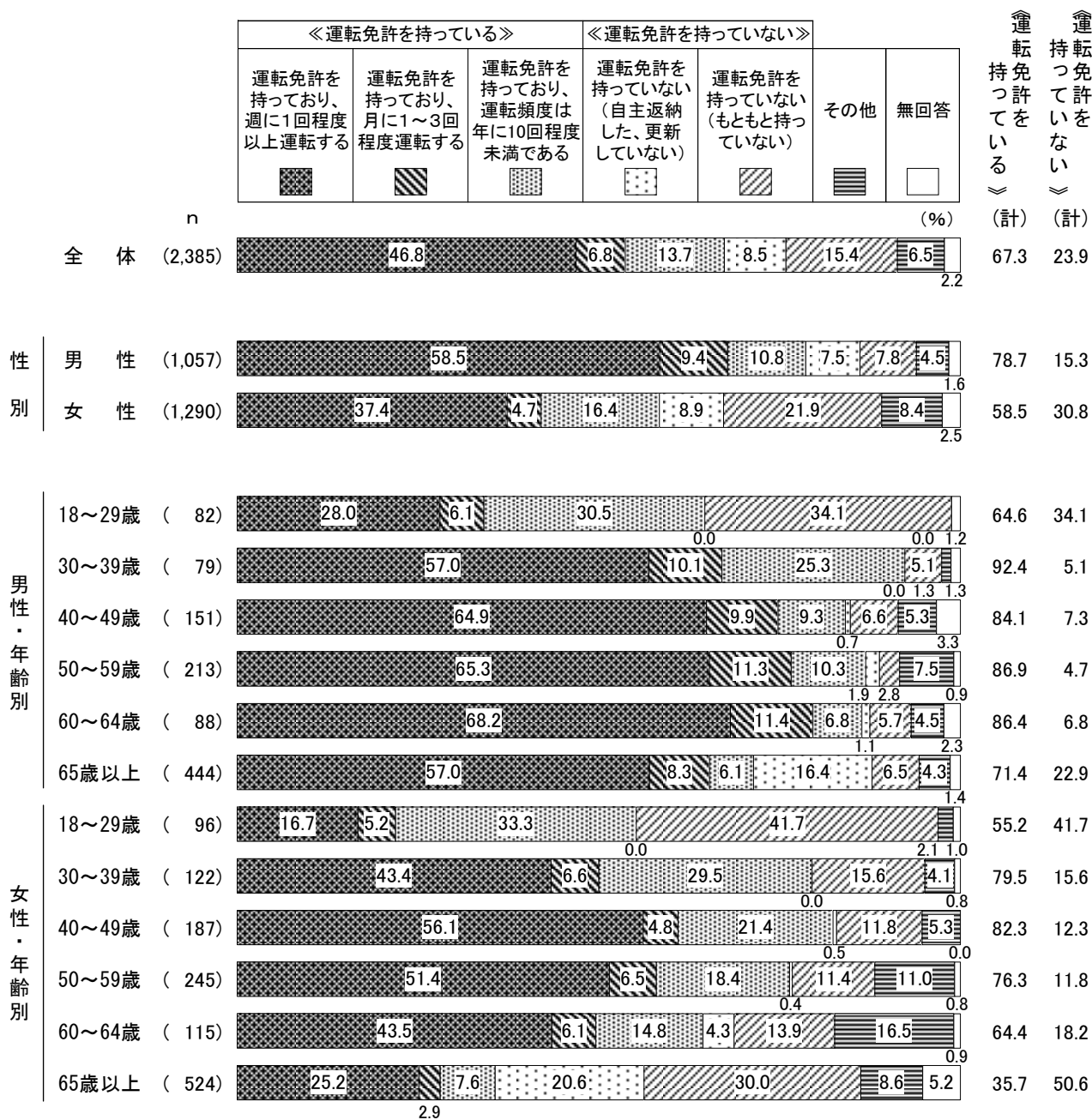


運転免許の保有状況と自動車の運転頻度について聞いたところ、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」(46.8%)が5割近くで最も多く、これに「運転免許を持っており、月に1～3回程度運転する」(6.8%)と「運転免許を持っており、運転頻度は年に10回程度未満である」(13.7%)を合わせた《運転免許を持っている》(67.3%)は7割近くとなっている。一方、「運転免許を持っていない(自主返納した、更新していない)」(8.5%)と「運転免許を持っていない(もともと持っていない)」(15.4%)を合わせた《運転免許を持っていない》(23.9%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「運転免許を持っており、運転頻度は年に10回程度未満である」は令和4年(2022年)(11.7%)より2.0ポイント増加している。一方、「運転免許を持っていない(もともと持っていない)」は令和4年(2022年)(17.4%)より2.0ポイント減少している。

(図3-45-1)

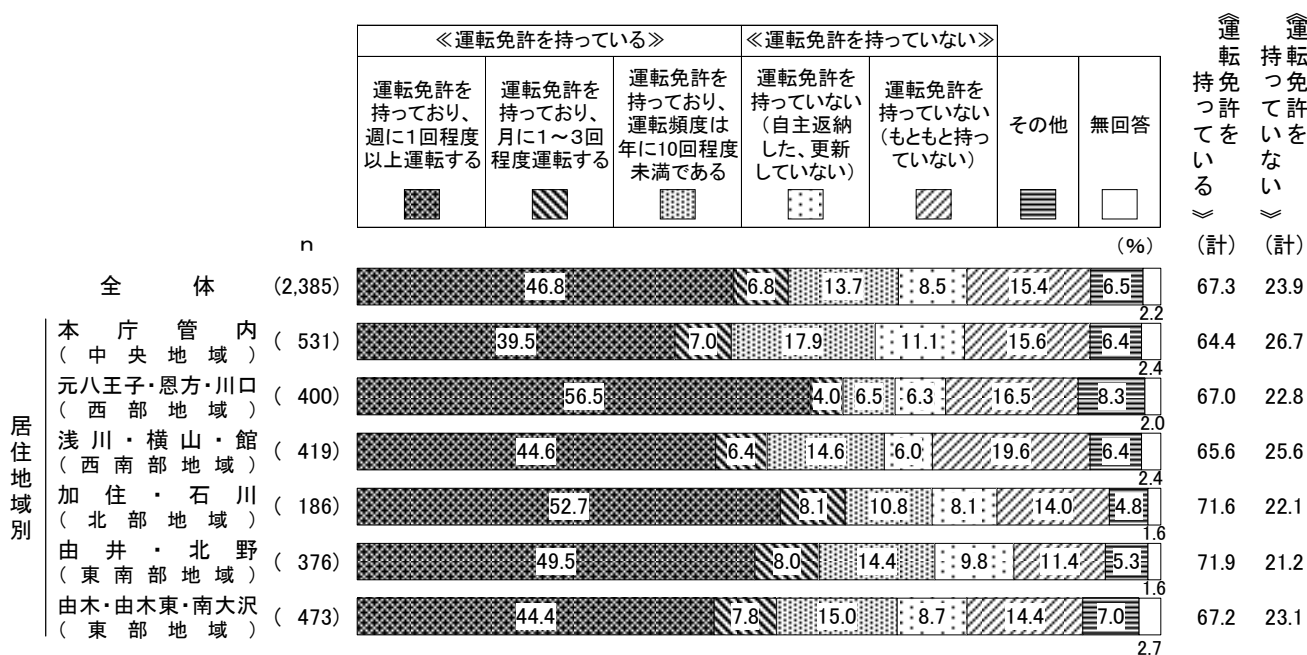
図3-45-2 運転免許保有状況と運転頻度—性別、性・年齢別



性別にみると、《運転免許を持っている》は男性（78.7%）が女性（58.5%）より20.2ポイント、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は男性（58.5%）が女性（37.4%）より21.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は男性60~64歳（68.2%）で7割近くと多くなっている。《運転免許を持っている》は男性30~39歳（92.4%）で9割強と多くなっている。一方、《運転免許を持っていない》は女性65歳以上（50.6%）で約5割と多くなっている。（図3-45-2）

図3-45-3 運転免許保有状況と運転頻度－居住地域別



居住地域別にみると、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（56.5%）で6割近くと多くなっている。《運転免許を持っている》は由井・北野（東南部地域）（71.9%）と加住・石川（北部地域）（71.6%）で7割強と多くなっている。一方、《運転免許を持っていない》は本庁管内（中央地域）（26.7%）で3割近くと多くなっている。

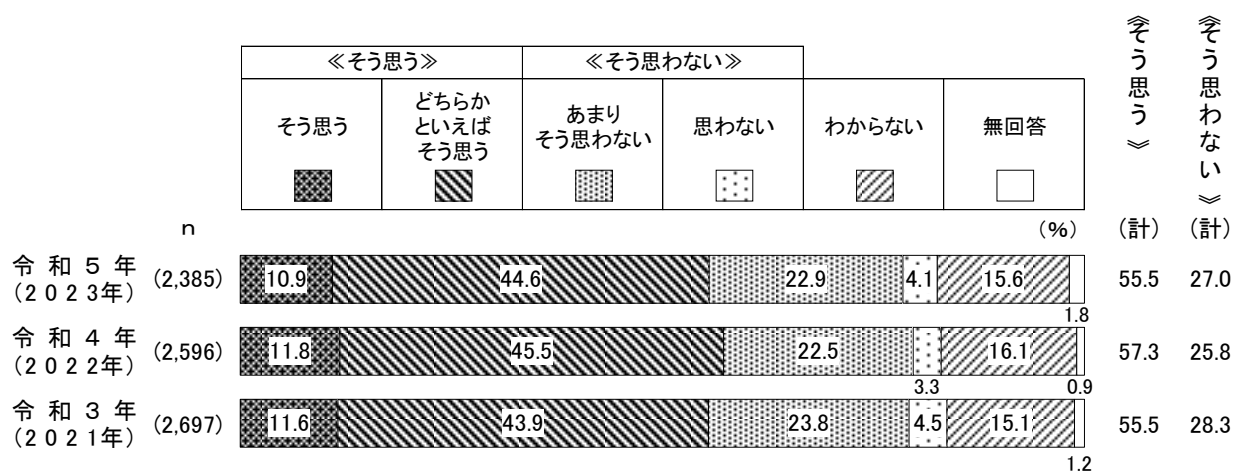
(図3-45-3)

(46) 都市の美観が保持されたまち

◇《《そう思う》》が5割台半ば

問47 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(○は1つだけ)

図3-46-1 都市の美観が保持されたまち—全体、経年比較

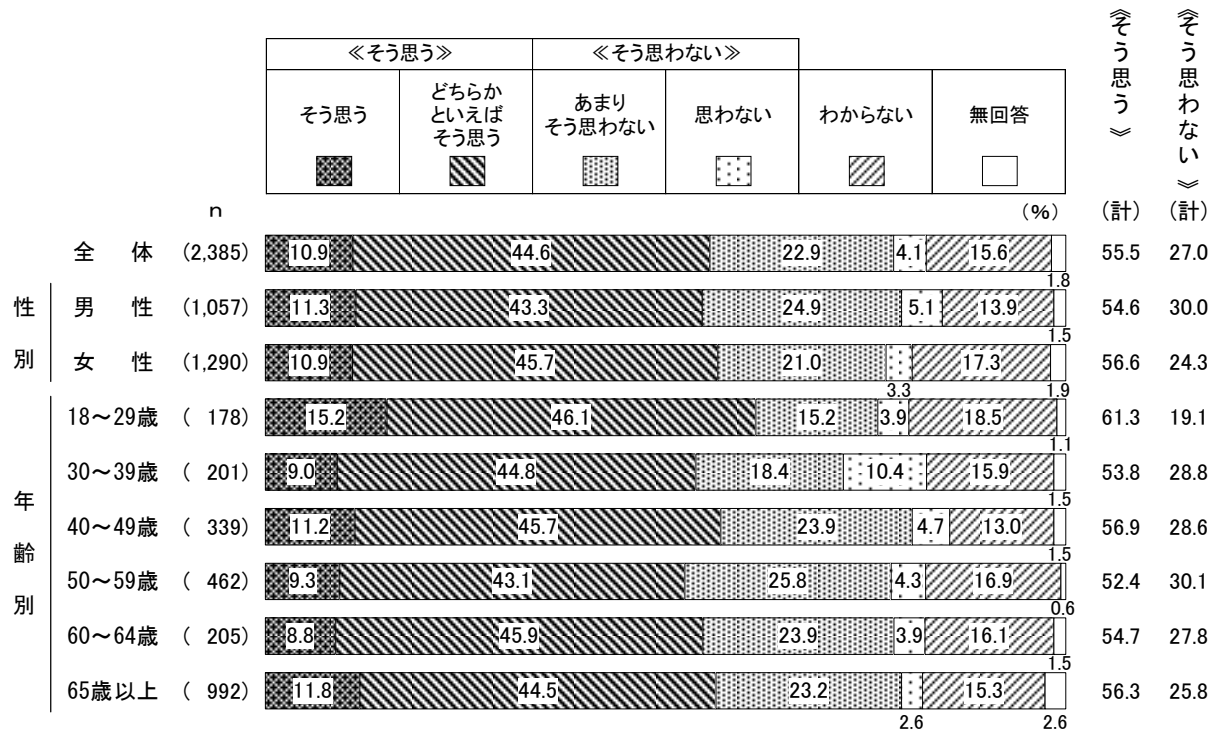


都市の美観が保持されているまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(10.9%)と「どちらかといえばそう思う」(44.6%)を合わせた《《そう思う》》(55.5%)は5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(22.9%)と「思わない」(4.1%)を合わせた《《そう思わない》》(27.0%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-46-1)

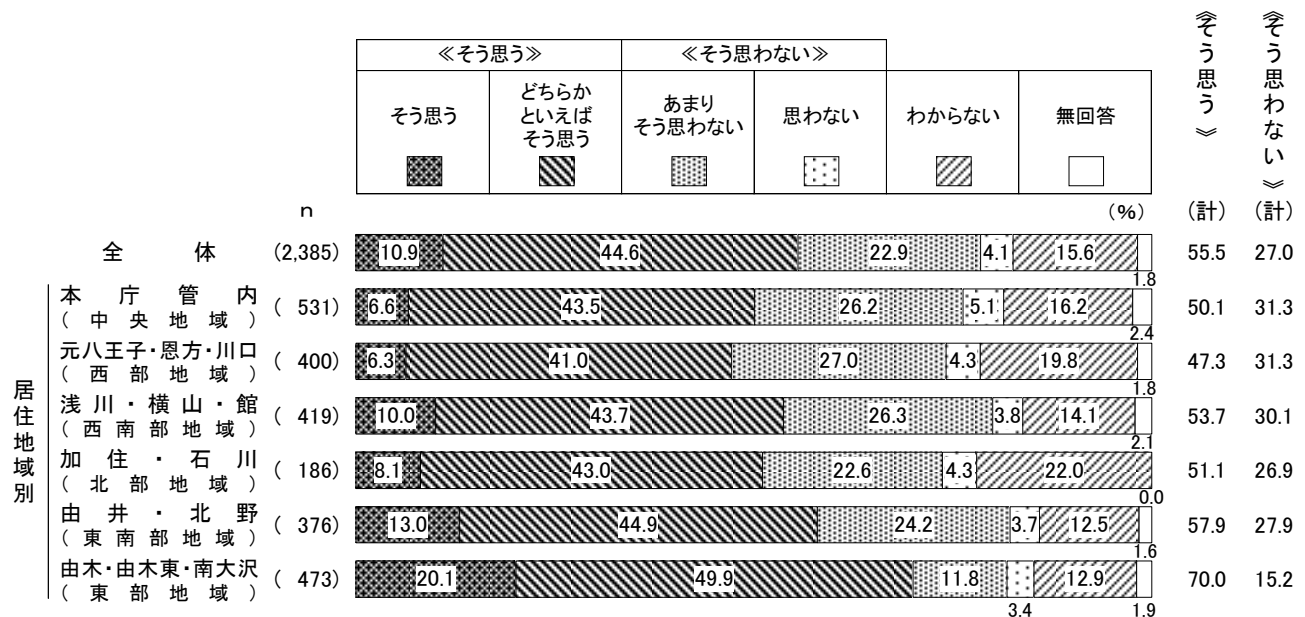
図3-46-2 都市の美観が保持されたまち—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（30.0%）が女性（24.3%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（61.3%）で6割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は50～59歳（30.1%）で約3割と多くなっている。（図3-46-2）

図3-46-3 都市の美観が保持されたまち—居住地域別



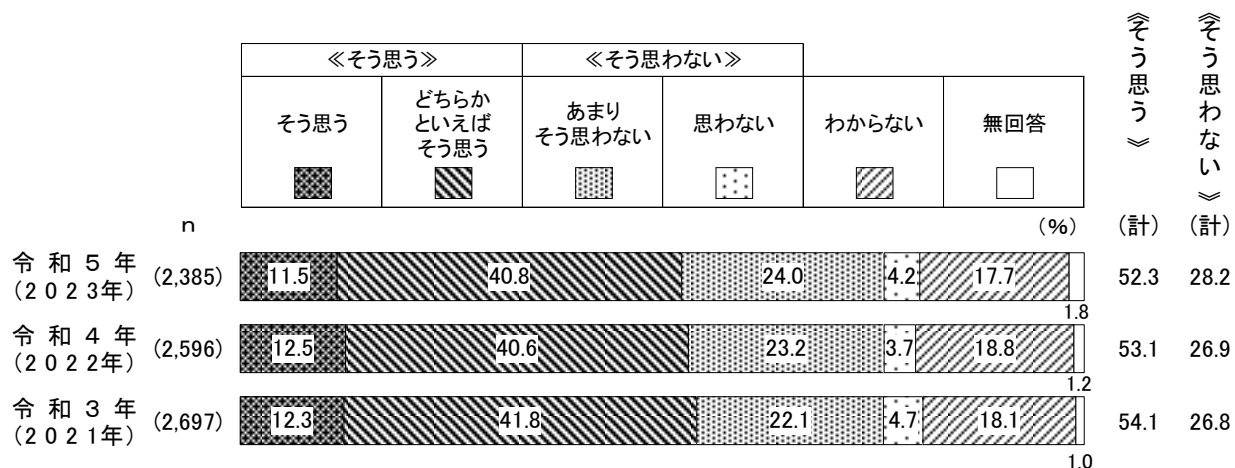
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（70.0%）で7割と多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（31.3%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（31.3%）で3割強と多くなっている。（図3-46-3）

(47) 自然、歴史、文化が活かされた景観

◇《《そう思う》》が5割強

問48 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思いますか。(○は1つだけ)

図3-47-1 自然、歴史、文化が活かされた景観—全体、経年比較

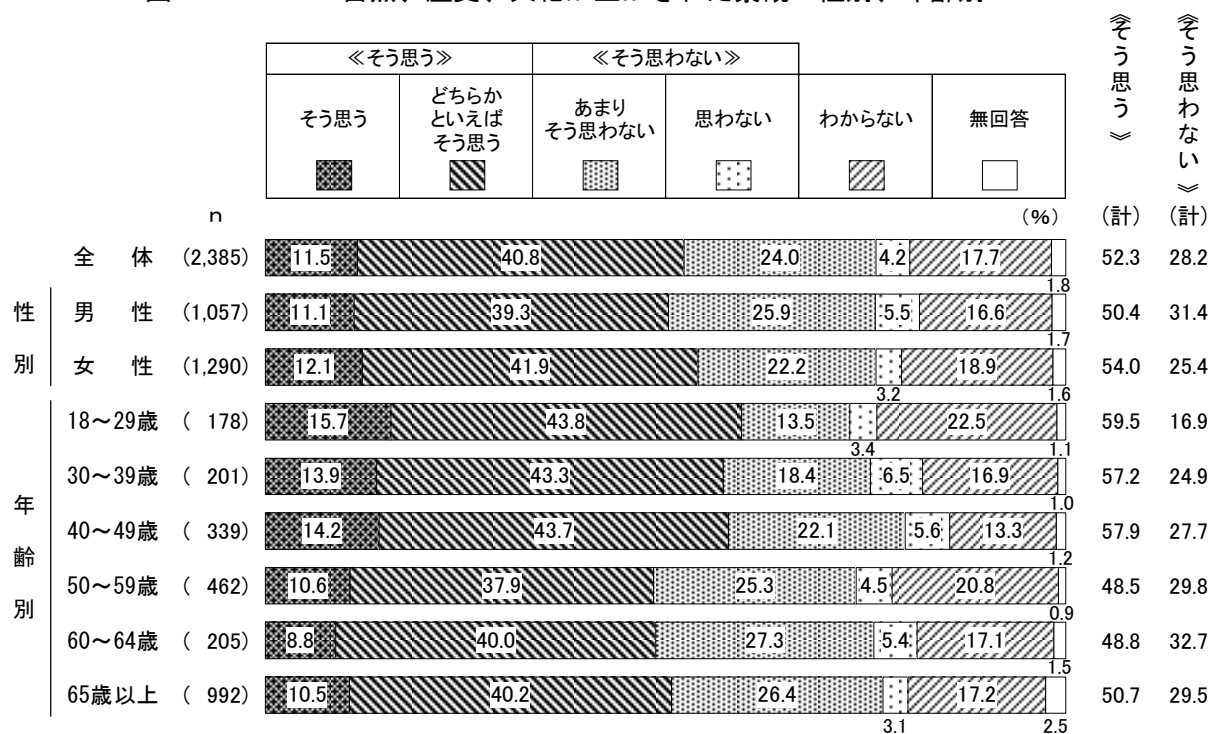


市の豊かな自然、歴史、文化などが、住んでいる地域やまちの景観に活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(11.5%)と「どちらかといえばそう思う」(40.8%)を合わせた《《そう思う》》(52.3%)は5割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(24.0%)と「思わない」(4.2%)を合わせた《《そう思わない》》(28.2%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-47-1)

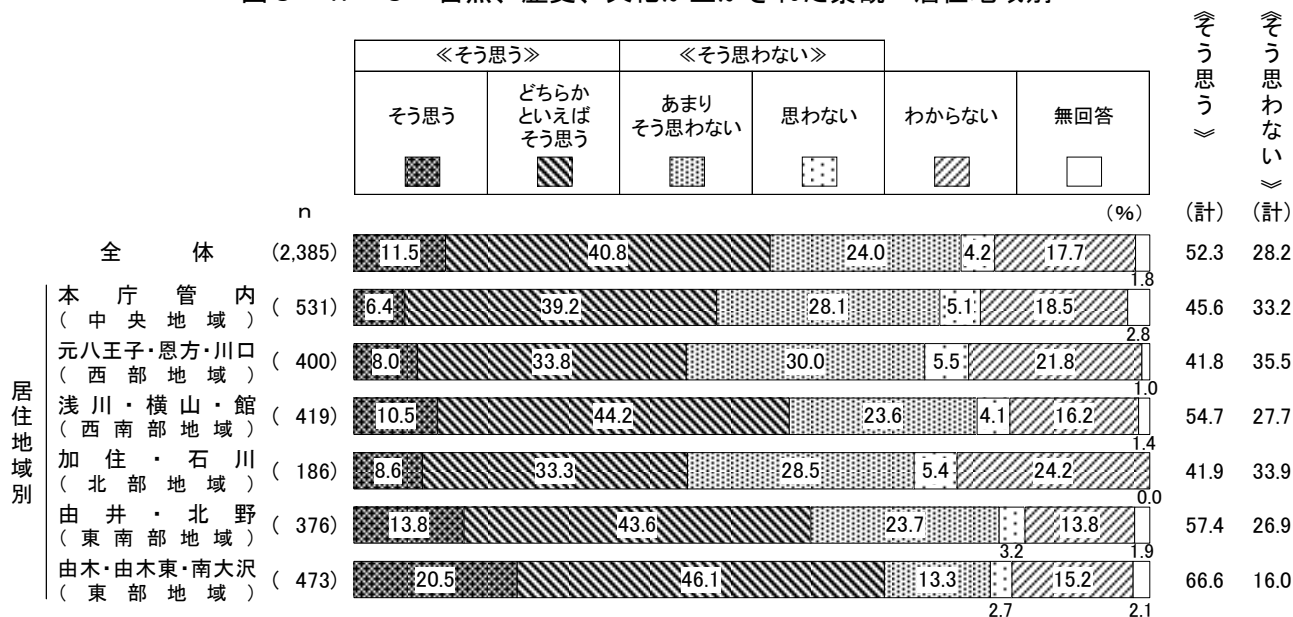
図3-47-2 自然、歴史、文化が活かされた景観—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（31.4%）が女性（25.4%）より6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（59.5%）で6割弱と多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（32.7%）で3割強と多くなっている。（図3-47-2）

図3-47-3 自然、歴史、文化が活かされた景観—居住地域別



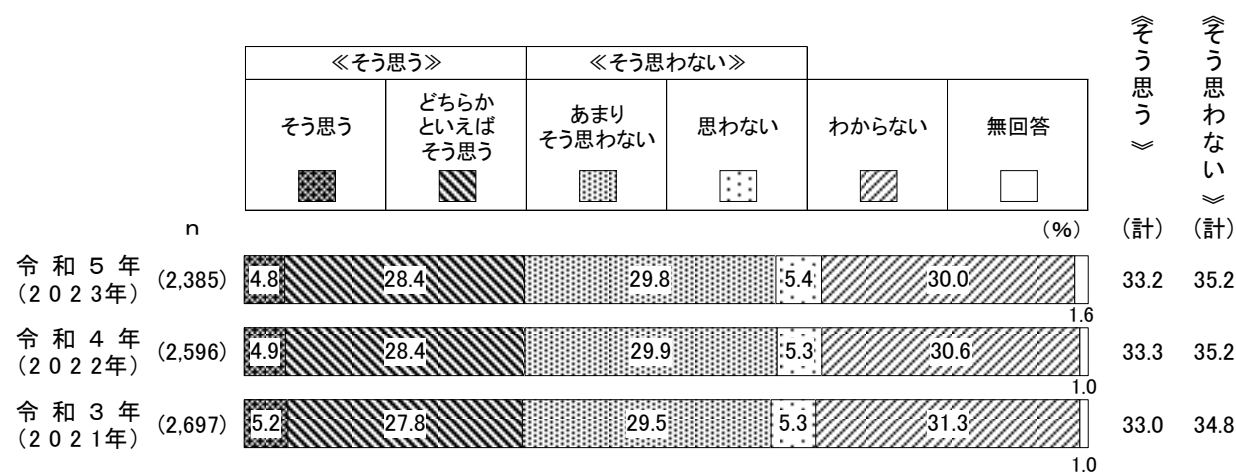
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（66.6%）で7割近くと多くなっている。一方、《そう思わない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（35.5%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-47-3）

(48) 市内の産業活動

◇《《そう思う》》が3割強

問49 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。(〇は1つだけ)

図3-48-1 市内の産業活動—全体、経年比較

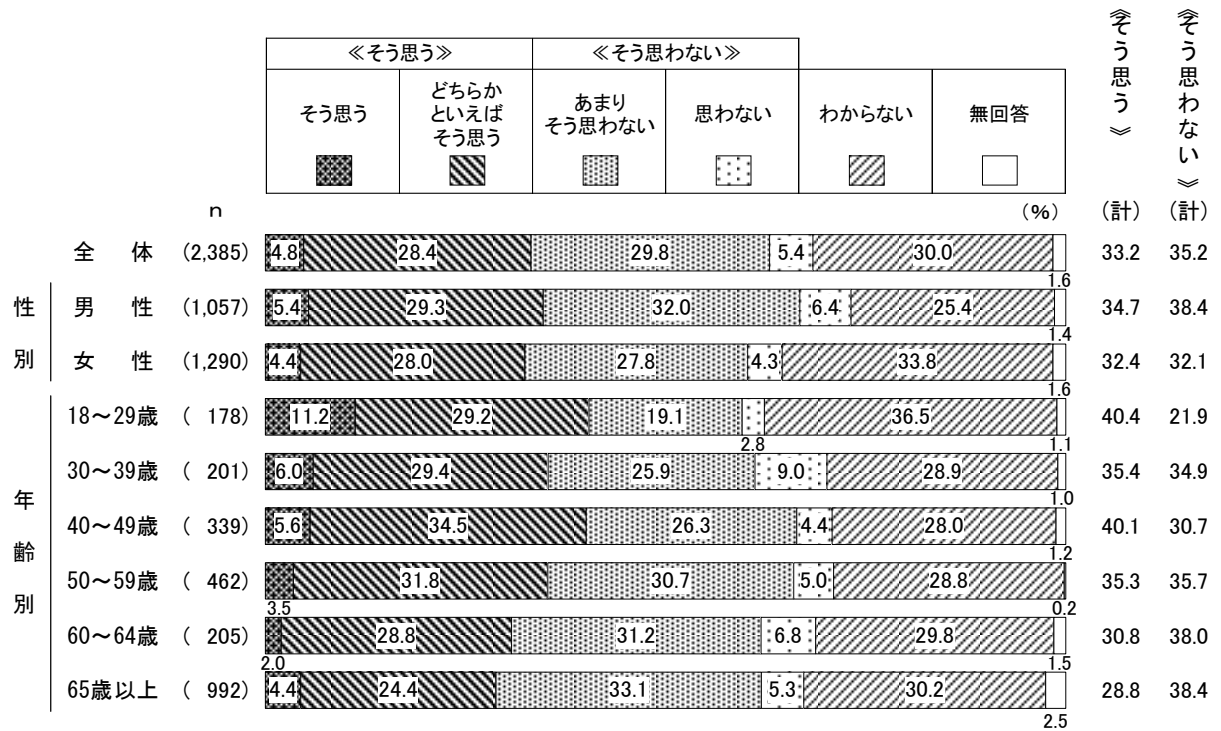


商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.8%)と「どちらかといえばそう思う」(28.4%)を合わせた《《そう思う》》(33.2%)は3割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(29.8%)と「思わない」(5.4%)を合わせた《《そう思わない》》(35.2%)は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-48-1)

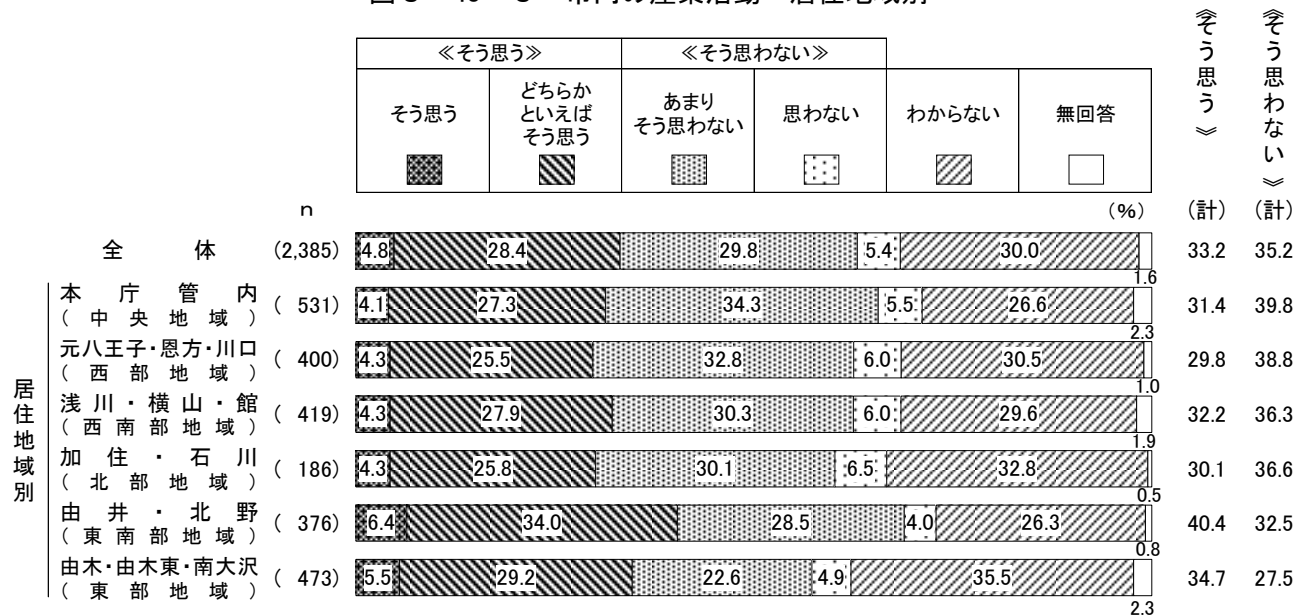
図3-48-2 市内の産業活動—性別、年齢別



性別にみると、《そう思わない》は男性（38.4%）が女性（32.1%）より6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は18～29歳（40.4%）と40～49歳（40.1%）で約4割と多くなっている。一方、《そう思わない》は60～64歳（38.0%）と65歳以上（38.4%）で4割近くと多くなっている。（図3-48-2）

図3-48-3 市内の産業活動—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）（40.4%）で約4割と多くなっている。一方、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（39.8%）で4割弱と多くなっている。

（図3-48-3）

(49) 地球環境への配慮

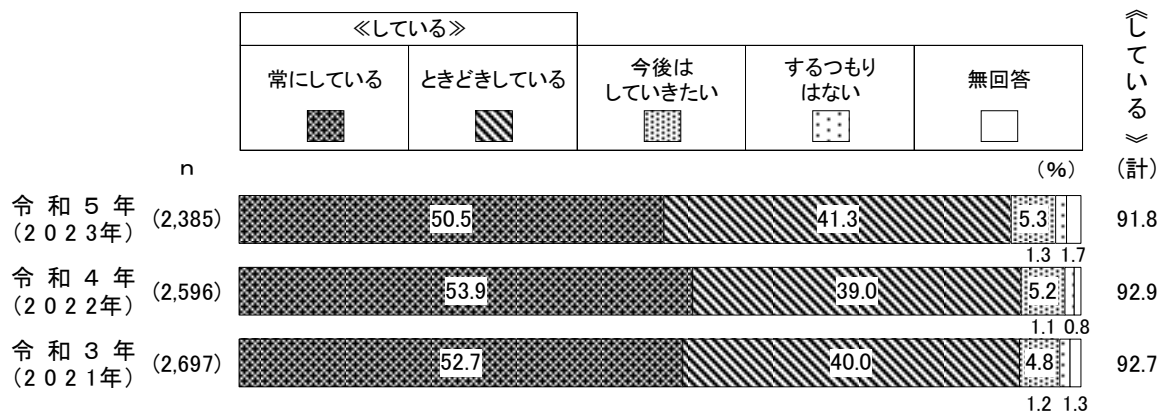
◇《している》が9割強

問50 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。(○は1つだけ)

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取り組みとは・・・

- 過度な冷暖房の使用を控える
- マイカーの使用を控える
- 電気をこまめに消す
- 省エネ製品を利用する
- 冷蔵庫の開閉に気を使う
- 買物用のバッグを持参して買い物に行く
- ごみと資源物を分別し、適正に排出する
- など

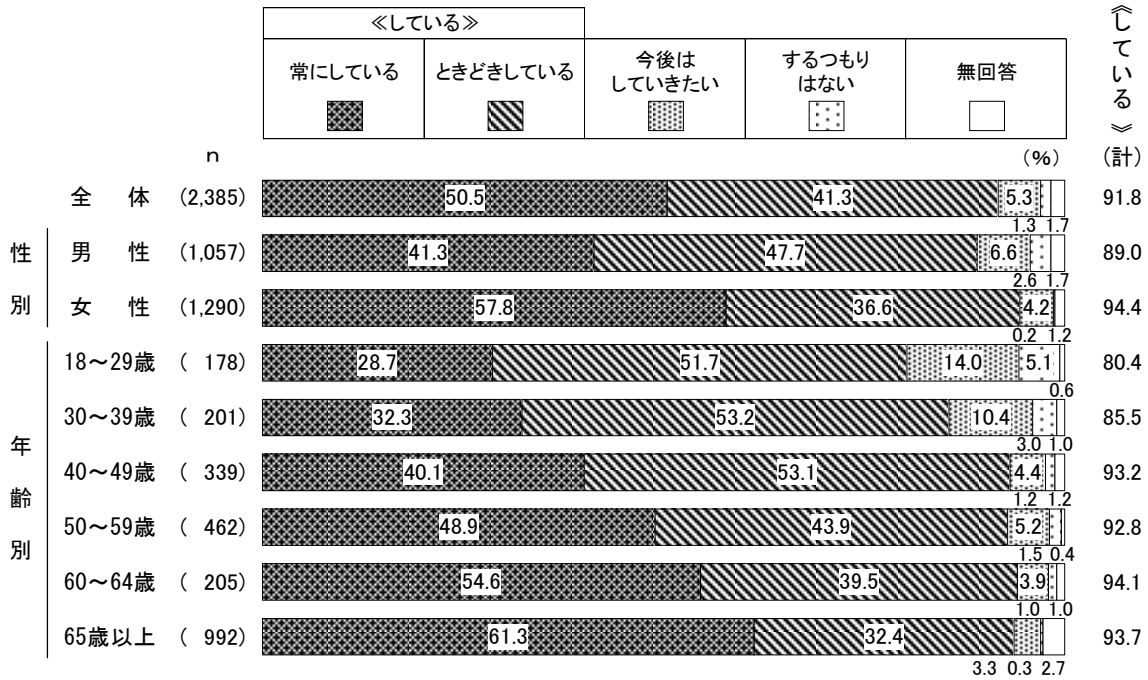
図3-49-1 地球環境への配慮－全体、経年比較



ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「常にしている」(50.5%)と「ときどきしている」(41.3%)を合わせた《している》(91.8%)は9割強となっている。また、「今後はしていきたい」(5.3%)と「するつもりはない」(1.3%)はともに1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、「ときどきしている」は令和4年(2022年)(39.0%)より2.3ポイント増加している。一方、「常にしている」は令和4年(2022年)(53.9%)より3.4ポイント減少している。(図3-49-1)

図3-49-2 地球環境への配慮—性別、年齢別

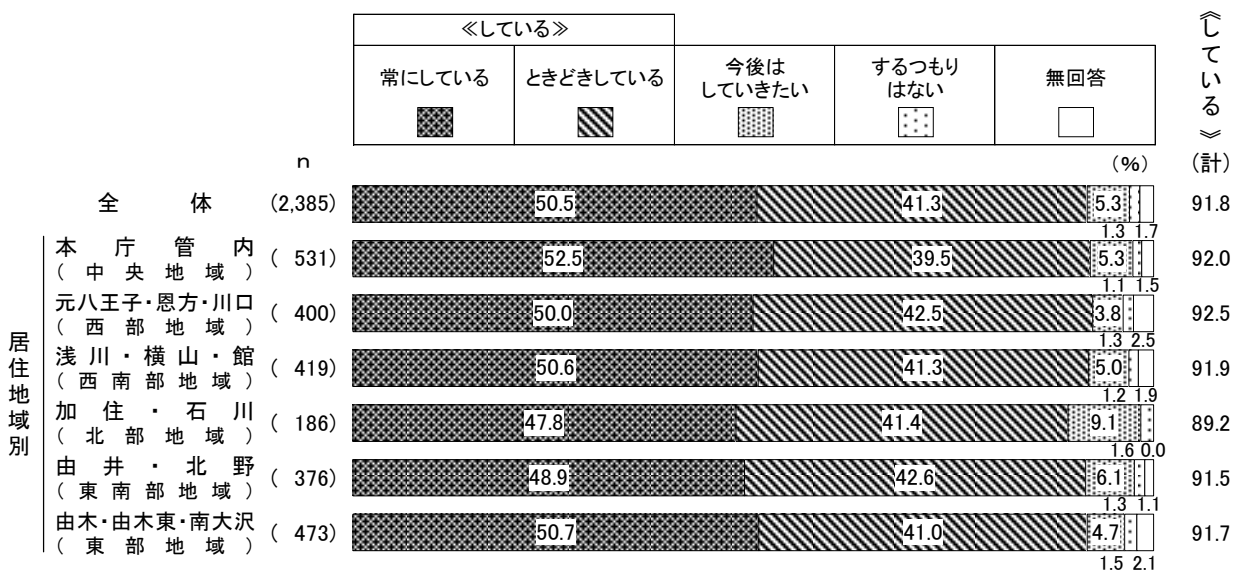


性別にみると、《している》は女性（94.4%）が男性（89.0%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「常にしている」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（61.3%）で6割強と多くなっている。《している》は60～64歳（94.1%）で9割台半ばと多くなっている。

(図3-49-2)

図3-49-3 地球環境への配慮—居住地域別



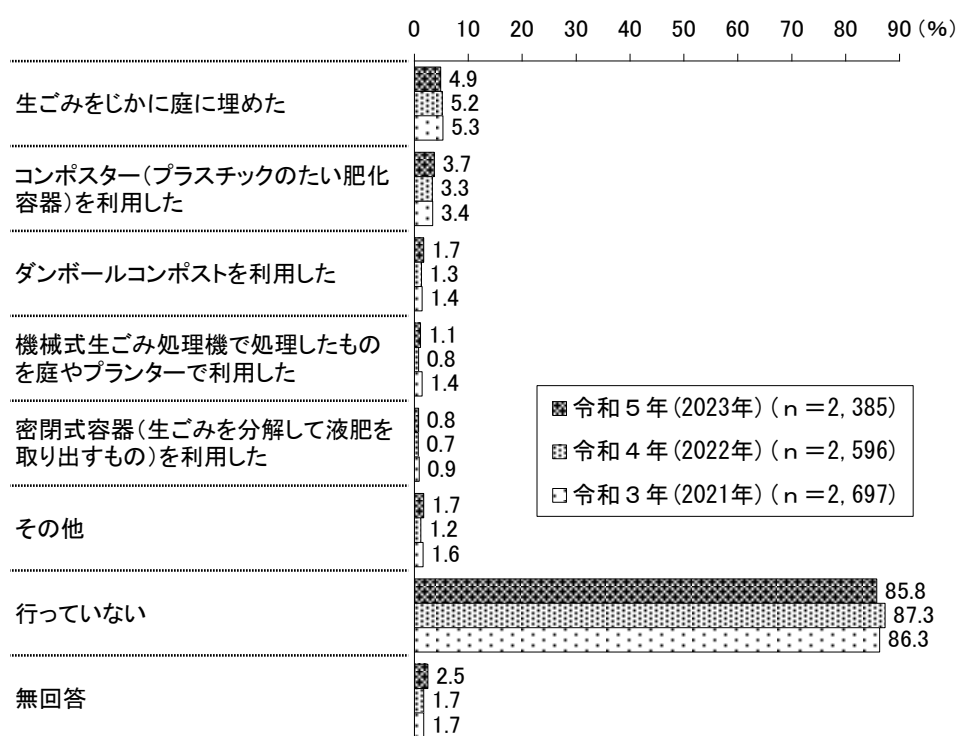
居住地域別にみると、《している》は加住・石川(北部地域)（89.2%）を除く全ての居住地域で9割強と多くなっている。(図3-49-3)

(50) この1年間に行った生ごみのたい肥化

◇「行っていない」が8割台半ば

問51 あなたの世帯は、この1年間に、何らかの方法により生ごみのたい肥化を行いましたか。(〇はいくつでも)

図3-50-1 この1年間に行った生ごみのたい肥化—全体、経年比較

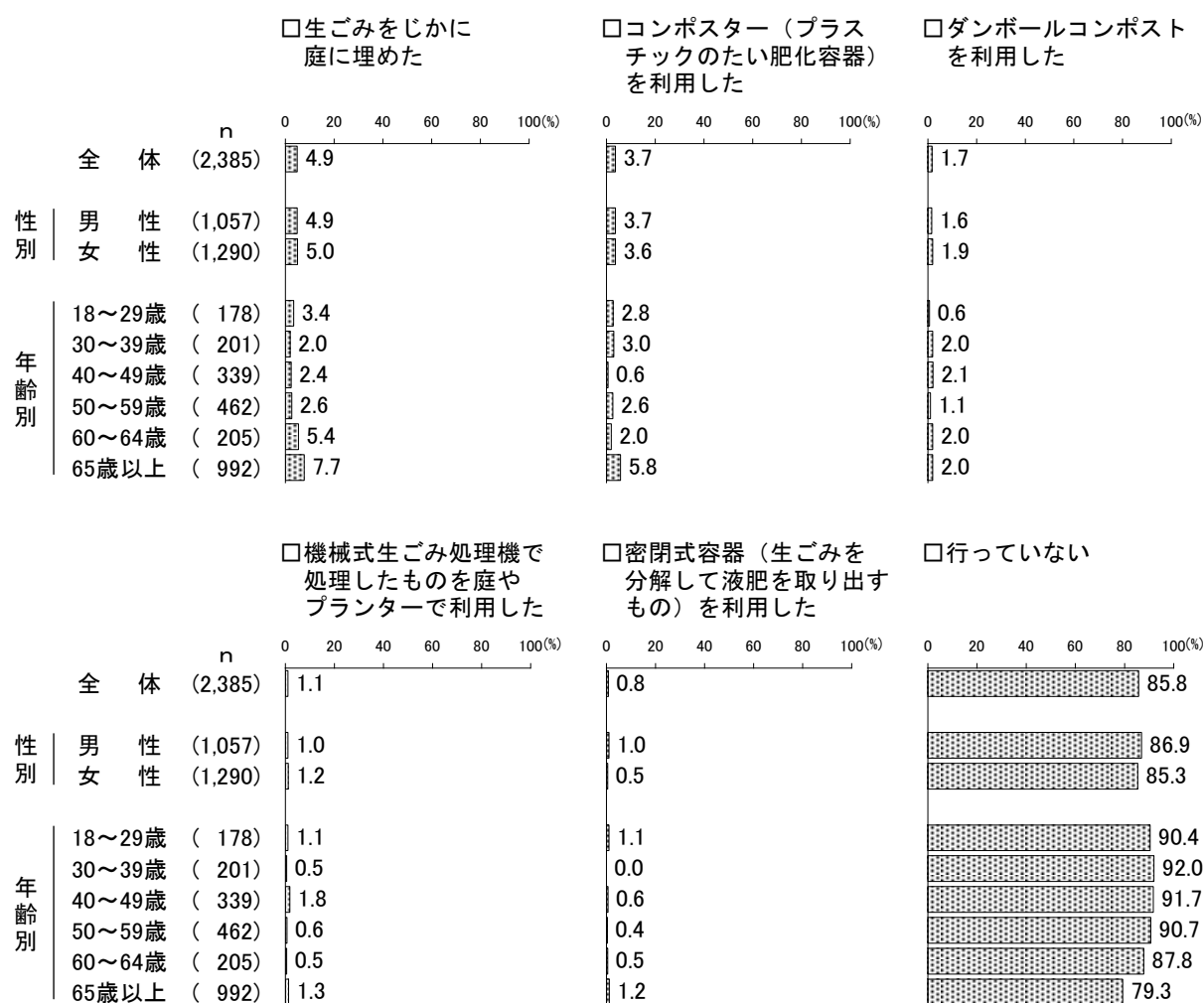


この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったか聞いたところ、「行っていない」(85.8%)が8割台半ばとなっている。行った中では、「生ごみをじかに庭に埋めた」(4.9%)、「コンポスター(プラスチックのたい肥化容器)を利用した」(3.7%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-50-1)

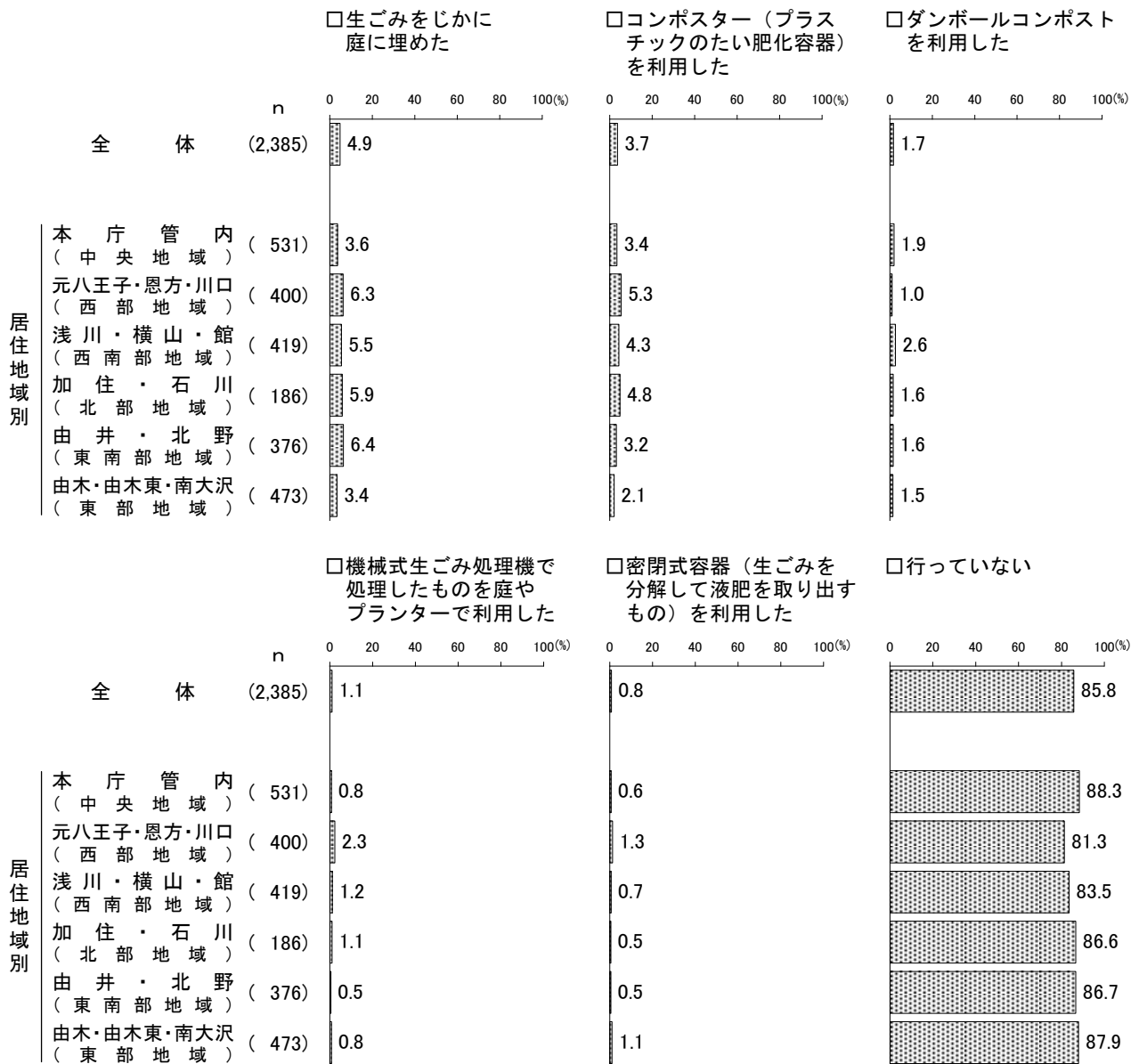
図3-50-2 この1年間に行った生ごみのたい肥化—性別、年齢別（「その他」を除く）



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「行っていない」は30~39歳（92.0%）と40~49歳（91.7%）で9割強と多くなっている。（図3-50-2）

図3-50-3 この1年間に行った生ごみのたい肥化—居住地域別（「その他」を除く）



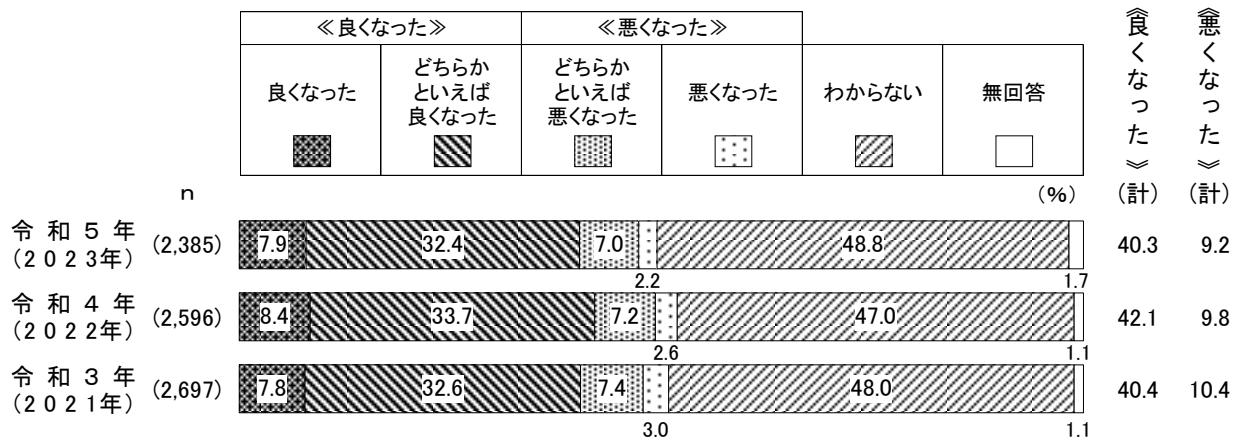
居住地域別にみると、「行っていない」は本庁管内（中央地域）（88.3%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（87.9%）、由井・北野（東南部地域）（86.7%）、加住・石川（北部地域）（86.6%）で9割近くと多くなっている。（図3-50-3）

(51) 市の生活環境

◇《良くなった》が約4割

問52 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が、以前と比べてどうなったと思いますか。（○は1つだけ）

図3-51-1 市の生活環境—全体、経年比較

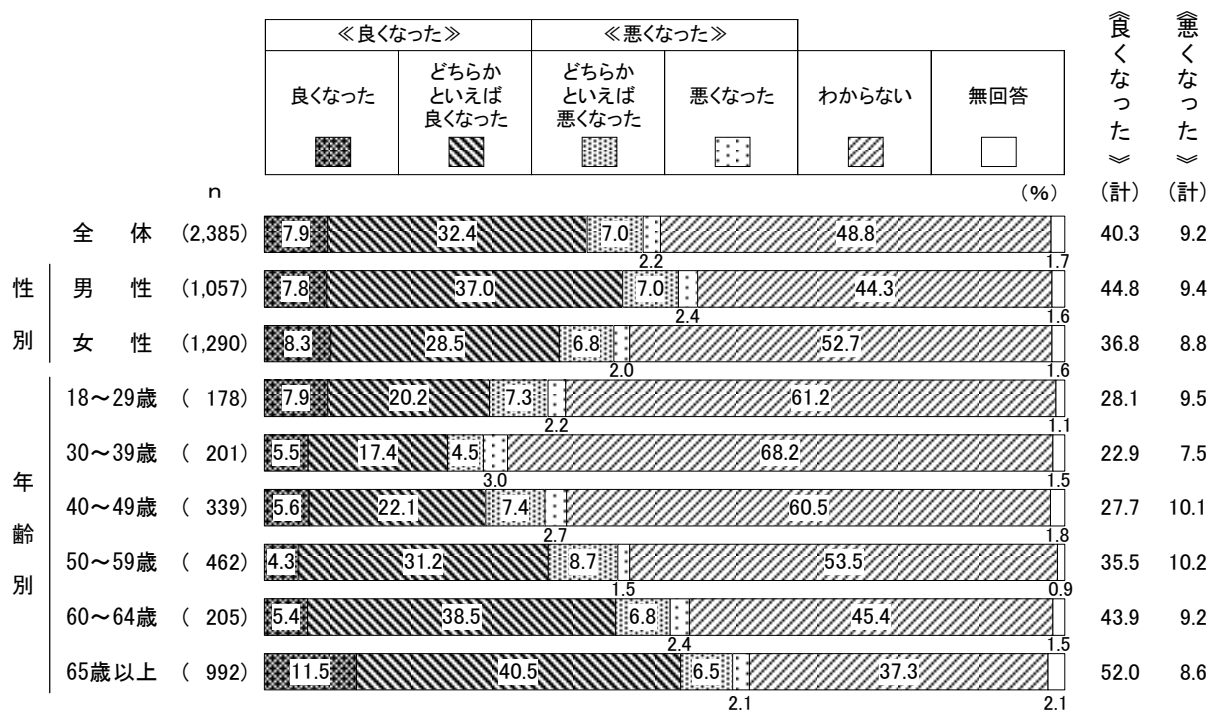


市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べてどうなったと思うか聞いたところ、「良くなった」（7.9%）と「どちらかといえば良くなった」（32.4%）を合わせた《良くなった》（40.3%）は約4割となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」（7.0%）と「悪くなった」（2.2%）を合わせた《悪くなった》（9.2%）は1割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年（2022年）と大きな傾向の違いはみられない。

（図3-51-1）

図3-51-2 市の生活環境—性別、年齢別

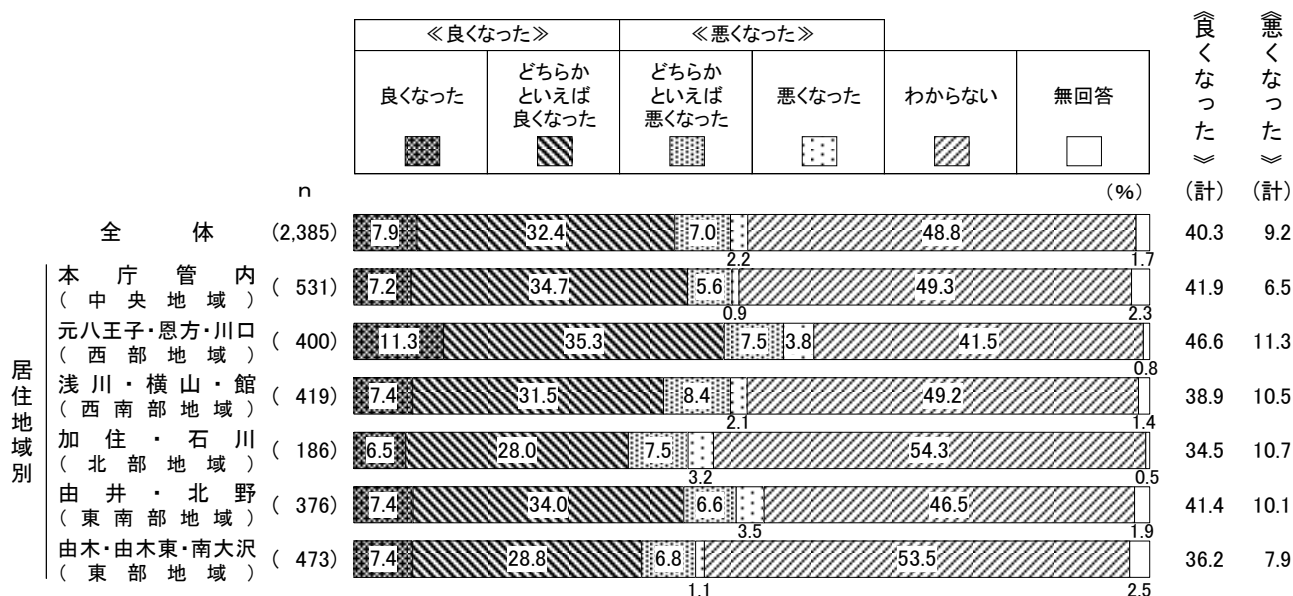


性別にみると、《良くなった》は男性（44.8%）が女性（36.8%）より8.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《良くなった》は65歳以上（52.0%）で5割強と多くなっている。

(図3-51-2)

図3-51-3 市の生活環境—居住地域別



居住地域別にみると、《良くなった》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（46.6%）で5割近くと多くなっている。（図3-51-3）

(52) 「生物多様性」の周知度

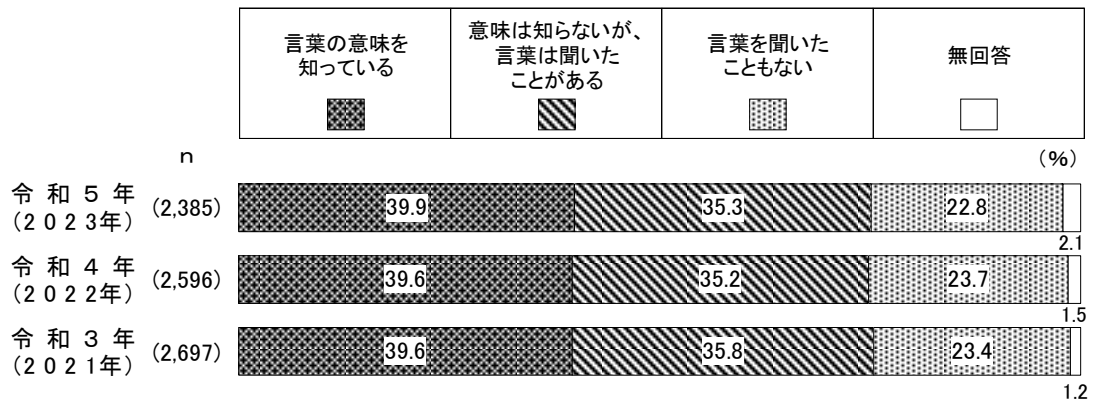
◇「言葉の意味を知っている」が4割弱

問53 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

※生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより、地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

図3-52-1 「生物多様性」の周知度－全体、経年比較

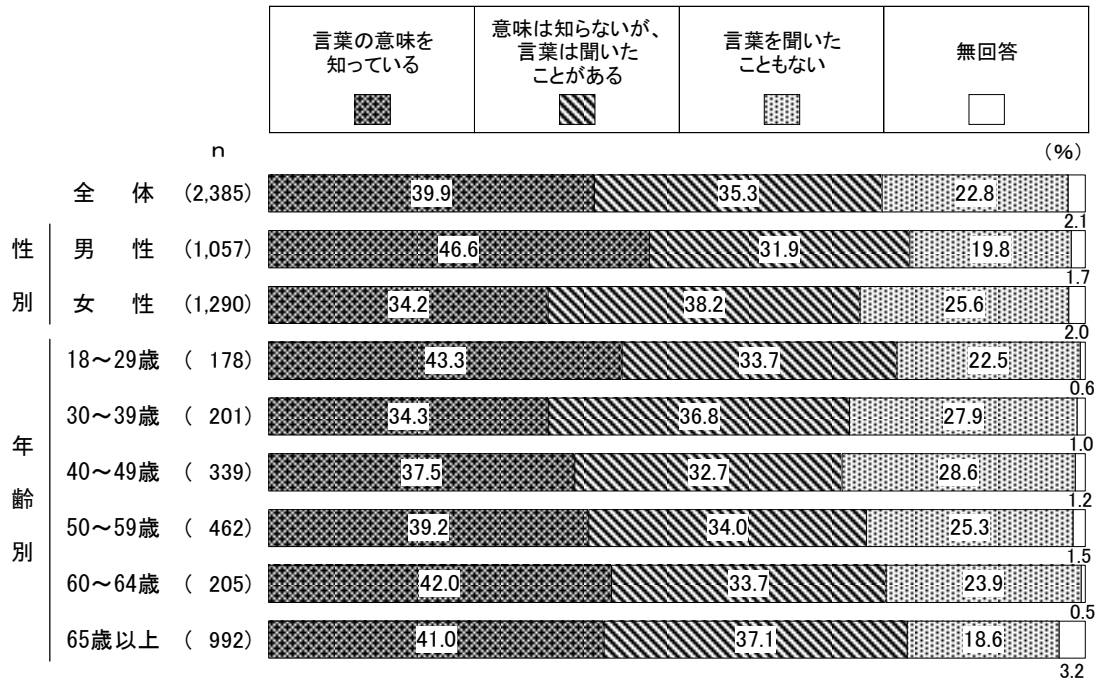


「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(39.9%)が4割弱、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(35.3%)は3割台半ばとなっている。一方、「言葉を聞いたこともない」(22.8%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3-52-1)

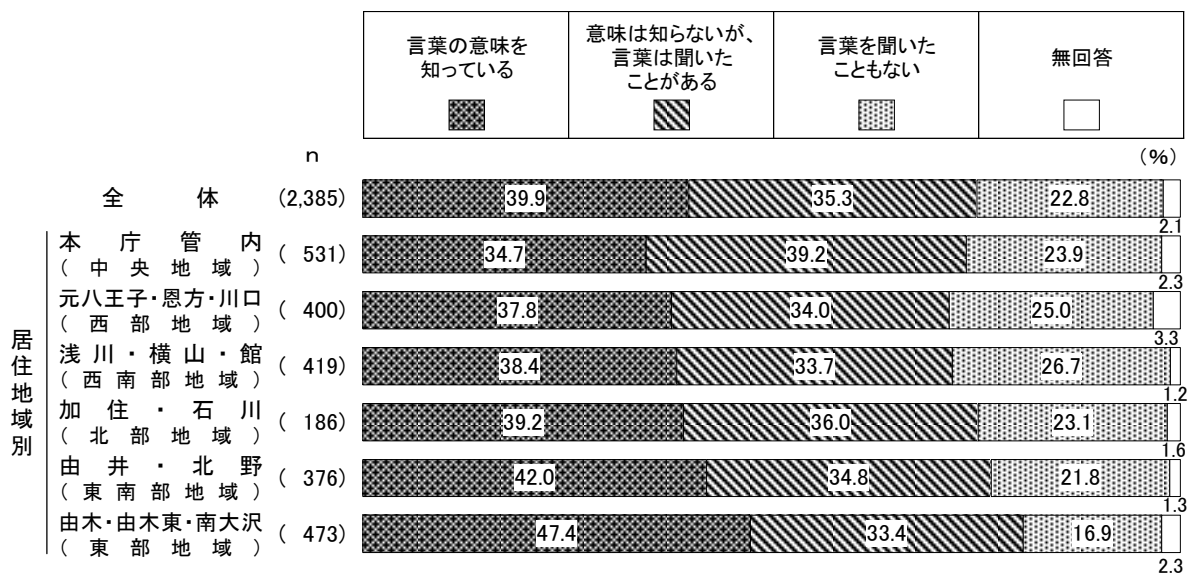
図3-52-2 「生物多様性」の周知度－性別、年齢別



性別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性（46.6%）が女性（34.2%）より12.4ポイント高くなっている。一方、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は女性（38.2%）が男性（31.9%）より6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は18～29歳（43.3%）、60～64歳（42.0%）、65歳以上（41.0%）で4割強と多くなっている。一方、「言葉を聞いたこともない」は30～39歳（27.9%）と40～49歳（28.6%）で3割近くと多くなっている。（図3-52-2）

図3-52-3 「生物多様性」の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（47.4%）で5割近くと多くなっている。（図3-52-3）

(53) 住まいの相続・継承の見通し

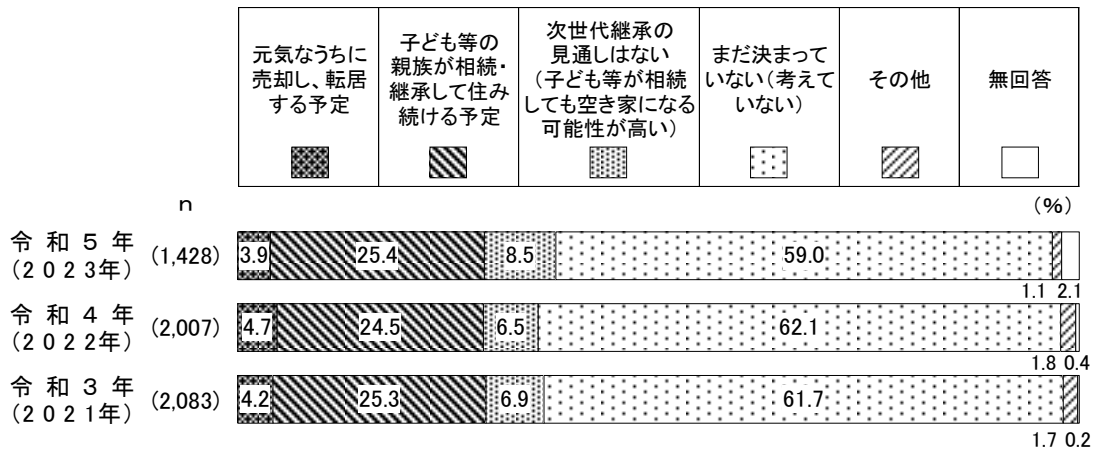
◇「まだ決まっていない（考えていない）」が6割弱

(F9で「戸建て（持ち家）」とお答えの方へ)

問54 あなたのお住まいについて、相続・継承の見通しはどうなっていますか。

(○は1つだけ)

図3-53-1 住まいの相続・継承の見通しー全体、経年比較



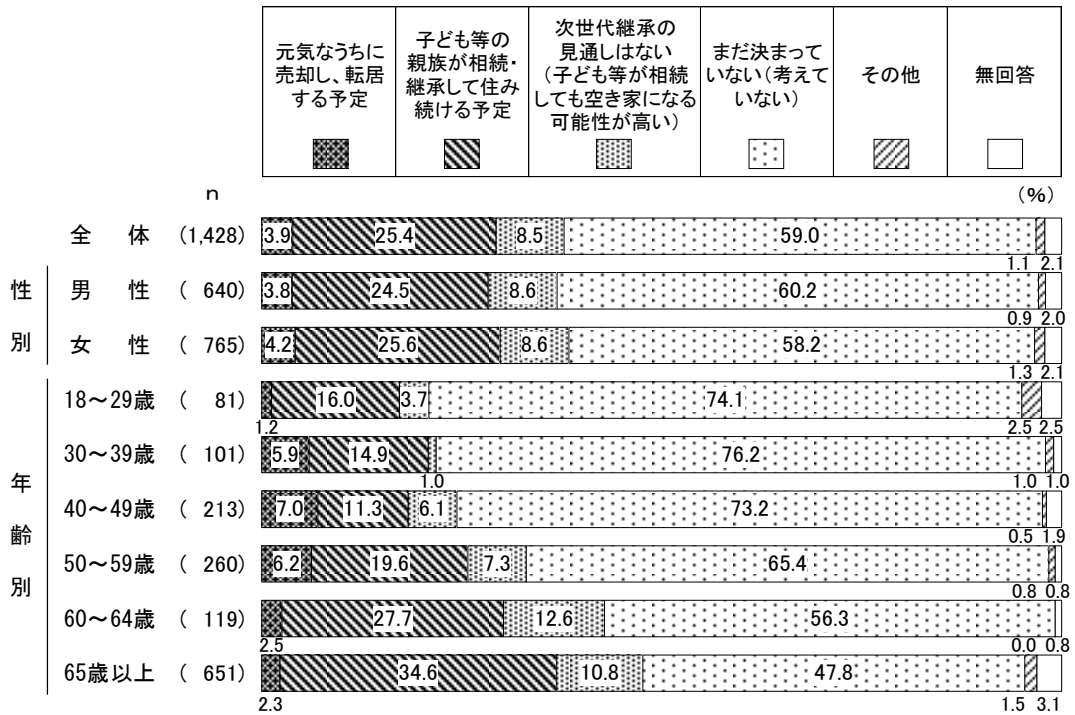
(注) この設問は令和3年(2021年)と令和4年(2022年)では、持ち家の有無で「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」の方を対象としていた。

居住形態で、「戸建て（持ち家）」と回答した1,428人に、相続・継承の見通しを聞いたところ、「まだ決まっていない（考えていない）」(59.0%)が6割弱で最も多くなっている。次いで「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」(25.4%)、「次世代継承の見通しはない（子ども等が相続しても空き家になる可能性が高い）」(8.5%)、「元気なうちに売却し、転居する予定」(3.9%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、「次世代継承の見通しはない（子ども等が相続しても空き家になる可能性が高い）」は令和4年(2022年)(6.5%)より2.0ポイント増加している。一方、「まだ決まっていない（考えていない）」は令和4年(2022年)(62.1%)より3.1ポイント減少している。

(図3-53-1)

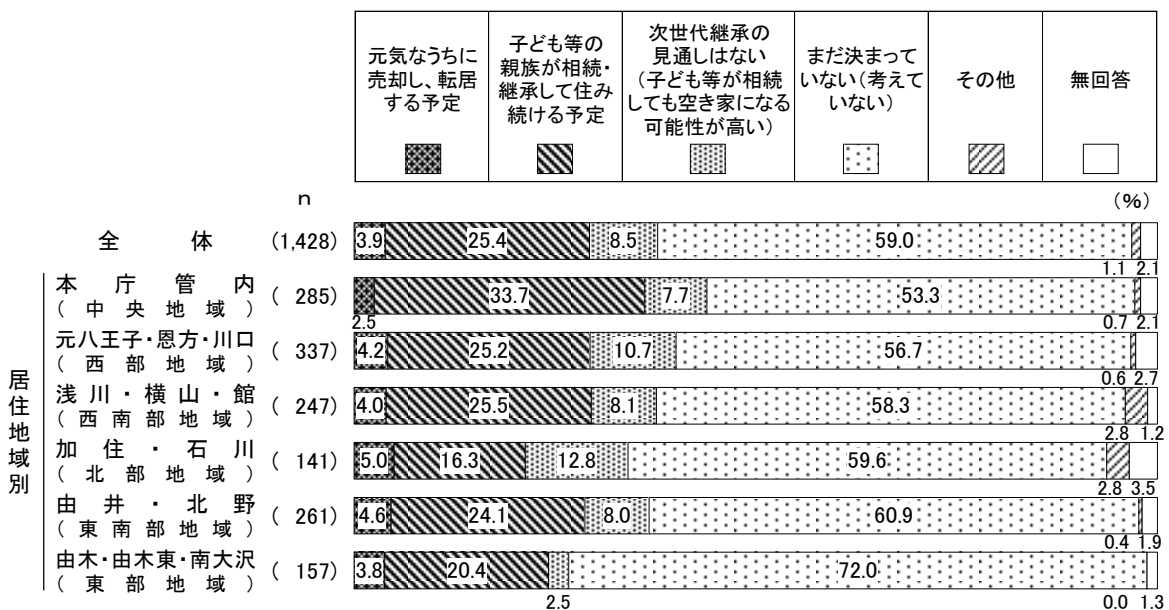
図3-53-2 住まいの相続・継承の見通し—性別、年齢別



性別にみると、「まだ決まっていない(考えていない)」は男性(60.2%)が女性(58.2%)より2.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」は65歳以上(34.6%)で3割台半ばと多くなっている。「まだ決まっていない(考えていない)」は30~39歳(76.2%)で8割近くと多くなっている。(図3-53-2)

図3-53-3 住まいの相続・継承の見通し—居住地域別



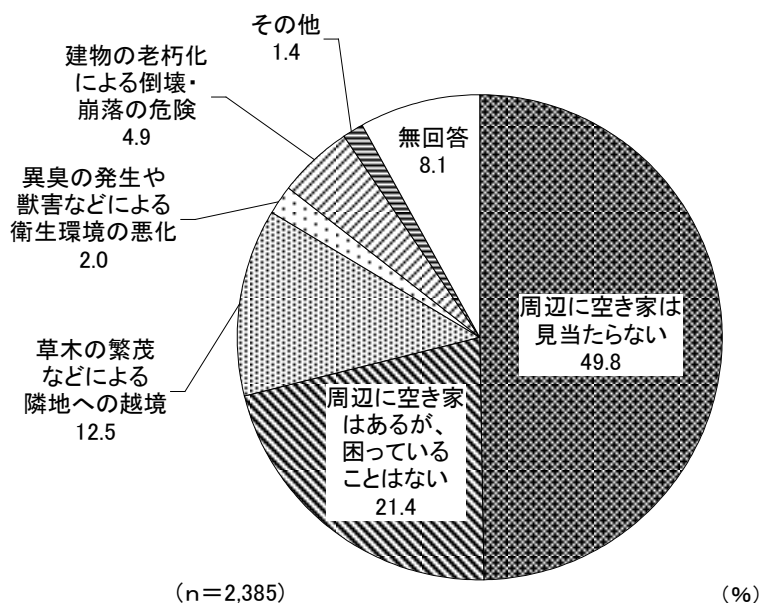
居住地域別にみると、「まだ決まっていない(考えていない)」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(72.0%)で7割強と多くなっている。(図3-53-3)

(54) 空き家で一番困っていること

◇「草木の繁茂などによる隣地への越境」が1割強

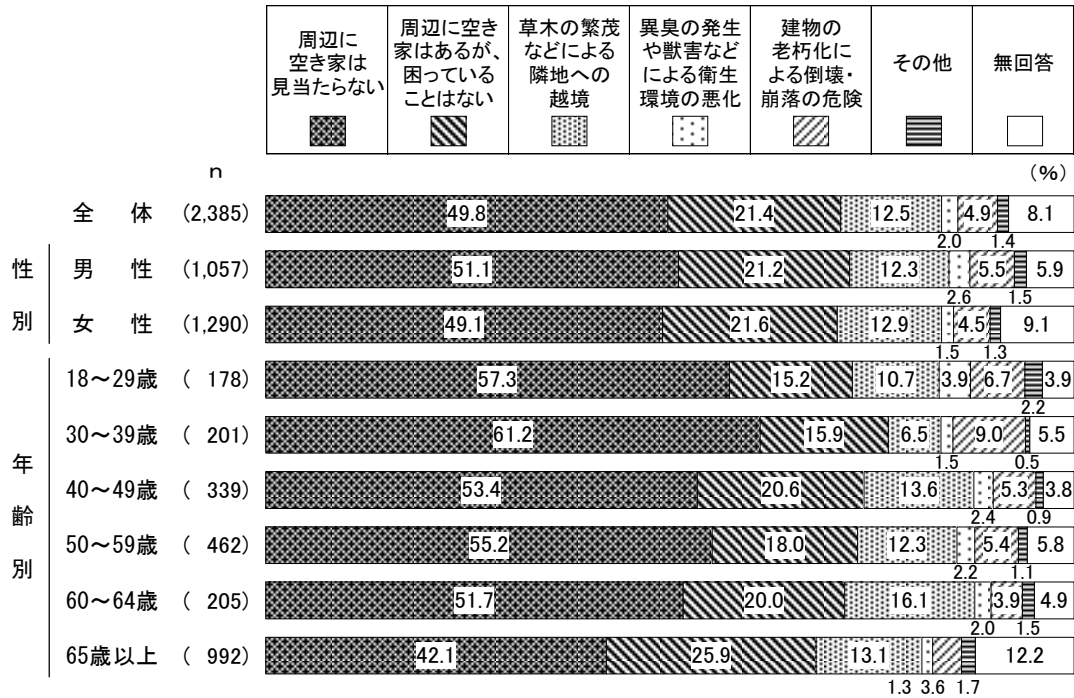
問55 あなたのお住まいの地域での空き家（販売中の住宅を除く）で一番困っていることは何ですか。（○は1つだけ）

図3-54-1 空き家で一番困っていることー全体



居住地域での空き家で一番困っていることを聞いたところ、「周辺に空き家はあるが、困っていることはない」（21.4%）は2割強となっている。一方、困っていることがある中では、「草木の繁茂などによる隣地への越境」（12.5%）が1割強で最も多く、次いで「建物の老朽化による倒壊・崩落の危険」（4.9%）、「異臭の発生や獣害などによる衛生環境の悪化」（2.0%）の順となっている。また、「周辺に空き家は見当たらない」（49.8%）は5割弱となっている。（図3-54-1）

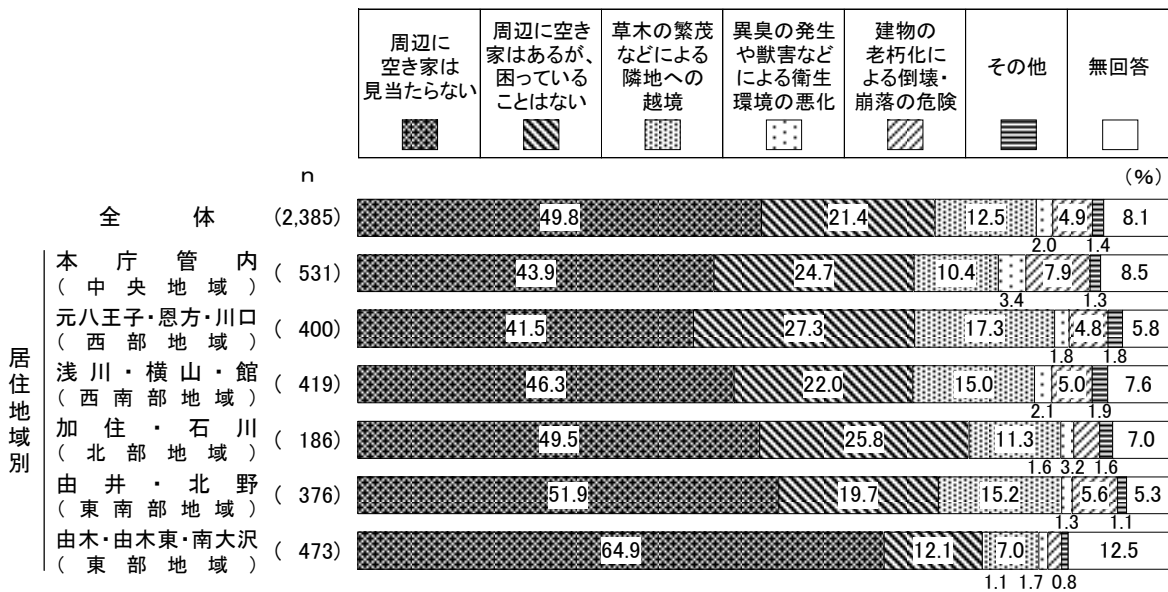
図3-54-2 空き家で一番困っていること－性別、年齢別



性別にみると、「周辺に空き家は見当たらない」は男性（51.1%）が女性（49.1%）より2.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「周辺に空き家は見当たらない」は30～39歳（61.2%）で6割強と多くなっている。「周辺に空き家はあるが、困っていることはない」は65歳以上（25.9%）で2割台半ばと多くなっている。（図3-54-2）

図3-54-3 空き家で一番困っていること－居住地域別



居住地域別にみると、「周辺に空き家は見当たらない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.9%）で6割台半ばと多くなっている。（図3-54-3）

(55) 性的マイノリティの方々への気持ち

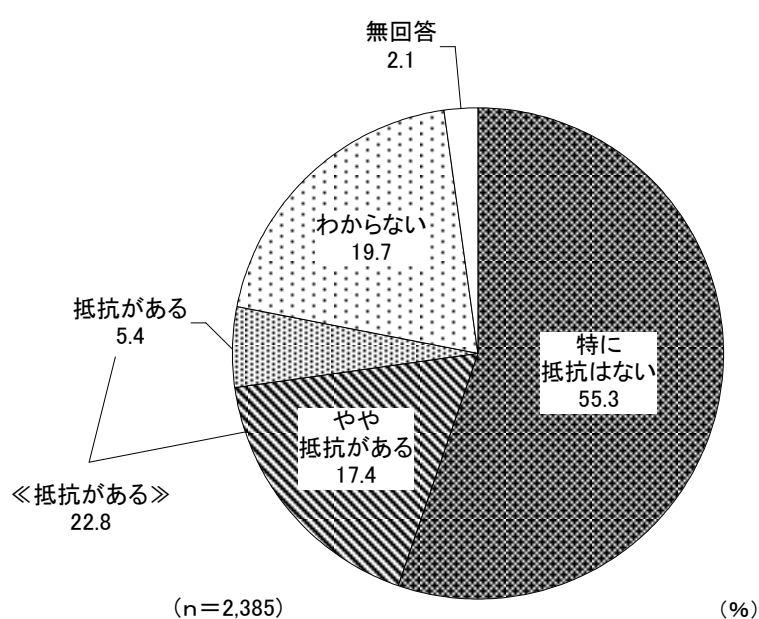
◇「特に抵抗はない」が5割台半ば

問56 自分の家族又は知り合いなど、身近に性的マイノリティの方がいた場合、あなたはどのように思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(○は1つだけ)

※性的マイノリティとは・・・

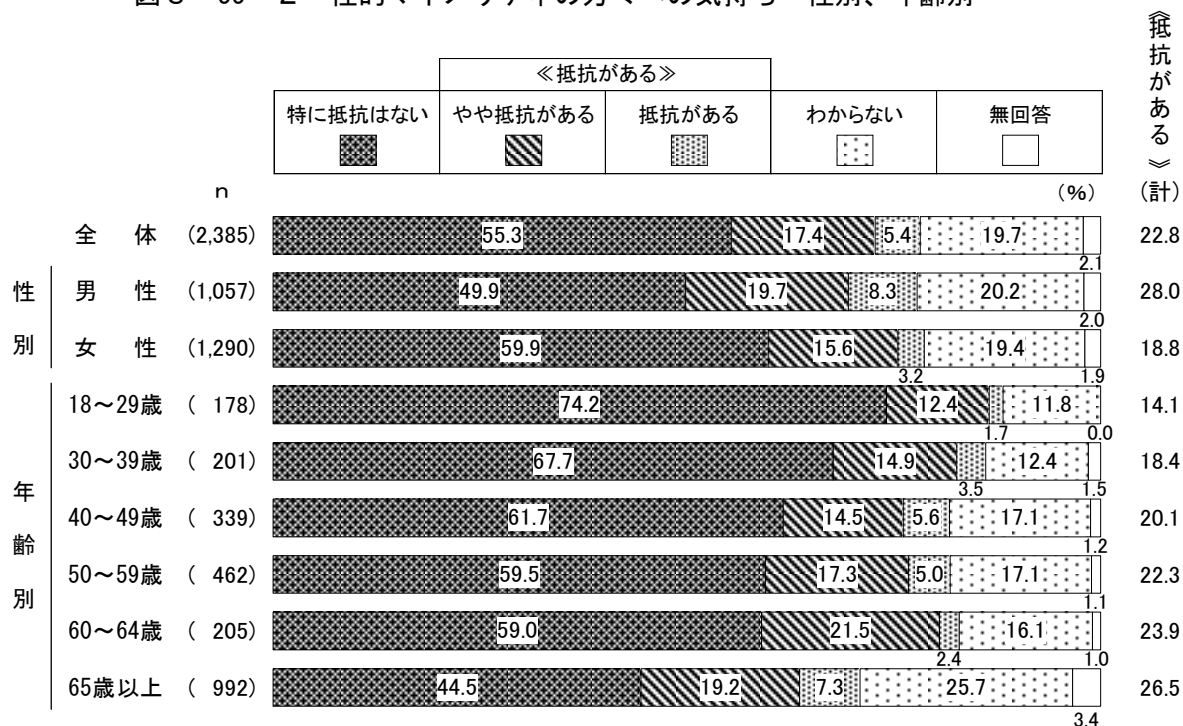
性自認が出生時に判定された性と一致しない者又は性的指向が必ずしも異性のみではない者を言います。

図3-55-1 性的マイノリティの方々への気持ちー全体



性的マイノリティの方々への気持ちを聞いたところ、「特に抵抗はない」(55.3%)が5割台半ばとなっている。一方、「やや抵抗がある」(17.4%)と「抵抗がある」(5.4%)を合わせた《抵抗がある》(22.8%)は2割強となっている。(図3-55-1)

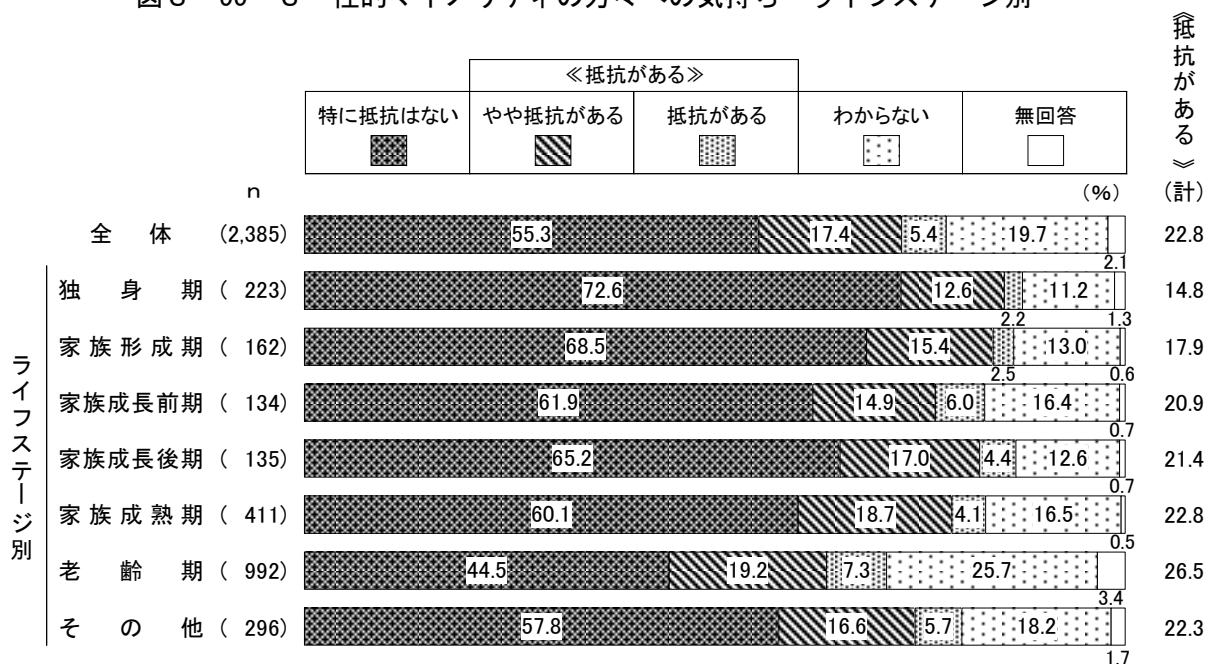
図3-55-2 性的マイノリティの方々への気持ちー性別、年齢別



性別にみると、《抵抗がある》は男性（28.0%）が女性（18.8%）より9.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《抵抗がある》は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（26.5%）で3割近くと多くなっている。（図3-55-2）

図3-55-3 性的マイノリティの方々への気持ちーライフステージ別



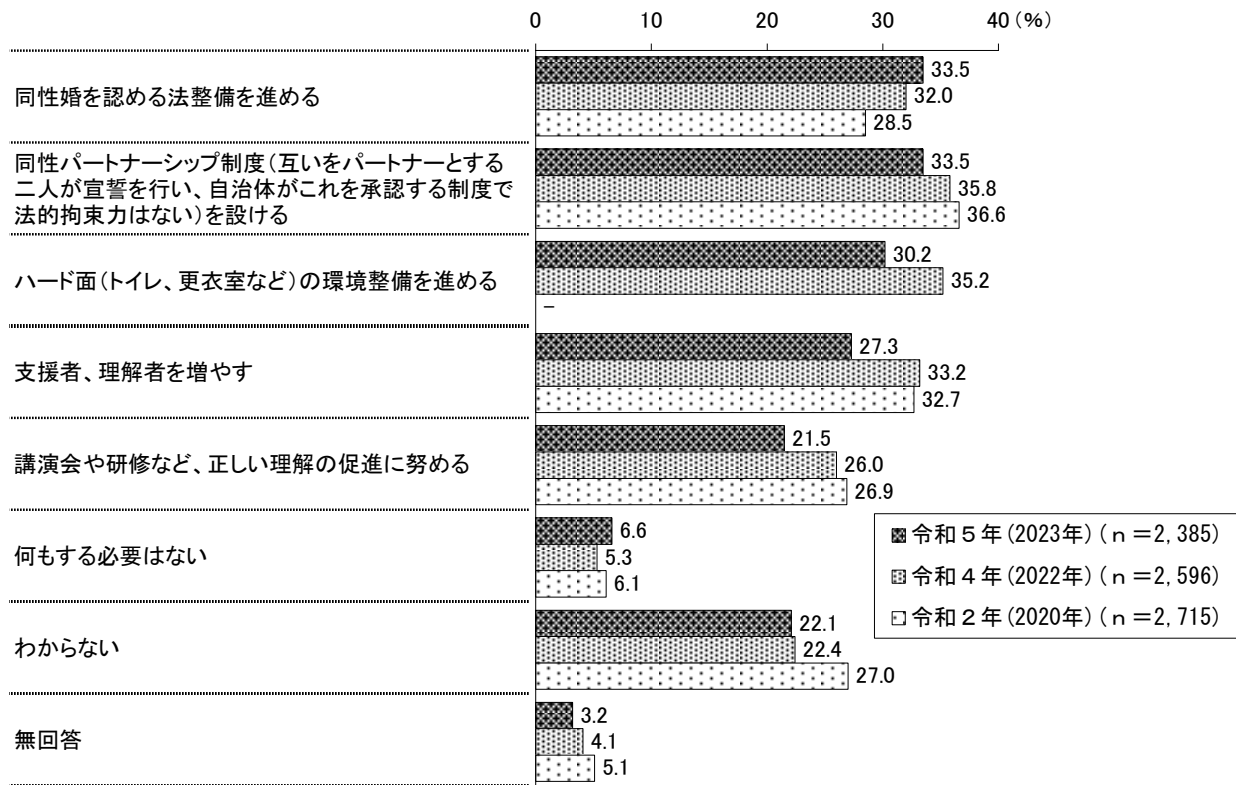
ライフステージ別にみると、《抵抗がある》は老齢期（26.5%）で3割近くと多くなっている。（図3-55-3）

(56) 性的マイノリティの方々にとって生活しやすい環境づくり

◇「同性婚を認める法整備を進める」と「同性パートナーシップ制度」がともに3割強

問57 性的マイノリティの方々にとって、生活しやすい環境づくりのために必要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

図3-56-1 性的マイノリティの方々にとって生活しやすい環境づくりー全体、経年比較



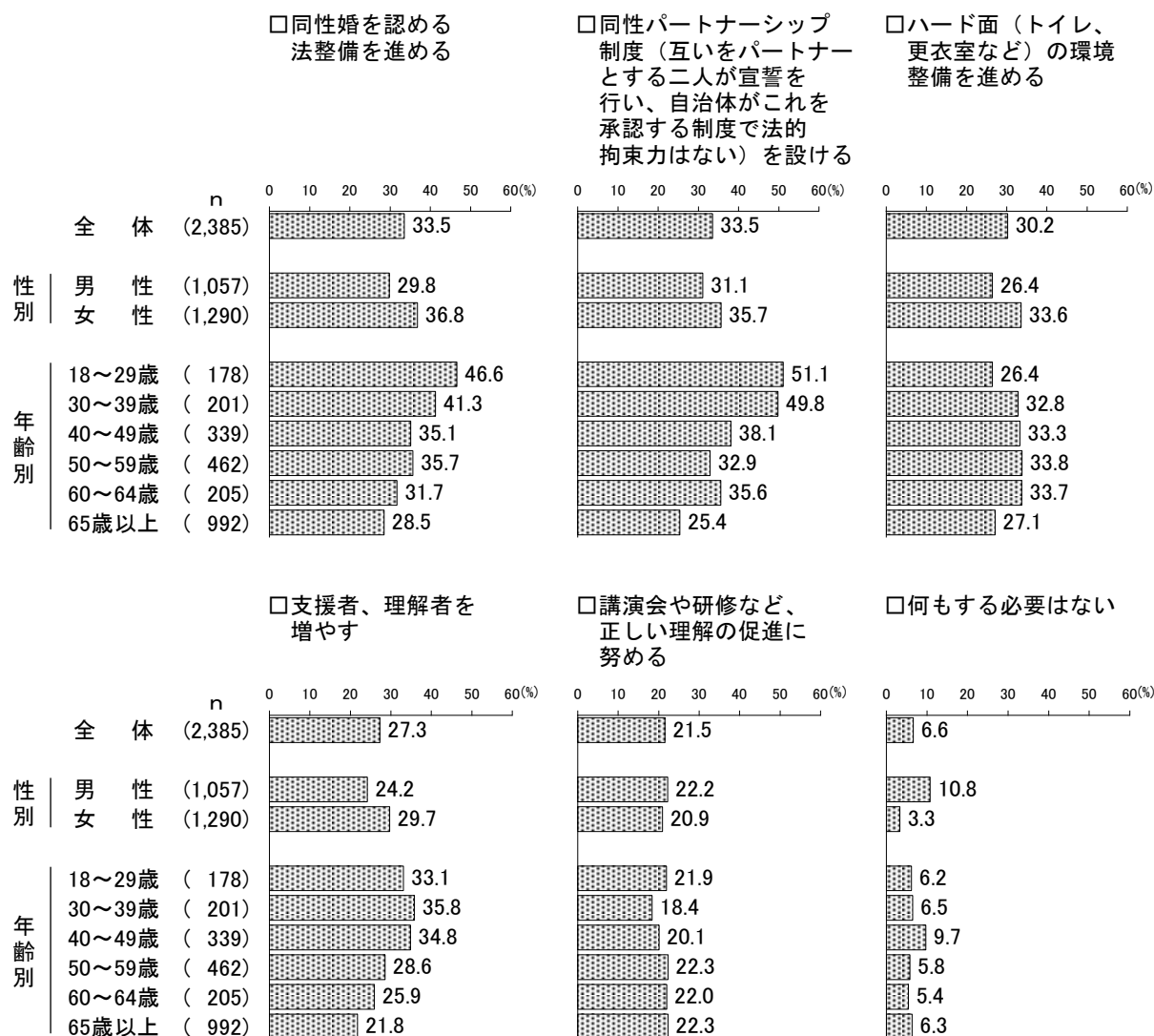
(注)「同性パートナーシップ制度(互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない)を設ける」は、令和2年(2020年)では「同性パートナーシップ制度(自治体が同性カップルを公に認める制度)を設ける」としていた。

(注)「ハード面(トイレ、更衣室など)の環境整備を進める」は、令和4年(2022年)から追加された選択肢。

性的マイノリティの方々にとって、生活しやすい環境づくりのために必要だと思うことを聞いたところ、「同性婚を認める法整備を進める」と「同性パートナーシップ制度(互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない)を設ける」(ともに33.5%)がともに3割強で多くなっている。次いで「ハード面(トイレ、更衣室など)の環境整備を進める」(30.2%)、「支援者、理解者を増やす」(27.3%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「支援者、理解者を増やす」は令和4年(2022年)(33.2%)より5.9ポイント、「ハード面(トイレ、更衣室など)の環境整備を進める」は令和4年(2022年)(35.2%)より5.0ポイント、「講演会や研修など、正しい理解の促進に努める」は令和4年(2022年)(26.0%)より4.5ポイント、それぞれ減少している。(図3-56-1)

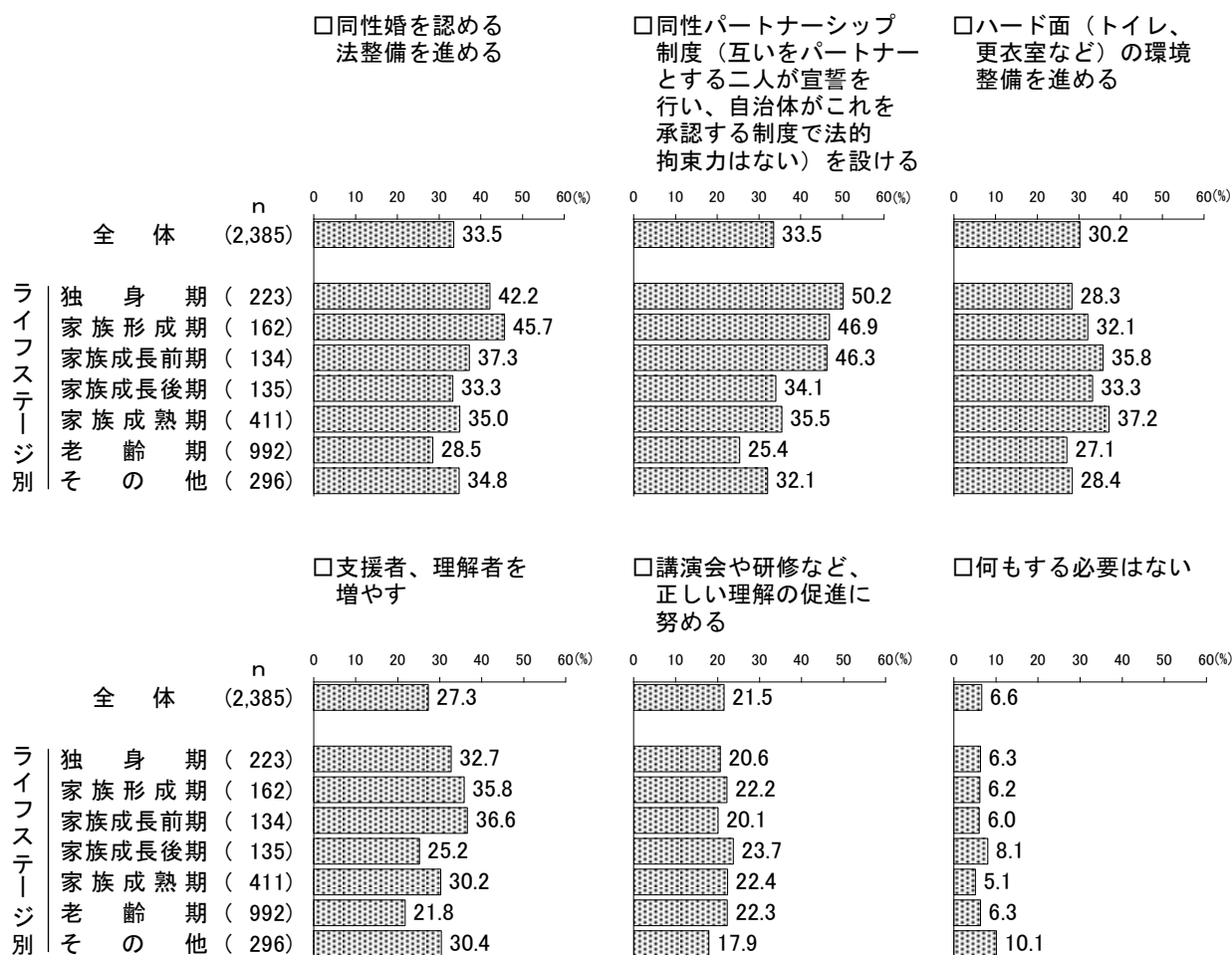
図3-56-2 性的マイノリティの方々にとって生活しやすい環境づくり—性別、年齢別
 (「わからない」を除く)



性別にみると、「ハード面（トイレ、更衣室など）の環境整備を進める」は女性（33.6%）が男性（26.4%）より7.2ポイント、「同性婚を認める法整備を進める」は女性（36.8%）が男性（29.8%）より7.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「何もする必要はない」は男性（10.8%）が女性（3.3%）より7.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「同性婚を認める法整備を進める」は18~29歳（46.6%）で5割近くと多くなっている。「同性パートナーシップ制度（互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない）を設ける」は18~29歳（51.1%）で5割強と多くなっている。「支援者、理解者を増やす」は30~39歳（35.8%）と40~49歳（34.8%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-56-2）

図3-56-3 性的マイノリティの方々にとって生活しやすい環境づくり—ライフステージ別
 (「わからない」を除く)



ライフステージ別にみると、「同性婚を認める法整備を進める」は家族形成期 (45.7%) で4割台半ばと多くなっている。「同性パートナーシップ制度 (互いをパートナーとする二人が宣誓を行い、自治体がこれを承認する制度で法的拘束力はない) を設ける」は独身期 (50.2%) で約5割と多くなっている。「ハード面 (トイレ、更衣室など) の環境整備を進める」は家族成熟期 (37.2%) で4割近くと多くなっている。(図3-56-3)

(57) ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度

◇希望する優先度は「『家庭生活』を優先」が約3割

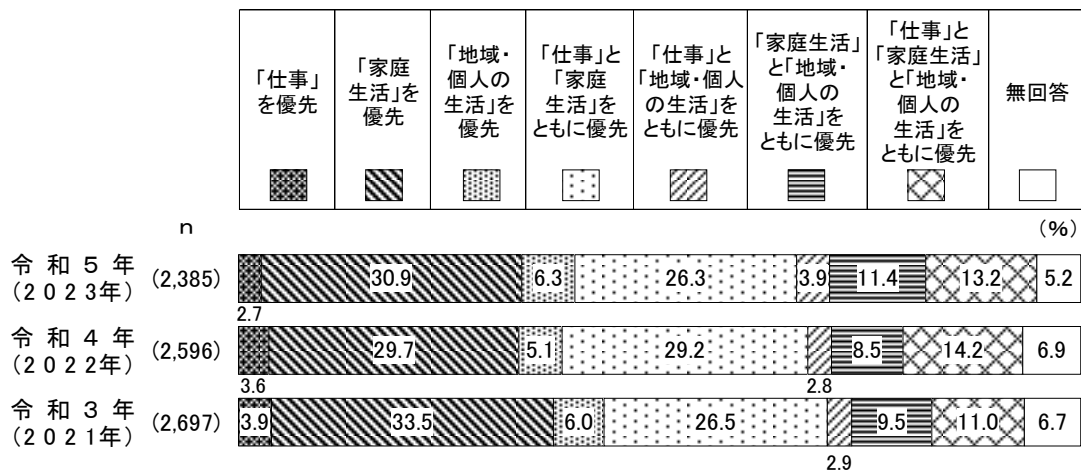
問58 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

（○はそれぞれ1ずつ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

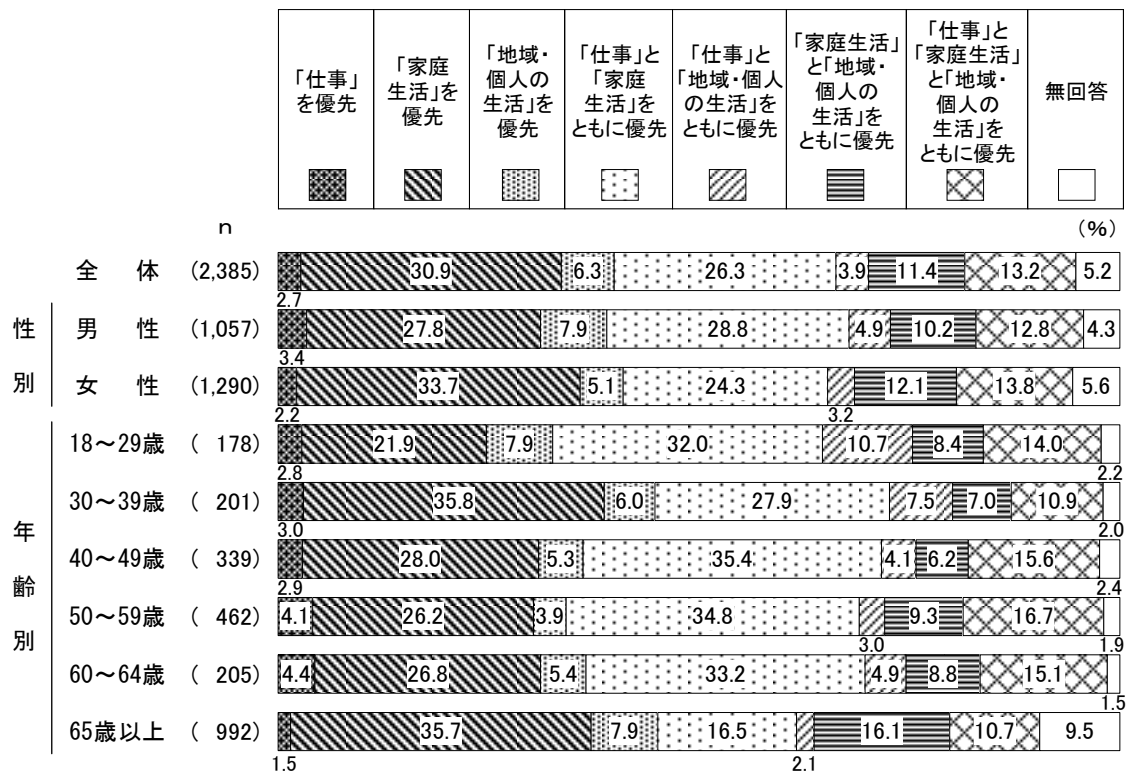
図3-57-1 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、希望する優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（30.9%）が約3割で最も多くなっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（26.3%）、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（13.2%）、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（11.4%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は令和4年（2022年）（8.5%）より2.9ポイント増加している。一方、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は令和4年（2022年）（29.2%）より2.9ポイント減少している。（図3-57-1）

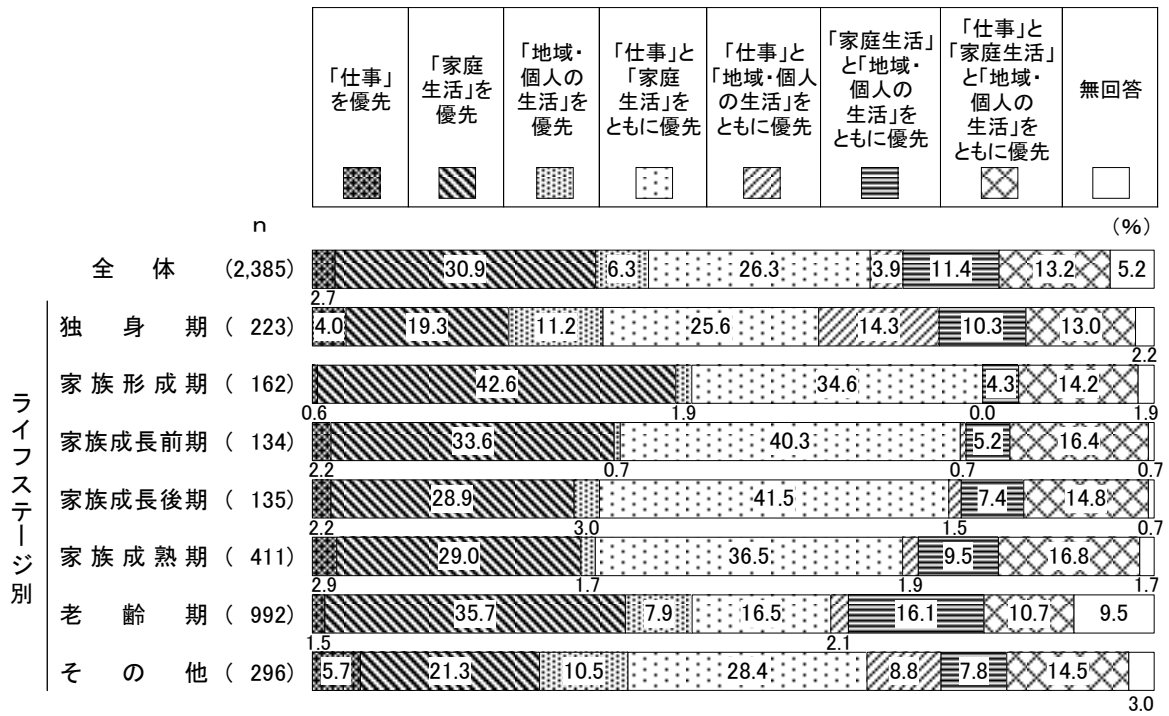
図3-57-2 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度—性別、年齢別



性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（33.7%）が男性（27.8%）より5.9ポイント高くなっている。一方、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は男性（28.8%）が女性（24.3%）より4.5ポイント高くなっている。

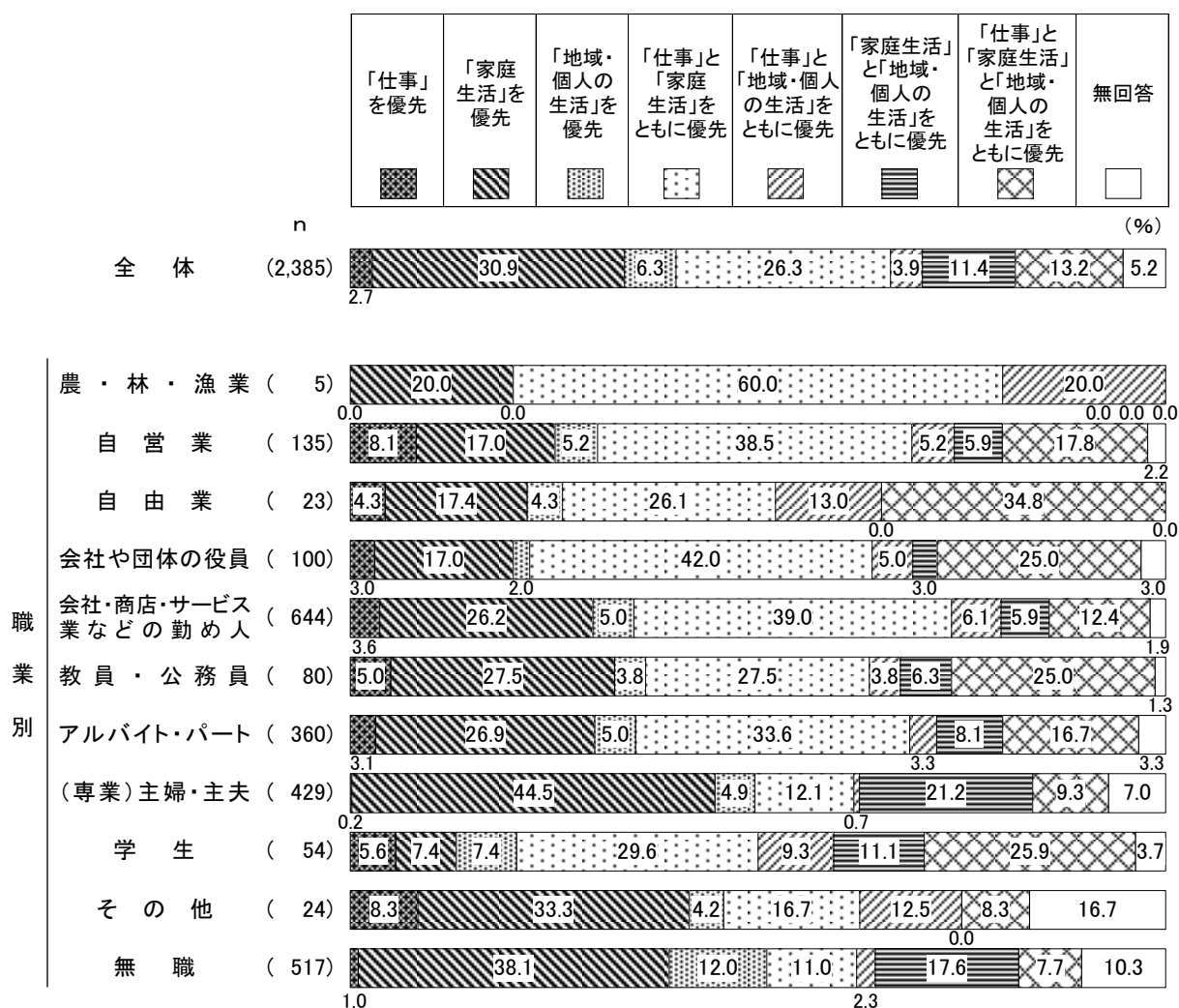
年齢別にみると、『家庭生活』を優先は30～39歳（35.8%）と65歳以上（35.7%）で3割台半ばと多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は40～49歳（35.4%）と50～59歳（34.8%）で3割台半ばと多くなっている。（図3-57-2）

図3-57-3 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「『家庭生活』を優先」は家族形成期（42.6%）で4割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（41.5%）で4割強と多くなっている。（図3-57-3）

図3-57-4 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－職業別



職業別にみると、「『家庭生活』を優先」は（専業）主婦・主夫（44.5%）で4割台半ばと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は会社や団体の役員（42.0%）で4割強と多くなっている。（図3-57-4）

(58) ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度

◇実際の優先度は「『家庭生活』を優先」が3割台半ば

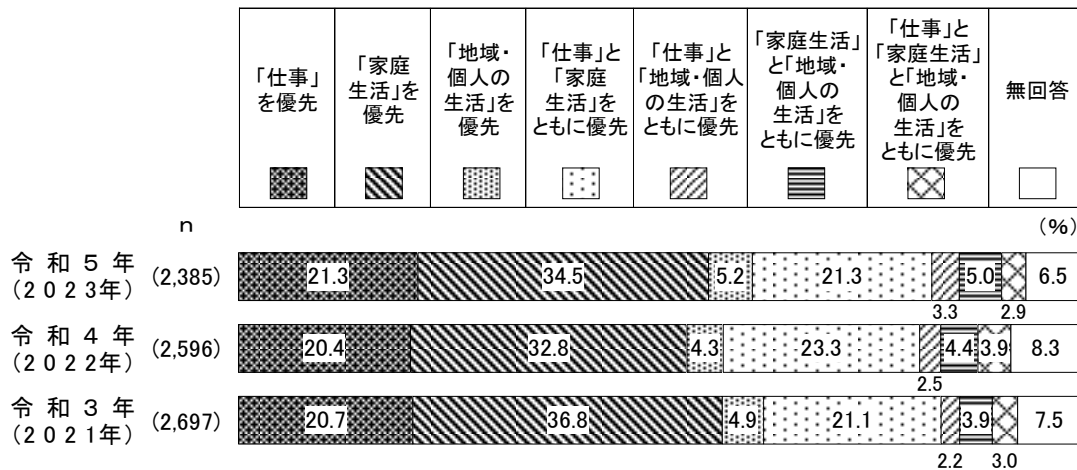
問58 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

（○はそれぞれ1つずつ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

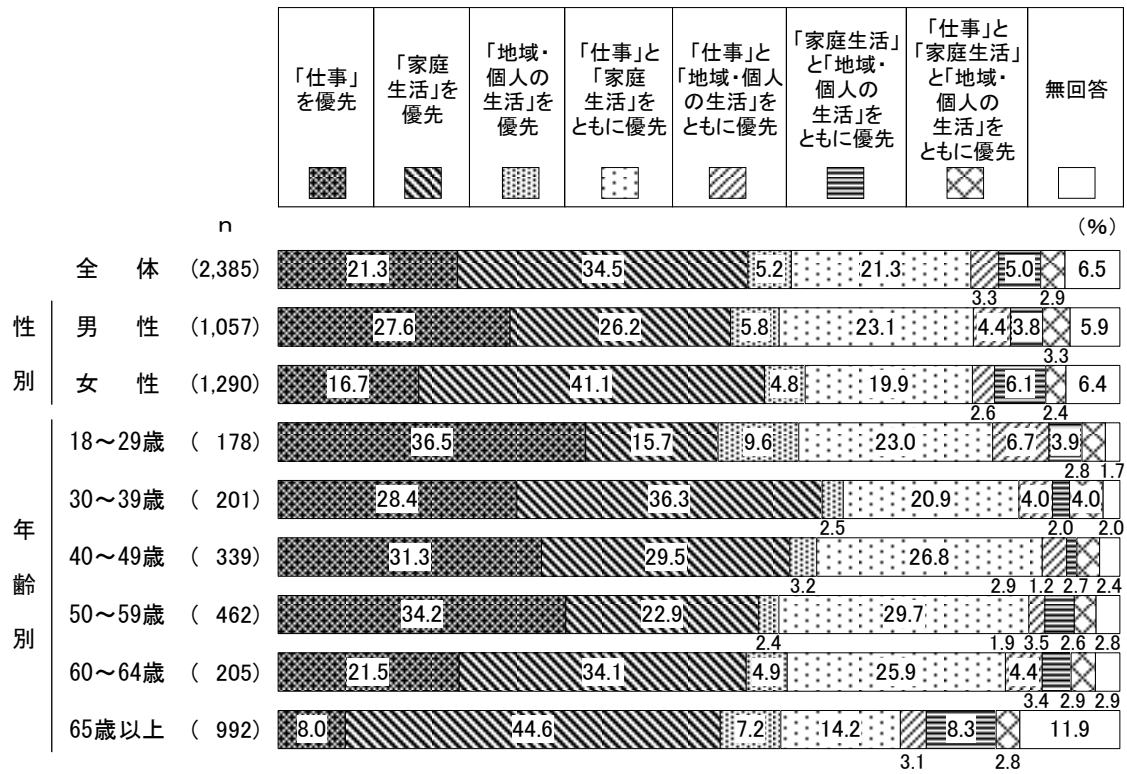
図3-58-1 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、実際の優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（34.5%）が3割台半ばで最も多くなっている。次いで「『仕事』を優先」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（ともに21.3%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は令和4年(2022年)(23.3%)より2.0ポイント減少している。(図3-58-1)

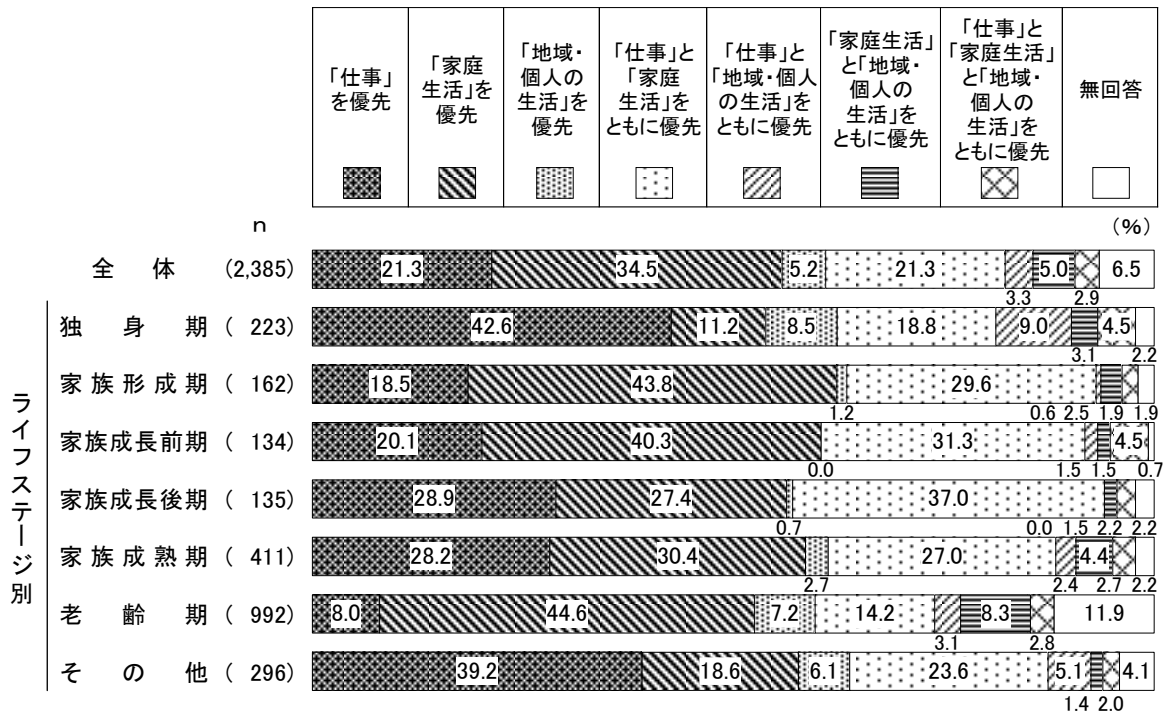
図3-58-2 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度—性別、年齢別



性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（41.1%）が男性（26.2%）より14.9ポイント高くなっている。一方、『仕事』を優先は男性（27.6%）が女性（16.7%）より10.9ポイント、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は男性（23.1%）が女性（19.9%）より3.2ポイント、それぞれ高くなっている。

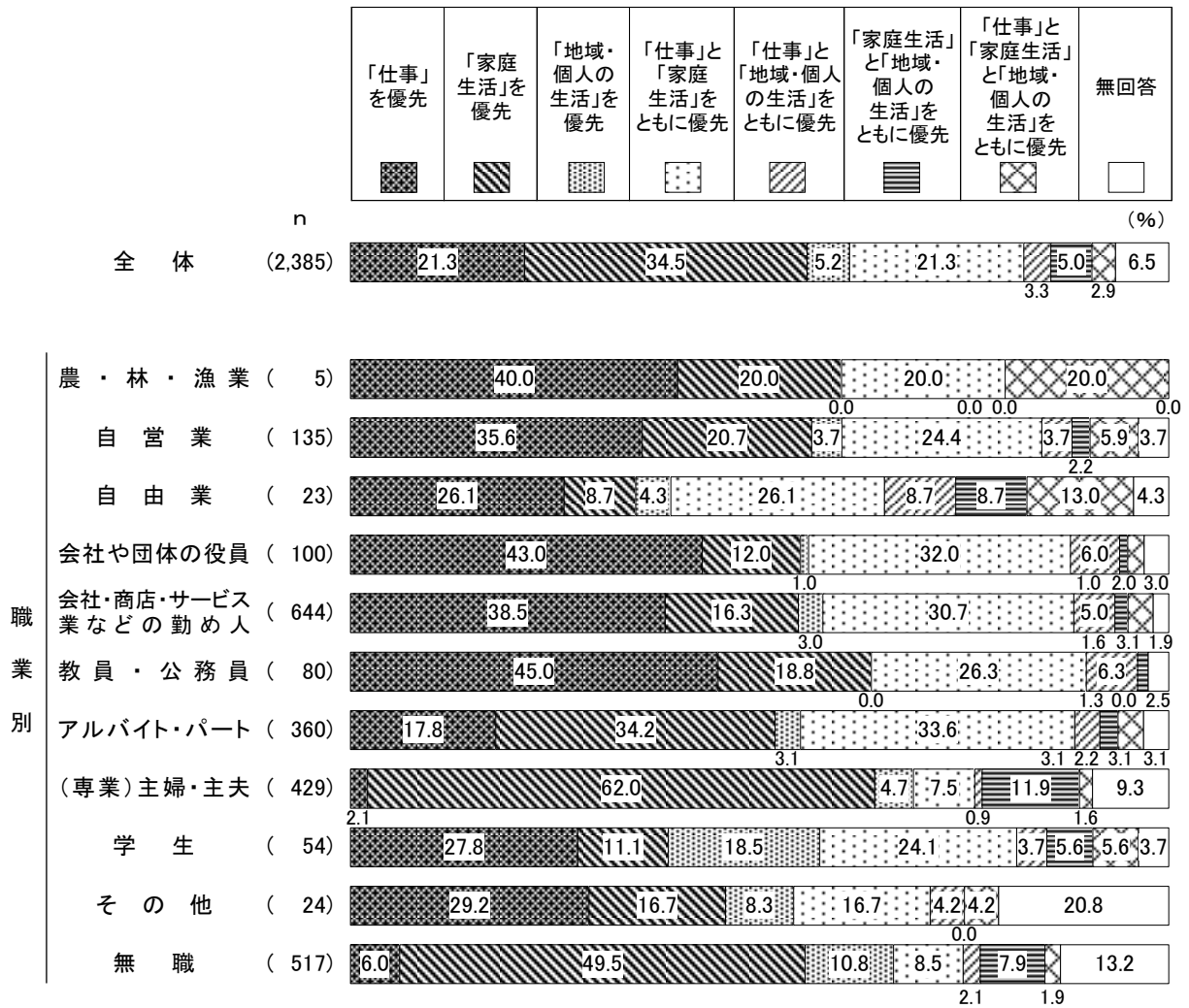
年齢別にみると、『仕事』を優先は18~29歳（36.5%）で4割近くと多くなっている。『家庭生活』を優先は65歳以上（44.6%）で4割台半ばと多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は50~59歳（29.7%）で3割弱と多くなっている。（図3-58-2）

図3-58-3 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－ライフステージ別



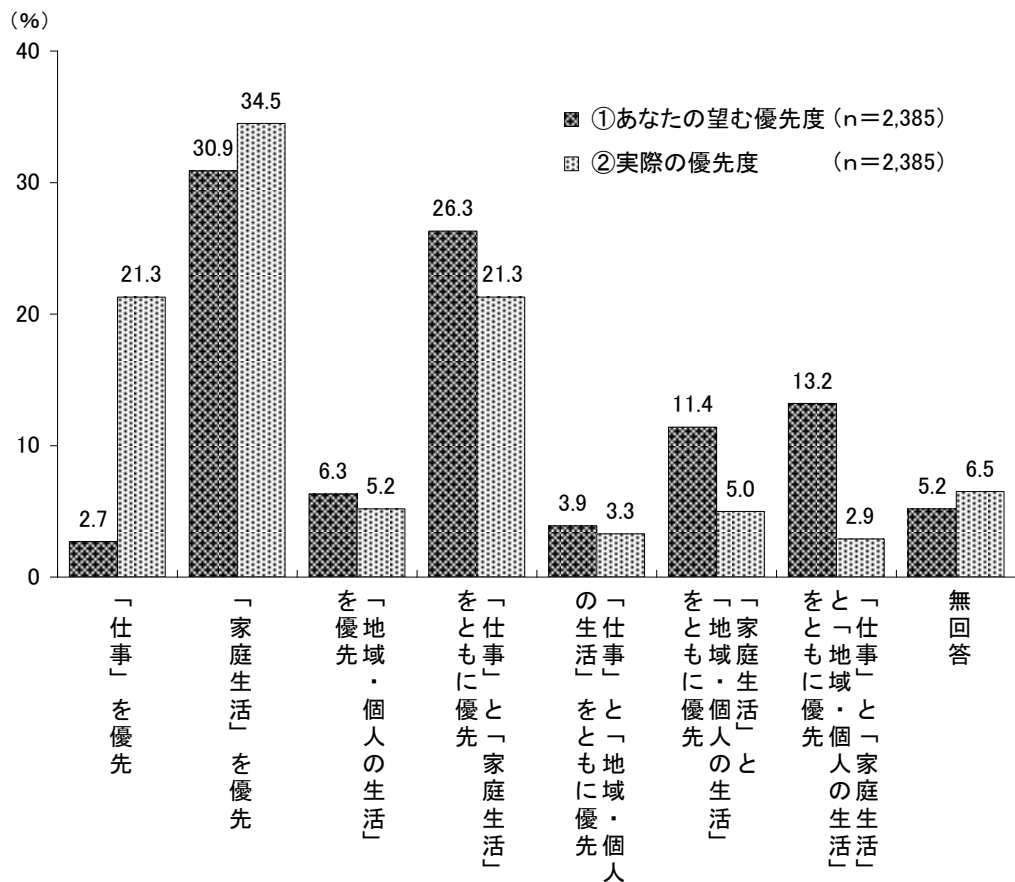
ライフステージ別にみると、「『仕事』を優先」は独身期（42.6%）で4割強と多くなっている。「『家庭生活』を優先」は老齢期（44.6%）で4割台半ばと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（37.0%）で4割近くと多くなっている。（図3-58-3）

図3-58-4 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－職業別



職業別にみると、『仕事』を優先は教員・公務員（45.0%）で4割台半ばと多くなっている。『家庭生活』を優先は（専業）主婦・主夫（62.0%）で6割強、無職（49.5%）で5割弱と多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先はアルバイト・パート（33.6%）と会社や団体の役員（32.0%）で3割強と多くなっている。（図3-58-4）

図3-58-5 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度




「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度について比較したところ、「『仕事』を優先」は②実際の優先度（21.3%）が①希望する優先度（2.7%）を18.6ポイント上回っており、全7項目の中で最も両者の比率の差が大きくなっている。次いで比率の差の大きい「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は②実際の優先度（2.9%）が①希望する優先度（13.2%）を10.3ポイント下回っている。3番目に比率の差が大きい「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」も②実際の優先度（5.0%）が①希望する優先度（11.4%）を6.4ポイント下回っている。

一方、全7項目の中で最も比率の差が小さいのは「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先」で②実際の優先度（3.3%）と①希望する優先度（3.9%）の比率の差が0.6ポイントとなっている。（図3-58-5）

図3-58-6 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度-②実際の優先度別

(%)

		n	①あなたの望む優先度							無回答
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と「家庭生活」をともに優先	の「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	を「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先	を「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	
全体		2,385	2.7	30.9	6.3	26.3	3.9	11.4	13.2	5.2
②実際の優先度	「仕事」を優先	509	9.0	21.2	5.5	40.7	7.1	3.9	12.4	0.2
	「家庭生活」を優先	822	0.6	59.2	3.8	13.3	1.0	13.9	6.9	1.3
	「地域・個人の生活」を優先	125	1.6	8.0	52.0	6.4	4.8	12.8	11.2	3.2
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	507	1.0	17.4	2.2	54.6	0.6	4.9	19.3	-
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	79	-	5.1	11.4	10.1	44.3	6.3	21.5	1.3
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	120	0.8	11.7	0.8	2.5	0.8	68.3	14.2	0.8
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	68	1.5	5.9	-	8.8	4.4	11.8	67.6	-
	無回答	155	2.6	14.2	3.9	5.8	0.6	1.9	1.9	69.0

(注)  は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をみると、実際に「『仕事』を優先」している人（509名）においては、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」することを希望する人（40.7%）が約4割で最も多くなっており、「『仕事』を優先」することを希望する人（9.0%）は1割弱となっている。一方、実際の優先度で「『仕事』を優先」以外の項目を回答した人たちにおいては、①希望する優先度と②実際の優先度が一致している人の割合がそれぞれ最も多くなっている。（図3-58-6）

図3-58-7 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度の一致

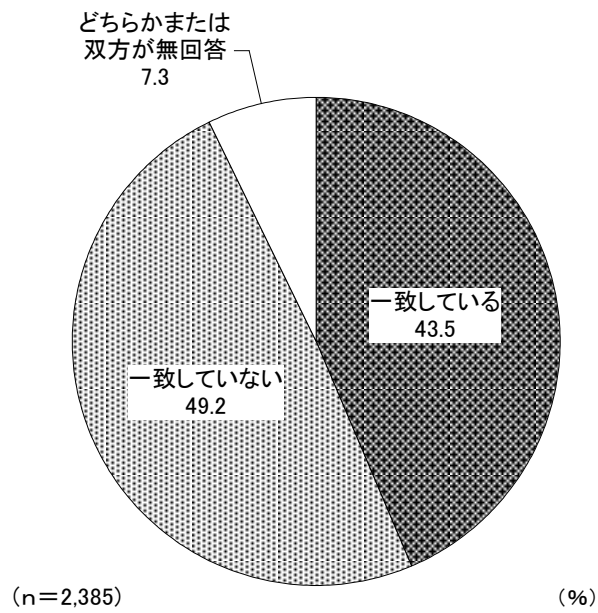


図3-58-6に示した、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をもとに、①希望と②実際の2つの回答が一致した人、すなわち①希望する優先度のとおり②実際の優先度が実現できている人の割合（43.5%）は4割強となっている。

一方、2つの回答が一致しない人、すなわち①希望する優先度のとおり②実際の優先度が実現できていない人の割合（49.2%）は5割弱となっている。（図3-58-7）

(59) 市の相談体制の充実度

◇《《そう思う》が4割近く

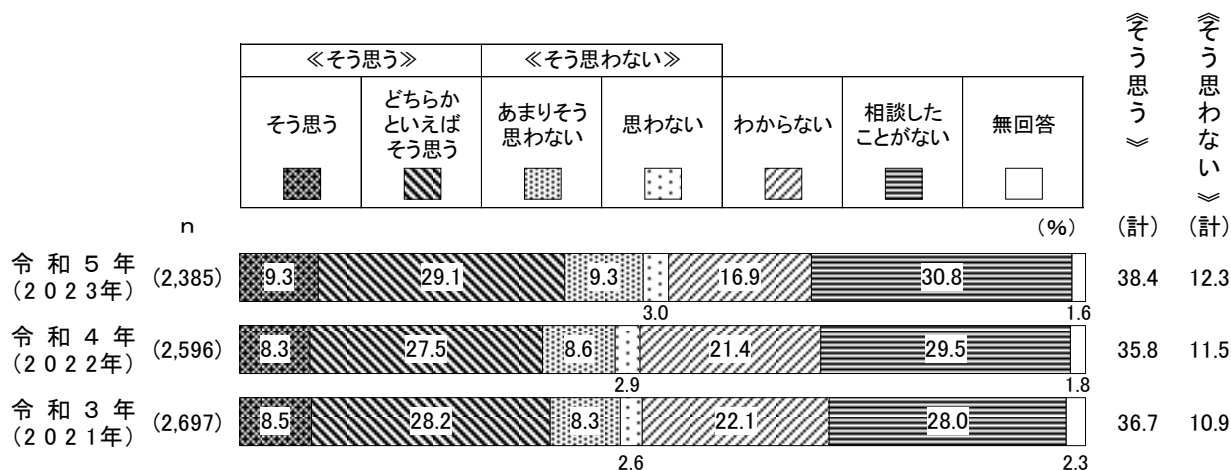
問59 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。(○は1つだけ)

※市では、専門機関・専門家と連携し、次のような相談を行っています。

- | | |
|--|------------------------------------|
| ○人権、女性福祉、女性のための相談 | ○高齢者の福祉と介護、高齢者総合 |
| ○生活にお困りの方の自立相談 | ○専門家による成年後見制度・権利擁護相談 |
| ○法律、交通事故、税金、不動産、
司法書士法律、登記、
相続・遺言等暮らしの手続 | ○若者総合相談 |
| ○年金・雇用保険・労働条件 | ○ひとり親家庭のための相談、弁護士による
養育費などの法律相談 |
| ○国の行政相談 ○消費生活相談 | ○子ども家庭総合 |
| ○外国人のための生活相談、行政書士相談 | ○総合教育相談室、こども電話相談 |
| ○地域活動への参加に関する相談 | ○子どものいじめ相談電話 |
| ○起業に関する相談 | ○こころの健康相談 |
| ○住まいのなんでも相談会、
住宅・ブロック塀に関する相談 | ○H I Vに関する相談・検査 |
| ○日常の困りごとに関する福祉総合相談 | ○医療に関する相談 |
| | ○保健福祉・栄養・歯科相談 など |

※これらの相談の「日時・会場・問い合わせ先」については、広報はちおうじの「相談まどぐち」（毎月1日号に掲載）や、市ホームページをご覧ください。

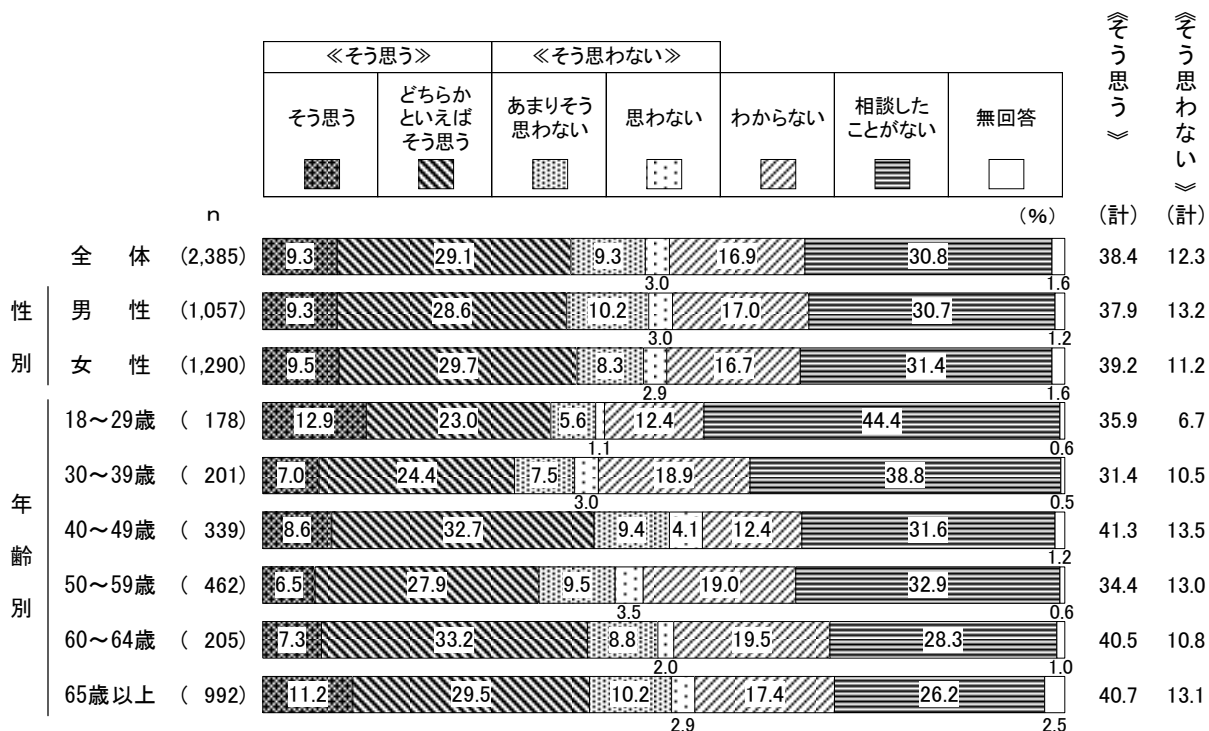
図3-59-1 市の相談体制の充実度—全体、経年比較



市が実施する相談体制は充実していると思うか聞いたところ、「そう思う」（9.3%）と「どちらかといえばそう思う」（29.1%）を合わせた《《そう思う》》（38.4%）は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」（9.3%）と「思わない」（3.0%）を合わせた《《そう思わない》》（12.3%）は1割強となっている。また、「相談したことがない」（30.8%）は約3割となっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は令和4年（2022年）（35.8%）より2.6ポイント増加している。（図3-59-1）

図3-59-2 市の相談体制の充実度—性別、年齢別

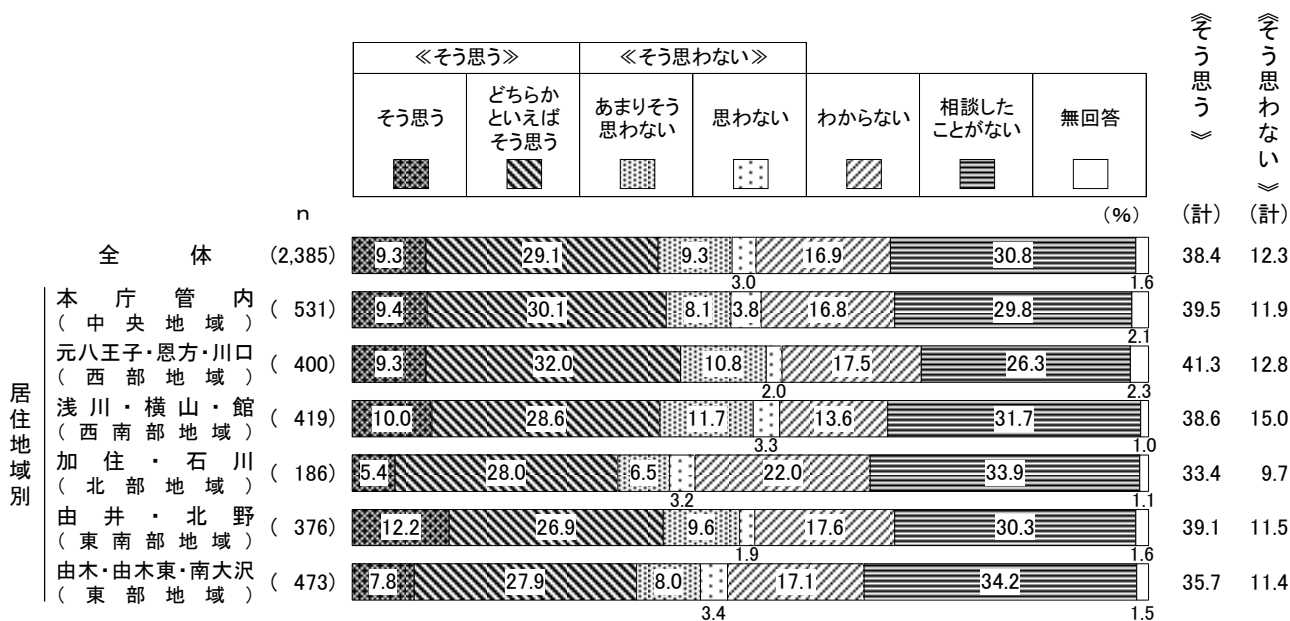


性別にみると、《《そう思わない》》は男性（13.2%）が女性（11.2%）より2.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《《そう思う》》は40~49歳（41.3%）で4割強と多くなっている。

(図3-59-2)

図3-59-3 市の相談体制の充実度—居住地域別



居住地域別にみると、《《そう思う》》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（41.3%）で4割強と多くなっている。(図3-59-3)

(60) 行財政運営

◇《評価する》が6割近く

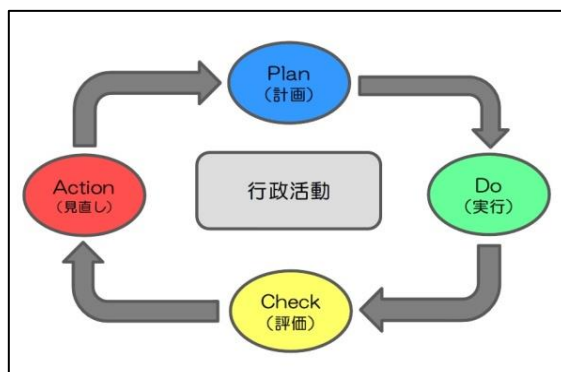
問60 市は、下欄のような取り組みにより、効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努めています。

このような市の取組に対するあなたの評価をお選びください。(○は1つだけ)

(1) 計画行政の推進

○市の基本構想・基本計画に掲げた施策の実現に向け、計画的な行政運営を行っています。なお、これまでの「八王子ビジョン2022」の期間終了に伴い、令和5年度(2023年度)からは、新たに策定した「八王子未来デザイン2040」がスタートしています。持続可能な行財政運営のもと、施策の効果的な展開と中長期的な視点による経営マネジメントに一体的に取り組んでいきます。

PDCAサイクル



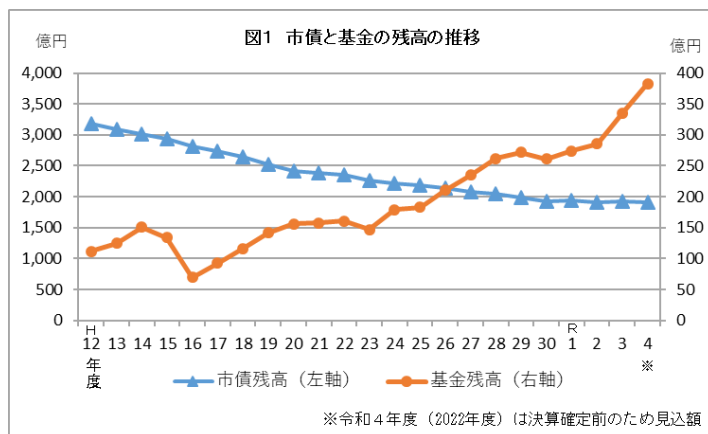
(2) 行政運営の効果・効率性を高める取組

○公共施設マネジメントを推進するため、当初の設置目的と現在の運営状況を踏まえた施設の見直しを行ったほか、データの利活用を推進するため、庁内に分散しているデータを連携する行政情報分析ツールを導入するなど、社会変化に対応した適正なサービスの提供に向けた取組を進めました。令和5年度(2023年度)からは、「八王子未来デザイン2040」の実現に向けた施策の推進に必要な経営資源(ヒト・モノ・財源・情報)を確保するため、「八王子市経営計画」(経営改革編)において、多様な主体の力を引き出す環境づくりや事業・施設マネジメントの強化、利用者中心のサービス改革を軸とした具体的な取組の展開を示し、推進していきます。

(3) 健全な財政運営

○全国的な高齢化社会の進展、少子化対策の実施などを背景に、社会保障関係経費が増加し続けており、財政危機におちいる可能性を表明する自治体も出てきています。

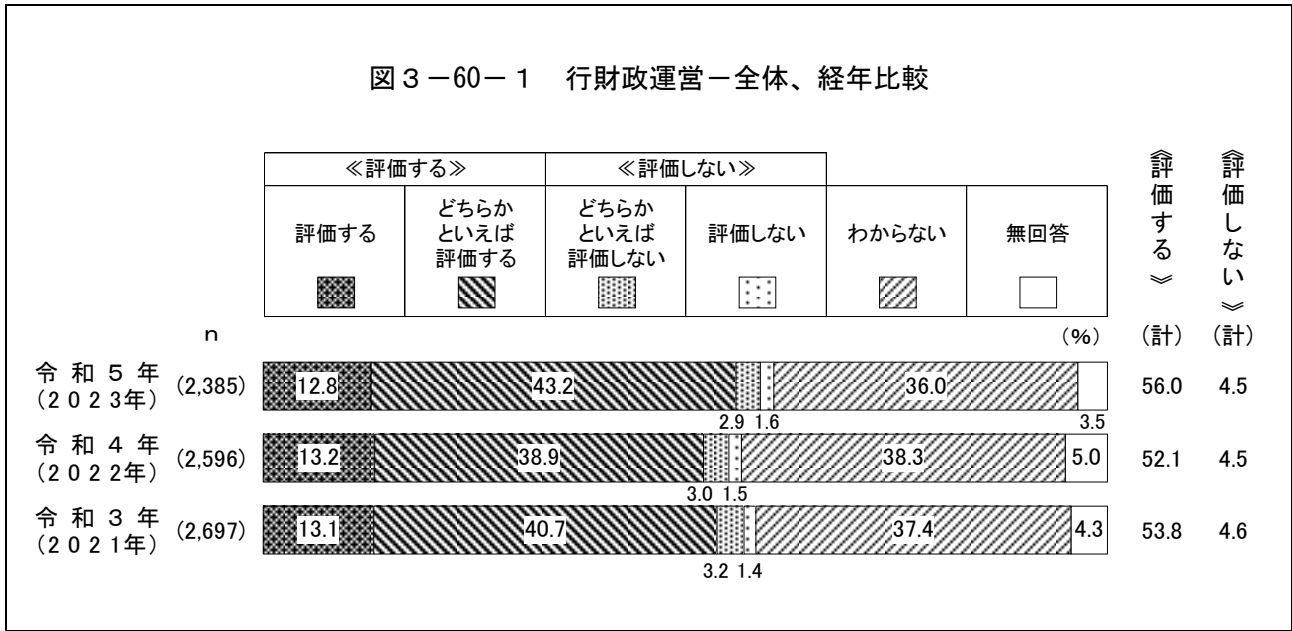
○市債(市の借金)の残高は、平成12年度(2000年度)の3,184億円が最大でしたが、削減の取組により令和4年度(2022年度)は1,911億円(見込)になっています。一方、



同じ期間で基金(市の貯金)の残高は、112億円から383億円(見込)まで増加しています。(図1)

○今後人口減少社会となり、市税収入等の減少が見込まれますが、公共施設の老朽化、災害に強いまちづくりなど課題は山積しています。そうしたなかでも、市では効果・効率的な行政運営を行うことで、将来世代に過度な負担を残さない財政運営に努めています。なお、市の予算・決算及び財政状況については、ホームページでも公表していますので、ご覧ください。

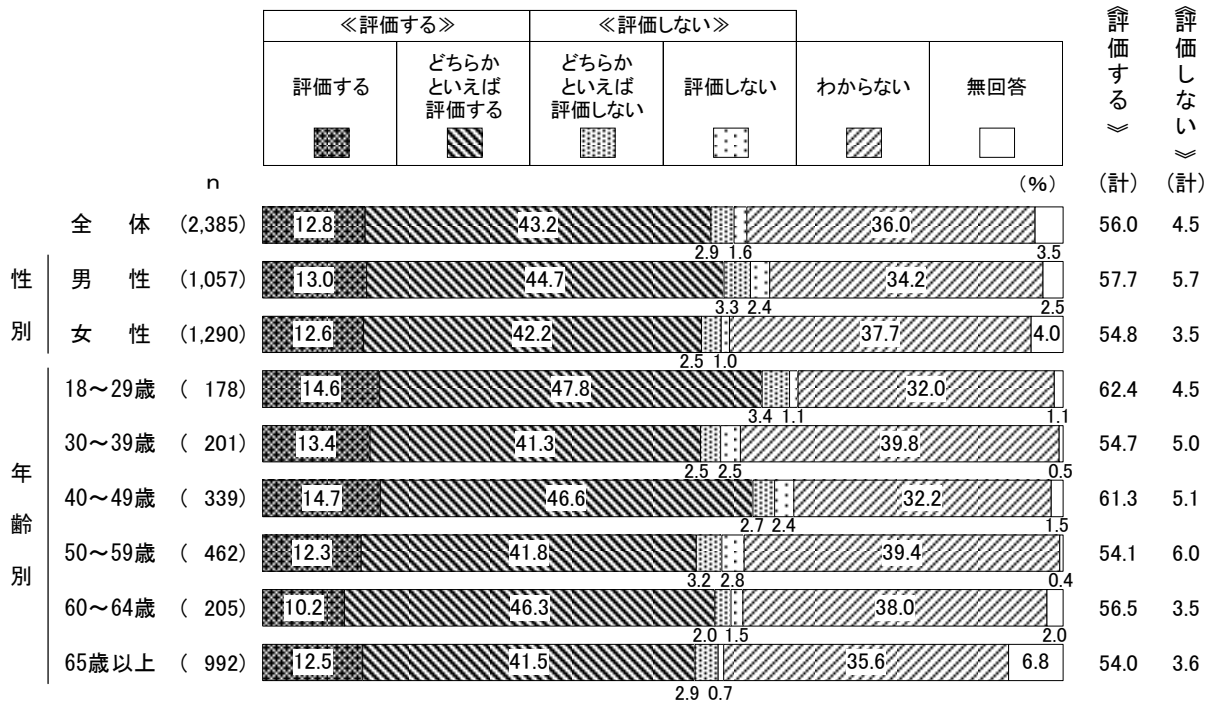
図3-60-1 行財政運営—全体、経年比較



効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努める市の取り組みに対して評価するか聞いたところ、「評価する」(12.8%)と「どちらかといえば評価する」(43.2%)を合わせた《評価する》(56.0%)は6割近くとなっている。一方、「どちらかといえば評価しない」(2.9%)と「評価しない」(1.6%)を合わせた《評価しない》(4.5%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、《評価する》は令和4年(2022年)(52.1%)より3.9ポイント増加している。(図3-60-1)

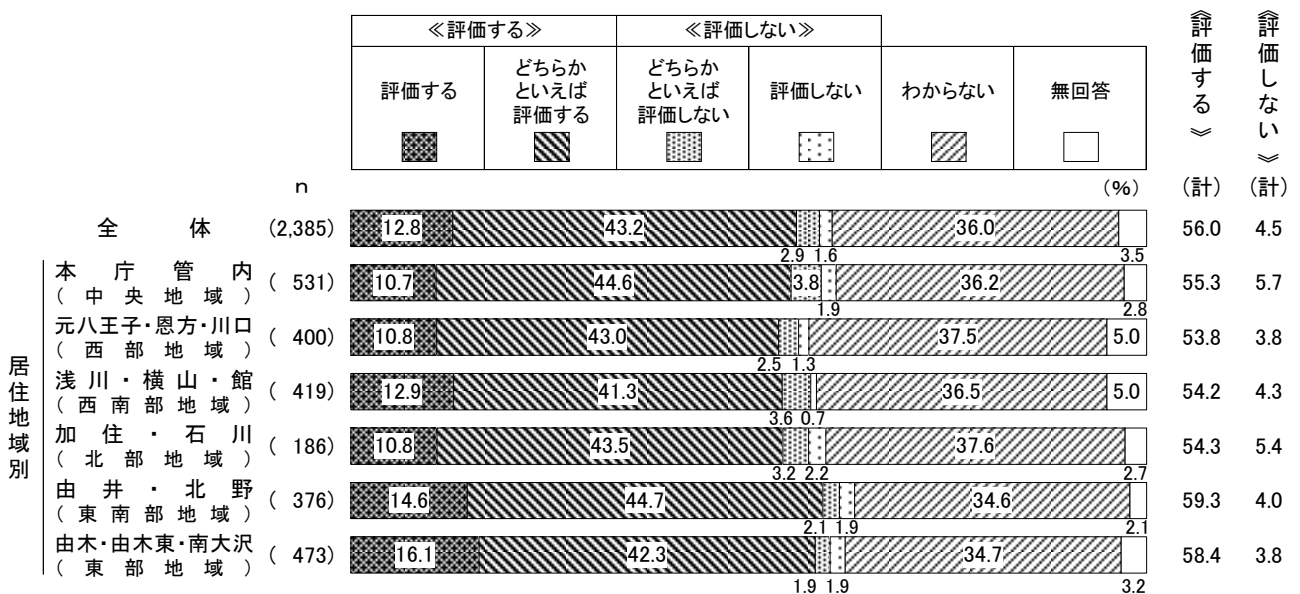
図3-60-2 行財政運営—性別、年齢別



性別にみると、《評価する》は男性（57.7%）が女性（54.8%）より2.9ポイント高く、《評価しない》でも男性（5.7%）が女性（3.5%）より2.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《評価する》は18~29歳（62.4%）と40~49歳（61.3%）で6割強と多くなっている。（図3-60-2）

図3-60-3 行財政運営—居住地域別



居住地域別にみると、《評価する》は由井・北野（東南部地域）（59.3%）で6割弱と多くなっている。（図3-60-3）

(61) 市の行財政運営を評価しない理由（自由意見）

（問60で「どちらかといえば評価しない」または「評価しない」とお答えの方へ）

問60-1 評価しない理由があれば、お書きください。（自由記述）

効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努める市の取り組みに対して、「どちらかといえば評価しない」または「評価しない」と答えた106人に、評価しない理由を自由記述形式で聞いたところ、66人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載する。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがあ

- 取組内容がわかりにくい。具体的にどういった効果が得られるのか表記して欲しいです。施設の運営状況の見直しに評価します。もっと桑都テラスのような場や施設も増えると良いと思います。少子化対策の1つとして子育て世代に向けた制度やイベントは、八王子市は充実していると思うので、さらに長く住み続けてもらう対策や他地域から八王子へ来てもらうアピールをしたら良いと思います。西八王子が住みたい町ランキング1位になったことも注目ポイントだと思うので活用できると思います。施設の老朽化は今の時代リノベーションが流行なので設計事務所とコラボしたりできるとオシャレな建物に生まれかわると思います。（女性18～29歳）
- 高齢者への支援は充実しているが、若年層（10代～30代）の支援が不足していると思う。具体的には社会保障の負担が大きく、自身の生活に不安がある。（男性18～29歳）
- スピード感が足りない、具体性が足りない、優先度がわかりにくい、他地域と比較して突出した強み・目標がわかりにくい。（男性18～29歳）
- ホームページで予算の概要等を閲覧したが、PDFが貼ってあるのみで具体的にどういう見直しがされたのか、今後どこに力を入れたいのか全く伝わらず、理解できなかった。数字だけ載せる意味は？（女性30～39歳）
- 効率的な運営を図るのであれば、市役所の本部機能はサザンスカイタワーに一元化すべきであると考えます。（男性30～39歳）
- 結果が全て。結果が磐石なら評価します。努力したけどダメだったとか価値がない。会社（法人）も努力したけど赤字では価値なし。努力しなくても黒字なら評価される。（男性50～59歳）
- 自分たちの都合の良い指標でなく、地方財政を評価する指標（財政力指数、公債費比率等々）を載せるべきである。（男性50～59歳）
- 公共施設の点検、見直しは、何か起きてからの対応しかされていない。公園の遊具、スポーツ施設の修理など。（女性65歳以上）
- 民間委託を進めています。図書館、その他市の施設については市直営できちんと運営して欲しい。（女性65歳以上）
- 行政運営の効果・効率性を高める取組、健全な財政運営など結構ですが、具体的な目標数値や効果測定、進捗状況は「広報はちおうじ」で報告されているのですか。市のホームページはどこを見れば良いのですか。市の予算・決算及び財政状況の掲載だけでなく、誰が見てもわかるように進捗状況を公開してください。（男性65歳以上）
- PDCAとうたっているが、PDCAそれぞれに対応するレポート（報告）を見たことがない。（男性65歳以上）